

を碎き、先代富之助氏また助役、村長、消防組頭等を歴任せる功勞の人である。

和田村直彌

前和田村長 櫻井幾太郎

氏は、人格識見才能等、人として無形な、あらゆる構成要素全體に對して、絶對的な崇敬と信頼を寄せられてゐる有徳の逸材である。代々名主その他の名譽ある役をつとめし舊家に明治六年十月三日を以て健かな初聲をあげ、長ずるや佐倉中學校の前身たる土屋氏經營の私塾に通つて修學し、家督相續の後は家業に銳意精勵すると共に自治公共のことに盡力多く、土地賃貸價格調査員、小作調停委員を囑託さるゝほか、助役、村長等の重責に擧げられ、村政の改善向上、産業の發達、教育の振興など村治各方面に亘つて赫々たる業績を示し、名村長と謳はれ、郷黨の信望と尊敬とを一身にあつめて颯爽たるものがあつた。當世稀にのみ得られる傑出せる材幹にて、和田村の至寶と

まで稱される。されば各方面からの表彰も十餘件に上つてゐる。

公津村大袋

村會議員 丸良輔

明快な頭腦と強健な身體とを有し、博識多才と謳はれる氏は、成田中學校の出身にして夙に郡養蠶組合評議員たること五年、公津村に公南養蠶組合の設置されるや推されて組合長に任じ在職五年赫々たる業績を残し、更に區長四回に及ぶ功勞者にして、現在村會議員をつとめるほか信用組合信用査定員に推されてゐる。生れは明治二十年六月二十八日。夫人喜久さんとの間には長男清喜氏（明治四十三年生）ほか二男一女あり、一家繁榮家内幸福を極めてゐる。

宗像村岩戸

村 醫 香取銀次郎

氏は慶應二年二月二十六日の岳降にして、代々神官の家系である、當村醫術の

爲將衛生の爲に永年に亘り多大の功績を残す。氏は又區長、村會議員として村自治の爲にも貢獻あり。現在は専ら村醫として村民醫療の事に従事してゐるが氏の醫術奉仕の足跡は村民に多大の感銘を與へてゐる。令息信氏夫妻との家庭は極めて圓滿である。

永治村浦部

村會議員 大菅喜一



當家は享保年間以來連綿たる歴史を持つ舊家にて、

先々代齊治氏は村會議員、區長、學務委員をつとめ、先代伊吉氏は信用組合長、社寺總代等に推された。氏は先代の長男明治二十八年三月二十日の生れである。家業は農及び養蠶業。夙に軍人分會長、消防組第一部長、社寺總代をつとめ、現

時村會議員、村農會副會長、債務調停委員その他を兼任する。つや子夫人との間には三男三女がある。因に當家は兄弟三人共揃つて軍人だつたといふ名譽の家である。

白井村

村會議員 伊藤茂助

往古、伊豆伊東の藤原氏當地に來り住し、これ當家の祖にして爾來代々農を營んで今日に至つた。氏は先代平吉氏の長男、明治三十一年四月二十二日を以て生を享け、青年團組織に卒先盡瘁して永年幹事をつとめ、農業補習學校の創立に當つても功あり、また多年村書記をつとめて人望もあり、昭和五年國勢調査の際、功により内閣統計局より表彰され、軍人後援會を設立して縣知事より感謝狀を贈られるなど稀有の活動家である。現時農の傍ら自轉車販賣業を營み三輪業組合評議員をつとめ、今後に多大の望みを囑されてゐる。

彌富村飯塚

飯塚肥料共同購買組合長 前村會議員 土屋舜

産業組合運動の先頭に立つて華々しい活動を續けてゐる氏は、佐倉中學校の出身にて村會議員、區長等を経て、現時消防組第五部長をつとめる人望家、縣知事より消防組小頭十七ヶ年勤続による表彰及び飯塚區民一同より村道新設による表彰を受けた。曩に私設飯塚肥料共同購買組合を設け、規約第二十六條に基き、實質的には公設産業組合事業を經營しつゝあり、現に組合長として熱心にこれが指導に當つてゐる。實に氏の如きは稀有の人材といふべきである。先代作太郎氏は助役及び村長に推されて村政を執掌、功績顯著なる手腕家である。氏はその男、明治三十四年六月二十一日を以て生を享けた。

千代田村飯重

村會議員 石橋孫平

日本精神とは日本人の誠心であるといふ。氏は實に誠心の人、そして信念の人、且つ眞摯敬虔の人格者であり「君がため御國のために盡くせとて神のさづけしやまと魂」の所有者である。尊父石橋豊吉氏は名望家であり日本赤十字社特別社員であつた。氏は明治二十七年九月十四日を以て生をこの世に享けた。夙に千代田村飯重消防組部長に推され、消防警備の重任を竭し、現在は村會議員に選ばれて村政に參劃貢獻するほか、飯塚區相談役、同區長代理、社寺總代等を兼ね、部落民のため赤誠の努力を捧げてゐる。誠に氏の如き人は稀有の存在であり、郷黨の誇りである。されば崇敬普く、信望また絶大なるものがある。家庭的には三男五女の子き父親にて、幸福圓滿な日々を送つてゐられる。

公津村北須賀

前村長 小川源一郎

氏は明治十九年八月源右衛門氏の男と

して岳降、曾祖父の代より醤油製造販賣を業とせしが之を廢業し専ら養蠶業、農業を以て家業となす。人格潤達而も濃厚にして人望あり村會議員、村長等を歴任し京成電鐵停留所、學校敷地、學校増築等に任中の貢獻大なり。氏は二男二女の子福者にして長男源之助氏は青年團幹事たり。既に愛孫あり、家庭また極めて圓滿なり。

### 宗像村造谷 大澤 哲夫

理智の人であり情の人である氏は、名主及び村長をつとめたる大澤晋氏の男にして明治三十六年二月十五日の誕生である。東京府立園藝學校出身にて陸軍砲兵伍長、夙に區長及び氏子總代、權徒總代をつとめ、現時村會議員、村農會總代、産業組合監事等の要職にあり村治に貢獻するところ多大である。けい夫人は明治三十七年生れ、長男敬美君（大正十五年生）長女美惠嬢（昭和三年生）のほか次

女幸子嬢があり、家庭は頗る幸福、美望の的となつてゐる。

### 永治村谷田 湯淺 綱雄

當家は湯淺兵庫頭に出ず代々名主を勤め、苗字帯刀を許された家系で、當地切つての由緒ある舊家である。先代源四郎氏は戸長を勤め且つ郡會議員として地方自治制の爲めに偉大な功績を遺し、且つ印旛外三郡を含む、養蠶業取締役を勤め村内有數の人望の人たり、氏はその長男として、明治二十九年五月二十八日の岳降なり。氏も亦嚴父の衣鉢を襲いで奉公の至念に燃へ而かも人格濃厚篤實にして誠心に富む、村民に多大の信望を得て村會議員となる、過般の選挙に於いては、最高點の推挽を受けたるものなり。今後村治の上に村産業の上に大なる期待を以て俟たる人なり。因に長男龍男君は目下木下農業學校に於いて眞摯勉學中にし家庭頗る圓滿である。

### 白井村神々廻 石橋源四郎

氏は武田家臣某郷士となり野馬目付の家系を有する花野家の三男として明治廿七年二月十五日に生れ後當家の養子となる。先代養父茂三郎氏は消防組頭を勤めたり。氏は中學卒業後東京に出で、國民生活の根源たる經濟、社會問題に深く意を用ひ、會つて早稻田大學内建設社同盟に参加、大山、淺沼、三宅諸氏と共に當時の社會運動に参加して爾來十五年黨員として活動、中央執行委員、千葉縣聯合會長たり、永く村會議員、區長の任に在り。眞の農村開發のために盡力した人、また將來に期待さるる人であり、家庭極めて圓滿なり。

### 中郷村和田 吉岡榮一郎

當家は舊家吉岡七郎兵衛家第一の分家にして、七代二百五十年の由緒に富む歴

史を有し、先代儀助氏は助役、村長を歴任して本村の繁榮を招來せる赫々たる自治功勞者として令



名普く高く、業績一々枚舉の繁に堪えず、昭和十一年他界と聞くや村民等しく惜涙に咽んだ。當主榮一郎氏はその長男にして大正六年四月十二日の誕生、當時若冠二十歳を以て家業を継ぎ、母を扶けて家業たる味噌醤油醸造業に精勵今日に至つた。従業員中吉岡一氏、小川道太郎氏の如きは二十餘年間勤続して組合より表彰され、木川健三郎氏は齡還暦を迎へんとして家事に至るまでよくつとめ、勞資を離れたる協調一如の經營は實に社會の模範として、現に高く仰がれつゝある。なほ製品は千葉、茨城の兩縣下に普及し、優良品として賞を受くる數回に及んでゐる。

### 大森町 柴崎 磯吉

大森町方面委員 印旛郡醤油醸造組合長 明治十七年父平藏氏によつて味噌醤油の醸造業を創始し殆んど一代にして産をなし町内屈指の資産家となる。又公德心に厚く、貧民救濟、教育基金の寄附等德行頻りなりし爲め現在に到るもその徳を偲ばれ、家業亦盛なり。氏亦嚴父の衣鉢を襲ぎ公德の襟袷高く一身を公共の事業に没せん事を思念す、爲めに町民の敬仰を受く、醤油は商標を「潮（カネ志）」と命名し、年産千六百石に及び、大正十一年關東酒醤油品評會に二等銅牌を昭和二年の同品評會に於ても二等褒賞を受く、販路は東京、船橋及びその附近を主要區域とす。現在印旛郡醤油醸造組合長にしてまた大森町方面委員たり。ちか子夫人は大森町國防婦人會長を現任、銃後の護りに致々營々寧日なしの活動である。愛婦三等有功章を受け、また長男正男氏は大森町青年團長である。

### 千代田村物井 栗山 右忠治



前千代田村長 寡言温厚の人格者、而して拔群の手腕家たる氏は、明治元年十二月三日の岳降にて、先代治氏の長男である。抑々當家は五代を相繼ぎ、舊家といふには非れども、代々土地の信望をあつめて重きをなし、實力ある名望家として遠近に鳴り響いて來た。祖父治郎左衛門氏は名主をつとめ、明治維新當時は小區長に任じ、嚴父は多年村會議員に選ばれて活躍貢獻した。氏はこれら父祖の血を享けて早くより自治公共に盡瘁し、助役、村農會長、その他の公職に推され、また村會議員數期、村長二回をつとめ村の元老として重きをなし、村民の衆望あつく、家庭にありては夫人は

るさんと相和し、篤農家として近郷に知られる。趣味は書畫骨董。長男直氏は元消防組頭をつとめ現在顧問に擧げられてゐる。

### 志津村上志津

在郷軍人  
分會長

### 小澤 吉兵衛

學徳兼備新鋭の人材たる氏は、先代勇造氏の長男にして明治卅六年十二月十五日の誕生である。明倫中學校卒業後、推されて青年團長、在郷軍人分會長、青年訓練所指導員等に任じ、現時志津消防組本部長、上志津西部農家組合長、産業組合部落委員、社寺總代等を兼ね、國防婦人會、軍友會、國防協會等の創立に力を致し、農産改善、國防充實には特に業績顯著である。因に當家は千葉家の末裔にして三百年來の舊家、先代は村治功勞者として有名である。

### 和田村高崎

村會議員  
産業組合理事

### 石渡 鶴三

當家は足利時代より續く舊家にして名門、代々名主をつとめたる家柄である。人格が高潔にて卓越せる觀察を有し、本村元老中の雄たる氏は、明治十一年十月二日の生れである。村會議員として活躍するほかに、方面委員及び産業組合理事をつとめ、本村産業振興に盡すところ甚大である。長女まささんは愛次氏を養子に迎へて幸福の家庭を營み、他に次女タカさん、三女マスさん、四女コトさん、五女フチさん、六女トヨさんがある。

### 公津村船形

村會議員

### 鈴木 勘

廢道の改修、税制整理、村政改善、等々擧げれば數へきれぬ程の功績を積んで来た氏は、橋本浩吉翁に漢學を修めし俊才にて、先代倉藏氏の男として明治二十三年一月八日を以て生を享けた。區長三回、在郷軍人分會長、青年團長等に擧げられて活動し、現時村會議員、軍友會副會長、區長を兼ね、昭和十二年二月に

は産業統計功勞者として表彰されし逸材である。マツ夫人との間には長男政敏氏ほか二男二女を有し家庭圓滿である。因に當家は元祿以來の連綿たる舊家である

### 宗像村岩戸

學校醫

### 中川 喜志男

氏は昭和九年三月日本醫科大學卒業後當村民の健康を双肩に負ひ銳意醫術に従ひ殊に宗像小學校々醫として全村兒童の體育發揚のことに大いに盡す。氏は角七氏三男として、明治四十一年二月五日の岳降にして喜美子夫人並に一男二女の子福者である。氏は温容にして明朗なる資性にして、前途洋々大いに期待されてゐる人である。

### 永治村平塚

村會議員

### 須藤 新重郎

區長代理、區長等に多年任じて功績絶大なる氏は、曩に全村民の要望によつて村會議員の重責に選出されるや愈々奉公

の誠を致して人望ますますあつく、自治



の華、郷土の誇りとまでいはれて、現に衛生委員を兼ねてゐる。生れは明治七年五月十五日。

夫人あささんは白井村富塚の舊家中村喜一氏の姉、養子忠義氏は統計調査員に現任、家庭になほ忠義氏夫人及び令孫三人がある。

### 白井村根

村會議員  
勳八等

### 中村 綱次郎

當家は三百年來の舊家にして元祿時代には名主をつとめたる家柄、先代源次郎氏は舊幕時代役人役に任じたる名望家である。氏は明治十五年一月十日生れにて先代の養嗣子、夙に消防組に關與して貢獻多く現に役員に推されてゐるほか村會議員、區長を兼ね、道路問題や學校問題

の解決には特に盡瘁した。日露戰爭には奥軍麾下の秋山支隊挺身隊員として奮戦力闘せる名譽の武勳者である。趣味は盆栽。夫人よねさんとの間には長男益雄氏ほか一男三女がある。

### 中郷村和田

醸造業

### 吉岡 庄藏

十九歳にして慈父を喪ひ、勞苦のうち今日の隆盛を來し、温厚篤實の士と稱される吉岡庄藏氏は、本村中堅人物中の白眉にて、名聲赫々として四隣に聞えてゐる。父は先代庄藏氏、その長男として明治三十二年四月二十日に生を享けた。當家は三百年來の由緒ある歴史を持つ元村長吉岡市兵衛家の分家にして、味噌醬油醸造を以て知られ、品評會や展覽會にて受賞數回に及ぶ名譽を有し、販路は縣内一般は勿論のこと茨城縣にも移出してゐる。なほ氏は本村消防組創設當時より二十有餘年間身を以て盡力奉仕し功勞多く、現に第七部々長として活躍してゐる。

### 千代田村物井

物井區長  
元村會議員

### 櫻井 義夫

氏は村内屈指の地主にして資産家である。朝日に匂ふ山櫻のやうな美しいさぎよい心、即ち眞實の日本精神の持主である。夙に村會議員に選ばれて功績多く、現物井區長、消防組副組頭の任にあり、公共に盡力するところ甚大にして衆庶の信望をあつめ、好評噴々たる人氣を有してゐる。温和篤厚の紳士であり、自己の利益を捨てても公共の福利に竭すといふ美しき精神の持主でもある。誠に氏の如き人材を有することは本村の誇りであり光榮である。

### 永治村浦部

青年團長

### 村 越 康太郎

當家は土地有數の資産家にして、代々

農事養蠶を以て業とす。開祖以來七代百五十年の舊家にして、祖父徳太郎氏は村會議員其の他の要職に有り村自治に功勞多大なり。嚴父長吉氏は日露戦争に従軍功あり。氏はその長男として明治四十年九月八日の岳降なり。村青年層の中心人物として現在消防二部小頭(六年)青年團長として、團の統制向上改進の爲めに日夜思念精勵し、入營出征兵士遺家族の慰問援助等に専心或は道路改修、冬期夜警等の村治安に努め村青年團の眞意義發揚に萬全の果を擧げたり。氏は未だ少壯、温厚にして熱意に富む人格は必ずや將來自治に産業に多大の貢献をなすものと期待されてゐる。因に家は祖父、嚴父のふ母堂、花子夫人に一男二女の頗る圓滿な家庭にして茨城縣龍ヶ崎町の出身である。

白井村名内  
村會議員 秋谷 武雄

天文年間、秋谷武左衛門なる者當地に

住して秋谷家を興し、當家はそれより分れたるもの、約四百年の長き歴史を有し、由緒正しき家柄にて、二代兵右衛門氏は名主をつとめ、代々農を以て業とした。氏は先代兵右衛門氏の男にして、明治三十一年四月十八日の誕生、消防組部長、同副組頭をもつとめ表彰され、また青年團幹事としても功績多くして表彰を受け、村會議員當選二回、現にその任にあり、學校問題、道路問題には相當の苦難を越えて事業遂行に邁進成功した。先年養豚組合組織に力を致し、産業更生を以て抱負となし、金肥の節約自給肥料の増産に卒先指導の勞をとり、氏の努力により本村經濟界は極めて多くの利益を受けてゐる。家庭には兩親はじめ夫人タケさん、二男二女の愛兒、令弟等あり、五弟治夫氏は目下支那事變に出征中である

千代田村八街道町  
四街道郵便局長 眞藤永之助  
正七位勳六等

氏は阿波徳島藩士眞藤永助氏の三男、

明治十九年五月二十五日を以て生れ、同四十年朝鮮憲兵隊勤務となつてからシベリヤその他に轉任勤務二十ヶ年、幾多の難事件を處理して明快の手腕を誦はれ、四街道憲兵分隊長となつて着任以來當地に居を定め、退官後は方面委員、在郷軍人分會長、その他各種の公名譽職に歴任し、聲望普く高く、縣知事より表彰されしこともあり、現時四街道郵便局長に任じてゐる。劍道に達し、讀書、謡曲に興味がある。長男は滿洲駐在酒井部隊本部附歩兵少尉にて劍道四段である。

公津村飯仲  
下方産業  
組合理事 遠藤與惣平衡



本村 屈指の 舊家たる當遠 藤家は 五代前 氏 吉 孝 代先

の祖與惣兵衛光國氏の代より苗字帯刀を

許され、爾來堀田家領の名主をつとめたる名門にて、代々篤農家を以て稱され、先代孝吉氏は村長及び村會議員を永らくつとめ、また飯仲區長として部落のため寢食を忘れて日夜努力奮闘をつづけし徳望の人にて彰徳碑を建立され徳を永遠に傳へられてゐる。氏はその長男として明治十九年一月に生を享け、農作の研究に従事すること多年、下方産業組合理事飯仲區總代を現任し父にも勝つて功績が多い、資性快活明朗釣魚に興味深い。夫人との間に二男二女を儲け、長男與惣次氏は縣派遣留學生としてハルビンの日露協會學校に學べる秀才にて、現在日魯漁業會社勤務の春秋に富む若き材幹である

白井村神々廻  
村會議員 笠井市太郎

村會議員をつとめること二十年、役場廳舎の新築、學校舎改築問題等のほか、幾多村政に功勞多き氏は、先代要助氏の長男にして明治十四年三月十日の誕生で

ある。抑々當家は帯刀を許されたる舊家笠井市郎左衛門家より分れ、氏にて三代目である。尊父要助氏は區長他部落の諸役をつとめる事二十年、現に八十餘歳の高齡にて矍鑠たる元氣を持つてゐる。氏は前記村會議員のほか、區評議員、社寺總代その他に任じ、會では區長として部落の繁榮に寄與するところ多大であつた。夫人との間には三男一女あり、長男時雄氏は印西農學校卒業後横須賀海兵團に入り上海方面守備中名譽の戦死を遂げ部落の公園に碑を建立せられ、海軍中將村田豊太郎氏筆の碑文に「克忠克孝」と記されてゐる。

公津村大袋  
方面委員 關 谷 平

高邁なる識見を有し、大袋區長に推戴されること七回に及ぶ氏は、助役、村長等、村政の中樞機關に執掌して功勞絶大なるものあり、オール公津村民から敬服されてゐる名望家である。嚴父文治氏は

收入役及び助役をつとめたることあり、父子揃つて郷土の繁榮に竭せる名譽の家柄、家庭には令閨みちさん、長男正男氏(明治三十九年生)、次男佐市氏、長女しま嬢、次女くに嬢がある。因に氏は明治十三年一月十九日の岳降、その若かりし時には内郷村共盛社に漢學を修めた有識の材である。

白井村根  
村會議員 宇賀常治郎

温厚謹嚴篤實の三者を具備する氏は、日露戦争出征の勇士にて、農家組合設置に功績顯著なるものあり初代組合長に推されて活躍せる敏腕家、また區長當時初めて部落に電燈を招置した殊勳者でもあり、消防組第七部長をつとめしこともあり、勤続十年の表彰を受け、現在は専ら村會議員として村政に關與し貢献してゐる。因に當家は三百年來の舊家にて、先代辰五郎氏は區長などに推されしことあり、氏はその養嗣子として當家を襲いだ

人で、出生は明治十五年十月十五日である。

久住村磯部

村會議員 石橋 仙太郎



先考 利右衛門氏 當家は六代二百有餘年を相繼ぐ舊家に

して、先代利右衛門氏は千葉縣統計調査員に推されるほか、養蠶組合長たりしこと三十有餘年の長きに亘り、その他自治産業各方面に功勞顯著なるものがある。代々情に篤く部落の世話役その他に擧げられて村民のために盡すところ多く、幾多の美談を傳へる家柄である。當主は先代の長男明治二十一年八月一日の岳降にて、農蠶業のほか染色業を經營し、兼ねて村會議員その他の公名譽職に選ばれてゐる。

白井村富塚

勳八等 中村 喜一



大森流 居合術の達人にして劍道神道無念流の目録保

持者たる氏は先代茂三郎氏の長男にして明治十二年十一月二日の出生である。千葉師範學校卒業後、縣下初等教育界に在りて令名を馳せ、多年小學校長をつとめ

て退職、縣教育會、縣知事、その他より表彰數度に及んでゐる。現在は區長六年をつとめるほか、村會議員、耕地整理組合副長、方面委員、農家組合長、統計調査員等を兼任し、功績顯著なるものがある。家庭には慈母キクさん健在し、長男喜代一氏は本塾小學校長、次男仲二氏は帝大工學部卒業後大倉商會社に勤務し三男喜正氏は一高を首席で出て目下帝大理學部に在學中である。因に當家は三百年以上の舊家にて、代々伊兵衛を襲名、五代前の祖は村務に功勞多く領主より紋服上下を賜はつた。

長生郡

一宮町

千葉縣 一宮實業學校

本校は教育勅語の聖旨を奉體し、忠良

なる國民を養成するを教育の眼目となし忠孝、自治、責任、創造を校訓となし、大正十四年五月四日、私立一宮實業學校

の名稱を以て設立された。次で昭和二年四月甲種實業學校となり、同三年七月町



校長 多三久雄氏 立に同七年十月二日新舎の築成り同十一月

年四月一日縣立移管今日に至つてゐる。既に卒業生を出すこと二百三十五名、現生徒二百四十餘人を有し、職員十八名これを擔當教授に任じてゐる。校醫に中島勉市原太一郎(齒科醫)の二氏があり、創立以來の功勞者として志田錮太郎博士、田中周、渡邊修三、宮重謙輔、齋藤來助の諸氏が數へられてゐる。現校長多三久雄氏は士族虎熊氏の三男、明治三十一年四月二十五日熊本縣阿蘇郡永水村赤水に生れた人、熊本師範卒業後帝大農學部に學び、後ち熊本師範附屬小學校、鹿兒島縣大島支廳社會主事、東京府立農業教員養成所、千葉縣廳社會教育主事、社會教

育課長等歴任の從六位本校縣立初代の校長として赴任現在に至つてゐる。

茂原町高師

千葉縣立長生中學校



一、至誠ナル、一剛健ナル、一公正ナル、一校訓とし、教育に關する勅語の趣旨に基き、健全なる國民の養成を目標とし、道徳的訓練に力を注ぎつゝある本校は、もと明治二十一年當郡豐榮村に創立の私立上埴生學館と、同二十六年茂原町上茂原に創始された私立長生學校とが

同三十四年に合併して私立大成館と稱しこれを茂原町に移し、後ち、中學校令に依つて私立大成中學校と改め、更に縣立に移管し、千葉縣立長生中學校と改稱して今日に及んでゐる。學區を長生郡、市原郡その他附近に定め、卒業生を送ること六回、一千四百三十餘人を數へてゐる。在學生は八百二十餘人校長外三十餘名の職員が、本校の主義を體して懸命とその職に當つてゐる。本校創立當時の校長千葉彌次馬氏等の功績は永遠に消える時はあるまい。現校長從五位江中鐵次郎氏は九州生れ、東京帝大英文科出の人、新潟縣立新發田中學校、秋田縣立大館中學校等の教授として令名をあげ、多大の功績を残して本校長に榮轉したもの、今後の活動をこそ期待されてゐる。

本納町本納

千葉縣本納實業學校

本校は昭和十年三月一日、私立三省中學校と町立裁縫女學校とを合併して町立

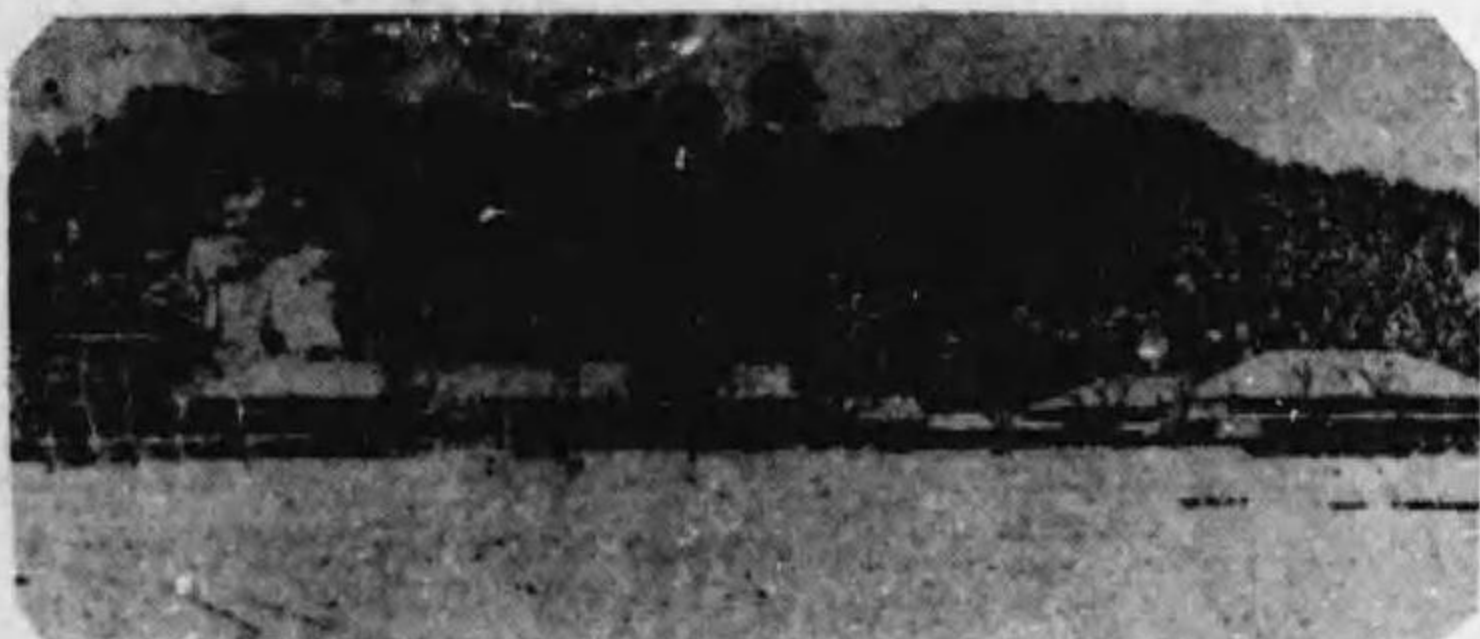
本納實業學校を創設したが、同年九月之

を千葉縣本納實業學校と改稱、本納町を中心として長生、山武、市原の各郡下二十ヶ町村を學區となしてゐる。現在生徒男女を合して二百八十餘名が、農業及び商業に従事する者に必要な知識技能を授け、兼て國民としての徳性の涵養に力むるの本校教育方針の下に教育されてゐる。特殊施設としては商業實習のために休暇中商店會社の見習勤務に、また農業實習のために市場販賣等に従事する。現校長は本納尋常高等小學校長正八位深山時次郎氏が、創立當初から兼任してゐる。氏は明治二十四年四月二十一日の出生、後ち深山家を嗣いだ人で、千葉師範出身、高根、藤原、本納、豊岡、本納小學校等に歴任、昭和三年豊岡小學校長に榮轉、同九年高等官八等の待遇を受け次で正八位に叙せられ、今、本納尋常高等小學校長として令名を馳せてゐる人格者である。夫人よし子さんとの間に四男三女の子福者である。なほ趣味に圖書、讀

方、園藝がある。

### 茂原町 高師

### 千葉縣靜和高等女學校



本校は元靜和女學校と稱し、明治三十五年四月白井勇次郎氏によつて同郡豊榮村に呱々の聲をあげ、大正八年同郡鶴枝村の富豪千葉彌次馬氏の後援を得、加ふるに文學士塚田文太郎氏の協力によつて茂原町に校舎を移し、茂原靜和女學校と改稱、同十四年三月文部大臣の認可を得て靜和高等女學校に改め、昭和十一年十月一日公立千葉縣靜和高等女學校

と改稱、長生郡一圓の外に夷隅、山武、市原等三郡の一部を學區となして現在に至つてゐる。本校の教育方針は良妻賢母主義に重點を置き、更に生活戦線に立つて多彩役立つ明朗な女性の養成に努力することにある。現校長は前校長千葉彌次馬氏の嗣子彌次馬氏で、九州帝大醫學部の出身、今、同郡鶴枝村上永吉同家七代目醫師として繼續診療に従事してゐる。なほ現在生徒は三百名、鈴木才次博士を校醫に囑託してゐる。

### 應南町

### 長生家政女學校



本校 永長永野野々々子女史は藤作氏の長女

ち、終に明治三十三年七月今の地に裁縫女學校を設立した。後ち昭和十二年三月文部大臣の認可を得、同時に長生家政女學校と改稱して現在に至つてゐる。三十八回の卒業式を舉げて一千三百人の卒業生を社會に送り出し、現在生徒数は百餘名、當町をはじめ豊榮村等一町八ヶ村を學區となしてゐる。職員六名、校醫馬場彰一氏等がある。

### 茂原町 澁澤

### 茂原尋常高等小學校



校長 氏原氏は明治元年の設立にて、同十五年

高き氏原清二氏である。氏は専ら日本精神の涵養、國民的文化の攝取、自覺的共同生活態度を教育方針となして國民的人格の陶冶を期してゐる。現在生徒数は一千二百九十六名をかぞへ、これに當る職員は二十八名である。

### 一松村

### 一松尋常高等小學校

教育勅語の體現を核心とし、郷土の生活を通して皇國文化の繼承創造に勉め、以て國民たるの自分を完ふするに足る心身の基礎的陶冶鍛錬を期す。これが本校教育の眼目で、明治四十年十二月三十一日一松小學校として起り、同四十二年四月十六日一松尋常高等小學校に改め、一松村一圓を學區となして現在に及んでゐる。これまで卒業生を出すこと尋常科約三千、高等科八百餘人で、現在は男女合計七百五十餘人である。學校醫の巡回診斷、月二回の衛生檢閲などあり、大澤順氏校醫としてこれを擔任してゐる。現校

### 關村 關

### 關尋常高等小學校

本校は明治七年に創めて呱々の聲をあげたもので、後ち數度の變遷を累ねて同三十七年現校地に校舎を新築、更にまた増築を施し、大正八年三月高等科を併置、昭和二年四月現校舎を完成して今日に至つてゐる。本校は要するに皇國的人格の養成訓育を主眼となし、既に卒業生を出すこと約二千七百人、あらゆる社會に地歩を占めて活動してゐる。三松倉治郎氏を初代校長に、相繼ぐこと六代目、

齋藤清氏現校長として他の職員と共に砥  
勵盡力してゐる。同校々歌に

一、白子の宮の松吹く風も 我が大君の八  
千代ぞ歌ふ イザ／＼忠をしるしの校  
旗 雄々しくかざせ學びの友よ  
二、一すじ清く流るゝ南白龜 行く手を指  
して休まず止まず イザ／＼校訓勤儉  
規律 正しく守れ學びの友よ  
一、あがたの東 つくもが浦邊 つたはり  
古き 平和の里に イザ／＼吾等御親  
の如く 勵まし立たん學びの友よ

白瀉村八斗南脇

白瀉尋常高等小學校

明治八年一月中里尋常小學校の名によ  
つて生れた本校は、爾來幾變遷を経て大  
正四年現校舎を落成、同八年高等科を併  
置して現在に至つてゐるが、既に卒業生  
を各種社會に送ること約三千四百人かを  
ぞへ、今、男女を合して八百五十餘名を  
擁し、部落早起會、勤儉貯金組合、報德  
會等幾多の特殊施設の下に、師弟渾融所  
期の成果を收めんとしてゐる。本校創立

以來石和田文作、綠川政藏の二氏を功勞  
者として稱へ、現校長高橋茂陸氏は實に  
十代目である。氏は縣下教育界のために  
挺身盡瘁すること二十有餘年、多數の人  
材を育英して甚大なる功績を擧げてゐ  
る。正八位の有位者、常に教育の研究に  
當つては極めて眞摯、後進者のために範  
を垂れてゐる。

新治村上太田

新治尋常高等小學校



校長 森 享 氏

法曹

澤總明博士を生み出した本校は、明治七  
年五月創めて蓮華寺に設立、同三十一年  
新治尋常高等小學校と改稱、相續いて今  
日に及んでゐるが、卒業期を累ねること  
第四十一回、一千八百餘人を世に送り出

してゐる。學區を六區とし、現在四百餘  
人の生徒を擁し、兒童心身の發達、道徳  
教育、國民教育の基礎、普通の知識技能  
を授け有爲の人材を養成するとに重點を  
置き、且つ兒童實力の向上を期するを特  
色となしてゐる。現校長森享氏は明治二  
十二年七月二十日の生れ、父君健五郎氏  
は村長の要職に在つて一村の民利民福に  
貢献した助役、村會議員等にも選ばれ  
て功のあつた人。家庭には母堂ちか子刀  
自靜子夫人に一男一女がある。

二宮本郷村

東陽尋常高等小學校

我が外交界に異彩を放つて華胄界の人  
となつた石井菊次郎子を出した東陽小學  
校は國府關、眞名、山崎、押日、里戸、  
庄吉、芦網の七部落を學區となし、在校  
生四百十餘名を擁して、ます／＼育英の  
ことに熱中してゐる。現校長鶴岡金藏氏  
は本郡水上村大津倉の出身、大正六年三  
月千葉師範を了へて豊原小學校訓導を拜

命、爾來各校を歴任して昭和十二年三月  
本校長に榮轉現在に及んでゐる。なほ氏  
は郡教育會普通教育研究會部長を兼ね、  
この方面にも鋭意してゐる。

長柄 村

長柄尋常高等小學校

水のひびきに花香る、長柄の丘のあけ  
ぼのや 千葉三洲を見下して 我が學舎  
はそびえたり――の校歌も明朗に尋常科  
九七・六八、高等科九八・五八の出席歩  
合數を見せてゐる本校は、明治六年十二  
月の創立、その後幾多の姿を變へて同二  
十六年八月上長柄尋常小學校となり、同  
三十二年六月高等科を併置し、同時に長  
柄尋常高等小學校と改稱整然たる姿を見  
せて今日に及んでゐる。現校長平川公夫  
氏は在職約五ヶ年、名校長の名を馳せて  
ゐる。

豊榮 村 米満

豊榮尋常高等小學校

月豊榮女子青年學校を併設して大に農村  
教育にも盡瘁してゐる。特殊施設として  
校門右側に二宮尊徳先生の銅像を建設し  
別に報德會を組織して報德精神の涵養に  
勉めてゐる。小高治三郎氏現校長として



現職員の集ひ

本校は明治二十一年當村各區にある學  
校を合併して盈進尋常高等小學校となし  
同四十二年今の地に現在の校舎を落成し  
豊榮尋常高等小學校と改稱、昭和十年七

功を稱へられてゐる。

茂原町 箕輪

薰風尋常小學校



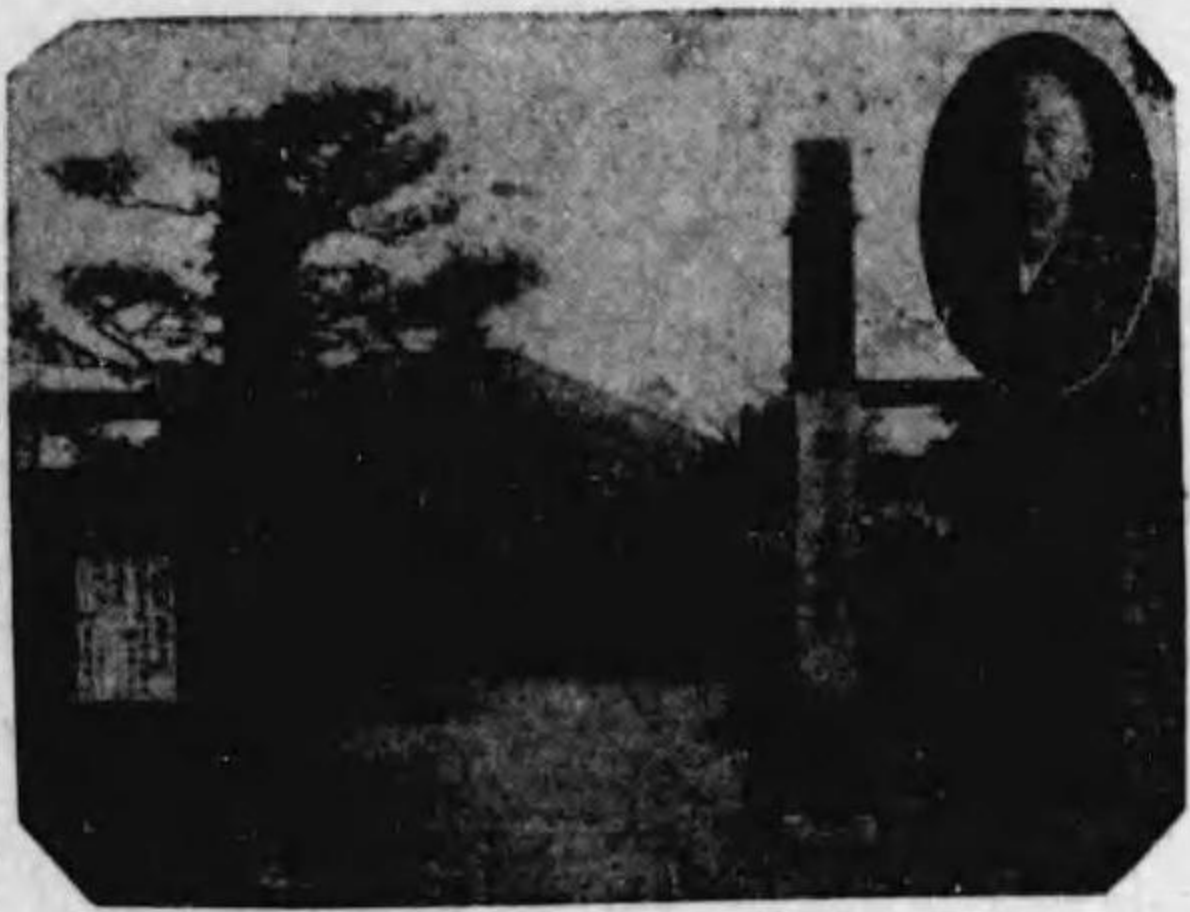
當校  
校長 高 山 茂原  
町の誇  
りの一  
つで、  
明治十

五年十一月創立になるものである。日本  
精神の涵養を教育方針の根幹となし、文  
化の攝取、共同精神、人格の陶冶に励め  
てゐる。白鳥庫吉氏、白鳥敏夫氏等も當  
校に學びし事あり、それを以ても當校教  
育方針の一端を窺ふ事が出来る。現校長  
高山茂夫氏は温厚なる人格者にて生徒よ  
り慈父の如くに親しまれてゐる。

茂原町 南原

朝日の森幼稚園

當幼稚園は幼稚並に保育に盡力することを目的とし、茂原町、東郷村、五郷村を學區となして昭和五年四月十三日舊長生郡役所跡に開設、現に二百七十餘名の園児を預つてゐる。經營者であり、そして



長園塚大と園稚幼

園長でもある大塚憲哉氏は、この方面の權威者であり、顧問に横堀源一郎、丸有章、鈴木左膳、川崎一郎、大塚憲達氏等の先輩有識者を戴き、主事大塚憲清氏、主任保母篠田加津子さんその他が熱心園

のために盡瘁、園児並にその父兄の期待に副へつゝある。

長柄村國府里

長柄信用販賣購買利用組合

當組合は無限責任組織の下に大正二年に創立、後ち保證責任組織に改組して今日に至つてゐる。最近の業績を見るに農産物並に副業品の価格は漸騰の氣勢を辿り、永年疲弊せる農村にも漸く更生の曙光を見せつゝあるが、當組合はこれを機縁に融合精神の鼓吹と未加入農家獲得運動に努力せる結果、新加入者五十餘名を増し、出資にもまた六十餘を増加してます。向上發展へと進みつゝある。出資一口の金額は十圓、現在組合員數三百餘名、出資總額五千三百圓をかぞへ、貸付總額は三萬八千三百餘圓、貯金二萬一千四百餘圓、購買價額九千三百餘圓、販賣價額一萬六千四百餘圓、利用料三百三十餘圓の統計を示してゐる。現組合長理事大和久良助氏は土地の名望家である。

西村

西村信用販賣購買利用組合

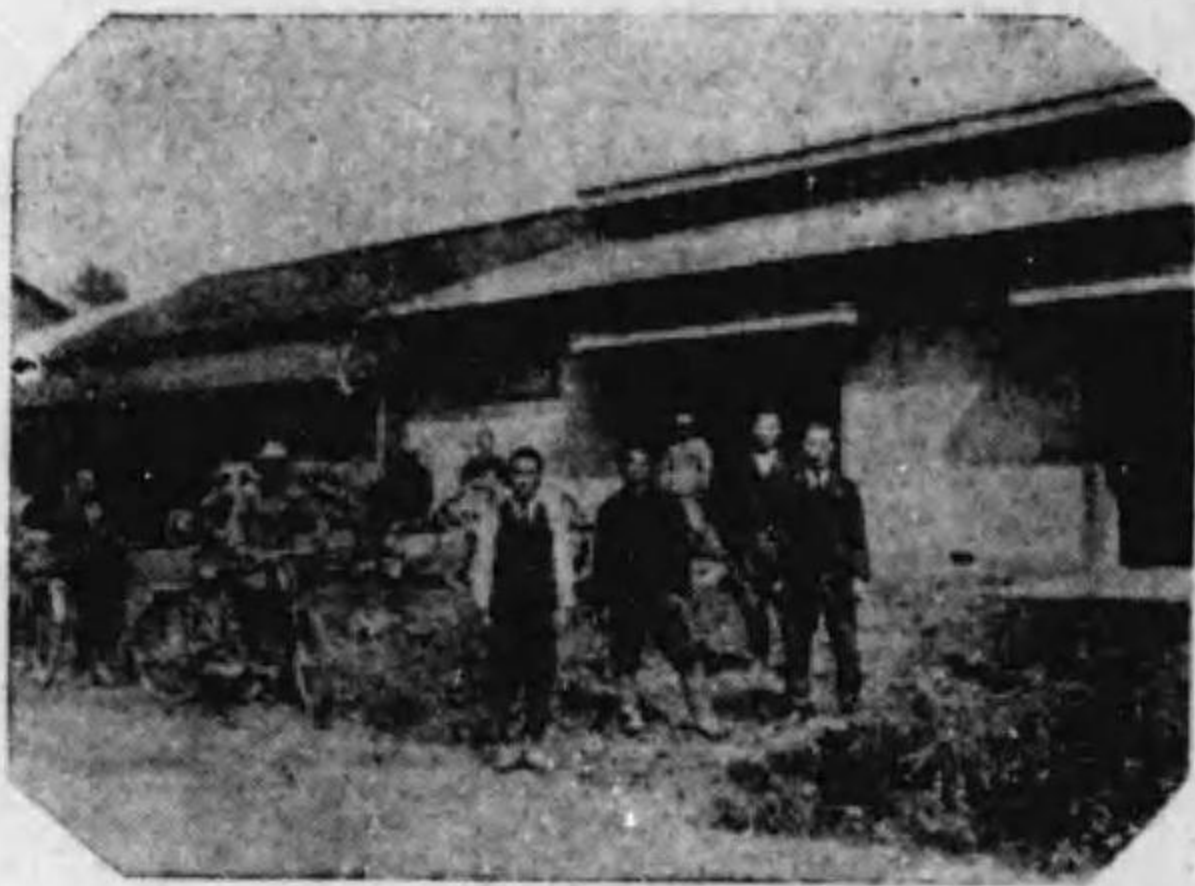
當組合は昭和二年四月、農村たる本村金融状態の改善、併せては販賣購買事業の圓滿を期すべく、二百五十名の組合員出資口數三百十口、出資總額六千二百圓を以て有限責任組織の下に創立したが、その後の發展大に見るべきものがあり、昭和十年現在では三百餘名の組合員、八千九百餘圓の總出資高を見せ、現組合長理事に永崎珍重郎氏、事務理事に齋藤音吉氏がある。

豊榮村

豊榮信用販賣購買利用組合

當組合は農村經濟更生を目標として昭和六年有限責任の下に生れ、次で同八年保證責任に改組、現在に及んでゐる。出資一口の金額を十圓とし、豊榮村一圓を組合區域とし、現に三百八十餘名の加入者がある。組合の精神を理解し、認識を

高めつゝあることゝして、逐次加入者の増加を見せ、當組合の明日を約束されてゐる。最近の貸付に於て四百餘圓を、貯金に於て約一萬七千圓を示してゐる。現



合組業産榮豊

組合長理事はこの方面に於ける利けもの唐鎌源三郎氏で、理事城風治之、風戸芳郎、麻生長次郎、三十尾良吉、今關亘、鶴岡健藏氏等並に監事宮崎孫吉、宮崎諭吉、大森爲三郎、齋藤倉二、小山宇三郎

氏等と協力、前へくと進んでゐる。

長柄村山之郷

五區信用販賣購買利用組合

當組合は第二十八年度の事業報告をなしてゐるほどの、永い歴史を経たもので今は保證責任組織に改めてゐる。創立當初は組合に對する理解と認識とが薄く、加入者微々たるものであつたが、現在では組合員數に於て、またその口數に於て實に霄壤の差を見るの隆盛振りである。出資一口の金額は十圓、組合員數約二百名、口數六百餘口に及び、その全部が農業者である。今貸付に於て約二萬六千三百圓、貯金に於て五千二百圓の統計を見せてゐる。そして當組合の役員は、次の通りである。

- |       |       |
|-------|-------|
| 組合長理事 | 横山輝一  |
| 理事    | 花澤金十郎 |
| 同     | 川島美福  |
| 同     | 石井善五郎 |
| 監事    | 長澤周藏  |

茂原町

横堀源一郎

慶長以來の永い歴史を物語る當家は、始祖は武家、茂原町草分けの商人として知られ、先代故源一郎氏は、戸長役場時代の戸長を命ぜられ、後ち郡會議員等に推された自治の功勞者であつた。氏はその長男、慶應三年十一月二十五日の出生父君の歿後その名を襲いで父業に精勵し、茂原産業組合創立に際しては率先して奔走その組合長たること十三ケ年、組合今日の發展を見せたる功勞は眞に偉大なるものがある。この間しばしば町長に推薦されたも、その任にあらずとなして辭して來たが、今回町民の要望切なるに動かされ終に町長に就任した町の長老である。釣、盆栽に多大の趣味を有つてゐるが、特に盆栽家としては縣下に令名が高い。

- |    |       |
|----|-------|
| 監事 | 加藤作次郎 |
| 同  | 岡本達太郎 |



廳南町

鶴岡清作

明治大學法科出身の逸材、頭腦明晰、自治にかけてはまた敏腕なる氏は、前には町収入役、町會議員一期を経て、昭和十年四月の改選に際し、町民一致の推薦によつて町長の要職に就任した人望家、町民の注目はその將來に放たれてゐる。鶴岡家は元武家、今こそ農を本業となしてはゐるが、その昔名主等を勤めて土地のために盡瘁した名門の家柄である。氏は宮田作内氏の次男、明治十九年二月二十九日農家に生れ、後ち鶴岡家に望まれ同家四代目として先代竹次郎氏の後を繼いだ人である。とり子夫人は貞淑温良の人、夫君を助けて常にその遺憾なからんことを勤めてゐると同時に、子女の教養にも至念してゐる。



温厚闊達、人格圓滿なる氏は明治廿年八月廿五日の

岳降、慶應大學理財科卒業間際に先代臺三郎氏の懇望を容れて當家に入つた人。當石和田家は代々名主を勤めた家柄にして臺三郎氏は村會議員、村長を歴任せる村治功勞者である。氏また、村民の信望を一身に集めて村會議員を歴任、昭和六年村長に推され、在郷軍人會顧問、農會長をも兼ねて盡瘁貢獻してゐる。その功勞尠なくない、特に道路の完成、一宮川を利用せる水利事業の完成には血と涙を以て努力、その眼は今も歴々乎として睹られる。また滿洲事變の際には内治の功に依つて天杯を下賜された。今や村民より慈父の如く敬まはれ、氏の如き名村長無くば、當白湯村は水なき沼と同じであると噂されてゐる。

白湯村字幸治 石和田文彌

曾ては農を本業となした家柄であつたが、前代故倉吉氏の代に漁業を主、農を副となし、當主市次郎氏に至つて全然農をすて揚繰網漁業に専念盡力してゐる。他面また夙に村治に與り、村會議員たること四期、収入役、助役等にも選ばれて村内の名望家として重きをなし、現在は村長の要職を占めて村治の伸暢、民利民福の増進へと懸命の努力をかけてゐる。明治十三年十二月十五日の生れ、明晰なる頭腦、自他共に許せるその手腕と相俟つて治績大にあがり、當村の光輝ある將來を卜するに難くはない。かん子夫人との間に一男二女があり、長男實君は日本齒科醫專の出身で今、山武郡白里町に開業四邊の評判が極めよいく、將來の伸暢を卜せられてゐる。長女輝子さんは他家に嫁ぎ、次女よし子さんは今、分家してゐる。

南白龜村濱宿

野村市次郎

二宮本郷村國府關

及川規矩郎

及川家は村内屈指の素封家であるが、また永い歴史を續けて來た舊家、名門の家柄でもあり、その親戚一門にはなかなか名望家が多い。氏は明治十九年六月三十日の出生、同四十一年千葉師範を卒業、直ちに本郡東陽小學校訓導を拜命、大正七年同校々長に榮進、ますく教職のために挺身貢獻し、生徒からは慈父の如くにかしづかれ、夙に名校長の名を馳せた。同十三年三月退職、村役場助役に選ばれる、や眞に村治各般のことを思慮すること日夜、村長を輔けて一意産業の開發に、村政の更新にと盡瘁して村民多大の信望を擔ひ、推挽されて更に村長の要職に就任、村民福の爲めに力進、一村興望に副はんことを企圖してゐる。



糸井家は醫を家業として相繼ぐこと七代目村内の徳望家として今に及んでゐる。氏は父祖の業を承け、特に内科、外科の方技に卓抜な手腕を見せてゐると同時に、村内貧窮者に對しては進んで無料診療に應ずるなど四近からは尊崇と感謝とを以て迎へられてゐる。村會議員たること二期、昭和十一年豊榮小學校庭に二宮尊徳翁の銅像を建設して勤儉の美風を鼓吹してゐる。現在には縣會議員の椅子を占めて縣政方面に多大の盡力貢獻をさしげ、ますくその名聞を高めてゐる。特に一村の思想方面に深くメスを突き入れ、皇道精神の扶植に熱心な氏の如き、まこと一村の名器として稱へらる。なほ長男君は今、南總鐵道株式會社に勤務し、その將來に重望をかけられてゐる。

茂原町上茂原

内山庄作



温厚なる人格者として町民の尊敬を一身に集めてゐる氏は、明治十一年伊勢吉氏の長男に生れた。現在町會議員の重任に在るが、曩に區長を三期勤めし自治功勞者にして、また日露戰役の際には、陸軍歩兵上等兵として黒木第一軍に従ひ、遼陽、奉天の戦ひに於て目覚ましき軍功を樹て、功七級に叙された勇士である。家に子供なく日蓮宗の信者として宗教に生きる頗る信仰の厚い人であるだけに、多分に信頼し得る人物であると敬ばれてゐる。

豊榮村米滿

糸井玄

縣會議員 糸井玄

關村北日當

關村長 牧野道彦



村長として一村の興望を双肩に擔ひ、その他村會議

員、農會長、消防組頭、在郷軍人分會役員等を兼ねて重きをなしてゐる氏は、明治十八年一月七日故左右司氏の二男に生れ、曾て近衛野砲兵聯隊に一年志願として勤務した恬淡剛毅、且つ頭腦明晰な持主であり、村全體を委任して惜しくない人物とされてゐる。後ち當牧野家の先代常太郎氏の懇望を容れて同家に入つたなかなかの敬神家である。牧野家は古い家柄で、代々名主を勤め、土地の開發に寄與貢獻する多大なるものがあり、また戸長役場當時には戸長を命ぜられ、古くは代官に任ぜられたほどの門地でもある。

應南町 藏持 生城山多一郎

町會議員 前町長勳八等



神、連玉之男神、事解之男神の三柱を祭神となし、朱雀天皇の承平二年創建せられたもので、應南郷開拓の豪族應南次郎

町民一致の推薦によつて町長の要職に就いたが、病のため退職、現町會議員として鋭意しつゝある氏は、明治十二年十二月一日、故岩藏氏の男に生れ、後ち當家先代亡大平氏の後を嗣いだ元千葉師範の教授、日露戦役に參加して勳八等に叙せられた勇士である。氏はまた郷社熊野神社の神職を奉ずること二十有五年、今もその職に在る。同神社は伊那郡美大

土陸村上市場 久我新次



氏は明治三十五年三月十七日市原郡牛久町に生れ、後ち當家に望まれてその名跡を嗣いだ人である。當久我家は村内最古の家柄にして代々醬油醸造家として響き、先々代氏は縣會議員二期、郡會議員、村長等凡

る公名譽職に推された人望家、その寄與貢獻せる功勳なからず當主また夙に村治方面に進出、村會議員、軍人分會長として盡瘁してゐる。なほ氏は商科大學出身の後備輜重兵少尉、家に養母いねさん令聞加津子さんとの間に三男子がゐる。

一松村 村 戊 木島武左衛門

當家は天正年間武田氏の一族として小田原城攻撃後、當地に土着歸農したもので、累代武左衛門氏を襲名、漁業及び農を家業となして來た本村最古の家柄で、代を累ねること二十、大庄屋を勤めたこともある。先代武左衛門氏は郡會議員、村會議員、學務委員等を歴任、相當功績を擧げてゐる。氏はその男、明治十八年三月十四日の生れ、曾て村長の要職に在つて令名を誦はれたもの、現在は三期目の村會議員、學務委員、信用組合専務理事、消防組頭等を兼ねてゐる。また山武郡東金町所在の大正無盡東金代理店主を

も勤めてゐる。温顔人に接し、情味また豊かな人望家である。しん子夫人との間に四男五女がある。

八積村 金田 長谷川太一

氏は明治十四年九月二十一日太郎兵衛氏の長男として生を享け、後ち陸軍砲兵第十四聯隊に入營して日露戦役に參戰、奉天附近の戰鬪に於ては勇名を轟かして勳八等功七級を賜つた勇士である。消防小頭、青年會長、氏子總代として盡瘁したが、現在は村會議員に推されて盡力、村政に盡せる功勞多大なるものがある。また農作物研究家としても近在にその名が聞えてゐる。令聞ゆき子さんは貞淑の人、間に二男四女があり、圓滿を極めてゐる。

高根本郷村 小泉 野口大助

村會議員 勳七等 温厚篤實、衆望を一身に集めてゐる氏

は明治十一年九月二日の岳降である。後ち先代兵藏氏の懇望に依り、三百年も続く名ある當家に入りし人、日露戦役には鐵道隊に従つて出征せし勇士にて、偉勳をたて勳七等青色桐葉章を賜つた。尊父氏は村會議員其他の公職にありて盡瘁せる功勞者、氏もまた村會議員、養蠶實行組合長、社寺總代に推され、その功勳なからず、今や當村に無くてはならぬ人物の一人として尊慕されてゐる。

東郷村 六ツ野 光橋源一郎

氏は明治十五年九月二十二日、故幸之助氏の長男として、九代の舊家たる今の農家に生れた三十五年の騎兵で、日露戦役に參加、勳八等を下賜された。戦後村治に盡力し、區長代理一期、區長一期、在郷軍人分會副長、養蠶組合副長、同幹事、農會長、氏子總代等を歴任、現に二期目の村會議員に擧げられて農村産業等のために寄與貢獻してゐる。

關村北日當

村會議員 北田 忠之

北田家は元祿以來の舊家、代々農を主業となし、幕政當時には名主、先代忠藏氏は村會議員として土地、一村のために盡瘁貢献してゐる。當主は明治十九年三月二十七日、その長男に生れ、郷校卒業後和漢塾に學んだ騎兵、區長として、在郷軍人分會役員として功があり、今、二回目の村會議員であるの外、農會總代を兼ねて活動してゐる。温厚な士で、長男忠雄君は長生中學出身の俊才である。

白鴻村古所

村會議員 岡澤 幸十郎



氏は村長として、郡會議員として、その他村會議員、

學務委員等に擧げられて大に努力貢献した村治郡政の功勞者として聞えた人、現時村會議員、調停委員(金錢債務)等を兼ねて一村利福の上に盡瘁してゐる。先代吉兵衛氏は五十年前に分家獨立して金融業に従事した當業界の重鎮であつた。當主は明治八年二月十日の出生、後ち今の家に望まれて入籍したもの、夫人との間に四男一女があり、和氣霽々たる家庭を作つてゐる。

南白龜村牛込

村會議員 齋藤 治作

温厚篤實なる人格者にして、衆望厚き氏は、明治二十一年一月十日、直三郎氏の長男に生れた。當家は三百年以上も續く當村屈指の舊家にして、農を家業となして來た家柄である。氏も農業の傍ら養蠶、野菜、養鶏を研究し、副業となして相當の域まで達してゐる。氏はまた村政にも意を注ぎ、學務委員、養蠶實行組合長其他數知れぬ公職を勤めたが、現在は

村會議員の重任にあつて、東奔西走、一村發展のために多大の盡瘁貢献を傾倒してゐる。

新治村吉井下

村會議員 前村長 白鳥 壽正

當家は四百年程以前、當地に土着せる當村屈指の舊家にして、先代清作氏は區長、社寺總代を勤めし功勞者であつた。氏はその男、明治二十六年十一月二十八日生れの資性温厚なる人格者である。曩に衆望を擔ひ、村長、助役、村會議員三期を勤め、功大なるものがあり、現在は村會議員、農會副會長、消防組頭の重任に在りて、なほ村自治に盡瘁貢献をなし縣知事より消防功勞者として表彰を受けた事がある。

二宮本郷村山崎

村會議員 勳八等 加藤 太郎作

氏は明治十五年七月二十日、市太郎氏の長男として村内有數の舊農家たる今の

家に、八代目の當主として生れた。父君は區長代理、衛生組長に推されて盡力貢献してゐる。當主は日露戰役に従軍、平



和克復後勳八等に叙せられた譽れある人、今村會議員

に選ばれて村政に關與、その他農家組合長、區長代理をも兼ねてそれ／＼盡瘁してゐるが、村内でも多大の人望をあつめてゐる。夫人とき子さんとの間に三男二女がある。

長柄村中野臺

村會議員 前村長 川島 正臣

川島家の祖は土氣城主酒井小太郎の重臣だつたが、後ち歸農し、代々名主を勤めた名門の家柄である。先代松藏氏は地主にして區長、社寺總代、衛生委員、村會議員、學務委員、米作改良及び獎勵委

員、信用組合理事、慈善會幹事等あらゆる名、公職に就任盡瘁した村切つての人望家であり、また當村五區産業組合創設の功勞者である。氏は明治十年九月十九日その長男に生れ、私立擇善學校、長生中學校中等科を卒業し、夙に村治に關與現村會議員、方面委員、米穀統制組合評議員及び總代を兼ねて活躍



るが、曾ては村

長、村農會長、小學校教員、役場書記、收入役、農會幹事、助役、農會副會長、學務委員、郡農會議員、國勢調査員、長生俱樂部幹事、元五區産業組合理事、長生郡山城會副會長、檀家總代等を歴任、その功一々枚擧するに追なしである。昭和八年郡教育會より教育功勞者として表彰され、また同九年四月滿洲事變の功に依つて賞金を下賜されるなどの榮譽を擔

つてゐる。

日吉村小榎本

村會議員 前村長 前田 義造



俳句、團碁に造詣深く、温良なる人格者として尊敬

の的となつてゐる氏は明治七年九月十一日の岳降である。當家は累代農を家業となし代々名主を勤めた舊家にして、先代庄作氏は區長、村長を勤めし自治功勞者であつた。當主もまたその志を嗣ぎ、曩に村長、其他の重任に在りて盡瘁、現在は村會議員、學務委員、方面委員としてなほも村治に盡瘁貢献をなし、その功大なるものがある。

水上村高山

村會議員 元村長 太田 彌三郎



氏は眞に文字通りの獨歩、千葉師範に入り、卒業と共に水上尋常高等小學校初代の校長を拜命、至誠育英のことに當る約十七ヶ年間、その功を讃へらる大なるものがあつた。退職後郡會議員に擧げられ、郡制廢止後村會議員に選ばれて連続五期目、現任中であるの外、學務委員を兼ねて盡率、功を高めてゐる。曾てまた村長としてその靈腕を振つてゐる。因に氏は二十數代を経た太田甚作氏の養嗣子として同家に入つたもの。

業と共に水上尋常高等小學校初代の校長を拜命、至誠育英のことに當る約十七ヶ年間、その功を讃へらる大なるものがあつた。退職後郡會議員に擧げられ、郡制廢止後村會議員に選ばれて連続五期目、現任中であるの外、學務委員を兼ねて盡率、功を高めてゐる。曾てまた村長としてその靈腕を振つてゐる。因に氏は二十數代を経た太田甚作氏の養嗣子として同家に入つたもの。

### 西村 佐 坪

村會議員 前村長 若菜 喜惣次

當村に於ける長老の一人として村民の信望を一身に集めてゐる温厚篤實なる氏は、喜惣次氏の長男として慶應元年五月



七日の岳降である。武家の出なる爲か、氏は人格備はり、明治三十年より現在まで改選ごとに村會議員に推され、また村長に擧げられた

しなど、以て氏の人格を推知するに於て、夫人なみ子さんとの間に三男二女あり、長男惣平君は今村郵便局長を勤め眞面目なる人として評判されてゐる。

### 東村 長 樂 寺

村會議員 江澤 孝澄

當家は本村有數の舊家、江戸表より追はれた旗本で、兼光の名刀數本を秘藏してゐる。曾ては名主、戸長などを命ぜられて土地に盡した家柄である。氏は鎌吉氏の長男、明治二十一年九月二十六日の生れ、村會議員を現任、村政へと努力してゐるが、曩には區長、農會代議員、産



業組合監事などに歴任して功を樹てゐる。母堂いち子さんは喜の壽の長命、長男弘明君は今、長生中學校に在學中の秀才である。

醬油醸造業を初め現在に至つてゐる。父君彌作氏は珠算の達人にして、また副戸長、區長を勤めし功勞者である。氏はその男として明治九年十一月二十七日の岳降。青年時、青雲の志を懷いて上京、法律學を學んだが、後ち歸郷と共に民政黨の地盤を築いた手腕卓拔な偉材である。現に村會議員として活躍してゐるが、村長、方面委員に推されて盡率した事がある。

り、今や當村の代表的人物として畏敬されてゐる。

### 五郷村中善寺

村會議員 元千葉縣警視 從六位勳六等

### 鳥 海 清



氏は十六歳にして青雲の志を懷いて千葉市に出で、

苦學勉勵警察官に登第、持つて生れた誠實、眞摯が出世への口を切つて累進、佐倉署長となり、警視を拜して千葉警察署長に任ぜらるゝなど二十二年の警察生活をつゞけ、その功また著大なるものがあり、從六位勳六等に叙せられた。退官後東京に在つて外務部長などを勤めたが大正十五年歸村、村治に關與、現に二期目の村會議員を勤め、また區長としても老軀を提げて大に盡力してゐる。

### 茂原町高師

町會議員 勳八等

### 岩瀬 正亮

温厚篤實にして衆望を一身に集めてゐる氏は、七三郎氏の長男として明治四年の岳降、父君は商人として近在に聞えたるが、十年前より農具製作業を家業となしてゐる。當主は夙に公事に意を注ぎ



農會評議員、二期目の町會議員を現任、自治の功勞者、當町に無くてはならぬ人物の一人である。多年大日本米穀會千葉

用組合理事及び商工會理事、農會長、郡農會評議員、二期目の町會議員を現任、自治の功勞者、當町に無くてはならぬ人物の一人である。多年大日本米穀會千葉

### 應南町坂本

町會議員 金澤 源吉

支部會に従事せるの功によつて同會より感謝状を受けてゐる。元憲兵上等兵、勳八等の帶動者である。夫人芳子さんとの間に長男政夫君外一男一女がある。

自己の信念堅くして、徳望普き氏は、明治二十年九月七日、初太郎氏の長男に生れた。氏は何事も誠心誠意を以て行ふ實直な人格者の爲か、曩に町役場收入役に推され、次で助役を勤め、町長にも推されたが、家庭の事情の爲に辭退したる程である。なほ學務委員、方面委員を勤めし事あり、現在は町會議員として盡率町民の尊敬の的となつてゐる。しげ子夫人との間に一男二女があり、それらに立派な行路を辿つてゐる。

### 土陸村上之郷

元縣會議員 元村長勳八等

### 池澤 正一

當家は始祖庄兵衛氏以來五百餘年、農

を主業となして今日に至つたもの、曾ては代々名主、戸長を勤め、先代故信太郎氏また村長等の要職にあつた人、今も舊



家名門の家柄として知られてゐる。氏は明治十二年九月

月二十六日、その長男に生れた慶應義塾の出身、村長に推薦せらるゝこと實に三回、鋭意して村政の上につくし、終に村治今日の基礎を築いてゐる。その他また助役、縣會議員、帝國農會長、消防組頭等にも選ばれて就任、その職分のために身を忘れて盡瘁せる功勞は多大、永遠に村史の上に輝くであらう。農會功勞に依つて表彰され、また日本赤十字社の功に依つて特別社員に列せらるゝなど、數回にわたつて表彰されてゐる。かねて母堂健在、けい子夫人との間に今、四男子がある。

一松村 戊

村會議員 元村長 中村 正治



温厚篤實にして日蓮宗の信者たる氏は、若くして村

長に推薦さるゝこと二期、本村更生事業として漁業組合を設置するなど、挺身努力して名村長の名を成してゐる。現在は四期目の村會議員として村政に貢献しつつあると共に、農林省地方事情調査員、小學校後援會長、債務調停委員、漁業組合揚線部長、村農會長、潮樂會長などの要職を兼ねて、それ〴〵活躍盡瘁してゐる。曾て教育功勞者として郡教育會より表彰されてゐる。兩親共に健在、ちか子夫人との間に三男三女がある。因に當家は本村屈指の舊家で、代々農を本業となし、父君正直氏は村役場収入役、村會議

員として功勞のあつた人、氏はその長男明治二十四年四月十四日の生れである。

八積村 信友

村會議員 植草 庫三

氏は曾て統計調査員、國勢調査員、消防小頭などに推されて盡瘁貢獻し、疾くも人望をあつめてゐた。今、村會議員に在つて村政に關與、事の大小となく細心の注意を拂へつゝ一身を賭して盡力これ努めてゐる。明治三十年九月二十二日の出生たる氏の前途はまさしくこれからである。夫人あき子さんは今、國防婦人會の理事の任に座し、鋭意して銃後の護りを固めてゐる。當家の祖は元祿年間にこの地に土着し、爾來約三百年間綿々として相繼ぎ、別家を出すこと三戸、本村屈指の舊家として聞えてゐる。累代農を本業となして精勵また努力して來た。父君市太郎氏は區長に擧げられ、また社寺總代等に推されて懸命の努力を致し、相當功をたゞへられてゐる。

高根本郷村 高根本郷

村會議員 大沼 徳太郎

今、五期目の村會議員として自治行政の完璧へと拍車をかけてゐる氏は、また調査委員、産業組合理事、養蠶組合長、寺院總代等をも兼ねて八方に活動、貢獻を重ねてゐる。前には村役場収入役、産業組合書記長として盡瘁し、耕地の開拓用排水の便を計るなど、その功を數へられてゐる。生家は三百五十年を経た當村草分けの舊家、累代農に精勵し、祖父氏の代までは代々藤右衛門を襲名して來た。父君徳太郎氏は明治二十年頃より諸島の開拓に心を注ぎ、小笠原島にわたつて同島の開發に鋭意し、多年商業に従事するところがあつた。當主はその長男、明治十七年十月二十五日の生れ、家庭は極めて圓滿である。



當家は二代前太郎兵衛氏までは名主を勤め先代故太郎

郎兵衛氏は戸長役場時代の戸長として盡瘁した名ある家柄である。當主は明治十五年五月十六日の出生、日露の役時、乃木軍下に屬して旅順攻撃、奉天の大戦等に功のあつた人。歸村後は區長に擧げられ、現に村會議員として村政に關與、民望に副はんとして活躍してゐる。長男靜男君は現役を了へて家業を助け、次男正道君は今、縣立茂原農學校に勉學中であるが、夙に俊才の譽れが高い。

關村 北日當

村會議員 安藤 昇平

氏は明治二十六年五月二十六日、先代故平吉氏の長男に生れ、縣立茂原農學校を卒業後、大正二年輜重兵第一大隊に入

白瀉村 古所

村會議員 片岡 中



當家の開祖は何れの年代なるかを詳かにしてゐない

が、約三百年前來今の地に土着し累代農を家業となし、市左衛門氏を襲名今日に至つてゐる。先代一徳氏は區長となり、村會議員となり、部落のため村のために

東郷村 千町

村會議員 三宅 與一

盡力した功大なるものがあり、今もいつ子夫人と共に健在してゐる。當主中氏はその長男、明治二十四年九月二十五日の出生、現に村會議員、農會副會長、長生郡畜産組合會議員等を兼ねて、今を働きさかりの身を縦横に活躍貢献を重ねてゐる。夫人さだ子さんの間に五男三女があり、長男一正君は縣立茂原農學校を了へて家業に精進し、次男日出君は同校に三男光大君は本納實業學校に、何れも在學中である。

南白龜村牛込

村會議員 鈴木 衛  
農會副會長

當家は里見家滅亡と共に當地に來りし由緒ある家柄にして、以來三百五十年間累代八郎右衛門を襲名し、農を家業となして來た。先代八郎氏は村會議員、區長等を勤めし功勞のある人にて、氏はその男、明治三十六年一月十六日の岳降である。曩に區長、評議員、消防部長の重任に在つたが、現在は村會議員、農會副會

長として専念村政に意を注ぎ、その功勳なからず、表彰を受けてゐる。家には母堂よし子刀自、なほ健在、令聞たけ子さんの間に一男四女がある。

新治村下太田

村會議員 鬼原 保

鬼原家は應南城主武田氏の一族として名あり、同家の滅亡と共に土着歸農して現在に至つた當村最古の家柄である。先代禎一郎氏は村長をはじめ村會議員、郡會議員、學務委員、區長、社寺總代等あらゆる方面に活躍、村治功勞者として讃へられてゐる。當主保氏は明治二十三年三月十六日の生れ、後ち同家に入籍したもので、夙に村治に關與、會て區長として盡力し、現在は四期目の村會議員、區長代理、赤十字社特別社員等を兼ねてます。盡瘁貢獻してゐる。資性温厚篤實職に當るや政黨關係を絶対に介入せず、何處までも白紙を以て對してゐる。趣味は庭木盆栽、書畫骨董で、郡教育會から

表彰されて銀杯を贈られてゐる。夫人登美子さんとの間に二男二女があり、長男新之丞君は農業大學に、次男禎男君は長生中學に何れも在學中である。長女齊子さんは武藏野高女、戸板裁縫及び御茶水家庭寮等を卒業した才媛である。

二宮本郷村押日

村會議員 大和久善三郎



豪放快活、しかも村自治に對しては細心の注意を拂

つて盡瘁しつゝある氏は、明治三十五年九月二十六日故祐吉氏の長男に生れ、農業に精進しつゝある反面に於て現に村會議員、農會議員、氏子總代を兼ねて盡力貢獻し、將來に多大の重きを置かれてゐる。氏は持論として産業組合の設置を叫び、これが實際化へと熱中してゐる。當

家は初代より善兵衛氏を襲名し、六代善兵衛氏は時の領主村田長庵支配下の組頭を勤めた名家なり、當主まで九代に及んでゐる。なほくら子夫人との間に一男一女がある。

長柄村山之郷

村會議員 蒔田民之輔



茂原農學校卒業  
後一年志願兵として千葉鐵道隊に在

つた氏は、滿期除隊後在郷軍人分會長となり、産業獎勵會青年部長、區長代理、組長、養蠶組合副會長、農會長代理、協行組合副會長等に推されてそれら功を樹てた人であるが、現在は一村の輿望を負ふて村會議員に當選、土木委員、協行組合副會長などを兼ね、また長柄村の代表として靜和高女組合議員に擧げら

れ旺んに盡瘁恪勵してゐる。當家はその昔、名主を勤め、苗字帯刀御免の家柄であつた。祖父謙藏氏は戸長役場時代の副戸長を勤められ、また父君は區長、村會議員、地租改正委員等に擧げられて何れも輝かしい功績を遺してゐる。當主はその長男明治二十九年一月三十一日の生れである。盆栽、造花、旅行、野球、小鳥など多趣味の人。

日吉村立鳥

村會議員 三橋 和喜



當家先代故仙藏氏は當部落三橋家から分家から分家獨立した

篤農家で、村役場書記、區長に就任して盡力してゐる。氏はその長男で明治二十二年十月二十日の出生、茂原町大成館中學校を卒へて役場の書記を拜命、次で助

役に推されて村長を輔け、大に村治績を高め、また區長としても部落民の期待に副ふところがあつた。一層人望の厚きを加へるに至つた。現在は村會議員に消防第四部長を兼ねてゐるが、村政に對する氏の熱意は焰々燃えさかつてゐる。

水上村刑部

村會議員 平野 穎敏

氏は明治二十二年八月十一日、先代倉吉氏の次男に生れた。家は十數代の舊家祖父彌惣治氏は本村初代村長として功あり、父君は千葉縣師範出の教育家として令名を擧げてゐる。當主は千葉中學出身明治四十二年十二月一日習志野騎兵第十六聯隊に入營、下士志願して軍曹に昇進した。歸郷後郡役所に入り、郡制廢止後村治に進出、前助役を経て現村會議員に耕地整理委員を兼ねて専念盡瘁してゐる

西村小澤

村會議員 關本 虎次

當家は代々農を家業となして来た家柄にして、尊父虎藏氏は郡會議員、村長を勤めし自治功勞者である。氏はその男、明治十五年六月七日に生をこの世に享けた。東京青山師範學校教員養成所出身の智慮業に勝れた人で、現に村會議員の重任に三期目を勤めてゐる。曩に學校委員檀徒總代を勤め、衆望を一身に集めて現在に至つた人である。極めて信仰厚くして人格高潔なる仁である。

東村 豊原

村會議員 鍵山 靜一



當家は舊家を以て知られ三代前の善九郎氏は先に大之丞と呼び、徳川幕府の高職を勤め、次代の善吉氏は名主、先代吉松氏また名主見習から戸長を命ぜられた程の名門家で

ある。當主はその長男に生れた人、大正二年の近衛歩兵で、除隊後在郷軍人分會班長として盡瘁し、その他農家組合長、農會代議員、産業信用評議員等に推されて寄與努力するところがあつた。現在では選ばれて村會議員となり、今後の氏の活動にこそ多大の注目が拂はれてゐる。

鶴枝村 立木

村會議員 麻生 誠一



教育功勞者として表彰數知れぬ氏は明治十二年二月十九日、石二郎氏の長男に生れた。幼時より神童と言はれた程の俊秀英才にして千葉師範の出身である。後ち千葉彌次馬氏に望まれて長生中學に教鞭を執り、また修齊中學を創設し、自ら校長講師を勤めるなど、その功牧學に追なきほどであ

る。五十八歳にして教育界より引退し、現在は悠々自適の日を送り、書道に意を注ぎ、號を麻生徳郷といふ。村會議員、村長等の公職は敢て問はぬ人格者にして人物の養成に努力してゐる。

豊榮村 棚毛

村會議員 高仲仁三郎



日露戰役當時、乃木將軍の第三軍に従ひ、各地に轉戰、目覚ましき功を立て、勳八等功七級に叙された氏は明治十五年十一月九日、先代重次郎氏の長男に生れた。軍人らしく、濃厚にし氣品高き氏は、衆望を一身に集めて、曩に村助役に推されたが、現在は村會議員、負債整理組合長の重任にありて盡瘁貢獻、農村の救済は先づ負債の整理にあることを知り、この職に身

を投げて執掌精進してゐる。

五郷村 早野

村會議員 並木 佐太郎



二宮尊徳翁を理想の人物とする人格の高き氏は、明治二十四年十一月十二日、作藏氏の長男として生を享けた。明治四十五年千葉師範を優秀なる成績を以て卒業し、後ち縣各地の小學校に奉職、昭和二年鶴枝小學校長に榮轉して一層精進努力し、同十二年退職したが、其の後は村發展の爲に盡力するを一生の事業となし、現在村會議員、學務委員、方面委員として盡瘁貢獻その功尠なくない。また青年團の設けらるゝや率先して青年指導の任に與り、鋭意努力してゐる。

茂原町 通町

町會議員 松本 紋四郎

電話茂原一五番

松本家は、古い歴史を有てる家柄、紋四郎氏を襲名して三代目より呉服商を営んでゐるが、茂原町同業者の開祖として仰がれ、縣下有数の老舗として聞えてゐる。當主は明治二十五年二月十日先代の長男に生れ、父君逝去の後を繼いで今の名に改めた。茂原大成中學を卒業して早稲田實業學校で鐵へ上げた新人だけに、父祖の業を辱めず、更に大成へと方策を講じて進んでゐる。現在三期目町會議員に納稅組合長を兼ねて町治の爲めに鋭意盡瘁してゐる。資性濃厚にして極めて眞面目な人、盆栽を唯一の趣味となして楽しんでゐる。なほ令夫人との間に三人のお子さんがある。

應南町

町會議員 關 成嗣

當家は徳川時代の武家の出にして其後富町に來り上總木綿商を営んだ由緒ある家柄である。先代松藏氏は商業銀行監査役の位置にありし濃厚篤實なる人格者。町會議員に推される等町政に盡せし功尠なからず、氏はその三男として明治十七年六月一日の岳降である。安田生命保險會社千葉縣第二部長の重要な職を勤め、濃厚なる人格者なるを以て這般の町會議員改選に推されて當選、町政に參與してゐる。二男二女の子供さんがあり、家庭は人の羨む程圓滿を極めてゐる。

一松村

村會議員 中村 正

當家は約三百年以前より續いた名ある家柄、累代庄左衛門氏を襲名して農

を主業となして来た。先代安次郎氏は警官を拜命、次で横濱市役所衛生課に在勤するなど才幹の人であつたが退職後は今の地に飲



食業を開き、現在に至つてゐる。氏は明治二十二年十月二日の生れ、夙に村治に與り曾て消防小頭、資力調査委員、家屋調査員等に推されて盡瘁し、現村會議員、信用組合改革の要職に就任、村民の期待をあつめてゐる。曩に郡農會より農事功勞者として表彰された。家族は七人、圓滿である。

八積村信友

村會議員 矢部友三郎

元祿時代の頃、藻原山草源寺の五重塔建立に際し、御心木を奉納せし人こそ、當家の曾祖父茂左衛門氏である。累代農

を家業となして来たが、先代佐平氏は區長、消防役員、衛生組合長等を勤めた功勞者である。當主は明治十三年十二月十六日の岳降にして、後ち佐平氏に望まれて當家に入つたもの、區長、消防七部長などに推されて盡力貢献し、現在は村會議員として村發展のために身を忘れて盡瘁してゐる。家には母堂たつ子刀自健在し、令閨はつ子さんとの仲に一男二女がある。

高根本郷村高根本郷

村會議員 齋藤乙作



當地に土着せる舊家で、累代治右衛門氏を襲名、先代故市太郎氏は組長、寺院總代等を勤めて功勞のあつた人だつた。氏

は明治十三年九月二十三日、その長男に生れた温厚篤實な人格者で、村民の待望を一身に集め、推されて村會議員、農家組合長に就任、大に盡瘁貢献しつゝあるが、村民よりは感謝の眼を以て迎へられてゐる。家には母堂たつ子刀自あり、令閨まんさんとの間に義一君あり、君は既にすゞ子さんを迎へて三人のお子さんがある。

東郷村七渡

村會議員 中村新一郎



水利方面に盡瘁したので、水田の灌漑等現在區民の浴する恩恵は多大なるものがある。當主新一郎氏は明治九年六月三十日の生れ、父祖の業を繼ぐと共に村治方

面にも關與、村民の信望をあつめて曾ては同村助役に推され、村長の輔佐役として功を積み、今、村會議員に選ばれて村政に盡瘁してゐる。なほ長男眞文君は長生中學及び千葉師範の出身、關尋常小學校に奉職中である。

關村福島

村會議員 石渡幸之助



氏の男である。福島區の開拓者として今も人の口の上る石渡金兵衛氏を祖とする當家は村内屈指の舊家で、代々農家を以て聞えて来た。先に産業組合役員に任じた氏は、區會議員、農會總代、養蠶組合長の要職等にあつて盡瘁貢献し、その功勞なくない。特に昭和八年より同十年ま

で三ヶ年を費して竣工したコンクリート水門工事に於ける氏の功績の如きは大書すべきものがある。家には母堂せよ子刀自六十四歳にてなほ健在、長男盛君は本納實業學校の出身、家事に助けてゐる。

白濁村古所

村會議員 鵜澤房五郎



明治十一年九月三十日與三郎氏の二男として生を享け、家業たる農に精進しつゝあつたが、同三十九年荒物雜貨商に轉じ現在の隆盛に至つたものである。氏は今一村の興望を負ふて四期目の村會議員の外に方面委員を兼ねて精勵貢献してゐるが、曩には家屋税調査員、調停委員として盡すところがあつた。家には令閨とわ

子さん、養嗣子留吉氏がある。

南白亀村五井

村會議員 田邊市作

田邊家は五百年來の舊家で、農業を本業となして来た。氏は明治三十三年一月十一日、先代長藏氏の長男に生れ、夙に父祖の業のために精勵して来た。一面また村内の興望を担つて村治に關與、現に村會議員、消防部長、養蠶實行組合長を兼ね、衆望に副ふところあらんとし盡瘁してゐる。曾ては區長、在郷軍人分會幹事として相當功績を稱へられ、分會幹事として表彰された。

二宮本郷村庄吉

村會議員 金坂浩



當家は十代も續く名ある舊家にし、先代富藏氏は



村會議員、區長を勤めし自治功勞者である。氏はその男、明治二十五年十二月十五日生をこの世に享けた。人格圓滿にして村會議員に推され盡瘁すること實に六期の永きに及び、また區長を勤めし事もあり、その功頗る大なるものにして、村民の感謝を受けてゐる。家には頑子夫人との間に二男二女がある。

長柄村長柄山

村會議員 山本 弘



當家は元武家、徳川時代に旗本として武を鳴らした。もの、後ち農に歸し、先代安五郎氏はまた副業に養蠶を營み、村會議員、區長、氏子並に檀家總代として功勞の高かつた人である。當弘氏は明治二十七年十一月七日、その長男に生れ、夙に村治方面に

進出、土地調査委員、區長等に推され人望いよ／＼厚きを加へ、現在は村會議員として村政に與りつゝあると共に長柄村信用組合役員を兼ね、村のこといへば率先して寄與貢獻するの、極めて實直な人で、今後に多大の望みを囑せられてゐる。夫人なか子さんは水上村の出、今、國防婦人會村分會支部長に就任活躍してゐるが、會員の評判は頗るよい。

日吉村櫻谷

村會議員 阿部 作治郎

當村が生んだ我が海軍の逸物、そして今後に大きな望みをかけられてゐる海軍少佐現艦長阿部勝男氏は實に當主の二男で、その累進振りは家と村とを更に光らせつゝある。當主は明治九年八月十四日、(先代)七三郎氏の男として農を傳へて來た今の家に生れ、家業に精進しつゝ、他面村治に關與、曩に區長として活動し現在は村會議員に選ばれて盡瘁貢獻してゐる。



水上村大津倉

村會議員 鹿間 僖雄

先代庫吉氏は温厚なる人格者であつたが子供の教育

にはあくまでも嚴格なる人である。氏はその男で、明治二十一年十月三十日出生の穩健なる人格圓滿な人である。一意専心、村治に意を注ぎ、村會議員を歴任してゐる。氏はまた、野菜の研究をなし、大正十一年の東京博覽會には大豆生娘を出品し、載仁親王殿下より褒彰を受けた家には母堂八十三歳にして、なほ豊饒、のお子夫人との仲に三男二女がある。

西村山内

村會議員 中村孝左司

耕地整理組合長 先代島太郎氏は温厚なる精農者、傍ら

區長に推された村政の功勞者であつた。當主も村民の信望を集め、先代の志を繼いで區長、消防部長、檀家總代として盡瘁するところあつたが、現在は村會議員學務委員、耕地整理組合長の重要な地位にあつて活躍、その功績尠なくない。氏は明治二十九年四月二十五日の出生、熱心なる農作物の研究家でもある。令閨ぶん子さんとの間に一男二女がある。

鶴枝村下永吉

村會議員 富塚 庄三郎



當家は相當の舊家ではあるが、その家系等を詳かにしてゐない。二代前の祖庄作氏までは代名主を勤めたほどの家柄で、農を本業となしてゐる。氏は喜惣治氏の長男慶應二年三月十日の出生、十四歳の時教壇に

立つたほどの秀才、千葉中學五學年を四年にして、しかも優秀な成績を以て卒業し、次で千葉師附屬に於て教員の實習を受け、十九歳の時山武郡大平村小學校を振り出しに各校を歴任、小學校長に榮進して多年育英事業に貢獻したその功績は眞に著大なるものがある。退職後村治に關與、村會議員、學務委員を現任中である。温厚着實の人格者、山鹿素行の崇拜者、常に俳句に親しんでゐる。

豊榮村下千田

村會議員 唐鎌 彌一

當家は分家して二代目、氏は先代彌作氏の長男、明治二十四年一月三日の生れである。寡言實行の士、たゞ自己の信ずる道に向つて黙々として活動する、その實直な性格が信望をあつめ、曩には區長として勤め、現在は村會議員として村政に與り、是を是とし、非を非となして一意村民の心に副はんことをこれ努めてゐる。元近衛輜重兵。

茂原町長谷

町會議員 相 久作



嘗て上茂原私立長生學校の秀才と噂された氏は、明治十四年先代辰藏氏の男として生を享けた。家は十代目の舊家にして累代農を業として來たが、氏は家業の傍ら公事に意を注ぎ、明治三十六年五月茂原町役場書記を振り出しに助役、方面委員、學務委員等を歴任、その功績には著大なるものがある。大正九年の十一月本郡長より表彰を受けた。今、町會議員に擧げられて町政に參與してゐる。夫人いし子さんは夙に知られた内助の貢獻者、良妻賢母の人としてたゞへられてゐる。間に久夫君(茂原農學校在學中)と外に秋子さんがある。

應南町藏持

町會議員 森川 八十治



實直、温厚篤實の人格者として深くも町民から慕は

れる氏は、明治五年一月八日の出生である。父君百次郎氏は町役場収入役、助役として町政に參與、率盡貢獻せる町自治の功勞者。氏はその志を繼いで町政に進出、収入役を五年、助役を二年、町會議員を一期歴任、現町會議員、方面委員として盡力してゐる。夫人しお子さんの間に嘉治君とみよ子さんがある。嘉治君は私立中芝中學の出身、自轉車業を營んでゐる。

一松村

村會議員 木島 保太郎

隆々たる甲州の武田家も時運利あらず敢なくも滅亡の衷史をとどめたが、當家は實にその一族、當地に土着歸農して以來幾百年の間、土地の開発に努力した。武士の血を引く氏は氣品高く温厚篤實、今、村會議員として村政の刷新發展に拍車をかけてゐる。父君榮吉氏は村會議員として村治に功があつた。當主はその男、明治十八年十二月十一日今の家に生れた人である。夫人しづ子さんの間に二男二女があり、長男榮一郎君は長生中學に在學中の秀才であり、長女美代子さんも靜和高女校に在學中である。

高根本郷村中之郷

村會議員 市原 清治郎

市原家は遠く今より六百年以前の建武四年梶舎人に起り、慶安四年清右衛門氏を身延山主より命名され、爾後同名を襲名、同山菩薩を保管し、本山藻原寺より代々保存の感狀を贈られたほどの由緒ある本村最古の舊家として知られ、三戸の

分家を出してゐる。當主は先代亡清右衛門氏の長男、慶應三年三月四日の出生、夙に村治に關與現在二期目の村會議員であるの外、土木委員に社寺總代を兼ね老境にあるの身を厭はず、絶えず盡瘁貢獻してゐる。曩にはまた區長、組長等に歴任、それ〴〵功を稱へられてゐる。温厚篤實の士でもある。長男清一君、長女静子さん、次女清子さん、三女美子さん、四女和子さんの一男四女がある。

東郷村木崎

村會議員 麻生 慶三

麻生家は今の地に移つて以來、七八百年の歴史を有する舊家で、今も農を本業となしてゐる。氏は先代故重郎氏の長男、明治二十一年十一月十七日の出生、東京の聯隊に入營して看護兵となり、滿期除隊後在郷軍人會役員たること十五ヶ年、同分會長たる事十三ヶ年、その功勞なからぬものがある。現に村會議員、學務委員を兼ねて村治、教育にと銳意努力して

ゐる。長男勝君は縣立茂原農學校の出身現在家業に熱心従事してゐる。

關村福島

村會議員 高橋 仲次



氏は豊岡村渡邊龍吉氏の次男として明治二十年五月

十日に生を享けたが、後ち故市太郎氏の懇望により當家に入つた人である。家は累代名主、戸長を勤めた名門の家柄である。開祖は詳らかでないが徳川吉宗の頃の位牌の有るを見ても相當の舊家である事が分る。氏は幼時より秀才の名、近在に響き、教員養成所を出て教鞭を執ること三十三年間、偉大なる功績を残して退職したが、村より功勞者として表彰された。現に學務委員、村會議員、在郷軍人役員に推されて盡瘁してゐる。

白瀧村古所

村會議員 鵜澤 權一



從業員を百人も使用し、漁船を八漕驅使して九十九

里海岸屈指の漁業家を以て響く氏は、明治二十二年五月十五日、伊之助氏の長男に生れた。氏はまた家業の傍ら自治方面にも意を注ぎ、村會議員、在郷軍人分會顧問、漁業組合長、其他の重任にありて盡瘁貢獻をなし、その功勞なからず、郡水産會より水産功勞者として表彰を受けてゐる。また小學校建築、茂原警察署新築等にも盡力し、人々の感謝の的となつてゐる。温厚篤實なる人格者で、家には尊父、なほ嬰孺、令聞はる子さんとの間にとく子さんがあり、養嗣子與作氏は父業を助けて心熱従事してゐる。

南白亀村刺金

村會議員 酒井 増次郎

資性温良なる氏は明治二十二年二月二十日の岳降である。當家は先代要藏氏の代より分家せられたるものにして、農を家業とし、水産を副業となして來た。氏は家業の傍ら銳意村政に意を注ぎ、曩に區長、寺院總代、消防部長を勤めてゐたが、現在は村會議員、農家組合長、統計調査員、區會議員の重任に推され、盡瘁貢獻、その功大なるものがあり、縣より消防功勞者として表彰された事がある。

二宮本郷村國府關

村會議員 大塚 誠一



農事功勞者として聞え、郡農會より表彰を受けた事

のある氏は、明治二十七年八月七日、先代の長男に生れた。資性温恭なる人格者に於て、村會議員、小字原田部長に推され盡瘁貢献をなしてゐるが、曩にはまた青年團長を勤めた事のある功勞者である家には兩親なほ健在、令閨まつ子さんの間に三男四女がある。

長柄村力丸

村會議員 石川忠一郎

石川家は村での舊家であり、また豪農の家柄でもある。幕政當時は代々名主を勤めて土地開發等に貢献し、次で戸長役場時代の戸長として功績を擧げてゐる。氏は明治三年九月の出生、後ち同家先代友吉氏の懇望を容れて同家の人となり、家業に熱心、大に勵みつゝある。曾て區長として部落のために計ること十三ヶ年その他方面委員、郡農會副會長等を歴任し、現在は三期目の村會議員として村政に與つてゐるが、その功勞の偉大なるは勿論、村内の元老として重きをなしてゐる。

る。資性實直、極めて好感をもてる人。夫人のきく子さんは本郡二宮本郷村の出身、温良貞淑、内助の功勞者であり、間に二男二女がある。

水上村刑部

村會議員 篠原靖策



本村大字刑部月輪寺境内にあつて靈驗いやちこな千

壽觀音は、その昔、當家旺んな折に創建したものだといひ傳へられてゐる。この一事によつて當家の由緒が察しられる。氏は明治十四年三月十五日、喜三郎氏長男として今の家に生れ、夙に農業に精進また村治に與り、現に村會議員として活動盡瘁してゐる。趣味は運動、かせ子母堂は喜壽を過ぐるごと當三歳、なほ豊樂たるものがあり、夫人よね子さんの間に一男七女がある。

に一男七女がある。

西村

村會議員 古市雄三

當村に於ける政友會の幹部として響く氏は、先代雄盛氏の長男として明治十三年九月廿五日の岳降、祖は元武家、後ち農に轉じた由緒ある家柄で、氏は疾くから公共方面に進出、農家組合長に推されて盡瘁するところあり、特に道路改修に關して顯著なる功勞があり、村民より感謝されてゐる。村會議員として村政に與つてゐるが、今や當村に無くてはならぬ人物の一人として重きをなしてゐる。

豊榮村棚毛

村會議員 大森爲三郎



當家は故從四位勳四等大森金五郎氏の別家代々農を

營んで相繼ぐこと六代目に及んでゐる。氏は鐵藏氏の長男、明治十四年四月十六日の生れ、夙に村治方面に進出して衆望あり、曾ては當區長たりしことがあり、現在は村會議員たるの外産業組合監事、農家組合長等を兼務、それ／＼活躍盡瘁してゐるが、その多彩なる才腕は今後に期待されてゐる。

高根本郷村會根

村會議員 田中大治

當家は大正五年に分家獨立せるものにして、本家は三百年連綿と續く當村屈指の舊家である。先代佐吉氏は村用係、社寺總代、組長を勤めし功大なる人にて、當主はその男明治十二年六月十三日の生れ、訓導生活二十五年の長きに及び、教育界に盡せる功績尠からず郡教育界より表彰を受けた程である。温厚な人格者にして現に村會議員の重任にありて執掌精進してゐる。

東郷村

村會議員 松本中雄



當家は十三代に亘る當村切つての名ある家柄にして

先代佐吉氏は村會議員五回を勤めた村治功勞者である。氏はその次男、明治二十四年の岳降。前には村會議員二期、區長在郷軍人分會理事を勤めた。現在は村會議員、産業組合理事、農家實行組合長、養蠶實行組合長に推されて盡瘁、温厚篤實なる人格者として村民の信望を集め、令閨ゆき子さんは國防婦人會幹事の重職にあり、長女美代子さんは西尾女學校に奉職中である。

水上村笠森

村會議員 須藤喜代治

西村

村會議員 鶴岡經民

當家は十七代、武家出の舊門家として今も聞えてゐる。先代萬次郎氏は助役、村長、村會議員などを勤めた功勞者であ



資性温良、人望を一身に集める氏は、明治十四年六月五日、十數代連綿と續く當家に、喜八氏の長男として生を享けた。南總食堂を彼の有名なる笠森觀音堂入口、南總鐵道笠森驛前に設け、また附近住民の願望を容れて廣大なる地所に池などを造り、親切丁寧、誠實を旨として參詣者の便を計り、人々より感謝を受けてゐる。氏はまた家業の傍ら村治に意を注ぎ、曩に區長を勤めたが、現在は村會議員の重責に在つて盡瘁してゐる。

る。當主はその男、明治十六年三月十八日の出生、極めて實直な士、村民の信望



頗る厚く  
曾て小學  
校に奉職  
せる教育  
功勞者、  
後ち村役

場に入つて書記となり、その他消防小頭區長を歴任、現在村會議員として村政に盡瘁、功勞目覺ましきものがあり、また西村信用組合理事の重要位置にある。家にはたか子夫人との間に三男子があり、それ〴〵活動してゐる。

東郷村木崎

元校長 鶴岡善朗  
勳六等

當家は二代前までは名主を勤め、先代新之助氏は戸長役場時代の戸長を、また村制施行後の村長として盡瘁せる剣道家であつた。當主はその長男、明治九年九月廿八日生れの早稲田専門學校出身、小

學校教員となり、在職中一年志願兵として近衛歩



兵第三聯隊に入營  
歩兵少尉  
に任官、  
日露役に

出征、中尉に陞進、勳六等を賜はつた。歸來再び小學校に入つて校長となり、退職後村長に推薦され、特に排水利用に盡瘁貢獻する大なるものがあつた。

關村北日當

前村長 渡邊主計

當家は小田原北條氏以來の士族として名望のあつた家柄、名主、戸長、村會議員などに推されて自治に功績を残してゐる。氏は夙に漢學、漢詩、和歌、書道等を修めた土地に知られた博學の士であつた。在郷軍人分會長、農會長、村會議員、消防組頭、村長等に歴任、それ〴〵功績を擧げてゐる。今は時に詩作し、歌に思

ひを述べ、時に書道に世塵を忘るなど悠々自適してゐる。

新治村桂

元村會議員 伊東昌章



快活にして剛健  
質實、曩に村會議員、農會長、區長

消防第五部長、社寺總代等に擧げられて村治の上に多大の功績を累ねた氏は、今も村政に心を致し、産業組合の設置、農業の機械化等を平常の持論としてこれが實際化を強調してゐる。氏は家は約四百年前の領主酒井氏の頃から今の地に土着累代七郎左衛門を襲名、農を主業となして相繼いで來たもので、父君七太郎氏は村長たるの外村助役、村會議員、區長、社寺總代等に推されたほどの名望家であり、また村内に重きを置かれてゐた。日

露戰役當時、内治の功があり、平和克復後勳七等に叙せられ、青色桐葉章を下賜された。當主はその二男、明治三十五年一月二十八日の出生、母堂のぶ子刀自並孝子夫人との間に三男一女がある。

二宮本郷村

元縣會議員 太田謹三郎  
元村長

縣會議員に選出さるゝこと二回、しかも至誠一念、他に率先して縣治に與り、侃々諤々の論は常に衆を壓し、縣會一方の雄をなしてゐた。そのほか縣參事會員郡會議員(四回)等にも推されてそれ〴〵功績を擧げ、更に村長の要職に就いては早くも名村長として謳はれ、農村産業更生のために忌憚なき施設を試み、事毎に功果を收めて現在村績の基礎を築いた村治の功勞者でもある。慶應二年一月二十一日生れの老齡、公職を去つて悠々自適の身ではあるが、絶えず腦中を徂徠するものは吾が郷村の將來のことである。令夫人との間に一男五女があり、嗣子竣八

君は専ら家業に精進し、女子は既にそれぞれ他に嫁し、現に次女さんは同村の名望家及川三朗氏に嫁ぎ、夫君は今、平壤病院長として令名を馳せてゐる。

長柄村上野

前村會議員 池澤六郎



池澤家は農を世襲し、先代辨次郎氏は區長村會議員

等に推されて盡瘁した土地の人望家であつた。當主は慶應二年二月八日日本郡東郷村千町河野權左衛門氏の三男に生れ、二十七歳の時、同家に入つた人で前村會議員、同長柄村第五區産業組合監事として顯著な功をたゝへられてゐる。養母さんとは米壽の高齡を以て健在、なつ子夫人との間に五男子があり、長男壽城君は日本セメント九州佐伯工務部長として、

次男植草君は郡内八積村の開業醫、三男柄君は千葉市登戸、四男基君は東京市蒲田區蒲田町に齒科醫を開業し、五男榮君は九州八幡市に在住、實業界に雄躍してゐるが、五子揃つてそれ〴〵輝かしい一路を辿つてゐる、當家の幸慶たゞ知るべきのみである。

長柄村山根

村會議員 齋藤都一

當家の始祖は不明であるが、相當歴史を重ねた舊家で、農を世襲となした。氏は先代助五郎氏の長男、明治二十年三月二十五日の出生、實直温厚な人で、期せずして人望を寄せられてゐる。曩に村組長、納稅組合長として多年、また實行組合長としても相當功績を高め、いよゝ人望を加へて村治に與り、昭和十二年の村會議員改選に際し、推されて立候補、初めて村會の一椅子を占めて今日に至つてゐるが、今後の活動こそ大に矚目期待すべきである。なほもつ子夫人は五年前

に病死し、次で長男久吉君は長生中學校在學中に早世するの重ね、の不幸に遭遇したとはいへ、長女とみ子さんは曾我家政女學校を出て家政を助け、二女つね子さんは静和女學校を了へて千葉醫專產婆科に勤務するなど、その輝かしき前途を想望して大に心を安んずるに足るであらう。

水上村刑部

村會議員 田中 一郎



今、産業農村と交通道路の改善とに大きな熱意を以て引續き村會議員の椅子を占めてゐる氏は、先代準一郎氏の長男、明治三十年四月一日生れの今が働きさかりの温厚な人格者である。曾ては青年團長として多年盡瘁せる信望家で、父君は元相馬と稱し

後ち田中姓に改めた舊家である。彌生子夫人は温良な人。長男早苗君は今、十八歳、青雲に思ひを馳せつゝ、縣立茂原農學校に學んでゐる。

西村 水沼

村會議員 島野 宗平



區長、家屋調査員、消防部長を數ヶ年勤め現在村會議員に推され、自治功勞者として、且つ當村に無くてはならぬ人物として、村民の信望を一身に集めてゐる氏は、明治二十一年九月十五日惣三郎氏の長男として生を享けた精進努力の人である。氏はまた、農作物研究家として近在に聞え、令閨ふじ子さんとの間には一男三女があり家庭は常に人も羨やむほどの圓滿振りである。

土睦村川島

學務委員 元村長郡會議員 市原五三郎



當家は始祖太右衛門氏以來累代農を業として來た當村切つての舊家、氏は明治五年五月二十一日の岳降、當家先代太東郎氏の懇望を容れて入籍したもの、家業に精勵すると共に公事に意を注ぎ、村長、郡會議員、助役並びに村會議員に歴任すること三十七ヶ年、その功一々枚舉の煩に堪へない。且つ日露戰爭當時村長を現任中、内治の功に依つて勳八等に叙せられ、世界大戰の際には木杯を、日本赤十字社より銀杯を、それゝ下賜されてゐる。現在は學務委員等益裁を趣味となし、令閨貞子さんとの間に三男子あり、長男太一郎

君は一宮町に齒科醫として聞えてゐる。

八積村藪塚

元村長 根本 俊郎



當家は六百年以前大和國より今の地に移住し土着した伊文守より發し、數代後より代々彌次兵衛氏を襲名、農を主業となして今日に至つてゐるが、當村の開祖といはるゝほどの舊家である。氏は元治元年七月二十五日その長男に生れ、家業に鋭意努力した傍ら村治に關與、疾くも人望をあつめ、初代收入役、助役、郡會議員等に歴任、後ち村長に擧げられて一村の民利民福の増進に多大の功勞をなしてゐる。村長在職中日露戰爭に直面し、銃後の護りに孜孜として勤め、内治の功によつて勳八等を受け、また郡農會役員の功に依つて表

彰を受け木杯を贈られてゐる。養嗣子精一氏は今、野田縣立農學校教職員として奉職中である。

關村 關

學務委員 元小學校長 河野 榮二

氏は正三郎氏の長男、明治十六年二月八日の出生、千葉師範を出るや、二十四歳にして山武郡綠海小學校訓導を振り出しに、同増子、三光寺を経て長生郡豐田茂原、一松、日吉等に轉校、校長に榮進して豐岡、關などの各校の育英事業に盡瘁すること實に二十ヶ年の永きに及んでゐる。大正十四年四月退職したが、以來村治に關與、今、學務委員を現任中。なほ長男弘君は縣立茂原農學校出身、現に農業に従事してゐる。

西村 水沼

村會議員 島野 彌一

人格高潔にして徳望普き氏は明治十九年十一月二十五日の岳降。後ち古太郎氏

に望まれて當家に入りし人である。千葉師範を卒業すると共に教鞭を執ること實に二十年以上に及び、教育功勞者として村より表彰されてゐる。



退職後、區民の推挽により區長の重任に就き、現在は村會議員として盡瘁してゐる。令閨まさ子さんとの間に四男子あり、長男吉一君も小學校に奉職中である。

高根本郷村高根本郷

元村長 江澤 操一

村の元老として徳望普き氏は明治四年六月十四日の岳降である。後ち先代重郎氏の懇望に依り、六百年連綿と續く當家に入つた。先代は郡會議員、村長を勤めし功勞大なる人であつたが、氏も亦村長助役、産業組合長、其他各公職に推され

て盡瘁せる功勞者である。なほ長男重雄君も現在村會議員、産業組合監事の重任にあり、その三代にわたる盡力には、村民は驚きと感謝の眼を向けてゐる。

關村北日當

學務委員 中村 勝藏



氏は和歌に興味を持つ風流の人、明治十年二月五日

庄七氏の長男として生を享けた。郡内小學校に永年奉職し、生徒から慈父の如くに敬はれた教育功勞者である。曾ては村會議員、方面委員、農會總代を勤め、現在は學務委員として盡瘁、その功また大村民の信望を一身に集めてゐる。家に縣長長生中學出の俊才造次君があるが、君は世の多くの青年と風を異にし極めて眞面目父君を助けて農業に従事してゐる。

日吉村櫻谷

學務委員 前村長

鹿間久米造



當家は累代名主戸長を勤めし名ある舊家に於て農を

家業とせる家柄である。氏は明治六年二月二十八日の生れにて、後ち先代直造氏の懇望を容れ、當家に入りし人格圓滿なる人、推されて村長、村會議員の重任に就きし事あり、現在は學務委員、方面委員として盡瘁、その功、大なるものがある。特に小學校増築には血と涙の奮闘を續け、驚くべき功績を殘した。長男君は一松尋常高等小學校長として、教育界に盡瘁貢献してゐる。

水上村刑部

水信販購利組合長 前村會議員

行方昭一

行方家先代故久三郎氏は精農家として知られ、また村民一致の推挽によつて村長に就任した村治の功勞者でもあつた。當主は明治十六年五月二日その三男に生れ、疾くより家業に精進したが、一面村治方面に與り、實直温厚なることによつて衆望を博し、村會議員としてその職責を完全に果してゐる。昭和十年三月保證責任水上信用販賣購買利用組合の創立を見るや、推されて組合長となり、現任中であるの外、農會長としても六年目の今に及んでゐる。同組合が隆々たる業績を示しつゝあるのも、實に氏の功を如實に物語つてゐるものといへる。なほ同組合は現在二百二十餘名の組合員を擁し、出資一口の金額を二十圓となして産業の發展向上へと進みつゝあるが、現在貸付總額は一千五百餘圓で、貯金は一萬餘圓を數へてゐる。また購買價額は五千七百餘圓、販賣價額は一萬一千五百餘圓の統計を示し、前途のどやかしさを見せてゐる。理事に鹿間和、伊藤久作、長谷川晴

喜、伊藤藤一、竹内萬司郎氏等が就任してゐる。

白濁村八斗

白濁郵便局長 元村長勳七等

綠川 正衛



綠川家は當地方草分けの舊家、七

百年以前より土着して農を業としたもの、先々代及び先代氏は名主、戸長を勤めた程の名ある家柄である。氏は先代庄藏氏の養嗣子、曾て村會議員、學務委員などを歴任、滅私奉公それ〴〵盡瘁貢献し功を稱へられ、殊に日露戰役當時は村長として活躍、内治の功を賞せられて勳八等に叙せられ、現在學務委員であるの外、白濁郵便局長を拜命、専心通信事務に盡瘁してゐる性温厚篤實の人格者であり、年と共に鑿鑿たるものがある。

西村報恩寺

村會議員

土屋 孫義



弘化以來の舊家代々農を家業となして來た當家は累

代村政に盡瘁貢献した目覺ましき功勞者である。先代榮吉氏も區長四期に及んでゐる。氏はその男として明治二十六年五月六日の岳降。茂原大成館出身の俊才、後ち近衛歩兵第四聯隊に入營現役を終る。現在は村會議員であり、また西村信用販賣購買利用組合理事として活躍してゐる。曾ては區長を十一ヶ年勤め、統計調査委員として功のあつた信望家である。今、氏は村内中堅の健闘家として將來に大なる期待をかけられてゐる。茂原高女出身の令閨とく子さんの間にサナエさんがある。

東 村

東村産業組合 専務理事 元校長

岩崎 保

氏は明治二十四年十一月、村長、村會議員、その他の公職を歴任、村治功勞者と稱へられつゝある先代氏の男に生れ、同四十五年青山師範を卒業、同時に品川東海小學校訓導を振り出しに數校に轉任して疾くも令名を誦はれ、次で廻町上六番(現東郷)小學校に轉じ、更に淀橋區戸塚小學校長に榮轉、教育界のために盡瘁貢献すること前後實に滿二十一年の久しきに及んだ。退職後は歸郷して村内公共のことに與り、現在東村産業組合専務理事、東村方面委員、金錢債務調停委員などを兼ねてそれ〴〵活動盡力してゐる。性温順にして摯實、常に正義を振り翳して前進するといふ模範的人格者で郷黨の崇拜あつて、特に青年の長服する大なるものがある。令夫人との間に一男二女があり、家庭はいつも和煦洋々たりである。

五郷村早野

元郡聯合軍人  
分會副會長  
八等

西周 治衛門



その思  
想に於て  
その坐臥  
進退に於  
て乃木將  
軍に私淑

しつゝある氏は、茂原町大成中學校を了  
へるや十九歳にして現役志願をし、佐倉  
歩兵第五十七聯隊に入營、累進して准尉  
に昇進、軍隊生活を續けること十四ヶ年  
にして退職、現に長生中學校教諭として  
奉職してゐる。曾ては長生郡聯合軍人分  
會副會長を勤めて多大の功績あり、今、  
同會顧問として盡瘁、軍事精神の鼓吹普  
及に貢献してゐる。なほ長男治財門君は  
東京本所相生警察署の警部補として將來  
を卜せられてゐたが、大正震災の際被服  
廠を警戒中、不幸殉職し勳七等に叙せら  
れた。

茂原町横町

方面委員 關谷 憲次



關谷家  
は初代傳  
六氏、二  
代傳藏氏  
三代傳吉  
氏を経て

當主憲次氏は四代目として繼いだ人。父  
君傳吉氏は繭糸業を主とし當町繭糸界の  
始祖と稱せられ、曾ては繭糸同業組合長  
並に區長として功を擧げてゐる。當主は  
長男、明治二十二年四月二十七日の出生  
茂原大成中學校の出、旭會館の理事とし  
て重きをなしてゐるが、また千葉縣救養  
事業委員、長生郡方面委員、聯合會長、  
千葉縣少年救護委員、茂原町方面委員等  
を兼務、人望をあつめつゝ鋭意努力して  
ゐる。氏は極めて實直、温厚な人、方面  
委員の功勞者として昭和十年十月十三日  
縣より表彰されてゐる。夫人ふみ子さん

は東金高女第五回出身の才媛、三男二女  
がある。

八積村北水口

區長 宮崎 敬之



自治の  
統制を強  
く主張す  
る氏は權  
之丞氏の  
男として

明治二十五年二月三日に生を享けた。會  
ては消防役員、理事を勤め、消防功勞者  
として表彰され、現在は區長、養蠶實行  
組合長、農家組合長等に擧げられ、十三  
代、四百年餘を相繼ぐ當村屈指の家系を  
辱めず、また村會議員、名主、其他凡ゆ  
る公名譽職に在つた先代の功にも劣らぬ  
人物として人々の評判になつてゐる。家  
には兩親健在、令閨くに子さんとの間に  
一男四女があり、一家はいつも和か、笑  
聲堂に溢れてゐる。

白潟村古所

水産加工組合長  
前村會議員

片岡 庄作



漁業家  
としてそ  
の名近郷  
に響いて  
る氏は、  
明治十三

年五月一日、二百五十年來の名ある今の  
家に、金四郎氏の男として生を享けた。  
家は代々農を家業となして來たが、父君  
の代より水産業を營み、鰯漁を主となし  
てゐる。當主は以前村會議員として村政  
に盡瘁したが、現在は水産會理事、白潟  
水産加工組合長、魚肥料製造組合長等を  
兼ねて地方水産界に盡せる功目覺ましき  
ものあり、功勞者として表彰された程で  
ある。實に氏こそ文字通りの功勞者にて  
尊敬と人望を一身に集めてゐる。日蓮宗  
の信者にして家族は六人、圓滿な家庭で  
ある。

二宮本郷村押日

區長 齋藤 喜代藏



資性温  
厚、徳望  
普く氏は  
明治六年  
二月二十  
二日先代

倉吉氏の長男に生れた。尊父氏は組長、  
檀家總代を勤めし功勞者にして、氏もま  
た區長の重任にありて自治の爲に執筆精  
進、奔走してゐる。尙ほ氏は、日清、日  
露の役に出征し、勳八等功七級に叙され  
た勇士でもある。資性温順、人格高潔な  
人にて村民の尊敬の的となつてゐる。

長柄村上野

區長 加藤 作次郎

當家は市原郡市東村在より今の地に移  
住して農を營み、現在に至つてゐる。氏  
は即ち二代目、明治十年五月二十日、岩

吉氏の長男に生れ、父業を繼いで大に精  
進しつゝある。他面また區のために盡す  
ところがあり、現上野區長として部落民  
のために努力してゐる。はつ子夫人との  
間に一男一女があり、長男巖君は今、家  
業を助けてゐる。

日吉村小榎本

區長 地引 義重



軍人精  
神そのも  
のゝ如く  
嚴格なる  
氏は明治  
二十四年

六月二十一日金坂家に生を享けた。のち  
先代源重氏の望みによつて、當村屈指の  
舊家たる當家に入つたのである。氏は現  
在區長の重任にありて盡瘁してゐるが、  
日獨戰爭には三等機關兵として出征した  
る勇士でもあり、その時の戰功により勳  
七等青色桐葉章を授與されてゐる。

水上村刑部

農會總代  
勳八等功七級

鈴木耕司



氏は會  
て在郷軍  
人分會長  
消防部長  
區長代理  
區長、村

會議員等に歴任して功績のあつた人望家である。明治三十五年佐倉聯隊に入營して歩兵上等兵に昇進し、日露戰役に參加して勳八等功七級に叙せられ、除隊の際には善行證書を授けられるなど、行くところ必ずそこに何等かの足跡を残さず措かない。今、農會總代の任に在つて活躍してゐる。べん子夫人は國防婦人會理事として銃後の護りを固めてゐる。長女八重子さんは當年十八歳、市原高女在學中の才媛である。家庭はなか／＼の圓滿振りで、近郷近在の美望と評判的となつてゐる。

西村

元村長  
退役陸軍歩兵少佐  
正六位勳五等

桐谷暉



出で、  
は國家の  
干城とな  
り、歸り  
ては内治  
の功勞者

として讃へられてゐる氏は、明治十七年五月十日、舊農家、故共兵氏の長男に生れ、同三十八年旭川第二十二聯隊に入營陸軍士官學校歩兵科に入り、卒業後原隊に戻り、第十五師團附歩兵少尉に任官、次に第四師團に轉補、歩兵中尉に陞進シベリアに出征して在ること二ヶ年、大隊副官を命ぜられ、後ち累進して歩兵少佐、正六位勳五等に叙せられて大正十五年九月退役となつた。退役後學務委員、村長等を歴任、現消防組頭、學務委員を兼ね盡瘁貢獻を敢てなしてゐる。温厚寛

量の人、一村の信頼極めて厚い。てる子夫人は當村出身、三男二女あり、和氣霽々たる家庭である。

東村地引

元村會議員 白井喜代造

當家は七八百年來の舊家、祖白井鳥醉氏は當時俳壇の重鎮として頽廢せる俳道



を再興せる一世の名宗匠として知られた人だつた。家は代々農、三代前喜左衛門氏の代に醬油製造業を開

六十九歳を以て大正十一年十一月世を去つた。當主はその長男、明治三年五月二十日の出生、郷校を出て東京市神田の塾に入つて學ぶところがあり、歸郷後は父祖の業を繼ぎ、他面區長(二期)、村會議員(二期)等に推されて村治に貢獻してゐる。趣味は書畫に骨董がある。母堂なみ子刀自は八十六歳を以て健在、むら子夫人との間に二男子あり、長男房明君は當年三十歳、東京農業大學出身、家業に従事してゐる。

豊榮村關原

加藤伊八



氏は明  
治四十  
年の世田  
谷砲兵で  
同二十一  
年五月五

日、時の非常長、區長、村會議員とて功のあつた伊之八氏の長男に生れた人、農

業に精進すると共にまた深く村治に意を注ぎ衆望を負ふて曾ては消防小頭、第三部長、農會總代を兼ねて盡瘁し、現在は區長として部落のために活動してゐるが今後に多大の期待をかけられてゐる。なほ長男義勝君は今十七歳、縣立茂原農學校に勉學中である。

茂原町昌平町

元代議士  
元縣會議員

板倉中

今は八十四歳、團基並に俳句を友として雅趣の餘生を樂んでゐる氏は、曾ては法曹界に、縣會に、議事堂にと自由に潤歩、獅子吼して截然名を馳せた人でもあつた。朝鮮増師問題、簡易保險問題、漢字制限問題等は、何れも氏が立案提出論難の衝に立つたもの、現在社會を利益することの功勞、眞に絶大なるものがある。氏は常に後藤象二郎伯を、我が意中の人として崇拜する硬直正義の士、庭面に照る月に對し、時に往時を憶ふて鐵袖一觸の感が深い。

高根本郷村高根本郷

學務委員  
元村長

田中治郎

田中家は故七百年程以前に當地に土着した土地切つての舊家で、土地の字名大豆田を家號とし、村社住吉神社なども當家が祀つたもので、當主まで綿々相繼ぐこと約二十代に及んでゐる。先代平次郎氏は既に故人となつてゐるが、土木委員に社寺總代として功勞のあつた人、當主はその長男、明治八年十月三十日の出生村會議員を連續五期、土木委員、村長などに推薦されて就任、一身を賭してよくその職を果し、今もその功績を稱へられ村内に重きをなしてゐる。今、學務委員産業組合理事、方面委員を兼ねて盡瘁貢獻してゐる。なほ溜池改修委員長として農事功勞者として、教育關係功勞者として數次表彰されてゐる。長男克郎氏は家業を助け、三女しづ子さんは産婆を開業してゐる。



二宮本郷村芦網

區長 菅谷 嘉一

當家は土地に知られた舊家、累代農を主業となして今日に至つてゐるが、曾ては幾人かの篤農家を出し、農村のために裨益するところ大なるものがあつた。先代源造氏は今は故人となつてゐるが、生前は農耕に努力すると共に、また率先して公共方面に盡瘁するところがあつた。當主は明治二十年五月二日、その長男に生れた人、郷校卒業後は父祖の業に就いて精勵し、一面また村治に關與、現に當芦網區長として部落のために活動をつゞけてゐる。資性極めて温厚着實、人望を博してゐる。津禰子夫人との間に二男三女あり、長男嘉一郎君は修齋中等學校(藤原町)を卒業後、家業に従事し、次男正治君は今、縣立茂原農學校に在つて勉學中であるが、共に眞面目な模範青年であり、その將來を人々より囑望されてゐる。



長柄村國府里 區長 小野與三吉

農作物の研究者であり、温厚なる人格者である氏は明治七年九月二十五日先代米吉氏の長男として生を享けた。家は代々農を主業とし、養蠶を副業となして來た。氏は現在農家副組合長に推されて盡力貢獻してゐるが更に區長として村政に盡す功績も尠なくない。殊に村水路事業に盡力せる功勞は、村民一同から感謝を以て迎えられるほど、顯著なるものがある。家には令閨さく子さんとの間に一男一女ある。



郎氏の時から大川姓を名乗り、代々農を本業となして來た。氏は故信司氏の長男

ある。資性温厚、よく他と相和し、期せずして人望をあつめてゐる。曾て青年團副團長として名をなし現在是在郷軍人分會長であるの外、消防組本部長、産業組合監事を兼ねて盡瘁してゐるが、將來を約束された人として待望されてゐる。

西村報恩寺 區長 今關 又吉

當家は七代を経る當村屈指の舊家にし、累代農を主業に、副業として養蠶を營んで來たが祖父自作氏の代に醫師を開業せるも、後ち農に轉じた。氏は先代又五郎氏の次男、明治二十一年一月三十日

日吉村徳愷

在郷軍人 分會長 大川 薫

當家は鶴舞井上藩主直系、三代前徳太



氏は明治二十九年八月二十六日、加藤藏一郎氏の次男に生れ、應南私立中學校を了へた人、

同家先代故嘉三氏に懇望されて入籍、熱心農業に従事してゐる。温厚にして眞面目、事に當るや必ずこれを果すといふ性格は、自然人望を高め、前には青年團長に擧げられて青年指導の任を完了し、今は區長として銳意區のために盡してゐるが、深く區民敬慕の的となつてゐる。母堂はる子さん健在、てる子夫人との間に一男八女の子福者。



族は各方面に名を高め、今は無き先代芥藏氏も地下に

於て如何に喜んで居る事であらう。氏はその三男として明治卅一年二月八日の出生である。現在敏雄氏にかはつて家業を嗣ぎ、統計調査員、區長代理に推されて盡瘁貢獻、その功勤なからず茂原町農會功勞章を受け、町政の爲に奔走してゐる。家には令閨みつ子さんとの間に一男三女があり、近在に評判さるゝ圓滿の家庭である。

二宮本郷村山崎 農家總代 加藤 直松

勳八等功七級

東村下小野田

區長 元收入役 勳七等 鈴木 恭平

氏は明治四十四年六月横須賀海兵團に入團以來、海上生活を送ること十二年その間北清、濠洲等に廻航し、また日獨戰爭に参加し、累進して海軍一等機關兵曹となり、勳七等瑞寶章を下賜された。滿期除隊後區長に擧げらるゝこと三度、現任中であるが、また實行組合長をも勤めてゐる。前には村役場收入役を果した村治の功勞者である。

豊榮村棚毛

區長 岩佐義二郎

統計調査員 區長代理 白鳥 和雄

人も知るスエーデン公使白鳥敏雄氏は氏の長兄である。敏雄氏は幼時勉學を好まぬ惡戯のみに走つた徹底的な腕白兒童



當家は累代農を主業となして来た村内屈指の舊家で

十五代に及んでゐると言はれてゐる。氏は明治十年十一月二十九日の出生、當家は先代五郎作氏の養嗣子として同家に入つた人、日露戦役に勇躍出征、その功に依り勳八等功七級を下賜された輝く名譽の勇士である。前に組長、消防小頭に歴任、現在は農家總代に推されて専心盡力貢献してゐる。長男藤夫君は今、陸軍計理學校出の主計少尉、將來に多大の望みを囑せられてゐる。

長柄村字長柄山

區 長 本橋 岩作

農を家業となして来た當家は、村屈指の舊家である。先代宇次郎氏は戸長役場時代の戸長、檀家總代十五年を勤めた村



政の功績者で、氏はその男、明治二十一年四月二十三日の岳降、實直温篤な人と

られて盡力し、今は區長を現任、村發展の爲に盡瘁してゐる。氏はまた農作物の研究家としても知名、郡農會より表彰を受けてゐる。令閨よし子さんとの間に六人の子福者。

西村 佐坪

區 長 熊切 政雄



昭和十二年四月の區長改選に於て區民一致し、この



農作物 喜松氏の長男とし

東村 小生田

區 長 渡邊 喜平

て明治二十六年三月十一日出生、家は代農を業となし、副業に菰を製作してゐる。氏は極めて温厚なる人、且つ寡言にして實行の士、自然期せずして信望を寄

せられ、現區長、村農會總代理人を兼ねて村發展のために盡瘁また努力、部落からその功を稱へられてゐる。家に三男三女がある。

二宮本郷村山崎

社寺總代 加藤菊之助



當家は十七代も續く當村屈指の舊家である

治十六年五月二十六日出生の明るい性格の人格者にして後先代晋吉氏に望まれて當家に入りし人。日露戦役に乃木軍に従つて偉勳をたて、勳八等功七級金鷄勳章を授與された。現在社寺總代として盡瘁中、曩には分會長、組長、消防小頭等の重任に在りて東奔西走、その功績なくない。家に八人の家族があり、圓滿な家庭である。

長柄村皿木

區 長 石井善五郎

信仰の頗る厚い氏は明治十八年三月、又治郎氏の長男として生を享けた。當家は累代農を家業となして来た舊家にして人格者たる氏は推されて納税調査員を二ヶ年、氏子總代は昭和十一年より現在に及ぶなど盡力の功大なるものがある。村民の信望を一身に集め、今區長を勤めてゐる。家には令閨よね子さんとの間に一男四女の子福者、圓滿なる家庭である。

茂原町昌平町

元陸軍歩兵少佐 正六位勳四等功 松平 誠



は武家、十二代目の奮武氏の長男に生れた氏は、當年六十五歳、なほ斐然としてゐ

る。氏は元幼年學校出身の歩兵將校、日露の役等に參戰功を稱へられ、各聯隊に歴任、昇進して陸軍歩兵少佐に陞進、歩兵第三十一聯隊大隊長を最後に大正三年八月待命を仰せ付けられ、同年十一月豫備待命、翌十二月特旨を以て正六位に叙せられ、退職後甲府在郷軍人分會長として盡力、その功大なるものがある。

白濁村幸治

教育功勞者 勳八等 細谷 秀雄



氏 正息令 村會議員等に

選ばれて功勞のあつた喜之松氏の二男に生れた温厚篤實な人格者、當村小學校に奉職すること實に三十有七年の久しきに及び、多年次席訓導の地位に居り、生徒間に慈父の如く敬慕された育英界の功勞

者である。曩に勤続功勞者として村より表彰され、昭和七年五月には勳八等を下賜された。夫人とわ子さんは産婆業を開始して隆盛を見、長男正雄氏は今、砂金會社に勤務してその將來を注目されてゐる。

茂原町上茂原

武田 醫院



院主武田のくい女史  
當醫院は内科及び小兒科を専門となし

臨床的手腕に勝れ、懇切丁寧にして一般患者の氣うけ頗るよく、上茂原、三ノ輪須田方面を地區となしてゐる。院主武田のくい女史は大正五年の東京女子醫專出身、茂原町鈴木病院の助手として勤めつゝあつたが、同九年今の地に開業現在に及んでゐる。夫君刑部左衛門氏は前町長

町會議員、學務委員、耕地整理組合長、地主の幹事等に擧げられ、その功著大なるものがあり、今も自治功勞者として稱へられてゐる。間に一男一女があり、長男勘七郎君は長生中學校に、長女松江子さんは靜和高等女學校にそれ／＼在學勉強中である。

新治村吉井上

東陽中學校長

飯高 彌市



當家の祖は約四百年前、時の領主酒井家の家臣だつ

たが、主家滅亡と共に土着し、累代農に精進し、代々名主として功績を擧げた當村最古の名ある家柄である。先代の養父六平氏は名主、社寺總代などを勤めた人當主彌市氏は夙に郷土中等教育に志し、若くして東陽中學校を設立經營今日に至

つてゐるが、終始一貫して眞面目なる人物の養成に傾倒盡瘁してゐる。東陽中學校は明治二十四年四月の創立で、長生郡の各町村を學區となし、卒業期を累ねること三十八回、一千二百人の卒業生を出し旅順市長高山克司、實業家北田余治氏等、その主なるものである。夫人はいと子さん、長男正聲君は木更津中學校に、三男規久之左右君は帝大出身、長生中學校論として、また長女みね子さんは東京市大塚盲啞學校にと何れも奉職中である

日吉村櫻谷

元村長

鹿間 惣次郎



氏は明治三年十月十一日先代八太郎氏の長男に生れ

同二十四年千葉師範を出て海上郡船喜露高小學校を振出しに長生郡茂原、鶴枝尋

高小學校等に轉じ、後ち同校々長に榮進その功績また多大なるものがあつた。大正十年村役場助役、村會議員、同十四年村長に歴任、村治の上に偉大なる足跡を残してゐる。因に祖父八郎右衛門氏は名主を勤めた人、後ち寺子屋を開いて附近兒童教育に盡瘁するところがあつた。

茂原町東茂原

養鶏業

村上 道清



養鶏家としてまた村上式孵卵機の發明家として聞え

高き氏は、明治二十八年、先代卷三氏の長男に生れた。尊父氏は兵庫縣に二十三年も校長を勤めし教育功勞者である。氏も兵庫縣の小學校を卒業したが、それと同時に養鶏業に興味を持ち、以來三十年間努力に努力を重ね現在に及んだのであ

る。なほ氏の發明になる孵卵機は他縣にも販賣され、なか／＼の評判である。

水上村大庭

木村六郎左衛門



先代故長次郎氏

十數代目の舊家名主及び戸長等を勤め

た由緒ある家柄、かうした家に人となつた先代長次郎氏は、青雲の志を抱いて佐倉に上り、大に學を修めて歸村、爾來自治の上に活動した偉材、村會議員二期、助役また二期に推されて一意村政に盡しつゝあつたが不幸二豎の冒すところとなり、五十歳を以て歿したが、村民からひどく惜まれた人だつた。當主はその長男、大瀧中學校出身、永らく村役場に奉職中だつたが、今は家に在つて家業に精進してゐる。

鶴枝村上永吉

千葉彌次馬



今も郷土の誇りとされてゐる氏は文久二年の岳降、

幼時より俊才の令名高く、明治三年千葉文美氏に就て漢學を修め後二十三年(廿九才)迄は唯一心學問を目指して邁進し東京外國語學校、東京帝國大學解剖學理學科を卒業、明治卅五年祖業を嗣ぎ眼科醫を開業、其の後の氏の村治に盡瘁せる功こそ筆紙に現し得ざる顯著なるものである。農會名譽會長、村農會長を勤め、明治四十年には村會議員に推され、大正三年村長に一致推薦を以つて就任し、又長生中學校を創設、校長の位置に就きそれに靜和高等女學校の生みの親であり校長である、縣教育會より功勞者として表彰

された。大正九年七月九日偉大なる業績を残して遂に永眠したが、その生前の功により従六位に叙せられ、時の内務大臣床次竹次郎閣下より表彰状を受けた。

茂原町

長生郡産婆會 副會長 相の糸

女史は明治十三年三月五日、鶴岡定七氏の長女として累代農家の舊家に生れ、獨力産婆となり、同四十三年頃今の地に開業、親切丁寧なるとその技の優秀とを以て町並に附近の信頼極めて厚い。昭和二年、縣令に基いて會員組織となし、會創立當初より副會長として十有一ヶ年間にその職に盡瘁、會員間の聲望なか／＼に高い。夫君貞氏は多年茂原八幡神社の財務係を勤めて評判がよい。

豊榮村關原

學務委員 前校長 三十尾良吉

温厚にして篤實なる氏は、疾くより教職員として立つべく長生中學、千葉師範



校長の榮譽を擔つて、その職責を果して大正

十一年に退職、今、學務委員、養蠶組合長、方面委員を兼ねて村治利福のために盡瘁してゐる。俳句を趣味となし、昭和八年頃より「木芽鳴社」を起し、青年と共に研究句會を開催してゐる。

五郷村早野

後備陸軍歩兵 少佐從六位勳五等 三枝清

氏は千葉中學校を了へて陸軍士官學校に入り、夙に秀才の譽れ高く、同校卒業後歩兵少尉に任官、次で各聯隊附に轉じ累進歩兵少佐、從六位勳五等に叙せられた。退職後陸軍省の依託生として高等師



主武田豐信の家老職を勤め本田村開拓の功勞者であつ

た。祖父八十郎氏は代議士として政界に鳴り、父君八十太郎氏は村長及び縣會議員として活躍するなど當地方に知られた名門家、また功績のあつた家柄でもある

茂原町昌平町

元陸軍歩兵 少佐勳四等 片岡清



氏は慶應二年八月三日同郡五郷村に生れ、後ち片岡

源六氏の嗣子として當家に入つた人で、

陸軍教導團を出て累進歩兵少佐となり、その間日清日露の兩戰役に功を樹て勳四等に叙せられた國家の功勞者である。退職後町役場に勤め、その他區長、在郷軍人分會長、郡聯合軍人會長、軍友會長等に歴任、盡瘁せる功勞も決して尠なるものではない。今は釣と圍碁とに老後を楽しんでゐる。

茂原町濱町

長生郡看護婦會會長 山越きの

電話茂原一五八番



女史は今四十三歳、日本赤十字社千葉支部の出身、

昭和九年七月今の地に長生郡看護婦會を起して現在に至つてゐるが、會員八名を擁し、主として武田病院、夷陽病院に派

出し、その他郡内の需めにも應じてゐる。夫君松吉氏また、女史を助けて大成へと邁進してゐる。女史は常に讀書を好み、また生花に趣味を有つてゐる。

日吉村櫻谷

元村會議員 阿部和一

氏は夙に漢學を好み、東京哲學館（今の東洋大學）に學んだ篤學の士、村民からは常に「漢學の仁」と呼ばれてゐる。會て區長に推され、村會議員たる二期、また學務委員等に歴任して多大の功を樹てゐる信望家である。當家は農を家業として來た古い家柄、父君故多重郎氏は當村初代村長として、また村會議員に選ばれて令名を馳せた村治の功勞者であつた。ツネ子母堂は今、八十四歳の高齡を以て健在、長男不二雄君は朝鮮大邱公立普通學校に奉職してゐる。

水上村刑部

水上郵便局長 正七位勳七等 村上光之助

範に學び、長生中學校教師となつたが、病のために辭職した。家は古く、廳南城



明治二十五年六月十日の創立以來地方住民に多大の

便益を與へてゐる當郵便局は、實に氏の血と涙の努力により設立されしものにして、従つて局長も現在迄氏一人である。氏は明治五年七月八日の出生にて、衆望を一身に集めてゐる謙讓なる人格者。業務の傍ら教育にも意を注ぎ自分の裏山に林間學校をひらき、健全なる體格を作る事を主旨としてゐる。その他各方面に盡瘁せる功勞なからず、表彰一々枚舉に遑がない。

鶴枝村下永吉

學務委員 元小學校長 安藤政治

氏は長生中學校の前身大成中學校より中途千葉師範に移り、卒業と共に香取郡多古小學校訓導を拜命、たゞ至誠奉公の



意を體して育英のことに與り、後ち鶴枝小學校長に榮轉、昭和二年退職したが、その間の功勞多大なるものがあつた。現在には區長に推され、また學務委員をも兼ねて自治に進出してゐるが、今後の活動振りに大なる期待をかけられてゐる。趣味は俳句、「戸總名所句集」の著がある。

豊榮村岩川

南總鐵道  
電 役

白井勇次郎



白井家は分家獨立してから十二代目、先代より農を本業となしてゐる。氏は先代故喜三郎氏

の男、慶應元年五月十五日の生れ、縣立千葉中學校卒業後、東京私立英語學校に入つて普通學を修め、後ち茂原町に私立上植生學館を創設し、次でこれを大成館と改稱、汝々として教鞭に寧日なきの活動をつゞけ、なほ中等學校に宗教科を設けて思想方面に及ばんと、今も運動してゐる。因に氏は今、南總鐵道の株主であり、また重役として重きを置かれてゐる人格者である。

五郷村八幡原

長生中學校  
教 諭

東條 鳳平



當家は累代兵九郎を襲名せる當村屈指の舊家にして先代兵九郎氏は市原郡の東條喜惣治氏と兄弟共に衆議院議員に推されし人格者である。少年時より俊才の名高く、青年時

代勉學に専心意を注ぎ、後歸郷と共に村會、縣會議員に推され貢獻せる功勞者にして漢詩、和歌に造詣深かつた。氏はその男、明治三十七年七月二十六日の出生である。尊父の正しき人となれ、名譽を追うなど言ふ遺言を守り現に長生中學に奉職してゐるが、人格高潔な人である。

水上村大庭

學務委員  
勳七等功七級

内藤 素作



資性剛毅にして無言實行をモット一とする氏は、明治十年八月六日の岳降である。後ち先代福次郎氏に望まれて、二十數代連綿と續く名望の當家に入つたのである。日露戰役に際し海軍志願兵となり彼の旅順港閉塞の時は決死隊に参加、鬼神にも劣らぬ拔群の偉勳をたて勳七等功七級に叙され

た。現在學務委員、消防組頭として盡瘁してゐるが、曩には郡會議員、村會議員其他を勤めて功勞大なるものがある。

鶴枝村下永吉

明治大學  
教 授

細矢 祐治



細谷家は二代前までは刀圭家として世に臨み、先代故道太郎氏の代に醬油醸造業に轉じ、傍ら村政方面に大に意を注ぎ、多年村長の要職に在つて盡瘁、勳八等に叙せられた自治の功勞者である。當主は明治十八年八月十七日、その長男に生れ、千葉中學を了へて高等商業學校(商科大學前身)に學び、學終るや實業界に入り、住友總本家に在勤三ヶ年、次で日本興業銀行、東洋製粉會社等に活躍するところあつたが、偶父君の病氣に接して歸郷、現在明

治大學教授として政治經濟學部及び商學部の教鞭を執つてゐる。

五郷村早野

茂原靜和高等  
女學校代理教諭

板倉 忠藏



當家は累代名主戸長を勤めし舊家にして、氏は明治十六年七月二十四日福太郎氏の長男に生れた。千葉師範出身の博識多才なる俊才にして明治三十七年より昭和五年迄、各地小學校に奉職、現に靜和高女校の校長代理を勤め子女の教育に邁進してゐる。また幼稚園を創設し、或ひは村會議員、學務委員其他の公職に推され盡瘁せし事多大、温厚なる人格者として衆望を集めてゐる。養嗣子銀也氏も千葉第二小學校に奉職してゐる。

水上村刑部

騎兵少佐  
功五位勳四等  
功五

故 鶴岡浩三郎



今は亡き氏は名村長の稱ある久太郎氏の長男に生れ陸軍士官學校騎兵科を出て騎兵少尉に任官、金澤騎兵第九聯隊附となり、日露の戰役に出征参加して拔群の功を樹て、功七級を下賜された。平和克復後は普通寺の聯隊に在り、果進して騎兵少佐、從五位勳四等功五級の榮譽を擔つたが不幸二豎の冒すところとなり、退役して靜養これ努めしも終に起たず永眠した。年を享くる四十二。長男恒廣君が今、家を繼いでゐる。君は昭和十年四月滿洲守備隊に入營した豫備歩兵上等兵で、村内寄與貢獻はこれからである。

鶴枝村三ヶ谷

元小學校長 丸島 斌



當家は新田三郎義光の後裔にして累代村治に貢献せ

る名門の家である。氏は半藏氏の長男として慶應二年十一月十一日の岳降。文字通り自力獨行の人、専心獨學ばかりで勉學に勉め、十九才にして、正教員の檢定をパスし、小學校に奉職した。その傍ら南畫を研究、白洋と號して相當の域まで達し、また英語を學び、漢詩、和歌を新田先生に學んでその人格の基礎を作つた。現在三十四年間勤続の教育界より引退して、自適の生活に入つてゐるが村の元老として衆望を一身に集めてゐる。三男子皆それ／＼出世し、當家は近在羨望の的となつてゐる。

五郷村羽鳥

村治功勞家 井桁 三郎



先家は六代百五十年の舊家で、甲斐源氏三龍

氏武田家の出にして今の地に土着して歸農、農耕の方面に精勵すると共に名主、戸長等を命ぜられ、先代龍三氏は區長、村會議員、學務委員、産業組合創立委員などとして盡瘁貢獻するところあつたが、五十三歳の働きざかりに溘焉として歿せられ村民に痛惜されてゐる。當主はその長男、明治四十二年一月二十六日の出生、長生中學を経て農業大學を出たインテリ、今は町政俱樂部を創立して、今後の村方面へ備へてゐる。今や氏の如き將來有爲なる士を得て、當村はたゞ發展の一路を進むばかりである。

白濁村古所

松 濤 園

電話白濁一三番

昭和十一年八月の創業、白沙青松、茫茫涯なき九十九里濱に望んだ館は日まだ淺くはあるが創業以來知名の士の眷顧あつく、白鳥公使、俳人前田普羅、洋畫家大久保作次郎、柚木久太、日本畫家磯田長秋先生等の宿泊の光榮に浴しその名は



人から人へと喧傳されて東京から兩國驛

網行バス、松濤園、また兩國驛——本納驛バスの便があり、極めて交通の便がよい。旅館部の客室八疊、六疊が四室、貸別荘は六棟ある。館主は長谷川善次郎氏顧客本位をモットーとして邁進してゐる

茂原町

海軍機關特務少尉 古川 三郎



當家先代重助氏は精農家として知られ、また區長と

して部落民のために盡すこと數十年間の長きに及んだ功勞者である。氏はその三男今の地に分家して現在に至つてゐるが茂原大成中學校卒業後の明治四十一年軍艦音羽に乗り組んで上海警備に任じ、次で旅順方面、大湊等の警備に任じて海軍生活に在ること實に二十ヶ年、昭和六年十二月二十六日退役したが、海軍機關特務少尉に任官、從七位勳六等を賜はつた。退役後茂原町在郷軍人分會長、長生郡海軍顧問として盡瘁し、現在は長生郡聯合分會理事に任じてゐる。曾在郷軍人分會支部の重責を果した功に依つて表

彰を受けた。釣、盆栽に興味を有する濃厚な人格者。鶴子夫人との間に一男五女がある。

市郷村六ツ野

伊藤眼科醫院



院長 伊藤 貞治 氏

當院は現校醫伊藤貞治氏の經營にか

ゝるもの、眼科を専門となし、病室三棟隨時入院が出来る。氏は明治二十二年六月二十二日、約百年來醫師を業となして來た今の家に生れ、獨逸協會中學を経て千葉醫專に學び、卒業後同校に在つて更に眼科を研究、大正四年開業今日に至つてゐる。趣味は園芸である。長男周好君に日大醫科に、次女さんは帝國女子醫專に何れも在學中である。因に貧窮者に對しては無料、特別診療及び實費診療等に

關 村 關

竹下 醫院

當醫院は外科一般の診療を以て夙に其の名あり。治療室二、藥局一、控室一、看護婦二名を置いて、どんな危急の場合にも應じ得るの設備が出来てゐる。院主竹下林藏氏は明治十九年十二月一日、甲府市の米穀商の家に生れ、千葉醫大出身の醫學士、東京瀨川博士に就て研究後、大正元年十二月十五日開業今日に至つてゐる。今、校醫並に村醫を擔當してゐるが、更に村會議員に推されて衛生思想普及を主眼として活躍盡瘁してゐる。

水上村刑部

豫備工兵少尉 芝崎 金市

氏は明治四十二年六月二日、義治郎氏の長男として農家に生れた豪放磊落、威嚴のある人、縣立長生中學校を卒業して赤羽工兵第一大隊に幹部候補生として入

營し、成績優秀を以て昭和十一年四月工兵少尉に任官、正八位に叙せられ、除隊後母校中學の體操及び柔道教師として勤務今日に至つてゐるが、職員生徒間の聲望極めて高い。

茂原町高師

元海軍特務機關 大尉勳四等功七級 金坂要之助



氏は今 廣大なる 屋敷内に 盆栽と養 鶏との趣 味に浸り

つゝあるが、往年を顧みる時、狂瀾怒濤の海上生活の思出が繪巻物の如く展開し来る。即ち明治三十三年六月一日、横須賀海兵團に入團、即日五等機關兵を命ぜられて海上生活の第一歩を踏んで以來實に三十有四年間にわたり、昭和八年一月九日後備役を仰せ付けられて今日に至つてゐるが、その間三等機關兵曹となり、

日露戦役に出征勳七等に叙し、金三百圓を下賜、日獨戦争にまた出陣して地中海に至り、休戦條約後獨逸より没收したる潜水艇廻航のため英國に向ふなど、その功績擧げて數ふべくもなく、機關兵曹長となり、同少尉に任官、功七級金鷄勳章を賜はり、次で海軍特務中尉にと累進、同大尉となつた武勳の人である。軍人氣質の華實濃厚な人で、明治十四年一月九日本郡二宮本郷村に生れ、後ち今の地に移つて終生の居と定め、悠々自適をつゞけてゐる。

水上村大庭

産 婆 鎗田 豐子



女史は 明治四十 二年三月 三日の生 れ、男ま さりの氣

性は燃えて獨立獨歩、千葉高等産婆學校

に業を修めて業成り、次で鎗田與左衛門氏に嫁いで仕へるに婦道を以てし、他面産婆を開業、その技術の優秀なる等より信望いよ／＼加はり、今日の大をなすに至つた。現愛國婦人會、國防婦人會等の役員に活躍してゐるが、女史は特に村内婦人の衛生思想にあまりにも無關心なるを慨し、主力をこの方面に注いでゐる。女史の如きは地方稀に見るの篤行模範の人である。

茂原町東茂原

理 解 協 會 事 宮田 庄七

溫恭なる人格者として衆望を集めてゐる氏は明治三十年四月二十一日の出生。父君庄三郎氏は商業人として響いた人であつたが氏は當地の中學校を卒業すると共に渡米して紐育、桑港方面に於て養鶏業をなした自力獨行の人である。後ち昭和二年歸郷し現在に至つてゐるが、同一年に千葉縣解卵協會を創設、衆望を擔つて常任理事の重任に就いてゐる。なほ



(部一の場卵解)

花子夫人との間に二男二女がある。

八積村七井上

村會議員 元村長 高 仲 昂 勳八等

十六歳にして居村小學校の教壇に立ち次で尋常科正教員となり、在職のまゝ師範學校學力補習科入學を命ぜられて本科正教員となつた卓拔な氏は才氣並に努力淬勵の跡が眼に見える。爾來氏は長生、



千葉、市原の三郡小學校訓導として、また校長として育英に盡瘁すること實に三十八ヶ年、その功に依つて勳八等に叙せられた人である。大正十四年三月退職するや 推されて

村役場収入役となり、村長、消防組頭等に歴任、村治に貢献せる功績眞に多大なるものがあり、現在は村會議員、學務委員、裁判所調停委員等の要職を兼ねて鋭意盡力してゐる。なほ長男璋磨君は農林技手、米穀検査員として前途を囑望され令孫良治君は今、縣立茂原農學校を了らんとしてゐる。

一宮町野中

圓明寺 職 宇野澤庸眞

天台宗に屬する醫王山圓明寺は、本堂その他焼失後、久しく無住職だつたので

開基、開山、由緒、沿革等を知るに由ない。師の住職となるや、法運再興のために銳意苦心し漸く現在の位置にまで進めた。本堂一、庫裡一あり、財産としては田九反歩、畑一町八反餘、山林また一町六反餘があり、檀家三十餘戸、齋藤周一市原新八氏等とその總代となしてゐる。

土睦村寺崎

無量院 住 職 河野 憲 順



東 光山 無量 院は 徳川 三代 將軍

から御朱印を賜はつたほどの格式のあつた寺で、元本納にあつたもの、享保年間天台宗派の信徒が日蓮宗派に對抗して建立したものと傳へられてゐる。阿彌陀如来を本尊とし、六百餘坪の境内に本

堂、庫裡、仁王門、鐘樓堂が昔を語り顔に建つてゐる。師は當山に入つて以來、法運隆興のために、全く一身を挺して奔命今に至つてゐる。檀家百六十餘戸、森金之助、市原國三郎、萩原政藏の諸氏その總代として世話役に立つてゐる。

降誕祭、八月二十八日の施餓鬼を年中行事として執行してゐる。現住職は東京本郷天台宗大學の出身、千葉中學並に大網の學校等に奉職したことのある名識。檀家は四十餘戸、早野七郎氏外四氏が總代を現任中。

**本納町本納**

五郷村早野 觀曉



當山の  
開基開山  
の何人か  
あるかは  
不明であ  
るが、本

村行徳寺を本寺となし、末寺に東興寺、法興寺、圓明寺を有し、如意輪觀世音菩薩を本尊とし、天台宗派に屬して今日に至つてゐる。境内一千百餘坪、本堂、庫裡、鐘樓、山門、等その昔を偲ばせる。觀音堂の外に不動堂一棟あるが、その建立は約二百年前のもの。四月八日の釋尊

當社の由緒は遠く日本武尊御東征の御走水より上總に船を進めたが、暴風に遭つて船危ふかつた折、船中に奉仕した相模國穂積氏忍山宿禰の女弟橋比賣命は、これ海神の怒なるべしと忽ち海中深く沈み入つたが、暴風に鎮まりやすくと上總の岸に着くことが出来た。後ち七日を經て弟橋比賣命の櫓が岸邊に漂ひ着いたのを、日本武尊はこれを掬ひあげ、陵を作つて櫓を納め、橋樹二株を植ゑて懇ろに祀つて以來、橋神社として今日に及んだ。祭神は弟橋比賣命拜殿に日本武尊忍山宿禰を祀つてある。境内地は二千八



一を常  
在山妙  
光寺、  
他を庭  
谷山妙

十坪、本殿は六坪の銅葺樺材建彫刻附、拜殿は十七坪五合の銅葺、渡殿は二十坪ある。明治六年五月三十日縣社に列せられ大野直茂氏現神職として奉仕してゐるが、五百五十餘戸四千人の氏子がある。

**藻原寺**

當山は縣下著名の古刹として、日蓮宗に屬し、釋迦牟尼佛を本尊となしてゐるが、その由來は建長年間のこと、郷士高橋並に齋藤氏等宗祖日蓮聖人の高徳に服し、終に落飾して僧籍に入り、堂宇を建立して

の一なる後の日向上人を開基とし、善男善女の來拜が常に絶えない。

**一松村蟹道 本從寺**



當山  
は一松  
十六ヶ  
寺の内  
茂原大  
本山鷺

山寺直末の名刹として知られてゐる。日幡上人を開山とし、天文年間の創立、大永二年當時諸尊を造營したものだといふ日蓮聖人十界勸請の御本尊を本尊とし、庫裡四十坪、山門二坪、依然として昔を語つてゐる。年中行事として元之國禱會釋尊降誕會、彼岸會、盂蘭盆會、御難會御會式等がある。現住職は鶴岡秀葉師、夙に令名を馳せて仰慕されてゐる。檀家總代に大野松次郎、森庄助、河野彌吉、諸岡保藏氏等がある。

**東郷村六ツ野村**

**妙感寺**

當寺の開山は日行上人、本門法華宗派に屬して法燈相繼ぐこと四十五世の古刹である。壽界本尊を御本尊となし、享年間、同郡關村所在の觀音寺本妙坊を今の地に移して長正寺と改め、更に今の名稱にかへて今日に至つてゐるが、明治初年よりは茂原町鷺山寺を本寺となして來た現住職田中日慶師は有徳の師として信望をうけ、豊田氏、齋藤傳十郎、伊藤貞次、光橋源一郎の四氏を檀家總代となしてゐる。

**關村北高根**

**本從寺**

當山は會て焼失せるためその由來を詳かにしてゐないが、二百年來の歴史を有つてゐる。茂原町藻原寺の末寺で、釋迦如來を本尊となしてゐる。境内は一反歩餘、山林一反歩、田三町歩、畑二町歩の

**長柄村味庄**

**光明寺**

正月には國禱會、二月には開山忌、八月には施餓鬼、十月には宗祖會式、その他年四回兒童會を開いて精神的光明を與



へてゐる當山は、京都妙滿寺を本寺となし、常連坊、常光坊をその末寺となし、十界五具大漫陀羅を本尊となして今日に



至つてゐる、開山は日滿大徳、現董は山形眞端師で、村の信望あつく、今、區會員として部落民のために貢献してゐる。檀家は本村味庄、下味庄、上味庄一圓にわたり六十餘戸あり、前田光松、繁木茂、山崎林太郎、池澤雄の諸氏、その總代に擧げられてゐる。

水上村笠森 法東大悲山笠森寺



當境内の面積は一千六百五十餘坪にわたり、寺堂には本堂、庫裡の他に六角堂、仁王門、客殿、長屋、樓門等がある。靈域の幽嚴は自ら山緒の深きを想はせる寶物に白連大師直筆、傳教大師唐より持來

たりし經文、その他多數を藏する。石川角三、長谷川傳次、長谷川晴喜、佐久間信太郎、木村榮次郎、石塚喜重郎の諸氏、檀家總代として協力寺運の興隆につとめてゐる。現住職は平野賢榮師にて檀徒の信望並々ならぬものがある。

雲上山報恩寺

當山は遠く一千餘年の昔、源遷上人の開基にかゝる眞言宗寺で、法脈連綿として現住職に至る、世代を繼ぐこと六十二世の古刹、始め百五十石の寺領を有したが、中古幕府より十五石の朱印を寄せられ、代々地頭領主の外護を受け、四ヶ小本寺を會下とし直末十六ヶ寺會下末總六十四ヶ寺の末寺を有する東常法讀林所中本寺として維新前まで毎年受恩講論議を行ひ所化雲集して盛んに法鼓を鳴らし、密教流布の道場であつた。なほ本尊地藏菩薩は慧心僧都の作で靈驗著しく、參詣奉賽の人常に跡を絶たない。現住職白井

榮亮師は今、方面委員として村のために盡してゐる。

五郷村中善寺

行徳寺



現住職平野孝明師

昔は上野東叡山の支配だが現在は

京都比叡山の關係にある當山は、今より約一千三百年前長野善光寺より一光三尊を分祀して堂宇を建立、同尊を本尊となして今日に至つてゐる。末寺十七ヶ寺を有し、本堂庫裡、書院、鐘樓堂、山門などそぞろに昔を偲ばしめる。現住職平野孝明師は昭和十一年十二月當山に座した權少僧都、早くも村民から渴仰されてゐる。檀家は約九十六戸、その總代に中村貞治、白鳥繁太郎、鳥海清次郎、地曳萬吉、東條申三、西田國五郎氏等現任中。

茂原町

大本山鷲山寺



現董露崎日豪師

寺を有する名刹、また古刹であつて、宗祖日蓮大菩薩を開山第一世とし、日辨大上人を第二世として以來連綿嗣法相繼ぎ六百六十有餘年の今日に及んでゐる。その間沿革種々あるが慶安二年徳川家光より朱印を拜受し、正徳三年當山二十七世日誠上人正親町三條大納言公統公の猶子となり、菊御紋付緋紋白の袈裟を賜はり、爾後代々の住職は同殿下の猶子となつた。その後慶應四年六月有栖川宮御祈願を仰せつけられ、御紋付の帯、同高張提燈、翠簾などの御寄附があつた。當山安置の祖師像は宗祖日蓮大菩薩自ら開眼の

本納町本城

成就山連福寺

九十九里濱を一眸の間に收め、そして春萬葉たる櫻樹で謳はれつゝある城山を境内となしてゐる當山は、城主黒熊大膳落城記念として建設し、日遊上人を開山とし、日蓮聖人を本尊となして法燈連綿

二宮本郷村山崎

妙行寺

當山は元眞言宗だつたが、大僧都日泰上人の教化によつて日蓮宗に改宗歸依し爾來初祖日侍上人より現董まで三十七世に及ぶ古刹であり中興の祖十四世日然僧



現住職秋葉日慶師

は六反歩餘、行事としては日蓮宗に準じ三月二十八日を落城記念日として法要を執行する。現住職秋葉日慶師は僧都として名のある有徳の師、三百餘戸の檀家を擁し、木家政之助氏外七氏が檀家總代に推されてゐる。

今日に傳はつてゐる。櫻樹の間に見る本堂、庫裡、鐘樓堂、正門、裏門、坊などさすがに由緒を偲ばせる。寶藏の日蓮聖人御眞筆等は世に普く知られたもの境内

都を出し、堂塔伽藍完備して今に至つてゐる。本尊及び寶物として十界勸請漫陀羅を秘藏し信徒の參詣絶える事がない。當山は總本山京都二條妙滿寺の末寺で、當山崎一圓を檀家となし、毎年三月、九月に例祭を執行し、また八月十六日に施餓鬼を行事となしてゐる。現住職竹内顯領師は名僧として聞へ、社會救濟事業等に熱心盡瘁して人望を高めてゐる。なほ檀家總代として糸久允、西谷千尋、増田和吉、糸久傳太郎、加藤菊之助の五氏就任、當山興隆のため種々奔走してゐる。

水上村刑部

月輪寺

當寺は大日如來を御本尊とし、眞言宗に屬する。開基開山等は不明なるもその當時は月河山月輪寺と稱し、中興以來累代五十四世の今日に至つたのである。毎年二月十五日涅槃會を執行し、境内は田畑合はせて八三八坪の廣大なる土地を有してゐる。檀徒總代は村上宗之助、柴崎



小林次郎

權少僧正小林一慶師が明治十五年、寺堂建立時に住職に聘され、以來四十數年間當寺の爲に盡し現在に及んだのである。

西村

玉泉寺



若菜亮勇師

は淨土宗派に屬し、阿彌陀如來を本尊し名僧の評判高き若菜亮勇師を現住職に仰ぎ、鈴木重光、鈴木鶴治、藤平市太郎、永島永仁、土橋榮吉、西川美晴、古市龜

吉の諸氏が檀家總代として盡力してゐる。當山の由緒沿革等は明治十三年十一月不幸にも火災のため書類等を焼失せるため不明であるが、同二十年當時の住職林悦明師の盡力によつて本堂、庫裡等が新たに建築されて今日に至つてゐる。なほ檀家は一百戸以上を數へる。

豊榮村千田

稱念寺



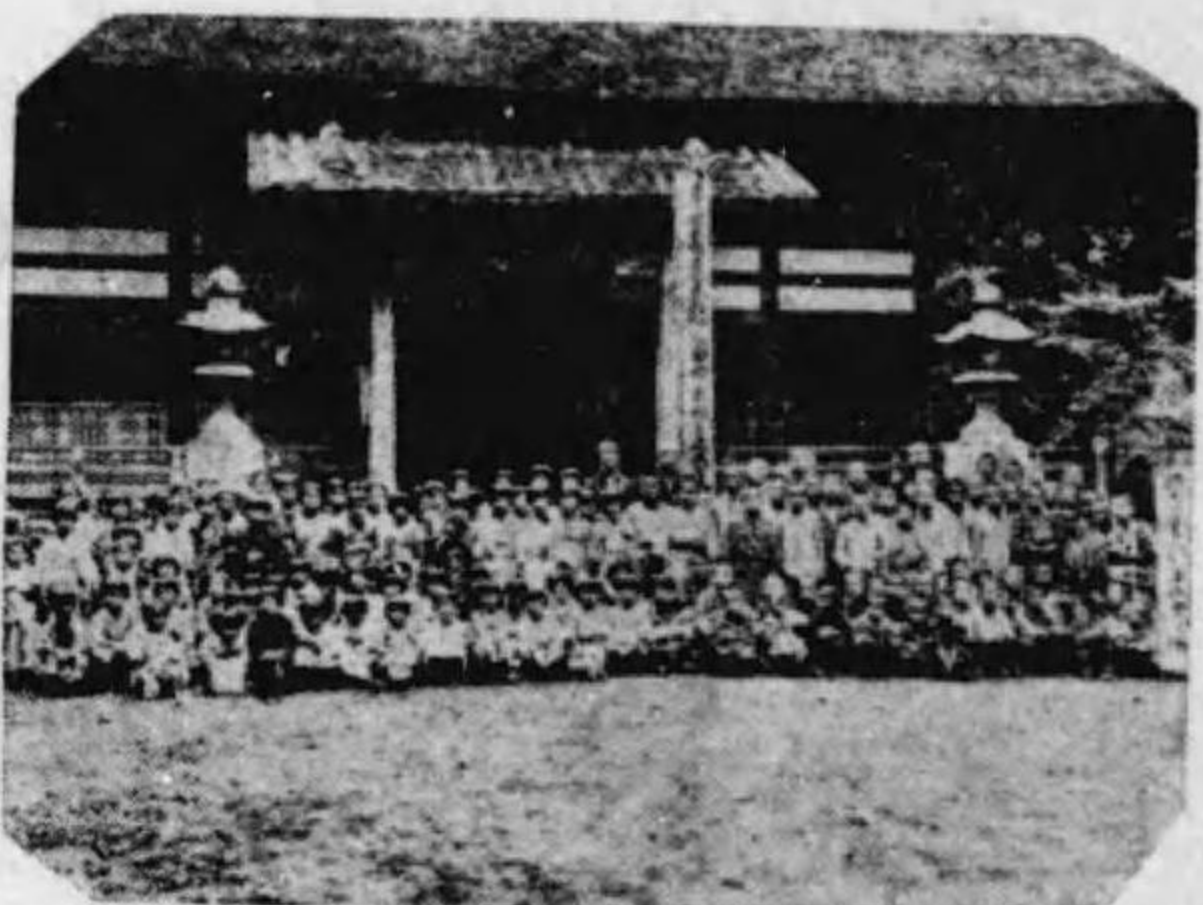
唐竺山稱念寺は徳治二年遊行第二世他阿眞教上人の開創にして、南總唯一專念

の道場である。一度師位を缺き法燈殆んど滅すべかりしを、雄譽靈巖上人奮つてこれを再興、現住職第五十三世久保大春師に及んだ名ある古刹である。本尊阿彌陀如來は龍宮出現三圓一體と稱し、丈け二尺七寸、相好圓滿靈告間に不可思議なもので、尊像の靈威寶齒を露はし給ふところから、齒吹如來と奉稱して深く世に知られてゐる。

二宮本郷村國府關

如意輪寺

當山の由緒沿革等は不明であるが、日廣聖人を開山となし、約五百年にわたる涅槃尊像を寶物とし、法燈相承くること三十七世現住職成島日衛師に及んでゐるほどの古刹である。京都妙滿寺を本寺とし、顯本法華宗派に屬し、一千六百餘坪の境内に間口六間、奥行十間の本堂に、間口十一間、奥行五間半の庫裡、その他鐘樓堂など、嚴として昔を偲ばせる。檀家としては當國府關及び外三ヶ村に跨つ



してゐる。

水上村刑部

雲頂院

當寺は歴史のある靈刹にして廣覺禪師の開山と傳へらる。天臺宗に屬し、釋迦如來を御本尊とする。本山は妙心寺であ

て百餘戸あり、大塚澤、及川三朗、渡邊伊太郎、及川規矩郎氏等、その檀家總代として世話を焼いてゐる。なほ當山は田三町七反餘、畑二反餘山林三町七反餘を有

西村

水沼寺



美沼住職

田、畑と廣大な地所を有する當山は三途臺長福壽寺の末寺、永祿二年焼失し、三月に中興した釋迦如來となせる天臺宗の古刹である。安政三年に焼失、當時の住職美沼亮秀師の盡力によつて再建、今日に及んでゐる。現住職は名智の譽れ高き美沼亮秀師、寺運の挽回に當れば島野彌一氏等檀家總代として奔走してゐる。

# 山武郡

## 大網町宮谷

### 靜修女學校



我が

大網町の誇りの一つである

本校は

昭和六年の創立であるのに、同十二年五月早くも一大増築をなすの隆盛を見せてゐる。教授科目は裁縫、家事、作法、生花等で、入學には別に制限なく、随意に誰でも出来るやうに自由になつてゐる。校長土屋いう子女史は明治十八年六月十日生れの男勝りの女丈夫で、本校創立以來一身を捧げて盡瘁してゐる傍ら、また愛

國婦人會等に貢献する所多大なるものがあり、曩に同會から表彰されたほどである。本校の今後はたゞ期して待つべしである。

## 東金町萱方

### 蠶種共同施千葉社

當社は農林省に於ける蠶種業救済對策として昭和十一年十一月、保證責任組織の下に創立したもので、山武郡一圓を組合區域とし縣内一圓を顧客となしてゐる。現組合員數は十九名、出資一口の金額を二十圓、出資總額一萬圓に達してゐる。當社の法定蠶種製造數は年五十萬瓦以上で、この製造に對する延從業員を三千名となし冷蔵倉庫一棟あり、蠶種製造、蠶種人工孵化、蠶種共同保管冷蔵等の設備

として機械を置き、工場を設けてある。當社の現役員は

組合長(社長)	田端 岩藏
専務理事	中村 良
常任理事	板倉 昇三
同	矢野 昌明
同	小川 昇
同	伊藤 幸太郎
同	川島 寛

## 大網町

### 大網信用販賣購買組合

電話大網二六番

當組合は昭和七年有限責任大網信用組合として創めて生れ、次で同八年更に販賣、購買、利用の三事業を加へて四種兼營となし、同九年二月保證責任に組織を變更して現在に至つてゐる大網町一圓を組合區域となし農業倉庫一棟、作業所三棟、薬加工業を附屬事業として取扱つてゐる。初代組合長理事は板倉幸進美氏、二代目は麻生喜重氏現任中であるが、氏

は徳藏氏の長男、明治八年六月二十八日の出生、曾ては大網町長、助役、収入役町第九區長、町青年團長等に擧げられて盡瘁貢献し、現在同組合長理事たるの外町會議員、學務委員を兼ねて盡瘁してゐる。貞子夫人との間に三男三女あり、長男戊辰君は成東中學並に千葉師範二部出身、山邊小學校訓導として熱心教壇に立つてゐる。因に父君徳藏氏は町會議員、二十餘年勤続區長等として町政の上に功績を残してゐる。

## 蓮沼村

### 八千代信用販賣購買組合

曾て報徳教の盛大なりし頃、當村にも報徳社なるものを創立、報徳の教へを遵奉して廣く積立方法によつて共濟事業又は肥料の共同購入等を経営しつゝあつたが、後ちこれを信用組合に振りかへることを提議し、大正四年十一月御即位紀念として八千代信用組合と命名同六年五月八日設立許可、有限責任組織であつたが

現時保證責任組織に改め、今日に及んでゐる。創立當時は加入口數は三百餘口に過ぎなかつたが、現在は僅に一千五百三十餘口の増加を見、組合員は組合の利便なるを深く認識して信用事業に於て、購買、販賣、利用事業に於ても進んで組合を利用しつゝあるので、當組合の向上發展はたゞ期して俟つばかりである。なほ現組合長理事は椎名猪之作氏であるが、氏は創立以來、その任に在つて盡瘁して來た當組合の功勞者であり、そしてなかなかの人望家でもある。

## 東金町東金

### 東金瓦斯購買組合

電話東金二六七番

當組合は大宇東金を地區となして昭和六年四月二十日に創立、一口出資額を二十圓、百四十名の組合員をかぞへ、九千八百八十圓の總出資額に上つてゐる。料金は一立方米十一錢六厘五毛の割で供給し、一ケ年の供給量は一八、〇四六立方

## 大網町

### 石野操一郎

令名噴々たる銘酒「ふさ正宗」の醸造本舖として四代を繼いだ氏は、幼名を芳氏と稱し、先代操一郎氏の長男、明治十六年七月八日、今の家に生れ、父君の歿後、襲名して今の名に改めた。千葉中學卒業後東京瀧野川醸造試驗場所屬講習科に入つて修業、明治三十七年八月日露戰役には近衛歩兵第四聯隊兵として出征參戰功に依つて勳八等に叙せられた。元縣會議員、同參事會員として盡瘁するところあり、現在大網町長、同農會長、大網

町矯風會々長、大網町經濟更生委員長等を兼ねて活躍してゐる。夫人はとし子さん、長男克巳君は成城中學校を経て山形高等農業學校に在學中である。因に父君は町會議員、助役、區長その他所得税調査員、山武郡酒造業組合長等に歴任、顯著な功勞のあつた人であつた。

横 芝 町

横芝町長  
學務委員

吉岡

清

吉岡家



は醬油味  
噌醸造業  
を創めて  
以來相繼  
ぐこと四

代、特に「龜甲吉」の名高く、年産額五千餘石に及んでゐる。氏は今、この一家を背負つて立つてゐる人、明治二十七年一月生れ、成東中學出身の退役歩兵少尉正義感を以て一生を終始せんとする眞摯な人物、今、町長の要職に在るの

外、消防組頭、商工會長、商友會長、學務委員、所得税調査委員を兼任、それ／＼活動奔命してゐる。また曾ては町會議員在郷軍人分會長に選ばれて功績のあつた人である。政友會に黨籍を置いてあるが自治に對しては嚴然たる白紙を以て望んでゐる。年功賞、功勞賞を贈られてゐる。たけ子夫人は國防婦人會長として銃後の護りのために活動し、間に二男二女があり、長男君は匝瑳中學在學中である

公平村家ノ子

公平村

小林 吉平

丘山村

産方

克

氏は穩健篤實、二宮尊徳先生を崇拜する大の報徳主義者、村民の信望極めて篤く、曩に村長に推されたるも自ら辭退して名譽助役を今に現任、四期目の村會議員、産業組合理事を兼ねて盡瘁してゐる。曾て公平村三代目の消防組頭、學務委員に推され、組頭在任中御親閲の光榮に浴し、同村消防組が縣下有數の成績を挙げ得たるも、氏の力に負ふところ大な



には代々名主を命ぜられて土地開發に功

のあつた家柄、先々代太胤氏は小野村外五ヶ村副戸長を、また先代貞藏氏は村長郡會議員、村會議員等歴任、その自治功勞の如き、枚擧の煩に堪へない。氏はその二男、明治二十四年十二月四日の生れ父祖の衣鉢をうけて夙に村治に進出、前には村長、村會議員、農會長、區長等を勤めて功を擧げたが、今また村長、村會議員を兼ねて更に村政の刷新向上へと邁進してゐる。

丘山村山田

丘山村助役  
勳七等

篠崎

貞

昭和八年二月には山武郡町村會より、同十一年五月には縣町村長會長より、それぞれ表彰せられたる氏は、明治四十五年役場書記拜命以來收入役を経て助役となりし今日まで終始一貫して本村自治に盡瘁貢獻せる稀有の材幹である。抑々當家は永祿年間以前よりの舊家にて歴代農業を營み、尊父春治氏は山田區長に擧げられしことあり、氏はその二男にて明治

十六年九月十五日の岳降、曾て日露戰爭に出征、華々しき功績を樹てたる勇士である。

大和村福俵

大和村長  
勳八等

鶴岡 秀夫

氏は園藝に興味を有し、資性温順なる徳望家、村農會長、土木委員に推され、且つ消防組役員たること十有二年、村會議員に當選五回にして現にその任にあるほか産業組顧問を兼ね、大和村長の要職に就いては村治に一身を捧げてゐる。先代岑之助氏は村會議員、郡會議員、收入役をつとめた人格者、氏はその長男にて明治十四年九月二日の出生、錦城中學出身の俊英である。大網農産物市場理事としても有名である。てい子夫人との間には長男忠夫氏ほか一男四女がある。

大和村福俵

大和村助役

安 川

尙

當家は村内屈指の舊家、先代八郎氏は

るものがある。當家は五十餘年來商業に従事し、父君平二氏は同郡成東町に於て不二心流劍道師範をなし、老年に至つて歸村今、雜貨、菓子、煙草商を營み、喜壽の老を靜かに養つてゐる。當主はその長男、明治十五年十月二十六日の出生、大正五年南總方面に先鞭を打つて製材業を開始し、東京方面を主體として年産八十石からをこなし、トラツク二臺に荷馬車等を使用して盛業中である。なほ氏は佐倉歩兵二聯隊兵として日露戰役に參加してゐる。

郡役所に勤めた人、三代前の祖柳溪氏は縣下に有名な日本畫家であつた。氏は先代の長男、成東中學校を優等で卒業せる頭腦明敏の人にて、讀書に興味あり、資性温厚篤實、村民の聲望頗る高きものあり、早くから村會議員に選ばれ、現時五期目の任にあるほか、助役、産業組合理事、村農會副會長、消防組副組頭等村内幾多の重責を帯びてゐる。家庭には母堂健在し、令夫人との間には二男四女がある。

瑞穂村小中

瑞穂村長  
勳七等

金坂 健藏

明治三十七八年戰役の内治の功に依つて勳七等に叙せられた氏は、町村聯合組合議員、區長等に擧げられて自治功勞を稱へられた先代安次郎氏の長男として、明治三年三月今の家に生れ、夙に長生郡三省學舎に入つて漢學を修業し、その二十二歳の時、初めて村役場に入つて書記を拜命、爾來熱と誠意とを以て事務に當りつゝあつたが、後ち推されて助役、村

會議員等に就任、いよ／＼ますます村政の上に貢献するところあつた。現在は二期目の村長として一村の要機を占むるのほか、産業組合長、農會長、土地賃貸價格調査委員、郡農會委員、小中川用排水改良工事常議員等を兼ね、八面六臂の活躍を試みてゐる。よし子夫人との間に二男二女あり、長男欽吾君は夷隅郡興津町に醫院を開業、次男村一郎君は東京市目黒區下目黒町に齒科醫を開業何れも隆盛を見せてゐる。

山邊村 大竹

山邊村 大塚 文藏

氏は明治九年一月四日、同郡岳山村山田錦織惣平氏の次男に生れ、同三十三年大塚家に入家した人、同三十六年千葉縣巡查を拜命、次で千葉監獄看守に轉じ、同四十五年警視廳巡查に轉任、相生（現兩國）署に勤務、更に青梅署詰となり、大正十一年依願退官、同十五年十月村役場に入つて書記を拜命、昭和五年助役に

推されて村長を輔佐し、現在に至つてゐるが、なほ産業組合専務理事を兼ねる。曾て大禮紀念章捕賊章十ヶを贈られてゐる。つま子夫人との間に二女がある。

大平 村

大平村長 渡邊惣三郎



順風満帆、颯爽として自  
治界に君臨する氏は、明治

十年の出生にして同三十八年に法政大學を卒業せる地方切つての知識人である。抑々當家は先祖代々名主をつとめし家柄にて、先代たる嚴父要作氏は若くして大平村長に任じ、晩年は學務委員をつとめ、中橋文相時代文部省より表彰されし光榮の人である。氏もまた父に肖て早くより村治に活躍貢献し、大正三年村長に任じ、同十二年二度目の村長に推され、越えて

昭和七年三度與望を負ふて村長の重責に就き引續き今日に至れるものにて、現時村農會長及土地賃貸價格調査員二期目の任を兼ねてゐる。また消防組頭勤続十餘年のほり、金馬藤三條を授與せられたる本村消防の偉大なる恩人として洽く尊敬されてゐる。

大富村 野堀

大富村長 醍醐 登  
村農會長 醍醐 登  
消防組頭

温厚篤實の紳士と定評され、遠近庶民の信望を一身にあつめてゐる氏は、また郡下町村長中の異色ある手腕家として知られる。抑々當醍醐家は連綿數百年にのぼる屈指の舊家にして、先代秀次郎氏は夙に篤農家と稱されし圓滿至福の人格者年齢七十七歳に達し、令閨と共に嬰饒たる元氣を持つてゐる、氏はその長男にして明治十六年十月の誕生である。當地方に於ける民政黨系の材幹といはれ、早くから村會議員に選ばれて村政に献策多く又助役に推されては事務的の手腕を發揮し

て村民讃仰の的となり、後ち村長に選任今日に至り、かねて村農會長、消防組頭産業組合長等村内最重要團體の首班に就き大富村をして縣下の理想郷たらしむべく努めてゐる。長男隼人氏は農業に従事、次男石毛氏は東京にて魚問屋を経営、三男實氏は陸軍々屬として上海に在る。

豊岡村 金尾

豊岡村長 高宮 新



資性篤實にして  
識見高く  
人格と手  
腕と力量  
の三者を

兼備し、衆望沛然たる氏は、先代貞氏の長男にして明治十年三月の出生である。第一高等學校を中途退學後、東京法律專門學校を卒業せる頭腦明敏の材幹にして大正十年高宮醬油合名會社を創立、自ら代表社員となり、製品は縣下一圓に販路

を有するほか、東京市杉並區荻窪に出張所を設けて京濱地方にまで及び需要家の好評を博してゐる。村會議員に當選二回助役にも擧げられ、産業の發展は耕地整理の完成にありとの見地より、卒先これに従事して所期の目的を達し、後、村長に選任、現に三期目をつとめ、信用組合長を兼ねてゐる。養嗣子は日本醫科大學出身の新鋭刀圭家にして醫院を開業隆昌を極めてゐる。

大總村 長倉

大總村長 柳橋 隣二



謹嚴實直の人格者たる氏は、柳橋伊助氏の男にして

明治十九年八月五日誕生である。大正十四年四月より今日まで村會議員四期重選し、昭和十一年九月には村長に擧げられ

現時軍人後援會長、國防協會長、消防組頭を兼任し公事に盡瘁寢食を忘れて奔走してゐる。曾ては犬養毅氏に私淑し、同氏が政友會に入りてよりは濱口雄幸氏を心の師と尊敬してゐる。長男覺氏は多古農學校出身にて現青年團長である。

東 金 町

町會議員 高橋源太郎

電話東金四二番

性温厚にして意志強く、徳望普き氏は慶應三年三月本郡公平村求名に呱呱の聲をあげ、分家後一代の間に郡内屈指の酒商となりし立志傳中の人である。明治四十二年酒舖を現地に開き薄利多賣主義を奉じ明敏商機を捉ふるに巧みにして遂に今日の隆盛を見るに至つた。夙に農家の副業に果樹栽培の利益多きを認め、自ら數反歩の模範的果樹園を創設されし奇篤の士、また勤王愛國の心深く、公共の事業に斡旋するを好み、曩に郡會議員に當選、また町會議員に推されること六回、

現にその任に在りて所得税調査員、片貝軌道株式會社重役を兼ねてゐる。菊花はわが皇室の御紋章なればとて、盛んにこれを培養し、長老衆人を招待し、異香奇葩を觀覽に供し、娛樂を共にすることを楽しみとしてゐる。

### 土氣町上大和田

町會議員 中村 清

歴代公共事業に盡瘁貢獻せる當中村家は、名聲遠近に普く、郷黨の信望と感謝と尊敬の目標となつてゐる。即ち先々代は町會議員四期をつとめ、先代敬二郎氏は區長に任じ、先代の長男として明治二十五年に呱呱をあげたる氏は茂原農學校卒業後家督を相続するや、區長、消防組小頭、在郷軍人分會評議員等選ばれて寄與貢獻多く、現時町會議員並に養蠶實行組合長として活動してゐる。家庭には母堂ガイ子さん、令閨スミ子さん、長男一郎氏は山武農學校卒業の俊才で眞面目な青年である。

### 松尾町 田越

町會議員 七等

### 久保田權之助

當家は



數百年の歴史を有する舊家にて、先代松太郎

氏は區長、町會議員等に推されたる町治盡瘁の材幹である。當主は明治七年七月の岳降にて先代の嗣子、夙に近衛帥團に入營、日清日露の兩役に従軍奮戦して工兵軍曹に陞進、併せて勳七等青色桐葉章を下賜された勇士である。凱旋歸郷後、在郷軍人分會長、町農會副會長その他を経て、現時町會議員、軍友會長、養蠶實行組合長をはじめ町農會代議員、東總産業組合代議員等をつとめて公共のため盡力しつゝある。尙、長男平夫氏は消防組小頭に任じ、次男巧氏は横須賀航空隊勤務の航空兵なりしが昭和三年飛行艇墜落

のため逝去せられ、三男央男氏は憲兵軍曹、四男芳夫氏は海軍二等主計兵曹としてそれ〴〵活躍せられ、五男茂夫氏は千葉師範在學中である。

### 横芝町 烏喰新田

町會議員 小川 千次



青年學校指導員として創設以來青年指導の任に當る

ほか、佐倉歩兵聯隊にて卒先講習を受け在郷軍人の誘掖に當つてもその功多き氏は、消防組に關係すること二十餘年、小頭、部長を歴任、また耕地整理組合副會長、在郷軍人分會理事、同副會長、區長代理をつとめ、現時町會議員、農事實行組合顧問、六踏園顧問、その他の要職あり功績顯著である。因に氏は先代磯吉氏の長男にて明治二十六年一月二十六日の出生

である。

### 白里町 四天木

町會議員 町農會長

### 吉原茂三郎



社會公益を圖り寝食を忘れて日夜奔走盡瘁してゐる

吉原茂三郎氏は、當家五代目にあたり、明治十一年一月二十四日の出生である。抑々地方の興隆は一村の繁榮にあり、延いては一國隆昌の基をなすものであるが氏は早くから自治公共の事に關係して盡瘁盡力少なからず、白里村時代村會議員に選ばれて今日まで四期間に亘つて自治に參劃し、また昭和八年より同十二年まで名譽助役に推されてその手腕を揮ひ、拔群の業績を收めたる功勞者にして現在町農會長の要職に在り、多年の經驗と博學達識を以て努力し本町農業の改善進歩

に資してゐる。政友會の綱領に賛意を有し當地方に於ける一方の覇者である。長男茂氏は茂原農學校の卒業にて、現時豊海小學校教員に奉職する。

### 公平村 石橋 彌

縣會議員

若くして手腕家の名を冠せられ、すでに村長たること二回に及ぶ氏は、明治三十一年七月六日の出生にして早稻田大學英法科卒業の俊才である。誠に少年時代より聰明、他に秀で一を聞いて十を知る神童と稱せられし異材であつた。しかも資性温順にして明朗、志操堅固にして自信を有し、農本主義の信奉者である。曩に選ばれて縣會議員となるや忽ちにして縣政界を風靡せんの氣概を表し、將來の活動を各方面から期待され、現時郡聯合青年團長を兼ねて、若きゼネレーションの信望と畏敬とを一身に背負つてゐる。誠に多幸多望にして有爲の人材である。因に當家は村内有数の舊家名門といはれ

### 源村 山本 治一

村會議員 元源村長

先代八三郎氏は助役、村長、村會議員等生涯を村治のために献げた自治功勞者にて縣知事より表彰されし名譽の人、氏はその長男にて明治二十八年に生れた。成東中學校を経て名古屋農林學校を卒業し夙に助役、村長に歴任、また村會議員たること五回、現にその任にあり、學務委員、産業組合理事、消防組副頭を兼ねてゐる。令閨きみ子さんは増穂村の産長女榮子嬢は東金高女の出身の才媛である。因に當家は村内屈指の舊家にて、代々農業を營んで來た。

### 丘山 村 内木 熊太郎

村會議員 元村長

始祖以來十數代連綿たる當家は、代々農耕の業に従つて篤農の聞え高く、先代



鳴濱村本須賀  
村會議員 海保正



日本精神とは、直き猛き心であるといふ。氏は日本

精神に徹底せる模範的人物、明治十年十月を以て生をこの世に享け、長じて徴兵検査に合格して近衛歩兵第四聯隊に入營し、勤務一身を皇國のため捧ぐべく決心して憲兵を志願し、明治三十三年より三十九年まで憲兵として勤務、日露戦争には抜群の功あり、後、日獨戦争にも出征して赫々たる武功を樹てた。明治四十三年關東廳巡查を拜命、部長、警部補と昇進して高山鎮警察署長をつとめ、また税關監視、專賣局屬等にも任じその功を顯彰されること數十回の多きに上つてゐる。退職後錦を飾つて歸郷するや園藝を

友に悠々の日を送つてゐたが、先年選ばれて村會議員に任じ村治に參與貢獻しつゝ今日に至つた。

日向村木原

村會議員 伊藤昇

元村長、助役、その他種々の委員等に任じ、その助役時代には村長石橋氏を輔けて縣道問題、電燈問題に盡瘁して今日の基礎を築いて村治に功績を謳はれた氏は、先代英氏の男として明治十九年一月の出生、早稻田大學法科出身の俊英、常に自治問題に關してはすべての私心を棄て、公平に、しかも謹嚴直情、不言實行を主義としてる人格者、今、村會議員學務委員として旺んに活動しつゝあるが氏の動くところ必ずそこに功績を残してゐる。長男衛君は當十九歳、成東中學に在學中の秀才。生家はとても舊家ではあるが、その沿革は詳かでない農業を家業となしてゐる家柄、家庭は稀に見る圓滿振りである。



例へば猛虎の嶋を負ふが如き自信を備へ、いはゆる

千萬人と雖も吾れ往かんといつたやうな概のある高橋敬亮氏は、多士濟々たる本村人物中の異材にして、明治三十一年十月十一日の出生である。夙に蘭市場理事として名聲を馳せその手腕は萬人の等しく感嘆するところ、昭和十一年三月七日蠶絲能率特別賞として銀杯一個を縣知事より授けられるの名譽に浴し、南鄉村信用組合の發展進運にも貢獻多く現に理事として關與し、また村民の信望を一身にあつめて村會議員に當選すること二回、村會の花形たる觀があり、その他消防組部長をはじめ幾多の公名譽職を兼務、多

南鄉村富口  
村會議員 高橋敬亮

彩の働き振りを示してゐる。因に夫人とよさんは明治三十五年の誕生である。

綠海村松ヶ谷

村會議員 谷上利三郎



父は平三郎氏、母はとも女、明治十八年一月十六日

に生を享けたる氏は、郷黨の推服頗る厚き自治功勞者にして、昭和九年十月より同十二年三月まで助役に任じ、この間村長代理をつとめ、大干害救濟耕地事業及び農村振興土木事業にその敏腕を認められ、退職の際の功勞を賞して賞状及び銀杯一組を贈與された。耕地整理組合役員にも任じ、現時四期目の村會議員に選ばれてゐる。のぶ夫人は國防婦人會に關係し、令弟水雄氏は内科産婦人科の名醫、同實氏は鐵道省米國駐在官をつとめる。

なほ嚴父氏は耕地整理組合役員、區長等に推されたる徳望家である。

大平村廣根

村會議員 北田芳三郎



例へば富士山の如き神々しい崇高な偉大な精神の持

主たるわが北田芳三郎氏は、多年、私利を忘れ私慾を捨て、公共事業に盡瘁し、功勞燦として光り輝く、本村人材中の一異彩である。先代菊太郎氏は區長數回のほか、村會議員等にも選ばれた人で、氏はその長男に當り、明治二十六年一月二十七日の誕生である。夙に家業を繼承して農蠶の業に精勵し、家運の隆盛を來せる努力家にて、傍ら部落の聲望をあつめて區長に就任二回、現時村會議員として活躍するほか、養蠶組合理事に任じ、ま

た産業組合理事の要職を兼ねて本村産業界の發展と躍進に盡瘁するところ多々あり、本村になくはならぬ人物、全村民の誇りとするに足る材幹として噴々たる聲望を馳せてゐる。

大富村新泉

村會議員 町山覺三郎



町山氏の一家

篤農家と評され、温厚且つ謙讓の人格

者たる氏は、明治七年六月の岳降にして



夙に農耕の業に精勵して家運の隆昌を致せること大なるものあり、傍ら郷黨のため部落のために寢食を忘れて奔走せる自治公共の盡瘁者である。村會議員に任ずること多年、現在もその職に在りて村政に關與献策尠ならず、その他方面委員をはじめ幾多の公名譽職に擧げられたる功勞者である。抑々當家は數百年前より當地に居住する舊家にして、現在の住宅は元祿年間の建築に成るものであるといふ。尊父猪三郎氏は村會議員、助役、村長をつとめたる徳望の人である。家族は九人ありて、他に三人の雇人を置き、長男八郎氏は農事に精勵、次男重郎氏は縣農産課勤務、なほ令弟治躬氏は東京市荏原區に醫院を開業隆盛を見てゐる。

陸岡村植谷

村會議員 牛尾 憲

蒼窮の盡きるなき廣さの如き無限の陰徳をなする氏は、また絶大の信望をあつめてゐる稀有の人材である。明朝快適、

商略に富み機を見るに敏、頭腦頗る明晰誠に衆庶の模範たるべき存在である。明治二十二年、故牛尾關治氏を父として呱呱の聲をあげ、約二十年前分家一家を創立して今日に至り、昭和十一年六月成東町に製材所を開業、爾來日尙淺きに拘らず隆々たる繁榮を呈し、忽ちにして業界一方の雄と稱されるに至つた。誠に氏の手腕力量たるや驚愕の他はない。また他年村會議員に選ばれて村政に加はり、各方面に亘つて功績顯著なるものがある。家庭には愛兒四人を有し圓滿を極めてゐる。困に嚴父は村長たりし經歷ある本村の偉材である



豊岡村 伊丹 知親  
村會議員 産業組合理事  
氏は太田藩士族の後裔、伊丹仙次郎氏

を父に明治十六年を以て呱呱をあげ、東京中學校卒業の材幹にして、今より約七十年前、先代の時現地に來住した。身を捨てて村治に



東金町 押堀 淺野助五郎  
町會議員  
東金町消防組第四部長兼小頭、在職二十有五年に及び縣知事より表彰せられたる氏は、押堀區水事員たること多年に上つて感狀を贈られ、また東金町第十一區

竭すの犠牲的精神を有し、村會議員四期目を現任し、學校合併問題には特に功勞あり産業組合理事、學務委員の要職を兼ね、次回村長の第一候補者に目されてゐる。令閨は内助の功多き優和愛敬の賢夫人、一男二女を儲け、家庭頗る圓滿を極めてゐる。

東金町 押堀

町會議員 淺野助五郎

するといふ氏は、消防に關しては私設當時より關與、終に小頭に推され、また養蠶組合長、農會總代等を歴任、その功を數へられてゐる。現在、町會議員に産業組合評定員を兼ねてゐる。父君利平氏は七十六歳で長逝したが生前は町會議員、收入役、助役農會長として功勞のあつた人。當主はその長男、明治十五年七月の生れである。

代理者、同第十二區統計調査委員、押堀區農家組合長、同衛生組合長、第十一區長、信用組合創立委員等に歴任、現時町會議員に當選、在職するほか土木委員及び東金大和二ヶ町村雄蛇増水々利組合委員を兼ねてゐる。天資濃厚篤實、また清廉潔白なる人物にして、なほ多年各方面に盡瘁貢獻せる功勞大にして當町發展の功勞者として、元老として、町民の尊敬と感謝を一身に集めてゐる。長男定吉氏は現消防組小頭。因に當家は二百有餘年の舊家にて、氏は明治十一年先代虎吉氏の長男に生れたのである。

松尾町 祝田

町會議員 佐藤 泰助



努力實 行の敏腕 家として 令名遠近 に普き氏は 福島の

産にして明治十七年四月六日先代安太郎氏を父として、その次男に生れた。大正六年現地に移つて蘭系商を営み、漸次大を成して今日に至つたのであるが、先是明治三十三年僅か十七歳の時海軍兵を志願入隊し、日露戦争及び世界大戦に海の勇士として参加、勳功頗る多く、兵曹長に進級、後、海軍生活十七ヶ年にして退職したのである。毅然たる態度、温厚の資性、常に衆庶の範となり、選ばれて町會議員たること多年、本町自治界に巍然として動かすべからざる地位を占め、實力に加へるに努力を以てする逸材との定評があり、また曾ては消防組部長に擧げられ活躍貢獻多大なるものがあつた。なほ長男泰正氏は東京市に勤められてゐる

横芝町 烏喰上

町會議員 大木平一郎

常に前進的に基礎を置き、問題に直面して一意これが良否を決し、その間私情を棄て、これがために自己のすべてを投



白里町 四天木 金坂徳次郎  
町會議員  
資性篤實、地方屈指の名望家たる氏は 明治十六年十一月を以て生をこの世に享け、英才を以て青年時代より衆庶を擢んじたる模範的人物である。政友會の主義綱領に共鳴して籍を同會に置き、當地方に重きをなす。助役、村會議員としての

白里町 四天木

町會議員 金坂徳次郎

を父に明治十六年を以て呱呱をあげ、東京中學校卒業の材幹にして、今より約七十年前、先代の時現地に來住した。身を捨てて村治に

功はすでに萬人周知のところ、郵便局長時代の通信報國もまた人々の賞讃措く能はざるところである。現時町會議員をつとめてゐる。長男は歩兵少尉にて、現郵便局長兼消防組部長である。

公平村家之子

村會議員  
功七級

岩崎禧一郎

氏は資性温恭、稀に見る人格者である。謡曲に堪能なる雅人にして、村會議員たること五期に及び、尊父の代から明寶寺總代をつとめ、また公平村初代消防組頭として活躍の功により縣知事より功勞章を贈られし名譽の人である。現在村會議員のほか方面委員を兼ねてゐる。因に當家は元和年間よりの舊家にして七百數十年を経たる名門、先代貞吉氏は村會議員に當選活躍多年に及び、氏はその長男にて明治十一年十二月二十日の出生である。キヨ夫人との間には二人の愛息がある。

源村極樂寺

村會議員  
元源村助役

猪野鐵雄



氏は早くより區長、農會長、助役等をつとめて本村自治並に産業の向上進展に資するところ多く、且つ村會議員に任ずること三期十

余年、議員中の白眉と稱され、正々の論堂々の陣、悉くこれ自己を忘れて公衆の爲めを慮らざるものはない。先代要之助氏も助役村長等に歴任せる功勞者にて氏はその男に當り、明治二十四年四月二十六日の出生である。家庭には令閨をはじめ長男正夫氏、二男義夫氏のほか令弟及び令妹四人がある。

丘山村小野

村會議員  
手島醫院長

手島昇三



郎氏は村會議員、村助役、學務委員その他の公務に盡瘁せし人、氏はその長男に

増穂村横川

村會議員  
軍友會長  
功八級

北田隆治

ヒボクラテスの昔から醫は仁術なりと稱されたが、當今動もすれば仁術から遠ざからんとする刀圭家のある中に、斷然光茫を放つてゐるはわが手島昇三氏である。氏は明治二十年に呱聲をあげ、夙に醫業報國を志して内科産科を主とする手島醫院を開設以來、全く利益を度外視し只管患者患家のためを思つて診療に従事し、その恩を受けし者幾何なるかを知らない。曾ては村長たりしこともあり、現に村會議員に選出されてゐる。

當家の祖は土氣城主酒井氏の家臣にして、先代元治

して明治十五年十月二十一日の出生である。長生中學より千葉縣農學校に轉じ、卒業後家業を繼承、至誠剛直、村會議員三回目、軍友會長、小中川水利組合常設委員、南部養蠶聯合會副會長等を現任し自治産業の改善見るべきもの多く、表彰一回、感狀三回に及んでゐる。家庭には母堂こと氏、令閨とよ氏、養子三四次氏及び愛孫がある。

大和村田中

岡本勘三郎

氏は大正五年の千葉師範出身、大和小學校訓導を振り出しに丘山、綠海小學訓導を歴任、同十三年四月山武實科高女教諭に榮轉、同校が縣立松尾高女と改稱した後にも引續き奉職したが、昭和八年四月依願退職した。退職後は歸村、自治方面に進出、現に村會議員として村會に重きを置かれてゐる。趣味に謡曲大弓短歌等があり何れも堪能。因に父君榮次郎氏は六十五歳、曾て區長を勤めた功勞者、昔

ながらの元氣を以て餘生を楽しんでゐるものがある。

瑞穂村永田

村會議員  
酒造組合長

川島新

中庸の道を歩んで誤らず、常に輿論より一步先んじて公共の指導に任ずる氏は明治十二年十月十八日を以て呱々の聲をあげたる舊家川島家の當主にして先代新右衛門氏の長男である。酒釀造を業となしてより僅か三代であるが、今や縣下有數の釀造家として普く知られ、先代は村長に選任されしことある徳望家なりしも手腕を充分に發揮する暇もなく四十一歳を一期に永眠された。氏は中學校卒業後家業を繼承、販路の擴張を圖ると共に良品を廉價に供給するやう製造に販賣に幾多の研究を重ね、遂に今日の名聲を得るに至つた。曩に助役たることありまた酒造組合長十年、村會議員三十年の長きをつとめて居り名實共に本村有數の實力家である。因に養嗣子は明治大學の卒業者愛孫八名をかぞへ、家庭は和氣瀟々たる

山邊村餅木

村會議員

松戸武雄

献身奉仕の精神を以て公共の福祉増進に盡力せる氏は、明治三十年二月二十日の出生にて、成東中學校卒業後千葉師範學校二部に學び、更に笈を負ふて日本大學に螢雪の功を積みし篤學家、永く千葉市關東中學校教諭たりしが、退職歸村後は村會議員、學務委員、消防組副組頭に推されて貢獻勤なからず、人氣絶大なるものがある。因に尊父武逸氏は助役及び村長たること數回、本村の基礎を築いて今日あらしめた功勞者である。

正氣村薄島

村會議員

子安七郎

霸氣あり、明快潤達の資性を有する氏は樺太に町村制實施後第一回目の村會議員に推されたるほか各種委員を兼ねて活躍し、樺太廳より農業建設、國勢調査そ

の他自治功勞者として感謝狀、金品、記念品等を贈られた。現在郷里に在つて村



會議員に任じてゐる。出生は明治十八年九月五日に

て先代仁助氏の長男に當る。なほ長男秀雄氏は樺太に於て氏の業を繼ぎ、牧畜業(牧場二十萬坪余)を經營してゐる。

日向村

村會議員 關口 義造



直情簡潔、眞の模範青年として稱へられてゐる氏は

郡に於けるマラソン選手としても聞え、前には大木部落私設消防部長、日向村大

木山耕地整理組合會計委員として活動、更に人望をあつめ、現在は村會議員に農會總代を兼ねて村治の上に業績を果ねてゐる。先代吉藏氏の長男、農業を主とし副業に澤庵漬を營み東京及び滿洲方面に迎へられてゐる。

南郷村五木田

村會議員 齋田謙三郎



凡そ如何なる事業に於ても運營の完璧を期せんがため

めには、組織の宜敷きを得ることは勿論これを現實に運用する人的及び物的設備の萬全を期する必要がある。この意味に於て、本村々會議員中に氏を有することには南郷村民の大きな利益でなければならぬ。氏は齊田泰太郎氏を父として明治十九年に生を享けた。滿十九九年の長い間

裁判所書記をつとめ、事務的手腕を發揮して部内の信望をあつめ、退職後推されて村會議員に任じ、現に全力を自治公共の事業に傾倒し功績顯著なるものがある。シゲ子夫人は國防婦人會に關與して功あり、氏との間に一男一女の愛兒がある。因に嚴父は村會議員に當選三回、助役村長、學務委員等を歴任せる有徳の人である。

大平村高富

村會議員 藤崎 利一

當藤崎家は本村の舊家として知られた藤崎宏氏家から明治二十七年に分家今日に至つたもので、先代勇藏氏は當年七十六歳、區長、區議員をつとめた村治の功勞者、現に矍鑠たる元氣を以て公共のことに心を通はしてゐる。當主利一氏は明治十九年二月二十日、その男に生れた元近衛の歩兵、大正三年千葉縣巡查を拜命同十五年三月家事の都合で退職したが、爾來意を村治の上に馳せ、曾て區長たる

の出身、今、家政を手傳つてゐる。

豊岡村山室

村會議員 岩澤 靜

地方産業の開發、これを小さくしては村の産業經濟の繁榮に一身を捧ぐる決心を以て盡瘁しつゝある氏は、石山豊吉氏の長男として明治三十三年に呱呱をあげ長じて當家の養子となつた。村統計調査員たること八ヶ年、現時村會議員に選ばれ居るほか村農會代議員、産業組合信用調査委員を兼ね、年齢的に見て今後の活躍が期待される。夫人との間には三男二女がある。なほ實父豊吉氏は二川村助役區長をつとめし功勞者である。

東金町田間

町會議員 瀧口福三郎

方面委員、債務調停委員として各功勞章を受けたる氏は、明治十三年一月十日の岳降にて、尊父利助氏は農業の傍ら運送業を營み、漢學に造詣深く、區長、村



會議員に任じたる人望家である。氏は多年町會議員たるほか現に區長、町農會長

町民の尊敬をあつめてゐる。因に長男は運送業に夙夜精勵しつゝあり、長女とみさんは小學校訓導を奉じてゐる。

松尾町大堤

町會議員 押尾 薰喜



當家現在住宅は數百年前の建築であるといふ。こ

の一事を以てしても如何に舊家であるかが窺はれる。先々代直八氏は町長や郡會

二期、また消防小頭、部長に推され、現在村會議員、防護團委員、警護班長等を兼ね、且つ昭和十年十月來消防副組頭としても大に盡力し、その功を數へられてゐる。昭和十二年二月十七日附を以て消防滿十四年勤積の故を以て、石原知事から表彰の榮を擔つてゐる。

大富村早船

村會議員 大久保 隆

氏は齒科醫、その治療に於てまたその方枝に於て當地方に於ける鷄群の一鶴として令名噴々たるものがある。故父君庄左衛門氏の代に分家獨立したもの、氏はその長男、明治十九年九月の生れ、今、本業に銳意してゐると共に村治に與り、現に村會議員、學務委員、學校醫等を兼ねて頻りと盡瘁貢獻してゐる。資性温順にして篤實、園藝を趣味となしてゐる。まさ子夫人は明治二十六年の出生、現國防婦人會長として銃後の護りを固うしてゐる。なほ令嬢初枝さんは松尾高等女學校

議員に選任されし手腕卓抜の人望家にし  
て、先代惣亮氏は日露戦争に出征武勳輝  
かしき勇士である。當主は先代の長男と  
して明治三十七年生を享けた。成東中學  
校の出身、温厚の紳士であり圍碁、書畫  
刀劍等に趣味を持つてゐる。消防組部長  
町農會長たること多年に及び、また町會  
議員に當選一再ならず、現に方面委員、  
東總産業組合理事、債務調停委員、養蠶  
實行組會長兼松尾町聯合會長、耕地整理  
委員等を兼職し業績愈々顯著なるものが  
ある。因に家族は十二人、雇人四人あり  
節子夫人は曾て國防婦人分會長に推され  
て活躍せし名流である。

### 公平村道庭

村會議員  
村農會長  
勳八等

### 三上修理

穩健恭順、村内の徳望頗る高き氏は、  
先代藤五郎氏の長男として明治十五年に  
生をこの世に享けた。長生中學校出身に  
て、日露戦争には近衛歩兵第四聯隊に屬

して出征、凱旋後消防組に關係二十ヶ年  
に近く内三ヶ年は組頭に任じ、縣知事よ  
りの表彰を受けてゐる。村會議員三期目  
の任にあり、また村農會長としては活動  
頗る旺盛にて、農家副業に吠の製造を奨  
勵し、今では年額一萬圓を産するに至ら  
しめた功勞者である。現在その他方面委  
員、産業組合理事、學務委員等に兼任し  
本村産業經濟の偉大なる指導者と稱され  
る。因に當家の祖は遠州に武藝の譽れ高  
かりし士族にて、本村で最も古い家柄、  
代々農を營み、當主を以て二十數代目と  
する。家庭には母堂ヤスさん、令閨トリ  
さん、長男丹四郎氏、次男正康氏がある

### 源村酒藏

村會議員

### 布留川嘉門

當家は十六代連綿たる舊家にして代々  
農を業とし、先代與五右衛門氏は區長、  
村會議員、村長等を歴任せる自治功勞者  
である。氏はその長男として明治三十三  
年に出生、酒藏部落には絶えて久しく村

會議員に出馬するものなかつたが、昭和  
十二年の改選に當つて氏は高點を以て當  
選の榮譽を擔ひ、兼ねて區長、養蠶實行  
組合長の任に就いてゐる。因に當家の庭  
には約一千年を経たる櫻樹あり、全國に  
も稀らしい古木といはれる。夫人との間  
には三人の愛兒がある。

### 丘山村小野

村會議員

### 早野留吉

堅忍不拔の精神を有し、清濁併せ吞む  
の氣概あるは、わが早野留吉氏である。  
夙に材木業を經營して業界にその人あり  
と謳はれ、家運の隆昌物凄く、人氣また  
沸騰の勢にあり、傍ら多年村會議員に當  
選活躍し、自治の道は中立にありとして  
政黨政派に片寄らず、一意村民の福祉増  
進のため身命をも献げんの意氣を持ち、  
兼ねて村農會副會長その他の要職に推挽  
されてゐる。因に氏は先代初太郎氏の養  
嗣子にして誕生は明治十四年二月十五日  
である。

### 増穂村南横川

村會議員

### 佐久間敏郎



當家は  
約四百年  
の古き歴  
史を有す  
る舊家名  
門にして

先代哲郎氏は農業の傍ら區長及び村會議  
員に擧げられた自治の功勞者である。當  
主はその長男にして、千葉中學校卒業後  
家業を承け、父に背て自治公共に盡瘁多  
く、青年團長、同縣聯合會幹事、區長、  
村農會副會長等を経て現時村會議員をは  
じめ消防組部長、信用組合監事、農家組  
合副會長、養蠶組副會長等の要職を兼ね、  
その功勞頗る大なるものあり、一々枚擧  
に違ひ、尊敬と感謝を受け、消防關係に  
於ては功勞章を授與されてゐる。家庭に  
はヤス子夫人、長女ヨシ子嬢ほか三人の  
令息がある。

### 大和村堀畑

村會議員

### 高山豊吉

日蓮宗の信仰者たる氏は頭腦明晰手腕  
また敏なるものがあり、村會議員を現任  
民政黨員でありながら自治に對しては白  
紙主義を支持、村會一方の重鎮として臨  
んでゐる。前に區長たること二期。明治  
十年八月十三日、平吉氏の長男に生れた  
もの、家業たる農に對しても熱心精進し  
てゐる。なほ長男武男君は今、家に在つ  
て父祖の業を助けてゐる。

### 瑞穂村永田

村會議員  
勳八等

### 板倉藤作

村内水利事業最大の功勞者たる氏は、  
また類稀なる愛馬心の持主である。明治  
十五年、先代丹藏氏の長男として呱呱の  
聲をあげ、日露戦争には佐倉歩兵聯隊に  
屬して出征し、各地に轉戦拔群の勳功あ  
り、勳八等に叙された。家業は半農半商  
である。夙に永田區長に推されて部落民

の福祉増進に努力盡瘁し、また村會議員  
たること五期、約二十年に近く、消防組  
副組頭、村農會評議員、信用組合理事、  
警備委員等をも兼任し、小中川水利組合  
理事としての功績はすでに全村民感謝の  
的であり、山武郡南部牛馬商組合長とし  
ての位置も牢として動かすべからざるも  
のである。令閨アキさんは白里村の出身  
長男俊氏は長生中學校卒業後村役場に職  
を奉じ、將來多望の新人として多大の期  
待をかけられてゐる。

### 正氣村宿

村會議員

### 佐久間信一



始祖以  
來約百五  
十年、舊  
家といふ  
にはあら  
ねど由緒  
正しき名望家である。氏は先代彌市氏の  
長男として生を享け歩兵第二十五聯隊に

入營勤務の際は模範兵と稱され、除隊後は専ら農事に精勵し、傍ら村會議員に選ばれて活躍し農村更生財源に關し、現在 unnecessary の村道を拂下げて收益金三千圓を收めこれを以て更生計畫の實行に邁進すべく主張奔走してゐる。長男和氏は公民商業學校在學中。

南郷 村草深

村會議員 鈴木 昌一



意志の鞏固盤石の如く、郷黨の信望を一身にあつめ

て毅然たる氏は、時代が要求せる偉材である。信仰心深く、人格高雅にして資性明朗潤達、區長、養蠶組合長等に任じて部落繁榮の恩人といはれる鈴木文之助氏を父とし、明治二十六年二月二十一日に呱呱の聲をあげた、夙に養蠶實行組合長

に推されて蠶業の興隆に力を竭して貢献多く、また消防組部長としては本村警備の重責を果し、部員の信望をあつめて颯爽たるものがあり、加ふるに區長時代の功績は自治史上燦然として永遠に輝やくものである。現時村會議員に擧げられてゐる。令閨ときさんは國防婦人會員として活躍し、長男敬一氏(大正五年生)は家業に淬勵、次男は成東中學校在學中、他に一男二女の愛兒がある。

大 平 村

村會議員 小川眞一郎

當家先代氏は七十一歳を以て永眠したが、村内に於ける人望家であり、そして生前は率先して村治のすべての方面に與りその功勞枚擧するに遑なして、今も村民はこれを讃へて止まない。氏はその男であり、父君の衣鉢をうけて公共方面に活躍盡瘁、文字通りの賭死的決心を以て自ら任じてゐる。今、推されて村會議員の一椅子を占め、政黨政派に動かす、た

ともう村利民福の四字のために懸命となつてゐる。氏の存在はまことに本村のために慶祝すべきことである。曾ては區長たり、また村役場助役として多年村長を補佐して功勞など、燦として村史の上に輝きわたつてゐる。

大富 村富田

村會議員 兒玉東海雄



先祖代々名主戸長をつとめたる名門に明治二十三年三

月二十二日を以て生を享けし氏は、尊顯三氏に早世されて幼兒より家業に奮勵せる努力窮行の人である。國民中學會中等科に學び、讀書に趣味深くして知識は古今東西に通じ、村會議員、村農會總代、藥工組合理事に任じ本村産業の進運興隆に裨益するところ甚大である。長男錫坦

氏は近衛輜重兵にて目下家業に従事、次男榮一氏は東京に在り共に成東中學校の出身である。

豊岡 村古和

村會議員 金子 情



徳望治く、村治に貢献甚大なる氏は先代安次郎氏の

長男として明治十九年に呱呱をあげ、金子家八代目を繼承した。方面委員、區長村農會總代、消防組部長等に歴任し、村會議員に當選三回、現にその任にありて産業組合理事を兼ね名聲噴々たるものがある。因に實父は銀行業に多年従事するほか、助役、村長、村會議員等をなし、本村學校統一問題に盡力して表彰されし材幹である。その父子二代に亘つての盡力に村民は感謝してゐる。

公平 村求名

村會議員 並木 武

勤勉家といはれ、努力家と稱される氏は、日露戰爭従軍の忠勇の士にて、區長としてすでに萬雷の如き好評を得た手腕と人格の兼有者、現村會議員並に土木委員として活躍中。長男安衛氏は早稻田大學法科を出て現在自宅にあり農事に精勵する奇篤の人。因に當家は戰國時代より舊家にて、先代道太郎氏は村會議員を數期間つとめて後、村長として卓抜の手腕を發揮せし自治功勞者にして村民敬慕の目標たる人物である。

源 村瀧澤

村會議員 大垣 政吉

大正十二年以來今日まで引續き村會議員の要職に在りし氏は、明治九年の出生村内切つての自治功勞者にて、源村多士濟々なりと雖も氏の右に出づるものは尠なく、曾ては學務委員にも擧げられし人

材である。當大垣家は氏を以て八代目とし、先代寅吉氏は瀧澤銀行創立發起人として盡力せる人、同行は明治二十二年の設立にて昭和六年千葉合同銀行と合併されたるも、存置中地方金融界に確固たる地位を占め、氏は大正十三年より昭和六年までこれが頭取をつとめた。

丘山 村山田

村會議員 元倉榮太郎

産業を開發して農村を振興し、青年を誘掖して思想の善導を圖る等、幾多公益に寄與貢獻せる氏は、先代政吉氏の長男にして明治十四年七月を以て呱呱の聲をあげた。農業に従事して篤農家の聞え高く、傍ら材木商を經營して隆昌を極めつつあり、現に村會議員並に産業組合理事の要職に就き政友會系の人物として各方面に聲望高く、丘山村民からは限りなき尊敬と感謝の念を以て迎へられてゐる。誠に氏の如きは得難き人材の一人であらう。

増穂村清名幸谷

村會議員 大原 喬

當家は先祖代々篤農家を以て知られたる舊家にして、氏は先代吉太郎氏の養嗣子、夙に區長代理二回、傳染病豫防委員、資力調査委員等に任じ、現在村會議員三期目の任にありて活躍貢獻するほか、軍友會評議員、軍人分會評議員を兼ねてゐる。明治十六年の出生にて日露戰爭には赫々たる勳功を樹てし護國の華である。養子明美氏は臺灣總督府土木課に勤務中にて、現在家庭はクラ夫人とたゞ二人きりにて琴瑟相和した日々を送つてゐる。

瑞穂村砂田

村會議員 秋葉 與市

卒先、納税思想の普及に努力し、砂田部落に滞納者を一人もなくした功勞者である氏は、明治九年五月二十五日の出生にして、家業は農、高等小學校卒業後、私立東洋中學校に學び、中途退學後更に

南總の學者常泉の塾に漢學を修め、十八歳にして祖業を繼承した。曾て東京に往き、蔬菜販賣の盛大なるを見て感ずるところあり、爾來副業として獨活、藥用サフランの栽培に従ひ、好果を擧ぐるに及びこれが普及を計り、盛んに京濱地方に輸出するの盛況を呈してゐる。また消防組合組織に盡瘁功あり、現に村會議員に當選活躍中にして、先年納税功勞者として表彰さるゝの光榮に浴した。家庭には令閨及び嗣子憲氏夫妻のほか三人の愛孫あり、頗る圓滿幸福を極める。

正氣村關下

村會議員 子安逸之助



當家は氏を以て六代目とし、約二百年の歴史を有す

業を以て副業とした。氏は先代市太郎の長男に當り、明治十三年に健かな呱呱の一聲をあげた。學務委員二回、區長、村農會總代、消防組第二部長を経て、村會議員、戸數割調査員、村農會評議員を現任し、本村經濟産業の振興に寄與するところが多し。家族は六人あり、長男昇氏は明治四十一年の出生である。

大平村下野

村會議員 吉田 榮藏

氏は區長數期をつとめ、下野部落の繁榮に私財を投じて貢獻し、幾多部落民に對し心からなる溫情を以て指導誘掖したる偉大なる功勞者にて、謂はゞ部落の生ける神であり、類なき恩人である。されば區民の信頼は譬ふるべきものも無き程高く篤く、嘖々たる名聲と泰然たる地位を有し、本村自治産業界のみならず、廣く當地方の至寶と謂はれ、得難き人材と賞揚されてゐる。現時村會議員をつとめ獻策貢獻頗る多く、各方面に亘つて氏の

關與せざる事業は無いと言つても過言ではない。出生は明治十三年二月二十七日にして長じて先代茂衛門氏の養子となり農耕を業として今日に至り、家庭には二男一女のほか、愛孫四人をかぞへ他の見る目も美しいばかりの圓滿振りである。

大富村富田

村會議員 菊池 正義

當家は數百年來の古い歴史を語る家柄で、現在は酒類、薪炭等を業となしてゐる。氏は今は亡き先代勇治氏の長男として明治二十一年三月今の家に生れ、東京神田青年同風社などで學んだ人、村會議員を現任、債務調停委員、寺總代を兼ねて盡瘁してゐる。なほ前には消防部長、區協議員などに擧げられた正義感の強い人。長男五郎君は齒科醫として開業、隆盛を極めてゐる。

豊岡村燕木

村會議員 伊藤 博

當家先代由己氏は縣會議員一期、村長五期、村會議員數期、永年村治縣政に盡力し、その残した一つ一つの功績は枚舉



氏は伊藤新助氏の四男、明治十七年の出生である。尊父は村會議員及び助役をつとめし自治功勞者にて、氏はその血を享けて早くより村會議員、耕地整理組合長に任じ、昭和二年に村長に推され村治に赫々たる業績を残し、現に村會議員三期目、學務委員、産業組合理事長をつとめ名聲燦として四方に輝いてゐる。令閨は現豊岡村長高國新氏の令妹、四人の子女あり、長男は日本醫大を出て目下千葉醫大に細菌學研究中である。

公平村家之子

村會議員 稗田 正己



當家本家は三ヶ尻部落草分の舊家先代宇吉氏は農事



村會議員 山本文次郎

するに違なしである。氏はこの先代氏を父として明治十八年五月十五日の出生、成東中學第一回の卒業生、早稻田大學政經科出身、現在は五期目村會議員として父君の名譽にかけ、意氣込みを以て奮命してゐる。曾ては村助役、農會長、産業組合常務理事、郡養蠶業組合評議員等に歴任、貢獻多大なるものがある。

源村三ヶ尻

經營の傍ら區長及び寺院神社總代等を爲した徳望家にて古稀を越えてなほ豊饒たる元氣を持つてゐる。當主はその長男、明治二十一年の生れ、戸數割調査員、村農會代議員のほか村會議員たること多年現に農家組合長、土木委員、産業組合委員、養蠶實行組合長、神社寺院總代を兼任する。令聞との間に二男一女あり、長男正氏は山武農學校を出て自宅に在り、次男重男氏は中央大學在學中、長女操嬢は東金高女出身の才媛である。

丘山村山田

村會議員 豊田 彦司

數百年來の舊家たる當豊田家は、代々農を本業とし、先々代は區長、村長をつとめたことがある。當主は先代定吉氏の長男にて明治三十四年九月九日の岳降、劍道に達し、青年團評議員、在郷軍人分會評議員、消防組小頭、同部長等を十數年間つとめ、現時村會議員及び山田養蠶組合長を兼任する。長生中學校の出身で

ある。家庭には兩親健在し、山武郡東金町の産たる夫人ヒデさんとの間には三人の令息がある。

増穂村木崎

村會議員 川島 一策

氏は産業の興隆に意を用ひ、農村經濟の圓滑なる運営と自治の向上とに力を致して功績顯著なる手腕家である。即ち曩に全村民の興望を擔つて村長の椅子に就くや、先づ役場事務の刷新を圖つて能率的ならしめ、農業經營の改善を企圖して適地適作を唱へ、可能的少額にて可及的増産をはかり、本村農業界に一エボツクをつくり、また自治觀念の養成や納税思想の普及等、その業績は數へ上げたら限りなく出て來る。また村會議員たること多年に及び、議員中の元老である。因に當家は部落切つての古い歴史を有し、先代は農業の傍ら戸長に推任されて貢献多く、氏は明治二年一月の岳降である。令聞は内助の功頗る多く、琴瑟相和す家庭

正氣村北幸谷

村會議員 大木 民司



村勢擴張のため養蠶實行組合及び農事實行組合の組織に率先參劃し、共にその長に推されて盡瘁貢獻頗る大なる氏は、その功勞により火鉢を贈り表彰されて居り、また區長二ヶ年をつとめ、現時村會議員、正氣村産業組合評議員を兼任し、數回に亘り感謝状を贈られた。趣味は盆栽。長男靜氏は農業に従事し、二男壽夫氏は成東中學校に教諭を奉職する。因に先代忠藏氏は農蠶業の傍ら區長及び社寺總代をなし、氏はその二男にして明治十七年四月の誕生である。

大平村

村會議員 鈴木猪二郎



鈴木家の先代清吉氏は當年七十四歳、豊饒として壯

者の間に介立し、なほ村治の上に心を馳せてゐるが曾ては區長等に選ばれて部落民のために圖るところ大なるものがあつた。當主猪二郎氏はその男、明治二十三年九月二十八日の出生、曩には區長二期を勤め、また大正十一年消防小頭に推され、更に同十三年部長として就任、その功勞偉大なるものがあつた。現在は二期の村會議員として村政に與りつゝあるの人望家、氏また、これ等の衆望に對して副はんことを念願とし、鋭意盡力してゐる。なほ長女いそ子(明治四十三年生)さんに雄三氏を迎へて養嗣子となし、今

銚子市興野町に新家庭を營んでゐる。

大富村真行寺

村會議員 山邊 堅



當家は山邊赤人の末裔、一千三百年來の歴史の舊家

その始祖赤人が祭つたといふ藥師如來を本尊となす珍寶山眞行寺の業士として相續くこと五十二代の當主に及んでゐる。氏は藏太郎氏の長男、明治十九年一月の出生、千葉中學出身の現村會議員、養蠶實行組合長、産業組合事務理事を兼ねて専念盡瘁してゐるが、曾ては消防部長として功があつた。因に眞行寺の本堂、仁王門は三百年前の建築、鐙瓦は縣の天然物として保存され、なほ石佛、馬頭の半面等は國寶の價値あるものとの評判がある。

公平村家之子

村會議員 伊藤 政吉

今、三期目の村會議員として一村の衆望を擔つて村政の上に盡瘁しつゝある氏は、先代吉藏氏長男、明治十年一月七日十數代を経た今の家に生れた人、村會議員たるの外、家之子農事組合長、東總産業組合理事を兼ねてゐる。前には區長、農會總代として盡瘁し、功勞を残してゐる。父君吉藏氏は精農家、組長及び區長等に擧げられた自治の功績者であつた。

増穂村南横川

村會議員 田中 博良

氏は狩獵に趣味を有し、斯界に相當名の知られた人である。先代周助氏は村會議員、區長、學務委員等に任じ、自治に貢献多く、氏はその長男にして明治二十五年一月十二日の誕生である。區長三回消防組第五部長、在郷軍人分會理事等をつとめ、消防功勞者として表彰されしこ

とあり、現在は村會議員、南横川北部養蠶實行組合長たるほか、青年團分團長、村農會評議員等を兼任する。令聞との間に四男一女を有し、長男明雄氏は歩兵第五十七聯隊に入營、目下滿洲國に派遣されてゐる。

大平村高富

村會議員 北田直次郎



當家は今より約二百六十年前に興され、代々名主を

つとめたる家柄にて地方有数の名望家として知られる。農耕を以て生業とするも養蠶も亦大々に經營し年産約三百貫にも上る。先代光太郎氏は徳望家にて、名主その他の要職をつとめたることあり、當主はその男にして明治十八年の岳降である。温厚にして謹嚴、且つ人格高潔を

以て普く聞え高く、家業の傍ら自治公共のため奔走盡力尠ならず、現に村會議員二期目の任にあるほか、養蠶實行組合長二期目、區長、學務委員等を兼ね、功績顯著にして枚擧の繁に堪へない。長男丈夫氏は明治三十八年出生の新鋭人物、目下家業に精勵しつゝあり、次男進一氏と共に英器俊才と稱される。なほ家庭には他二人の愛嬢がある。

公平村松之郷

村會議員 根本 柳藏



根本家は元祿以來の舊家既に十數代を累ねてゐる。

先代三之助氏の代より農を本業とし、料理屋營業を副業として經營、現在に及んでゐる。氏は明治九年三月三日その長男に生れて父業を繼いだ人、前には區長と

増穂村清名幸谷

村會議員 中村 守治

氏は本村有数の徳望家である。明治十九年の出生にて、成東中學校を中途まで學び、その後先代繁氏の養子となつて家督を嗣ぎ、先々代よりの家業たる清酒醸造を營んで益々隆盛を來させしめた幹材である。しかも區長十五年のほか、消防組第十部長、助役をつとめ、また多年村會議員として活躍し、現在産業組合専務理事、方面委員、村農會幹事、山武郡酒造組合長等の要職に推されて盡瘁してゐる。長男武君は奉天に在住、他に一男一女がある。

松尾町田越

學務委員 小野崎邦治



書畫盆 裁に趣味深く、温厚篤實の人格者と稱せらる

る氏は、先代五郎治氏の長男にして明治八年八月十四日の出生である。夙に先師に就いて漢學を修め、家業に精勵しつゝ、町會議員、區長、學務委員を歴任、町農會長たること三期間の長きに及んで、寄與貢獻甚大なるものあり、現在は専ら學務委員に任じてゐる。また富國徴兵保險會社代理店を昭和十一年以來兼營してゐる。長男五郎左衛門氏は消防組部長及び區長を兼任し次男氏は久保田家の養子となり三男正司氏は早稻田大學在學中である。因に當家は四十八代に亘る長き歴史を有する名門にして、先代は町會議員に

當選數回、學務委員その他町政に盡瘁され先々代左市氏もまた學校建設をはじめ町治に幾多の功績を遺してゐる。

横芝町烏喰上

産業組合長 大木誠一郎



約一千年前より續く當家は、代を累ねること七十有

餘、千葉右京之介の末裔である。世々農業とし、明治十五年頃から養蠶を副業に營んでゐる。先代與七氏は漢學の教養深く、助役、消防組頭、町會議員等を歴任した。當主はその長男にて明治二十年四月二十四日に生れた。國勢調査員、耕地整理組合會議員を歴任、私設消防組時代からの功勞者として縣知事から表彰されて居り、現時産業組合長に任じて組合の發展に努力し寄與多く、耕地整理組

合徵集委員を兼ねてゐる。

白里町四天木

學務委員 内山弟次郎



元村會議員として正義と至誠とを振り翳して侃々

愕々、村會の猛闘將として聞え、その助役に選ばれては村長の懐ろ刀として村政に對峙した氏のこれまでの功勞や眞に偉大、今なほ村民激賞し感謝をたゞへてるも當然なことである。現在は學務委員として教育方面に盡瘁してゐる。なほ令息賢司氏は今、消防小頭として活躍してゐる。

公平村求名

消防組頭 今關 政治

消防組に従事すること十五ヶ年、その



間部長、小頭等に推されて盡瘁、縣知事より表彰された氏はまた、村役場收入役に在ること十数年間、村治功勞多大なるものがある。氏は明治二十五年七月五日啓助氏の長男として、約五百年來求名部落の舊家に生れた成東中學校出身者、現消防組頭である。家は農を本業とし、父君啓助氏は區長として功のあつた人。

丘山村油井

村農會長 宇佐美淺治郎

氏は信念の人であり、亦意志の人である。政友會系の材幹として當地方に重きをなし、信望洽く高き徳望家であり、才腕の人である。明治二年十一月十四日、先代與吉氏の男として呱呱の聲をあげ、會ては木材業を営みしことあり、現在は専ら農蠶の業に精勵してゐる。推されて村農會長となるや農事の改善に力を竭しまた丘山村養蠶聯合組長に任ずるや養蠶業の振興を圖るなど、業績燦として本村産業史上に輝いてゐる。



増穂村富田 三枝治部  
學務委員 元増穂村長

富家は始祖以來四十二代を累ねる部族の最舊家にし



篠崎佳三郎  
學務委員 篠崎醫院長

て多大の功勞を數へられた氏は今、學務委員をはじめ産業組合監事、福岡村負債整理委員、東金藪市場監事、東金産業組合評定委員等を兼ねて活動盡力してゐるが、前には村會議員二期、衛生委員、國勢調査員、農會總代、區長、養蠶組合長、養蠶聯合組合評議員、養蠶指導員等に歴任して相當の功を擧げてゐる。なほ氏は農業の研究家で、明治六年九月二十六日先代徳太郎氏の長男として出生、篤農家その他によつて數回表彰されてゐる。

豊海村粟生

學務委員 篠崎佳三郎

當家は氏を以て八代目とする名門にして代々名主をつとめ、先代は戸長にも推され、先代仁平治氏は自治制施行後、

福岡村上谷

學務委員 石渡鶴吉

小學校建築、産業組合創立發起人とし

助役、村長、村會議員、學務委員等幾多の要職に歴任せる信望厚かりし人材である。當主は先代の養子にして、誕生は明治二十六年十二月である。千葉醫學專門



日向村矢部 川島四郎  
學務委員

學術共に優秀なる刀圭家にて、大正八年現地に開業、爾來小兒科及び内科を主として今日に至り、方技卓抜の名醫として好評噴々たるものあり、近在近郷到るところに人氣を持つてゐる。傍ら豊海村小學校醫を囑託され、學務委員、國防婦人會顧問等にも推されて貢献甚大なるものがある。趣味は讀書にして汗牛充棟の藏書を有する。

正氣村宿

學務委員 桑田常藏



日向村矢部 川島四郎  
學務委員

氏は篤農家たると共に自治功勞者として著名である。約十代位續く桑田家に明治十年九月、先代駒太郎氏の長男に生れ、農蠶の業に夙夜淬勵しつゝ、統計調査委員十一ヶ年區長五ヶ年、その他戸數制調査員、國勢調査員、農業調査委員等を歴任し、縣當局より功勞賞並に漆器を贈られ、現時學務委員、村農會總代、養蠶實行組長兼理事をつとめ、東金産業組合總代に推されてゐる。家族は十人、長男玉城氏は陸軍歩兵少尉である。

日向村矢部

學務委員 川島四郎

氏は川島家五代の當主にして明治四年八月の出生である。先代徳太郎氏の長男は千葉師範卒業にて現稻毛小學校次席訓



南郷村草深 鈴木直  
學務委員

村農會評議員を経て學務委員を現任し、長男武夫氏は南米にて棉花業に従事、末女いと子さんは女子師範を出て日向小學校訓導を奉職する。

南郷村草深

學務委員 鈴木直

當家先代猪三郎氏は區長、村會議員、消防部長の要職を歴任した自治功勞者であるが、會て東京日本橋箱崎町在住當時は米穀取引所々員、同町々會長として活躍盡瘁した人だつたが、昭和十一年十月卒去した。當主直氏はその男、明治三十

一年十二月十四日の出生、前には村會議員(二回)、消防部長、區長などに擧げられて功を樹て、現在は學務委員、南郷信用組合理事を兼ねてその職のために専念盡力してゐる。趣味は釣。夫人よし子さんは國防婦人會第六班長として活動し、長男君は成東中學出身、目下家業に従事してゐる。當主令妹あい子さんは齒科醫昭和二年以來文部省下の病院に在つておさゝ研究を重ね、目下東京市王子區豊島町に開業してゐる。

大富村眞行寺

學務委員 菊池 誠之



小學校 舍の擴張 改築その他村治各方面に亘つて功勞

甚大なる氏は、先代平三郎氏の長男にして、明治十年八月二十七日に呱呱をあげ

た。數百年來土地の名望家として聞えた菊地家を繼承し、農蠶の業に精勵して益々家名を高からしめ、一面村會議員、區長等に任じて村勢の發展に力を致し現時學務委員に擧げられてゐる。長男綱氏は成東中學校の出身、目下夙夜をわかつた家業に精勵してゐる。

松尾町八田

町農會長 加藤 彦治



當家は三百年來の舊家に於いて、氏は明治二十九年八月十五日の出生なるも、尊父政五郎氏早世のため、若くして刻苦精勵の道を歩みし努力家である。産業組合設立功勞者としての氏を知らざるものなく、また消防組部長、在郷軍人分會長、町會議員、區長を歴任、町農會副會長を経て現時會長

月十五日の出生なるも、尊父政五郎氏早世のため、若くして刻苦精勵の道を歩みし努力家である。産業組合設立功勞者としての氏を知らざるものなく、また消防組部長、在郷軍人分會長、町會議員、區長を歴任、町農會副會長を経て現時會長

の重責を帯びてゐる。園藝に趣味深く、家族は九人にして長男政右衛門君は旭農學校に在學中。

横芝町鳥喰新田

區長 市原 利清

當家は滋賀縣市原の武家、三浦在に移つて三浦姓と改め、後ち千葉氏に仕へ、同家滅亡と共に現地に土着し、市原姓に復して農に従事、今日に至つてゐる。先代利作氏は區長より町會議員、役場助役町長その他に歴任、町長退職後東部耕地整理組合會計に就任、その在職中に長逝した自治の功勞者である。氏はその長男明治三十四年七月一日の出生、現區長であり、東部耕地整理組合評議員、神社總代等を兼ねて活躍貢獻してゐる。趣味は書畫、骨董。

増穂村

區村會議員 北田 能章

先祖代々農耕を以て家業となし、篤農

家の聞え高き北田家は、その始祖、詳かにせざるも由緒深き名門である。先代甚之助氏は村會議員、區長を歴任して村治に獻策多く、當主はその長男にて明治十六年五月二日を以て呱呱をあげ、家業の傍ら早くより自治公共の事に竭し、村農會長、村會議員、青年團長としての業績はすでに萬人周知のところであり、現在は區長に推され極力部落の繁榮に努力してゐる。因に次男武二氏は長生中學校出身の秀才である。

大平村下野郷

下野郷 區長 渡邊 壽

當家の歴史は遠く古く、實に二十數代を閱してゐる。累代農を本業となして今日に至つてゐるが、先代源太郎氏は農業の傍ら公共方面にも關與、區長代理として功績を残してゐる。氏はその長男、明治二十五年二月八日出生、第一乙種重砲兵、夙に父祖の業に精勵し現在は區長並に衛生委員を兼ねて盡力貢獻してゐるが

會て明治四十四年頃には消防組頭を、次で區長代理を、大正十四年には區長をそれ〴〵歴任して自治に盡瘁する大なるものがあつた。日蓮宗を信仰する温厚な人格者。長男君は今二十六歳、父君を助けて家業に銳意してゐる。

大富村早船

早船區長 實川 誠一郎



徳の力を有し、オール大富村民の信頼と尊敬をあつ

めてゐる氏は明治十四年四月を以て呱呱の聲をあげた。尊父豊吉氏は農業の傍ら村會議員に當選活躍せる稀有の人材にて部落民の誇りとせる存在である。氏もまた早くより村會議員二期、助役一期その他を歴任、大いに業績を収めて才腕家と謳はれ現時三期目の區長に推されてゐる

家族は七人をかぞへ、長男仲氏は篤農家として有名である。

横芝町兩國新田

兩國新田區長 井上 元雄



氏は先代菊次郎氏の長男にして明治三十二年一月二十八日の生れである。青年團長として大正十二年の關東大震災に際會し、團員を引具して房洲方面に出動、避難民の救護に當つて功ありて表彰され、また青年學校指導員、消防組部長として各々その職責に忠實なりしにより表彰さるゝ光榮に浴し現在は區長、産業組合調査委員、養蠶實行組合幹事、在郷軍人分會幹事、青年團顧問等の任にある。その自治に産業に兵事にと貢獻せる功勞一々枚舉に遑なく感謝されてゐる。

増穂村南横川

南川區長 小倉 利雄

消防組第五部長を経て現に副組頭の要職にある氏は、功勞顯著なるにより縣知事及び警察署長より表彰二回に及び居り青年團副團長時代にも幾多の事績を遺し現時は南横川區長に推され、兼ねて南横川養蠶組合副長として部落の繁榮に精力を盡してゐる。明治三十三年三月の出生にて、千葉中學校の出身、嚴父定次郎氏も區長、村會議員に任せし名望家である家庭には母堂ノブさん及び令闈ツルさんあり和氣霽々としてゐる。

瑞穂村

區長 前村長 星見四郎吉

消防功勞者として表彰も受けたことのある氏は明治十二年一月二日先代紋四郎氏の長男に生れた。當家は氏の祖父四郎三郎氏を開祖として現在は三代目であり

先代より農を家業とし、尊父氏は村長の重任を勤めし功勞者である。當主もまた千葉中學を優秀なる成績を以て卒業し、

のち村役場に入り、助役三年、村長四年を村民の推薦に依つて勤め、なほ村會議員三期を歴任するなど、その功甚大なるものにして、現在は區長、消防組長の重任にあつて盡瘁貢獻をなしてゐる。氏はまた消防の統一、區内の發展を企圖し、村民より感謝と尊敬を受けてゐるが、氏の如き人物こそ地方農村にとつて無くてはならぬ人物であるといへる。

福岡村上谷

産業組合長 高橋 一郎

地方屈指の富豪にして聲望に富む氏は先代三郎氏の長男として明治三年三月十二日に生れて、高橋家十八代目を繼承した。農科大學出身にして、明治三十二年より三十六年まで郡會議員に推され、四十二年より大正二年まで村會議員をつと

め、また學務委員たること永年、その他村長、村農會長等の要職に歴任し、郡村政に盡瘁するところ實に多大であつた。

財政に通じ常に郷土經濟の發展に努力せられ、會ては家族的組織を以て山武銀行を經營せることあり、また地方政治家としても相當の抱負識見を有し、屢次代議士候補者に擬せられしも固辭して受けなかつた。現在は専ら産業組合長として活躍されてゐる。趣味は狩獵である。因に當家の祖は代々名主をつとめたる人望家にして地主として聲望が高かつた。

豊海村粟生

村農會長 篠崎 泰輔

氏は篤望家である。區長、村會議員、村長等各公職を歴任し、八十餘歳を以て今尙壯健なる先代徳三郎氏の長男として明治十六年十二月九日に生を享け、郷費卒業後私學に於て法律學を修め、村會議員、國勢調査委員をつとめ、深山村長時代助役に選ばれて幾多の難事業を解決完

成せる手腕家にて表彰數次に及んでゐる現に村農會長及び方面委員をも兼ねてゐる。



笹崎家の人々

る。趣味は川柳、俳句等。長男正義氏は東京市葛飾區小岩町に齒科醫院を開業中である。

正氣村廣瀬

消防組副組頭 廣瀬 忠夫

氏は努力力行の人にして、明治三十二年十月を以て廣瀬三郎氏の三男に生れ

長じて分家し、農蠶の業を營んで今日に至つた。消防組小頭を経て現時副組頭の任にあり、表彰數度に及び、また相互の



親睦、農家生産品の利益増加並に農事の研究及び發展のため、二十五歳以上四十歳までの村民有志を以て昭和會の組織されるや推されてその會長となり目的貫徹に邁進してゐる。家族は四人、長男輝夫君は大正十四年生れである。

豊成村宮

宮區長 元村會議員 功七 七級

氏は資性廉直また謹嚴の人格者にして椎名善五郎氏の二男として明治十五年十二月を以て生を享け、長じて分家獨立し農蠶の業を營んで今日に至つた。日露戰

争の時は第三軍に屬して旅順攻略に参加華々しき勳功により勳八等功七級を授與された。



郷に在つては公共の事に竭すと共に家業に精勵し、曩に村會議員に選出、現時は區長に任じてゐる。釣に趣味がある。夫人は内助の功多き良妻型の才媛である。

緑海村松ヶ谷

綠海郵便局長 伊藤 辰平



遞信報國の至誠に燃えて一意公共のため盡瘁せる氏は、先代備三氏の男にして、明治元年三月七日の出生である。先代は村長、學務

委員、縣會議員、綠海村小松松ヶ谷耕地整理組合長等に歴任、勳七等に叙され、本村排水事業の先驅者にして明治四十五年排水工事を完成せられたる地方自治産業界の重鎮である。當主は明治三十八年以來農事改良に盡瘁し、同四十一年松ヶ谷耕地整理組合長代理に推され、農業の改良、蠶糸業の發達に甚大な功勞がある。大正四年六月郵便局長を拜命引續き今日に至り、眞に二十五萬選信人の範とするに足る人材である。長男孝三氏は區長、選舉委員、耕地整理委員をつとめ現時村會議員に任じ、その長男敏雄氏局長代理を勤め、同次男徳雄氏は東京地方通信局千葉工務出張所に勤務する。

大富村柴原

榮原區長 笹川 敏雄  
元村會議員

先代彌三郎氏は農事の傍ら區長をはじめ村會議員その他諸般の村政に盡力貢獻せる手腕家にして氏はその長男に當り、明治二十八年一月十五日の岳降である。



氏子總代を兼ねてゐる。夫人は國防婦人分會理事、長男貞良氏は現在滿洲に派遣兵として勤務する。

陸岡村白玉

村農會長 伊澤清二郎



伊澤榮次郎氏の男にして明治二十二年五月二十日の岳降である。夙に在郷軍人分會理事たることあり區長、村農會長の椅子に在ること多年、農村の發展は自力更生にありとなし、その指導に寧日なく、區民並に村民のために盡力し、兼ねて養蠶組合聯合會長の任にある。因に實父は茨城縣北相馬郡の人にて、區長數回をつとめし徳望家である。

横芝町烏喰上

鳥喰上區長 瀧田善四郎



當家は當地有数の舊家に於て、先代彌吉氏は町會議員區長、耕地整理組合役員等に推されたる部落切つての徳望家、氏はその長男として明治二十六年四月に呱聲をあげた。横芝中學校(現在廢校)を出て明治四十五年より消防組に關係し、現在第六部相談

役の任にあり、先年縣知事より功勞章を授與された。また産業組合理事、區長、耕地整理組合副長等も現任し、功勞顯著である。家族は六人。

白里町細原

青年團長 板倉 弘毅  
獸醫



當家は土地の舊家として、先代佐十郎氏は初期在郷軍人分會長として盡瘁、軍事思想普及の上に多大の効果をあらしめた人であり、また區長



としても村會議員として、業績を高めた勳七等の帶動

大正四年佐倉歩兵聯隊に入營、成績拔群なりしたため伍長に昇進し、除隊後は村會議員、在郷軍人分會長等に任じ、また區

者でもあつた。當主弘毅氏は明治四十二年三月十五日、その男として今の農家に生れ、郷校を了へて出京、目黒日本獸醫學校に學び、卒業後は歸郷獸醫として地方のために懸命と努力し、その將來に甚大なる望みを囑せられてゐる。現在青年團長たるの外に在郷軍人分會評議員、山武郡青年團體育長その他を兼ねて盡力貢獻してゐる。なほ氏は日蓮宗の信仰家である。

増穂村木崎

村農會長 石井 良一



氏は長生郡茂原中學校の前身校を卒業後、東京明治法律學校に入つて法學を修め夙に郡書記を拜命、山武、長生、印旛の各郡役所を歴任、庶務、經理兩課長を命ぜられ、昭

産業組合 專務理事 勳八等 華表 誠也

大和村山田

當家は氏を以て十六代目とする舊家、先代兵吉郎氏は千葉醫專第一回卒業生にて、山武郡醫師會長までつとめたが三十六歳の若さを以て惜しくも他界された。氏はその長男に當り明治十八年五月十八日の出生、千葉師範學校を出て白里町及び大網町の小學校に奉職二十六ヶ年に及び、退職後、昭和十二年大和村信販組合を設立して專務理事に就任し、鋭意組合の擴充發展に努力してゐる。ヒデ夫人は國防婦人會副會長をつとめ、長男賢氏以下二男三女の子福者である。

瑞穂村  
在郷軍人分會長  
退役歩兵少尉  
正位八

部落ちつての舊家たる當鶴岡家は、累代名主等の要職をつとめし名門にて、先代金藏氏の代より醬油醸造業を営み、地元へ販路を有し今日に續いてゐる。當主は明治三十四年九月十日先代の長男に生れ、中學校卒業後歩兵第四十九聯隊に入營、その後大正十五年少尉に昇任した。軍人分會長として専ら分會に對し規約を設け貯蓄奨励、教練強化、軍人精神の普及につとめ功勞顯著である。曾ては消防組小頭に任ぜしことあり、昭和二年には今上陛下より御酒饌の榮に浴した。

福岡村九十根

消防組頭 野老吉之助

智行兼備、本村消防組の偉大なる恩人たる氏は、家業に農を営み、曾ては皇宮警察官たりし人材である。明治十七年、先代才次郎氏の長男として呱呱の聲をあ

げ警察官退職後は専ら衛生委員、消防副組頭に任じ、現在組頭に推され、統御の才ある手腕家といはれ、努力盡瘁の結果昭和十一年金馬籠一條を受けるに至らした功勞者である。令閨フジさんは大和村出身、長男稔君は東京高輪中學校卒業にて、現在在郷軍人分會長である。

豐海村眞龜

青年團長 櫻井利雄



眞面目にして温厚、將來を有望視せられる氏は、生氣潑刺たる新人中のエキスパートにして誕生は明治四十二年十一月、長じて先代位三郎氏の養嗣子となり家督を襲いで今日に至つた。抑々當家は先々代が明治三十年頃より呉服雜貨商を創めて次第に隆盛を加へ、遂に今日の如き確固たる地位

消防組副組頭 板倉與治



商機を見るに敏にて商略に富む氏は分家以來三代目

の當主にて、先代與兵衛氏の長男として明治三十五年十一月を以て生をこの世に享けた。資性英邁にして敏捷、雜貨商を營んで隆盛を極めてゐる。傍ら消防組に關與すること多年に及び、消防功勞記章及び感謝狀を縣より贈られ、現時副組頭に任じ旺盛なる活動をつゞけて居り、併

せて戸數割調査員を兼ねる。家族は六人である。

豐成村堀之内

在郷軍人分會 評議員 佐瀬正雄



新進のエキスパー、ト、本村のホ

若鷹の鋭さを以て地方政界に雄飛せんとしてゐる氏は、實に大正三年十一月十八日の出生である。成東中學校出身にて、



多望の模範青年と稱される。嚴父仙吉氏は區長、村會議員、學務委員、助役、村

長等に任じ學校問題その他幾多の難事業を解決せる手腕家なるも、昭和七年惜しくも病を得て卒去した。

鳴濱村白幡

青年團長 岩澤元久



スポーツを好み文學を愛する氏は文字通り

の英器俊才にて、しかも温順の風あり、若き精銳として郷黨の信望を一身にあつめ、その將來に多大の期待をかけられてゐる。當家は村内屈指の舊家にて、祖父竹松氏は村長その他村の重職を歴任せる徳望と人格の人、尊父物衛氏もまた、部落民の聲望高き材幹である。家業は代々農。氏は明治四十四年一月、健かな呱呱をあげ郷校を経て成東中學校に學び、拔群の成績を以て卒業秀才である。家に在つては克

日向村椎崎

青年團長 京相



氏は精氣潑刺として若鷹の如き活動家である。分家

獨立以來五代目に當り、明治四十二年十一月二十日先代鐵藏氏の長男として生を享け成東中學校に學びし知識人、青年團長として十有餘年の長きに亘り農村青年指導誘掖に努力し來り、優良青年團として表彰さるゝに至らしめた功勞者にして、現時消防組小頭、統計委員を兼任し

將來を囑望されてゐる。趣味は讀書。愛息は昭和十一年の誕生である。

南郷村小柳  
南郷尋常高等  
小學校校長  
正八位

井口毅



氏は山武郡源村の人、祖父久五郎氏は村會議員二十

有餘年間勤続、嚴父義十郎氏は源村尋常小學校長三十年間永續し、現在同村々會議員に任ずる名望家、氏はその長男にて明治二十八年三月十日出生である。千葉師範學校卒業後、東金町尋常高學校訓導を経て上堺村尋常高學校長に榮進、更に昭和八年南郷尋常高學校長に轉任し農本主義教育を主張し、神佛崇拜教育を施して、目下校舎及び校庭の改修、青年學校舎の新築等を目論んでゐる。夫人もまた女流教育家として著名である。因に南郷尋常高等小

校は明治二十二年の創立にて、農業教育の徹底、體育施設の充實に特色を發揮し現在児童六百五十名、卒業生累計三千名弱に上り、大岡煥次郎氏、鍛市治氏等の名士を生んだ優良校である。

大平村武野里  
大平尋常高等  
小學校校長  
勳八等

早野孝治

質實剛健、眞に君國を思ふ熱意ある理想的教育家たる氏は、明治二十三年一月三十日の出生にして千葉師範學校の出身である。東金尋常高學校を振出しに二川尋常高學校を経て千代田村菱田尋常高學校長に榮轉し更に山邊尋常高學校長となつてから大平尋常高學校長に轉任今日に至り、新校舎の増築を完成したり、少年消防隊や児童文庫を設け、また郷土植物を網羅する學校植物園を創設するなど功績頗る多く、二十五年勳績表彰を受け、勳八等に叙せられてゐる。因に大平尋常高學校は明治七年創立の借毛小學校に濫觸し體育設備の整ひること



長校野早と舎校

歩合一〇〇パーセント、出席歩合九六パーセントを示し、陸軍中佐川島鐵太郎氏の如き名士を生んでゐる。

大富村寺崎  
産業組合理事  
方面委員

戸村英一

資性謹直にして情誼に厚く、常に公共事業に盡力して功勞尠なからざる氏は、

明治三十二年二月八日の出生である。早くから農事實行組合長その他の要職に推されるほか、多年寺崎區長に任じ部落民の信望普く、現時は方面委員及び産業組合理事を兼ねてゐる。因に當家は寺崎區草分の舊家にして、先々代長三郎氏は助役及び村會議員として村政に盡され、先代左之吉氏は村會議員、區長、青年會長に歴任の手腕家である。

睦岡村中津田

學務委員 奈良良中



先代利三郎氏の福岡村の出身にして明治十八年三

月二十日の誕生、長じて奈良利三郎氏の養子となり家督を繼いだ。明治四十三年千葉師範學校を卒業し、昭和四年まで約二十三年間兒童教育に身命を抛つて盡瘁

し、異色ある名教育家として令名遠近に響いて居る。現睦岡村長藤一郎氏や、現助役嘉瀬敏氏等は共に氏の教へ子である。村會議員一期、區長等を歴任現時學務委員として専ら教育方面に關與献策多く、昭和四年頃村治紊亂を來たせる時、卒先奔走區民大會を開いて改革に盡力した意氣と氣慨の人でもある。長男氏は早稻田大學專門部法科在學中、他に二人の愛嬢がある因に養父氏は慶應二年四月の出生にして明治三十八年より同四十二年まで助役、大正五年十月より六年九月まで村長をつとめた人望家である。

大總村小堤

方面委員 元村長 伊藤貞太郎

當家は當地選出衆議院議員伊藤徳太郎氏家の分家、氏は三代目、勘右衛門氏の男、明治三年三月九日の出生、産業組合理事方面委員を現任、活躍貢獻してゐる。前に村長に推さるゝこと三回、産業組合長村會議員五期、村治のために縦横に活動

村史に輝く功績はまことに至大なるものがある。夫人との間に一男四女あり。長男氏は明治大學出身、これから偉材として刮目されてゐる。

大網町

在郷軍人分會長  
勳四五等位

土屋甫



當家は氏を以て七代目とし、尊父孝之助氏の代より

農を営み、孝之助氏は東金銀行頭取たること多年に及び金融界一方の雄である。氏はその長男にして明治十九年四月十六日の出生である。海軍兵學校、水雷學校砲術學校等に學び、歐洲大戰には軍艦春日に乗組み、臺灣、支那、フィリッピン沿海の警備に盡瘁、累進して海軍中佐となり、退職後廣島高等師範學校に奉職し

た。その後歸郷町會議員に當選、現在は  
在郷軍人分會長、郡聯合分會海軍部長、  
郡南部青年團聯合團長その他の要職を兼  
ねる。

白里町四天木

方面委員 椎名 章  
勳八等



氏は明治十八年生れ、當家先代治郎吉氏の養嗣子と

して同家に入ったもの、横須賀海兵團に入團して同四十五年まで服務し、日露戰爭には第一線に立つて奮闘勇戦して勳八等に叙せられた。現在は方面委員常務、衛生組合長を兼ねてそれ〴〵盡力貢献してゐる。その功一々枚舉に遑なく、尊敬と感謝を一身に集めてゐる人格の圓滿な士、なほ長男博君は醫學士、今、堺市に開業してゐる。

瑞穂村駒込

青年團長 角川 馨



氏は先代敬作氏の長男、明治四十五年三月七日、農

を主業となして古くから家歴を飾つて來た今の家に生れ、大網町所在縣立山武農學校を出て家業に精進、他面公共方面に進出、現に青年團長に選ばれて青年指導の任に奔命してゐる。氏の抱負は産業發展、生産力の擴充で、全力を傾倒してゐる。なほ家には兩親健在し、令弟靜雄氏は日大商科出身、令妹さんは大網裁縫學校を經營してゐる。

福岡村

村農會長 十枝 雄三  
勳七等

清廉潔白といふか、恬淡無慾といふか名譽を追はず私利を貪らず嚴として正義

正氣村廣瀬

消防組 第五部長 佐藤 正照



統御の才に長じて部下の信任厚き氏は、正に本村消

防組のホープにして現に第五部長として  
淬勵奮闘してゐる。先代新太郎氏を父として明治三十二年三月に呱呱を擧げ家業に従事しては篤農の聞え治く、公職としては前記消防部長のほか統計委員に任じ貢献尠なからざるものがある。趣味は釣閑暇を得ては太公望を演じてゐる。また日蓮宗に信仰あり、徳望高く人格高尚である。家族は七人をかぞへる。

綠海村小松

名望家 安井 喜雄



當家は土地草分の舊家にして代々名主をとめたる

名望家である。最も全盛なりしは寛文年間頃にして、當時の主、半重郎利恒氏は稲葉黙齋に師事し十哲の一人に加へられ、その子朋言氏は書を能くし、成東町

元昌寺にある默齋翁の碑文は同人の書する所である。先代竹次氏は地曳業を営むこと三十餘年、斯界に令名あり當主は明治四年三月十日の誕生、區長、村會議員等に選ばれること三回、昭和九年、小學校新築に際して金五百圓を寄附するなど社會公共の竭すの念深き信望家である。子女の教育に熱心にして、次女愛さんは奈良女子高等師範學校を卒業後、長野、愛知、佐賀各縣下高等女學校教諭に歴任せしも、不幸在職中二十九歳を一期に病逝された。長男利恒氏は綠海小學校首席訓導として鋭意校風樹立に實績を擧げてゐる。

大富村富田

在郷軍人分會長 中村 治

氏は在郷軍人の模範とすべき材幹にて帝國在郷軍人會長より顯彰さるゝ光榮に浴すること數回、本村が有する人材中の一異彩である。明治三十三年三月十三日を以て生を享け、大正九年歩兵第五十七



同部長をつとめるはか國防婦人會總務部長に任じ、銃

後の援護に於て、婦人運動を指導してゐる。また曾ては農事實行組合長たりしこともある。因に祖父市太郎氏は學務委員勤續二十ヶ年のほか村會議員、助役を歴任、尊父徳治氏は役場書記、警視廳巡查穀物検査員、區長等をつとめた至誠實直の人である。

福岡村長國

區長 川崎 仲司

氏は幼少より才智凡ならず、強記博覽

の有識人士である。祖父多仲氏は生涯を通じて村政に貢献盡力せられし功勞者にて、氏は先代豊吉氏の長男として明治三十四年三月十一日を以て生を享け、今後益々活躍舞臺の華やかなる有爲の人格者であり、多年區長たるほか薬工組合支部長に推されて部落のため奔走これつとめ、業績頗る大なるものありて村民より稀有の材幹と評され一般の信望が高い。家族は十二人の多きを數へ、和合親信、幸福極まる家庭をつくつてゐる。その圓滿振りは近在美望の的となつてゐる。

正氣村宿

宿區長 小川 正作  
元學務委員

修身齋家、衷心奉公の誠を致せる氏は明治五年六月十日の誕生の天資濃厚、また清廉潔白の高潔な人物にして先代一勝氏の養子である。抑も當家は三百餘年間連綿たる當地草分の舊家にして代々農業として名主の役をつとめたる名門である。明治二十五、六年頃より養蠶業を



營み、當地方に於ける斯業の先覺者としても有名である。氏は夙に村農會幹事、學務委員に推され、現時宿區長として貢献尠からざるものがありその功勞一々枚擧の追なく當區唯一の功勞者、元老として尊敬さる。

大富村富田

大富尋常高等小學校長  
勳八七等位

氏原 敬一



當家は四百年來の舊家に於て、先代氏は夷隅郡布施村に於て材木業並に建築請負業を經營して隆昌を呈したが、昭和六年他界せられ

氏はその長男に當り、明治二十二年二月三日の出生である。千葉師範學校卒業の頭腦明晰英邁なる稀に見る材幹にして、千葉第二尋常小學校に二十ヶ年間在勤して横芝町尋常高等小學校長に榮轉し、更に昭和八年九月大富尋常高等小學校に轉任今日に至つた。兒童貯金日や日の丸辨當の實施、國體の本義を精讀して兒童への薰化に力め、運動場作業の重視等、小學教育に幾多の新機軸を出し、名校長と謳はれてゐる。趣味は盆栽。夫人は曾て教育界に身を置きし才媛である。因に大富小學校は明治六年の設立に係り、すでに四千八百人の卒業生を社會に送り、在學兒童四百名をかぞへ、諸施設の整備充實大に見るべきものがある。

土氣町大和田 鶴岡 庄平

元土氣本郷町長

當家は元祿年間より相嗣ぐ舊家にて、頗る由緒に富む家柄である。先代岩次郎氏は家業に農業に精勵しつゝ名主の役を

つとめ、明治維新後區長に任じたる徳望家である。當主は明治十七年の出生にて先代の養嗣子、夙に町會議員數期、産業組合理事に推され、大正十四年郡制廢止當時は町長として活躍、役場廳舎の後を引承けて卓抜の手腕を揮ひし町内屈指の人材である。令閨氏とは琴瑟相和し長男孝氏は山武農學校を出て家業に努力してゐる。

白里町細原

前白里町長 飯倉久三郎  
多年日  
本赤十字  
社事業に  
貢献して  
同社より  
表彰、木



杯を下賜された氏は、明治十六年十一月十三日、土地の舊家、代々農業を業となして來た今の家に生れ、家業に精進すると共に、他面町治のために關與、曾ては區

長、町會議員、國勢調査員、助役二期、町長等に歴任、町治の上に高めた業績は決して尠少なものでない。今の氏は町内に於ける長老株として重きを置かれてゐる。

増穂村北富田

元増穂村長 土屋 惠司



當家は始祖を詳細にせざるも部落切つての舊家名門にて、先代熊司氏は村長並に村會議員に推されて多彩の活動をなせる人、當主はその長男として明治十三年八月に健かな嗚聲をあげ、長生中學校卒業後、家業たる農に従ひつゝ自治公共の事に竭し、村會議員四期、收入役、村長、學務委員、消防組第七部長を経て、目下産業組合理事、區長、方面委員を兼務貢献裨益しつ

つある。シナ子夫人は國防婦人分會顧問長男誠氏は山形縣廳奉職の新人である。

上塚村清水東 齋藤直一郎



當家は實に二十數代の永い歴史を有する名門の家柄で、先代晋次郎氏は家業農及び養蠶に精進すると共に、區長、耕地整理組合理事、村會議員等に推されて歴任、村治の功勞者として今も稱へられてゐる。當主直一郎氏は明治十一年四月生れ、のち同家に入つてその後を繼いだ人であるが、性温厚にして寡言實行を旨としよく同家の今日を成し、他面村内公共のことに與り、養蠶組合理事、農會代議員、村役場助役、村會議員、更に村長の要職等に選ばれて盡瘁、その功績は決して先代氏に優ると



も劣るものではなく、村治に於ける重鎮として仰がれ、村役場より多種の感謝状を贈られてゐる。なほ令夫人との間に五子があり、家庭は何時も和かである。

山邊村金谷郷

在郷軍人  
分會長

青木輝男



温厚の  
中に覇氣  
あり、多  
年在郷軍  
人分會長  
として功

績多き氏は、また區長代理をつとめ、自警團副團長、青年學校指導員を現任し現に忠魂碑建設に率先奔走盡力してゐる少壯有爲の人材である。尊父三喜藏氏は二十數年間鐵道官吏をつとめ、大網驛勤務を最後に退職したる温容恭順の人、氏はその長男に當り明治四十一年五月十七日の誕生にて、日本大學を中途退學、陸軍歩兵少尉である。コト子夫人との間には

一男一女がある。

正氣村廣瀨

廣瀨區長  
勳八等

廣瀨喜一

當主喜一氏は七代目、當家先代大三郎氏に望まれてその後を嗣いだ人。家もと農を営み、酒造業を経営、また醫師、蠶業に轉ずるなど、その代々の好みに従つたもので、當主は農業を主に、蠶業を副となし、隆盛を極めてゐる。近衛歩兵として日露の役に參戰、勳八等に叙せられた勇士である。今、廣瀨區長、農會幹事兼總代、社寺總代として活躍盡瘁してゐる。曩には養蠶實行組合長、消防組小頭、同部長等を歴任、功を擧げてゐる。

大網町新富

千葉縣野卵協會  
幹事

中鹿中

氏は大正十二年若冠十九歳の時に始めて野卵業を起し、次で昭和十一年同志と相謀つて千葉縣野卵協會を組織して、その幹事として活躍、養蠶王國千葉縣のた

めに優良なる初生蠶を生産し、他府縣よりの移入を驅逐せんとすることに重點を置いてある。なほ當野卵場は千葉縣最古のもので、最新式立體野卵機一萬卵入、二萬卵入各一臺を設備し、所期の目的に向つて鋭意邁進してゐる。

松尾町大堤

元松尾町長  
勳七等

花澤哲太郎



當家は  
先代匡平  
氏に依つ  
て分家創  
立されし  
ものにし

て、氏はその長男として明治二年九月十七日を以て呱呱の聲をあげた。資性温順正義の觀念強く、明治二十二年近衛騎兵隊に入營し、日清戰爭には軍曹にて出征日露戰爭の時は曹長に昇任、忠勇義烈の働きにより勳七等に叙せられた。劍道五段の腕前を有し、眞に武人の鑑とも稱す

べき人材にして、家に在つて業務に熱心なるほか、明治三十九年より四十二年まで千葉中學校に、四十二年より大正十五年まで成東中學校にそれく、劍道教師として奉職し、大正十五年町長に選任、小學校舎の増築、役場廳舎新築等の事業を完成、昭和五年退任し、今や町の元老として名聲四隣に鳴響いてゐる。養嗣子茂は茂原農學校出身にして目下縣農事課に勤務する。

横芝町烏喰下

元町會議員

齋藤政治



齋藤家  
は當地有  
數の名望  
家、四代  
前の祖新

は自ら寺小屋を開いて郷黨の教育指導に當り、先代啓次郎氏は町農會長、町會議員、學務委員その他を歴任した。當主は

明治十七年六月二十五日の出生、大正元年精米業を創め、學理的技術的研鑽を積んで全國的に精米の講習指導に従事すること十五年、陸軍糧秣廠その他より感謝状を贈られ、御即位御大典の際御使用なされし米の精米を命ぜらるゝの光榮に浴した。曾ては町會議員、區長にも任じ、現時東部耕地整理組合評議員をつとめてゐる。

白里町細原

元町會議員

内山誠一



不偏不  
黨を標榜  
して村政  
に對して  
ゐる氏は  
明治十五

年二月、村役場助役、村長、村會議員その他に就任して村政に至大の功を残した先代亡種吉氏の男に生れた人、千葉縣廳に奉職すること十三ヶ年、町役場書記た

ること五ヶ年、町會議員一期、郡農會代議員等を歴任、その功勞を稱へられてゐる。なほ長男富士夫君は、千葉中學校に奉職中である。

源村雨坪

前村會議員

並木好太郎

氏は明治六年生れの前區長、村會議員として盡瘁せる村治の功勞者である。令弟政五郎氏は陸軍教導團出の陸軍歩兵少尉正八位、三十七八年戰役に參加、奉天大會戰に際して正面攻撃の任務を命ぜられ、唐家屯北方高地奪取の目的を以て三月三日の夜半、敵壘に突撃したが、敵彈飛來、頭部を貫通して終に滿洲原頭に名譽の戦死を遂げた。氏は至忠至爲の人、洵に軍人の鑑として、今も稱へられてゐる。

大和村上田中

元村會議員

櫻井昌雄

當家の祖は越後國櫻井の武人にして、

鎌倉時代當地に移住し、櫻井の地名を以て姓となし代々苗字帯刀を許された名門である。先代茂助氏は大正十三年に他界氏はその養子にて、生れは明治二十五年一月二日、成東中學校の出身である。先代は東金銀行取締役として地方金融界に知名の敏腕家、明治二十二年初代大和村長に擧げられた人である。氏はその後を承けて現に東金銀行監査役たるほか村會議員並に區長を兼ねてゐる。長女は陸軍大尉上村竹治氏に嫁し、長男は成東中學校在學中である。

瑞穂村

元村會議員 小高 吉松

當村の誇りと言はれてゐる氏は、明治十五年五月五日先代辨次郎氏の長男に生れ、幼時より農具の研究に興味を有し、その二十三歳の時には早くも專賣特許をとつたほどの偉材として知られ、以來現在に至るまで、乾線前斷器、其他氏の考案になるもの八ヶに及び、農會長より

表彰を受けてゐる。なほその傍ら村治にも意を注ぎ、村會議員、區長を勤めたことがあり、今や氏は天才的發明家の名のもとに農産具其他の發明考案に没頭してゐる。

山邊村長谷

元村會議員 元消防組頭 鈴木 正夫



長谷部落草分の舊家たる當鈴木家は代々農を營みし

家柄にて、先代慶應氏は歩兵少尉にて日露戦争に従軍名譽の戦死を遂げ勳六等功五級を賜りし護國の華である。氏はその長男にして明治二十六年八月十二日の出生、成東中學校卒業後近衛歩兵第一聯隊に一年志願せる歩兵少尉である。村會議員二期、在郷軍人分會長、消防組頭、在郷軍人分會聯合會幹事、區長、村農會副會

長等を歴任して表彰數度に及ぶ功勞者、現時産業組合常任監事をつとめてゐる。

豊成村東中

元村會議員 元豊成村長 戸田 戸



翁は元治元年十月三日江戸八丁堀矢場豊田家に生を



享け四歳の時戸田八十吉氏の養嗣子となつた。明治十五年東中外二ヶ村戸長に擧げられ、學務委員を兼任、翌十六年山邊武射兩郡衛生會委員に推擧された。明治三十四年豊成村會議員に當選、次で同四

想の善導等につとめたが、不幸病に侵され職を退いた。大正二年の大水害の時免租並に種糶無償交附を卒先請願して允可を得たる徳望と手腕の人にして、翌大正三年作田川聯合耕地整理組合組織されるや進んで参劃、引續き昭和二年まで開墾耕地事業に盡瘁、その他業績一々枚舉に遑なく、修身齊家一意奉公の道を盡せる得難き人材である。趣味は書畫骨董。養嗣子禎三氏は現村會議員である。

日向村木原

元日向村長 功七 八等功七級 平山 要三



當家は代々名主等をつとめたる名門にて、先代米吉

氏は多年村長として村治に貢献多かつた。氏はその長男として明治十三年十二月十五日に生を享け日露戦争には第二軍

騎兵部隊に屬して神速果敢の活動をなし挺身隊の一員に加はりしこともあり、勳八等功七級を下賜さるゝ榮譽に浴した。



凱旋後助役、村長、學務委員、村會議員

その他村内すべての公名譽職に歴任し、民政黨系の人物なるも郷黨のためには政黨派を超越して衷心より努力盡瘁し、學校舎の建築並に在郷軍人分會の創立に



長男の格別は格別の手腕を發揮し、各種功勞章及表彰状を受くること多數に上つてゐる。現在専ら村農會長として活動を續けてゐる。因に令閨こうさんは國防婦人分會副

會長をつとめ、長男寛氏は消防組第二部長に推されてゐる。

豊岡村引越

元縣會議員 元豊岡村長 秋葉 勇吉



清廉潔白にして高潔無類の人格者たる氏は秋葉家四

代目の當主にて、誕辰は嘉永五年六月十日である。明治二十八年以來縣會議員に當選二回、自治制施行後の初代豊岡村長をつとめ、また郡會議員二回重選、その他幾多の公名譽職に歴任し、學校合併、耕地整理事業その他の難問題を解決せる手腕家にて、公共事業に寄附多く、縣知事よりの表彰六回に及んでゐる。令息信夫君は頭腦明晰な材幹にして現村會議員氏の後を繼ぐものとして郷黨の信望をあつめてゐる。

福岡村二ノ袋

元村長 佐瀬佐太郎



當家は甲州武田家の出、後ちこの地に土着歸農した

名門家、醤油醸造を業として販路また廣く年産額も多量にのぼつてゐる。先代與惣右衛門氏は全村一致の推薦によつて村長に就任、村政の刷新開發に盡瘁し、延いて村民の幸福増進のために圖るところがあり、村自治に大なる足跡を印してゐる。當主は明治八年その男に生れ、夙に父君の衣鉢をうけて村治方面に進出、村會議員に選ばれ、また村長としてその手腕を揮ひ、村治績を高める大なるものがあり、特に疏水工事に殊勳を樹て、今も父子相繼いで自治功勞者として賞讃されてゐる。なほ長男圖書君は元村會議員

として活躍し、現に學務委員、産業組合理事として任期中の功勞者であり、次男の榮次君は今、朝鮮に在つて總督府に奉職してゐる。

松尾町水深

元松尾町助役 中山鑛左右



當家の祖先是遠州掛川藩士として代々武藝の譽れ高

き名門であつた。明治元年、先代彦作氏の時現地に移住し來り、農を營んで今日に至つた。氏はその長男にて明治十年の誕生である。濃厚なる人格者と稱され、大正十二年八月より昭和二年まで松尾町助役に任じ、名聲普く、また村會議員その他の要職を歴任した。長男美道氏は山武農學校出身の逸材にて、近衛歩兵第四聯隊に入營勤務せる歩兵上等兵である。

横芝町烏喰上

元町會議員 行木光吉



當家は鳥喰上並木倉重家の分家に於いて元祿年間以前

よりの舊家、先々代長右衛門氏は縣囃託を永勤し、先代長治氏は日露戰爭に名譽の戦死を遂げて勳八等功七級を賜られし護國の勇士、當主はその長男にして明治九年十月の誕生である。町會議員、區長八年、消防組部長、養蠶組合長、耕地整理組合會議員十二年等を経て信用組合信用評定員を現任し、消防功勞者として曩に縣知事より表彰を受けた。長男一郎氏もまた消防組に關與して表彰されし殊勳者である。その父子二代そろつての各方面に對する盡瘁に當家は尊敬と感謝の的となつてゐる。

増穂村南横川

千葉縣解卵協會 理事 伊藤迪

養鶏は農家副業中の重要位置を占めるものにしてこれが振否は農村經濟に多大の影響をもたらすこと論を俟たない。氏は養鶏業を趣味とし生活とするもの、長生中學校卒業後専ら意を斯業の隆盛に用ひ、不斷の研究を積んで今日に至り、千葉縣解卵協會理事に推されてゐる。因に當家は約八代を繼ぐ名門にて、先代宗嗣氏は村長、村會議員、村農會長、産業組合理事その他の重責を歴任せる功勞者、氏はその長男である。家庭には祖母、母堂夫人のほか愛息がある。

増穂村柳橋

千葉蠶種合名會社

當社は昭和三年四月の創立に係り、當初は資本金二千圓なりしが昭和七年事業擴張をなすと共に四千圓に増資今日に至つた。蠶種製造を以て主なる事業とし、



長齋藤正治氏は元福岡小學校長に任ぜし教育家なるも、蠶種業を計畫すると共に退職して本社を起した、村内第二位の資産家である。事務理事榎澤源一氏は明治三十二年の出生、大正四年の茂原農學校

縣内一圓限なく販路を有して年産十萬瓦の多量に上り、今後ますます躍進發展の機運に恵まれてゐる。製造所は二ヶ所にあり、男女約七十人の従業員を擁し、種々研究の功を積んで合理的技術の深奥を

卒業にて、尊父村會議員二期に及ぶ名望家である。

福岡村小沼田

元村長 易學士 石橋彌十郎



曾ては名村長の名を誦はれた氏は元治元年七月二十

日、先代與左衛門氏の長男として現在の家に生れ、後ち村役場に書記として奉職大正四年及び昭和二年の兩度收入役に推され、また大正九年六月助役となり、同十年四月村長として一村を擔つて立つた村治の功勞者、次で消防組頭としても盡瘁してゐる。今は高島易斷所の門人となり、至誠堂の名を以て易斷所を經營、悠悠老を養つてゐるが、村の元老として、偉大なる功勞者として衆望を一身に集め尊敬されてゐる。

正氣村廣瀬

方面委員 矢野鹿之助



當家は先代より刀圭を採つて業となし、併せて村の

ため盡力するところ甚大である。即ち氏は明治三年十二月を以て生を享け、醫師檢定試験に合格後、同二十九年矢野醫院を繼承、産婦人科及び内科の名醫と呼ばれ、徳望あつく、正氣村小學校醫を囑託されては兒童の體質改善に盡すところ多々あり、現に方面委員を兼職する。長男榮氏は慈惠醫大を出て東京市に在り、次男耳氏は奉天醫大に學び、奉天病院に勤務中である。

豊成村東中

元豊成村長 村井吉郎

當家開祖は寛永時代の人、爾來農を營んで来たが、四代前の祖は醫業を以て報國の誠を致した。氏は明治九年の岳降、先代雄藏氏の養子にして、夙に學務委員



村會議員 助役、村長等を歴任し、村長時代昭和八、九年の干害事件あり村民救済のため耕地事業を起し溜池を作り道路を改修して二ヶ年の被害を忽ちにして復興せしめたる手腕家にて表彰數度に及び現時耕地整理組合會議員、在郷軍人分會顧問、國防婦人會顧問を兼任する。

日向村 森

元村長 石橋健亮

氏は明治十五年十月、先代啓亮氏の長男として約三百年前、武家より農に移りて土着し、代々農を本業とし、二十年前

大富村早船

素封家 平山重典

當家は數百年來連綿相繼いで代々代官職を命ぜられて今日に至つた名門家、先

代信藏氏は慶應元年二月十五日の生れ、千葉師範出身、三十有餘年間教員生活を續け、日向村尋常高等小學校長を最後に退職、大正五年同時に平山專修學校を創立して校長に就任、昭和五年六十六歳を以て永眠したが、專修學校生徒代表者實



川仲氏外 先代數名發起人となり 信藏先生の徳を讃へて 平山先生

記念碑を平山家屋敷内に建立した。當主重典氏は大正四年九月十三日、その長男に生れ現在東京神田外國語學校に在りて勉學中である。なほ母堂うめ子刀自は多年裁縫教師として日向村尋常小學校に奉職しつゝあつたが、現在は家庭にあつて近隣婦女子の裁縫教授をやつてゐる。

大富村直行寺

醬油醸造元 子安利明商店

電話成東一〇四番

當商店は、現主の尊父郷太郎氏が明治十四年に創始せるものにて、醬油醸造業に界確固たる地位を占め、年産三千石に近く、販路も東京横濱方面にまで及んで一年一年と躍進の跡目覺ましきものがある



從業員は十三名を數へ勞資相和し相協力し一意事業の進展を圖りつゝあるは他の

範とするに充分である。現經營者子安利明氏は先代の長男にて明治六年七月に呱呱の聲をあげ、收入役、村會議員を歴任して村政に盡されしところ多々あり、また醸造業界に於ては山武郡を代表するも

のにて、現時千代田火災保險會社代理店を兼營する。趣味は盆栽。長男八雄氏は成東中學校の出身である。因に子安家は數百年前より續く屈指の舊家にて且つ由緒正しき家柄である。



元松尾町長 古谷英亮

當家は元松尾町長に推され、同十五年には小學區學務委員に選ばれるなど、舊八田村のため盡力するところ頗る多かりし稀有の逸材たりしも、四十五歳の働き盛りに惜しくも黄泉の旅人となられた。當主は文久二年四月二十日の出生にて先代の養子である。謹嚴の紳士として定評あり、書畫刀劍に興味深く、劍道

の達人にして直心影流兵法免許の人である。明治二十九年横芝町に武村商業銀行を興して頭取たること十ヶ年、地方金融界に腕みを利かし、また町會議員、町長等に任じて自治に貢献するところ絶大である。養嗣子孝二氏は松山中學校の出身、後備歩兵伍長にて現在農業に従事される令孫善衛氏もまた兵役にあり、目下支那事變に出征活躍して武勳赫々たるものがある。

松尾町田越

元松尾町助役 勳八等

小野崎武次



温厚且つ恭謙の人格者たる氏は小野崎五郎次氏の次男にして明治十六年九月十五日に生を享け長じて分家獨立した。昭和八年より同十一年まで松尾町助役を勤め、また町會

議員、消防組部長、養蠶實行組合副長等にも歴任、民政黨系の材幹として重きをなした。現時淺間神社氏子總代に推されてゐる。その功牧學に遠なく尊敬を集めてゐる。家業は農耕並に養蠶。趣味は書。なほ氏は明治三十八年佐倉歩兵聯隊に入營と同時に日露戦争のため出征し奉天會戰に於て敵弾に名譽の負傷を負ふた勇士にして、現時戦病死者遺家族世話係、傷病軍人會長、軍友會副長等を兼ねて、銃後の護りに奉仕しつゝある篤行の人である。家族は五人あり、長男正明氏は明治四十四年生れにして兵役に服せる勳功者専ら家業に精勵されてゐる。

横芝町鳥喰下

元横芝町助役

齋藤峰松

當家は藤原家より出たる名門にして、代々名主をつとめ農業を營んで今日に至つた。先代三郎左衛門氏は明治十五、六年頃より養蠶業を營み、當地方に於ける斯業の嚆矢をなし、傍ら戸長職務代理、

横芝町鳥喰上

元横芝町助役

大木彦太郎

當家は代々農を業とし、明治二十五、六年頃より副業的に養蠶を營んでゐる。先代萬吉氏は信仰心あつく、信仰團體社長等の職にあり區長、町會議員にも選ばれた人望家である。氏はその長男にて明治三年三月十三日の出生、夙に町會議員



部落總代に任じた。氏はその長男で明治元年一月二十八日に生れた資性温厚篤實なる人格者に

二回、養蠶組合長等をつとめ、



明治四十四年耕地整理組合創設以來助役としてその事業遂行に努力した。現在は學務委員に任ずる。長男康孝氏は早稻田大學經濟科出身にて、日清生命保險會社福岡支店長、同臺灣支店長を歴任せる偉材である。

福岡村九十根

元村長 伊藤久治郎



表彰さるゝこと數回、今も自治功勞を稱へられ、斷

久三年の生れ、家業農に精勵し、消防開設當時はその組頭に推されて盡すところがあり、續いて村役場收入役、助役、村長その他に歴任、敏腕を揮つて村治の刷新に力むるところがあり、現在の村政の上に功果大ならしめてゐる。今は公職から退いて閑地に悠々自適してゐる。長男菊司君は多年小學校教員として奉職し、現在は津田沼小學校長として兒童並にその父兄から慈父の如くに敬慕されてゐる。なほ君は永年育英事業に樹てた功勞に依つて勳七等を賜はつてゐる。

福岡村上谷

元福岡村助役 勳七等

今關清一郎

信念篤く、人格高き氏は、先代音松氏の長男にして明治十年三月十四日の出生である。夙に近衛歩兵第四聯隊に入營して善行證書を受け、日露戦役には各地に轉戦勳功あり、歩兵軍曹に進級し、勳七等青色桐葉章並に従軍記章を下賜され

た。大正三年消防組小頭拜命、同四年、二代目在郷軍人分會長となり、區長三回村會議員、學務委員、收入役、助役、上谷第三區農事實行組合長を歴任し、菩提寺たる飯島寺庫裡再建にその功績顯著なりしたため顯本法華宗管長本多大僧正より賞状を贈られた。

正氣村廣瀬

元正氣村助役

榊原儀三郎



享保年間より現在に續く當榊原家は當地有数の舊家にて、代々農を以て業とした。當主は明治十二年五月二十八日の出生にて先代彌一郎氏の養嗣子である。青年團組織功勞者として表彰されしことあり、また助役にも任じたる才腕家にて正氣村外四ヶ村用排水幹線改良事業には特に功績顯著で

あつた。現在は信用組合理事、學務委員、水利委員、養蠶實行組合聯合會長を兼任する。因に長男重定氏は消防組第一部長をつとめ將來を囑望されてゐる。

豊成村二又

元村會議員 勳八等 齋藤龜太郎



氏は先代勘之助氏の長男にして明治八年の誕生、農

業の傍ら養蠶を營んで家運隆昌を極めてゐる。日露戦争には野砲兵として出征、功により勳八等に叙された。村會議員、消防組部長、區長等に歴任、二又公會堂建設には大いに盡力あり、受檢組合長時代にはその功により銀盃を贈られ、また消防組にも特に貢献甚大である。現時養蠶實行組合長をつとめる。趣味は將棋、長男豊松氏は消防組世話役である。

日向村 森

消防組頭 元日向村長 加藤 理輔



氏は信義を重んじ、誠心誠意を以て公事に調せる人

格者である。抑々當家は分家以來百年餘を経、本家は本村屈指の舊家名門にて代々名主をつとめた家柄である。先代利三郎氏は農蠶業を營みつゝ収入役や村會議員に任じたことあり、氏はその長男と



夫夫きん子んさん

して明治二十年八月十九日に生れた。村

農會長、在郷軍人分會長、學務委員、助役、村長、村會議員、その他村に於ける

公職はすべて歴任し、村長時代、縣道八街線を完成し、小學校庭を擴張せしめたる實力家、現時消防組頭に推戴せられ、防火機械購入金積立その他本村消防事業の果敢なる躍進のため幾多の事業を遂行しつゝある。令閨きんさんは本村國防婦人會長として昭和九年十二月設立以來東奔西走、克く銃後婦人の護りに身を献げてゐる。

日向村 大木

元日向村助役 遠藤熊次郎



氏は和平主義的、温厚の人として人望が厚い。元治元年

を以て呱呱の聲をあげ、日清戦争には野戰病院付上等兵資格看護士として従軍し、忠勇義烈の殊勳をあげた。凱旋除隊後は収入役、助役、村會議員、その他の公名

舉職を歴任し、諸方面に亘つて顯著なる功績を示し、衆庶の信望と尊敬を一身にあつめてゐる。趣味は讀書。家族は十一人の多きをかぞへ、長男誠一君(明治九年生)は元區長にして現組長をつとめてゐる。

松尾町八田本村

元松尾町長 古谷 富保



温厚篤實、多年自治教育の事業に關與して貢献多き

氏は、古谷大作氏の長男にして慶應三年十月八日の出生である。郡會議員たること多年に及んで郡會より表彰され、町會議員も二十ヶ年の長きに亘り、また區長町長に歴任して卓抜の手腕を發揮し、更に約二十年近くを學務委員の要職に就き學事の振興に功勞多きを以て曩に縣知事

より表彰を受けた。因に當家の祖は武田信玄の一族にして、享保年間、後奈良天皇の御宇、武田氏滅亡と共に當地に土着し、名を親九郎重治と稱した。爾來三百八十年、當主を以て十五代とする本村最古の舊家として知られ、三代目頃より代源右衛門氏を襲名、先代は名主、戸長社寺總代に任じた名望家である。家庭は令閨うたさんほか令大勢ゐられる。

横芝町 栗山

元横芝町助役 齋藤己之助



武家政治の初期源頼朝が鎌倉に覇を稱へし頃より、

當地に居を定めて代々農業を主に今日に至れる當家は舊家たると共に當地屈指の名門である。當主は明治元年八月二十日の岳降にして先代彌平氏の養子に當り、

福岡村 九十根

元村長 鵜澤 善藏



氏は明治十一年土地の舊家農を本業となして來た今

の家に生れ、後ち村役場書記を振り出しに村政に與り、次で選ばれて収入役、村長の重要な椅子を占めその貢献するところ大なるものがあつた。なほ區長としての功も稱へられてゐる。長男武夫君は教育奉、目下公平村小學校訓導を家職、熱

と愛とを以て育英のことに當つてゐる。

正氣村幸田

元村會議員  
功七等  
八級

大木仲太郎

四百五

十年間連

綿として

由緒正し

き當家は

代々農を



營み、地方の信望をあつめた名家である  
當主は明治三年の岳降にして先代定太郎  
氏の長男、日清日露の兩役に華々しく武  
勳を樹てたる忠勇の士である。農業の傍  
ら養蠶を營み桑苗改良に力を致し、桑苗  
同業組合より銀盃並に金圓を贈られたる  
功勞者にして、且つ村會議員二期、區長  
二期を歴て、現時養蠶實行組合顧問、縣  
桑苗聯合會副會長に推されてゐる。

豊成村上武射田

元消防組頭 土屋 綠

事實は百の説明よりも雄辯である。自

治功勞者として、且つ本村屈指の名望家

として絶對的信賴の情を寄せられてゐる

氏は、説明抜きの大なる人材である。

明治二十

五年五月

十日を以

て土屋金

治郎氏の

三男に生



日向村木原

元村會議員 佐久間定藏

自治公

共の事に

奮勵して

名譽高き

氏は、明

治七年九



月一日を以て生を享け、資性温良の故を  
以て夙に庶民の信望厚く、村會議員とし  
て活躍すること多年、政友會系の手腕家  
との定評がある。現在は戸數割調査委員  
選舉肅正委員を兼任。興望愈々高きを加  
へてゐる。日蓮宗に信仰を有す。養嗣子  
嘉虎氏は明治三十七年の出生、曩に消防  
組機械係をつとめしことあり、同夫人は  
國防婦人會に關與貢獻、その熱心なる盡  
力には多大の感謝を表されてゐる。

東 金 町

元青年團長 小川 一郎

電話東金二五番

小川家四代前の祖常吉氏は弘化元年千

葉より今の地に移住、雜貨、疊表、壁材  
料、三和土の材料等の營業を始め、後ち  
先々代種吉氏に至つて更に石材商を加へ  
先代莊三郎氏の代に至つて全く今日の基  
礎を築き、町内有數の資産家として重き  
をなし、千葉縣商工聯合會會長、同所得稅  
調査委員聯合會會長、大藏省營業稅審査委  
員、郡會議員、町會議員、學務委員、方  
面委員、救護委員、東金町商工會會長、山  
武郡商工聯合會會長等幾多の名、公職に歴  
任し、現に泰東書道會東金分會會長、千葉  
縣書道會顧問に推されてゐる。當主一郎  
氏はその長男、明治三十五年三月六日の  
出生、大正十一年成東中學出身のこれか  
らの人。今、東金町青年團長、山武郡青  
年團副會長、東金町消防組第一部長に現  
任、土地のために盡力してゐる。趣味は  
謡曲に盆栽。母堂はな子さんも健在、夫  
人保子さんは長生郡一宮町海野周助氏の  
五女、東京三輪田高女出身の才媛、夫妻  
間に一男三女がある。

松尾町大堤

元町會議員 花澤 定吉

温厚醇

朴なる篤

農家とし

て好評普

き氏は、

明治十二



年二月を以て花澤勝太郎氏の次男に生を  
享けた。家業は農であるが、傍ら區長、  
町會議員に推されて功勞多く、また村會  
議員として活躍盡瘁するところ甚大であ  
つた。家族は十名、長男信一君は農事に  
従つて家産の増大に努め、長女ちか子さ  
んの夫君は豊岡村小學校に教鞭を執つて  
ゐる。一家益々繁榮當家のときは稀で  
ある。

横芝町横芝

横芝 三業組合長 土屋 庄一

當家の祖は松平藩士たりしが明治維新

の廢藩により當地に土着せるものにて、  
氏は明治十一年一月十日の出生、幼にし

て寫眞術  
の研究に  
耽り、現  
在銚子犬  
吠岬燈臺  
に出張所  
を設け、一般希望者の求めに應ずるほか  
研究所には門下生數十人を養成し野外撮  
影の専門的技術を教授研究せしめてゐる  
一方食堂を經營し、横芝町三業組合長に  
推されて斯業の發展に活動せられつゝあ  
る。養女菊江さんは國防婦人會に關與し  
てゐる。

福岡村九十根

元村會議員 野老千代松

當家は氏を以て六代目とし、先代周吉  
氏は村役場勤務三十有餘年に及ぶ實直勤  
勉の人格者で、氏はその長男にて明治三  
年十月に呱呱の聲をあげた。家業は農耕



を主に養蠶を副として、篤農家と稱される。早くから自治に参画貢献し、村會議員、區長、學務委員、その他の要職に歴任して手腕を發揮した。令息克己君は大和村小學校に

福岡村九十根

元九十根區長  
勳功七八等

野老幸之助

至誠奉公の一念に満てる氏は、明治十三年十一月の出生にして、同三十三年近衛歩兵第四聯隊に入營、日露戦争には武勳赫々として勳八等並に功七級を下賜された。九十根區長たること三回、その他在郷軍人分會副會長、村農會總代をはじめ

め消防組第九部長、薬工品増産組合支部長、神社總代等を歴任して奔走盡瘁の功勤なからず、現時大日本赤十字社正社員である。令閨よね子さん(明治五年生)は國防婦人會班長に推されてゐる。長男良幸君は警視廳に勤続七年に及びし元警察官、現時習志野化學學校に奉職し、その將來を囑目されてゐる。

正氣村幸田

元村會議員

宇津木善之助



精氣溢  
淵として  
壯者を凌  
ぐ、意氣  
天を衝か  
んばかり

に熾なる氏は明治七年の岳降である。幼時すでに群童の表たるべき素質あり、長ずるに従つて頭腦ますます明晰を加へ家業たる耕耘養蠶の業に従つて家産の大を成すこと頗る多く、村會議員に選ばれては公益の増進を圖つて重選二回に及び

また區長としての手腕もすでに全村民の知れるところ、現在方面委員に推されて社會事業に盡力してゐる。

正氣村幸田

元村會議員  
勳功七八等

辻村政藏

氏は明治十六年生れ、當家四代目として養父喜太郎氏の後を繼いだ人である。當家は古くから漬物業を本業とし、特に梅干に主力を置き、關東一圓を販路として年々の賣上高も莫大なるものである。氏は三十七八年戦役には第三軍に屬し第一線に立つた砲兵上等兵、勳八等功七級の勇士である。會て村會議員、家屋調査委員、區長、選舉肅正委員等に擧げられた在郷軍人分會副會長として正氣村分會基本金問題に奔走、同會今日の基因を築き上げた功勞者である。現在は村會議員その他各種の委員に選ばれたが家事の都合ですべてを辭退し専心家業に當つてゐる。長男君は今、東京市世田谷警察署詰劍道師範助手として奉職してゐる。

日向村大木山

元村會議員 高橋松之助

電話八街四六番



意志鞏  
固にして  
信仰心篤  
き氏は明  
治六年十  
一月二十

五日の岳降にして、東京府下より現地に移住、牛蒡、法蓮草、早生大根等の優良種子を全國各地の卸商に販賣する大問屋を経営今日に至り、種子商として縣下有數と稱へられる。しかも村會議員、耕地整理組合長に推され、大木山畑地の浸水防止に私財を投じて盡力せる信望家である。家族は九人、雇人五人を擁し、長男光君は八王子中學校を出て目下家業に精勵惟れ努めてゐる。

福岡村北吉田

元村會議員 今井由藏



閑地に在  
つて悠々  
自適の境  
に在りと  
は云へ、  
心は絶え

今井家は數百年來の古き家柄、累代農蠶業を營んで來たもので、土地に重きをなしてゐる。氏は慶應三年五月の出生、長じて同家先代治助氏に懇望されて入籍した人で、東京高等蠶糸學校の前身蠶業講習所を出て、當地方養蠶界に至大の貢獻をなしてゐる。夙く公共方面に進出、村會議員、學務委員、區長、國勢調査員、養蠶教師、縣奉職蠶業豫防員等に歴任、隨つてその功大なるものがあつた。今、

福岡村桂山

教育家 齋藤榮藏



當齋藤  
家の家系  
等は詳か  
に知るこ  
とは出來  
ないが、

實に十七代といふ永い歴史を續けて來た名門の家柄、先代亡藤次郎氏は夙に村治郡政方面に關與、即ち元郡會議員、元村長その他に就任、消防組織、小學校合併疏水工事問題等に特に努力して力を擧げた自治功勞者として今に稱へられてゐる。當主はその長男として明治三十七年十二月二十三日生れのこれからの人である。千葉師範を出て白里小學校訓導を振り出しに松尾、瑞穂の小學校を経て、現在は松戸尋常高等小學校訓導として奉職、兒童からは慈父の如く慕はれ、その父兄間の好評噴々たるものがある。なほ令夫人



も教育家、今、白里尋常高等小學校に教鞭を執つてゐる。

陸岡村 植谷

素封家 牛尾 隆

その開祖は詳かでないが、村内に於ける最も古き家柄、名門家、そしてまた唯一の素封家でもある。氏は温良にして篤實、極めて無口の人ではあるが、各方面の事理を解し、別に名公職等には就かないが、その明晰なる頭腦はよく各般の事情を参照して寄附等に應じ、或はまた援助をなし、村民の期待に背かない。先考氏は存生中村會議員、學務委員、村長等各方面に歴任、穩健にして着實味あり、しかも責任感に強かつたことなど、村民の輿望に大に副ふところがあり、村制布かれて以來の名村長として、その死を惜まれた。當主長男君は今、東京醫科大學に在學中である。因に實弟の憲氏は分家獨立して村政に關與、現に村會議員として盡瘁してゐる。

大富村 早船

神 職 早尾千城夫



嚴父 誠三氏  
當家は三十代連綿とし神て職をつと

めたる家柄である。先々代海雄氏は二荒神社、日光東照宮、伊勢大神宮の神職たりしことあり、先代誠三氏は郡内各村の神社を兼職した。文字通り土地の名門である。當主の氏は明治十八年九月二十三日を以て先代の長男に生れ、東京市大正中學校に學びし秀才、早尾神社に神宮たる傍ら村會議員、區長を経て現時債務調停委員を兼ね



ある。當主の氏は明治十八年九月二十三日を以て先代

日向村

元村會議員 野口 竹藏



盆栽に趣味深く日蓮宗に信仰篤き氏は、温良なる精

てゐる。令弟矢指磨氏は現役騎兵大尉、同道雄氏は東京市相生無盡會社員、なほ氏の叔父中には聯隊長、博士、外交官、學士等の名士がある。因に早尾神社は大富村早船にあり、日本武尊を祭神とする部落の氏神にて古鏡、八咫鏡、水晶瑪瑙木刀、神號額、日本武尊神影畫その他の寶物を藏し、檀家五百戸をかぞへる。

推され、自治に寄與せるところ甚大である。養嗣子保氏は曩に村會議員として活動し、現在は滿洲國に在つてその手腕を縦横に揮つてゐる。

福岡村 大沼田

獸 醫 内山爲之助



内山家は代々農並に漁業を相繼いで經營、而も土地

網主として重きを置かれて來た家柄である。先代佐右衛門氏は俊敏の手腕家、村會議員をはじめ他の公職に就任、縦横に活躍、その功また甚大なるものがあり、常に一村の重鎮として敬仰された。當主はその次男で明治十二年八月四日の出生、早稻田中學校に學び、後ち駒澤獸醫學校に業を了へて歸郷、現に獸醫を以て地方のために斡旋盡力してゐるが、斯

業界にあつては眞に錚々たる名を馳せてゐる。趣味として植木、義太夫があり、その義太夫に於けるや全く堂に入つたもの、謂はゆる玄人も跣足の觀ありとは、強ち噂さばかりではない。

白里町

齋藤醫院長 齋藤 克士

電話白里三二番

名刀圭家として一般患者は勿論、杏林にも信望洽き氏は、明治三十八年七月三十日の出生にして、春秋に富み、技術に優れ、加ふるに懇切温情を以て患者に接し、設備よく整ひ、産婦人科及び外科醫院として並びなき名聲を博してゐる。東京醫專昭和五年の出身にて、現時校醫、青年學校醫を囑託され、學校衛生に竭してゐる。因に嚴父幸之助氏は方面委員に選ばれて社會事業功勞者である。

源村 瀧澤

今井醫院



今井醫院院長 今井 長八

當醫院は大正三年現院長たる今井總明氏の設立に係り、各科診療に従つて好評普く、殊に設備の優秀と完全とを以て聞えてゐる。院長今井氏は明治十七年八月に生れ、東京慈惠會醫專卒業後、三井慈善病院に研究勤務すること三ヶ年、次で現地に開業するや忽ち隆盛を來して引續き今日に至り、この間村長一回、村會議員五回、在郷軍人分會會長八年、郡醫師會副會長二期を歴任して現時郡醫師會會長、産業組合長、方面委員、村會議員、學務委員、縣醫師會評議員たる外村醫、學校醫を囑託されてゐる。ウメ子夫人は印旛郡酒々井町の出、長男武雄氏は慈惠醫大を出て目下母校に小兒科を研究中である。因に當今井家は土地有数の舊家にて、先代惣作氏は村長、村會議員たりしほか、地方

金融界の重鎮として令名があつた。

丘山村小野

産 婆 篠崎 ちよ



讀書に  
趣味を有  
し現代的  
知識に博  
く通じて  
ゐる女史

は、温雅優美の性格所有者にて、人氣沸騰ともいふべく、業界にもまた噴々たる信望を博してゐる。明治二十四年五月二日の誕生にて、千葉醫科大學附設産婆科に學び、看護婦の免許狀も有し、卓抜の技術と懇切なる處理とは妊産婦人絶讚の的である。現時山武郡産婆會評議員に推され、明晰の頭腦と潑刺たる手腕を發揮してゐる。

大富村早船

産 婆 中島 たか

を弘通、人心を開發、國家鎮護、人民繁昌、王法興隆を祈願した。また四大天王尊は佛工運慶の作、天部の守護神にして正法を擁護し、惡魔を降伏し、國土の兵亂を退け、衆生の安全を益するといふ。往時は境内廣く、東西四町餘、南北三町餘、棟數十三をかぞへ、徳川時代には十石二斗の御朱印を賜はり、賽客常に市をなして法運隆盛を示し、引續き今日に及んでゐる。寺寶に获生徂徠自筆の緣起一卷があり、舊二月十五、六日を釋尊緣日舊八月二日、三日を四天王緣日として例祭を執行してゐる。現住職は第五十四世戸村龍快師、法燈興隆のためにと盡瘁貢獻してゐる。

松尾町八田

金刀比羅神社

當社は後醍醐天皇の御宇讃岐國金刀比羅大神を奉勸遷所せられたるものにして後奈良天皇の弘治年間、坂田城主井田因幡守友胤が殿堂を造營して祈願所となし

才媛と謳はれ賢女と讃へられた女史は明治十八年十二月の誕生、資性温順にして明朗性あり、三十年前より産婆を開業して聲望



高く、温雅な人格と卓越せる技術とを以て好

評普ねく、只管に隆昌の限りを盡してゐる。當家は本村隨一の舊家と稱され夫君松四郎氏は村會議員其他のために大いに盡瘁された人である。長男嚴君は横濱市鶴見小學校に教鞭を執り、次男博君は警視廳に勤務して、共に將來を囑望されてゐる。

白里町四天木

産 婆 石井 アイ

女史は佐賀縣産婆養成所を出て、後ち帝大産婆講習科に入つて更に實地を研究して社會に立つた人、第二國民の産婆役

に盡瘁すること實に三十有三年、土地の信望極めて厚く、斯界に於ける重鎮として令名を馳せてゐる。明治十五年四月十五日の出生、



の出生、

曩に産婆會代議員、國防婦人會理事として活躍貢獻する所大なるものがあつた。なほ次男正君は佐倉聯隊に入營、今、滿洲に出動してゐる下士官である。

縁海村松ヶ谷

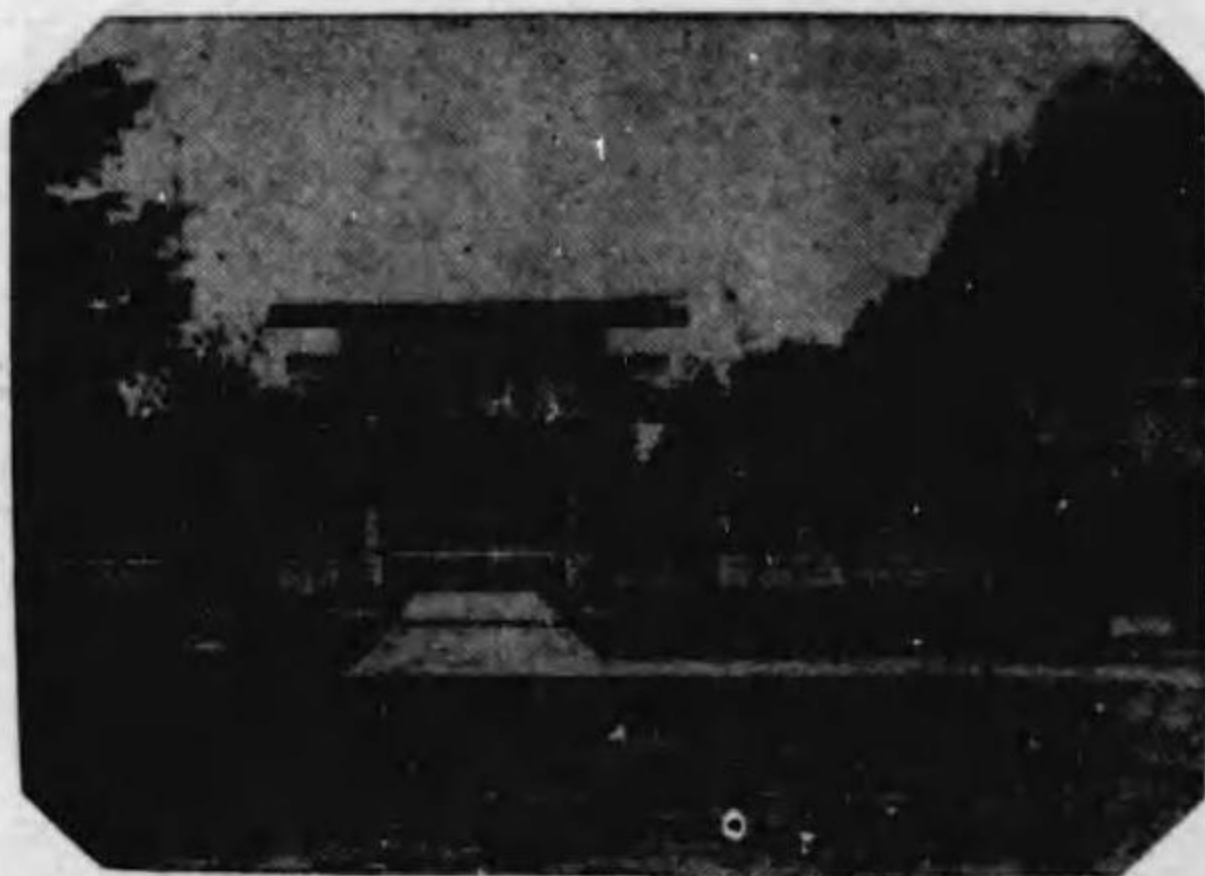
住 勝 山 戸 村 龍 快

松ヶ谷は伊達な村

投げ島田揃うて御釋迦詣り

昔の麥搗歌にまで謳はれた當山は、村上天皇御祈願所として創建された由緒ある古刹である。本尊釋迦如來は毘首羯磨の作、大同元年弘法大師歸朝の砌、惠果阿闍梨より拜請せしを當山に安置、釋教

た。その後兵燹に罹りたるも寛文年間に再建成り、今日に至つた。祭神は大名持命。日清日露兩役に出征兵士の戰勝祈願をなし神徳顯著なるものがあつた。境内面積二段五畝餘、拜殿は間口五間奥行三



間中殿は間口二間奥行三間他に社務所、神符授與所等あり靈城に入れば森嚴の氣

充ちて心を打つものがある。毎年元旦の参拜者には神酒を好きだけ飲ませる神事あり、正月十日と十月十日を例祭日となす。氏子は近郷各村に及び、崇敬者四萬といはれ、縣知事等名士の参拜を受け

てゐる。社掌は获本順氏。氏子總代は塙榮太郎氏ほか七名である。

白里町四天木

郷 社 稻 生 神 社

當社は寶曆九年山城國紀伊郡稻荷本社を分祀せるものにて、祭神は豐受入姫命



司 社 澤 鶴

である。五穀豊穰、商工業繁榮、衣食住の守護神として郷民の崇敬厚く、古くは

十七ヶ村の總社であつた。明治七年郷社に列せらる。社寶に正四位泰親盛の親書を藏し、基本金一千圓、田地一町八畝餘の基本財産あり、境内六百四十坪、堂塔燦としてゐる。氏子四百八十戸、現社司鶴澤秀治氏は明治三十一年の出生、八ヶ年餘の歳月と多額の自費を投じて當神社の由緒沿革を調査せる功勞者である。

大 網 町

天理教瑞穂支教會



長藤權大講義

設立されしものに濫觴し、同四十二年三月二十六日に至つて支教會に昇格したものである。天地の理を根本教義とし、夫婦の道を説き、親子の愛を述べ、至信奉公の義を教へて衆庶の煩惱憂苦を救ふこ

當支

教會は 明治二 十五年 宣教所 として

と頗る多く、年毎に信者の數を増して今では一千名以上の多數をかぞへてゐる。配下教會も各所にあり、即ち山武郡下には豊成村松尾宣教所を有し、長生郡では水口村及茂原町の二ヶ所に、市原郡下では須東、平三の二ヶ所、千葉市内では更科にそれ〴〵所屬宣教所が置いてあり、今後ますます盛大ならんとしてゐる。現主宰者長藤安五郎氏は明治五年十二月二日の岳降にて權大講義の資格を持ち、山武郡支教會並に夷隅分教會の役員も兼ねてゐる。

片 貝 町

日光大教會 栃木分教會

片貝支教會

本教會は明治三十六年二月二十六日、今の地にはじめて創立、布教と共に信徒の數を増し、同四十一年宣教所となり、次で支教會に昇格して、現在に至つてゐる。現教殿は昭和七年に竣成したもの、その建坪四十六坪餘、宅地二百六十坪餘事務所七坪餘、休息所二十六坪餘等ある

東 金 町

鳳凰山本漸寺

當寺は、往昔は松村の内にあり同夢山願成就寺と號し、禪宗に屬し七堂伽藍の大寺であつた。その後金谷村に移り、改宗し巨徳山東漸寺と名づけ、時の貫首は權大僧都日親上人である。大永年中現地に移轉し、衆徒百房に及び、鳳凰山と山號を改めたが、埴生長柄市原山邊等の郡知行たりし酒井氏没落後一時僧房の減少を見、徳川時代となるや御朱印三十石のほか山林を賜はり再び往昔の繁昌を取り

戻した。上總七里法華十箇本山の一にして、後に山を負ひ、前に八鶴湖を控へ、



檀家五百餘、前島治平氏、小川莊三郎氏山下傳太郎氏、ほか五氏を總代とする。住職權僧正夏目日良師は明治元年三月十日の岳降である。

成 東 町

法高山本行寺

當山は本土寺の末寺、開山以來實に六

百數年を経たる古刹、日蓮宗派に屬し、法燈相傳へて今日に及んでゐる。境内三百餘坪、間口五間、奥行五間半の本堂、庫裡、鐘樓堂を存立し、今より約七十年前までは多くの寺寶を秘藏してゐたが、目下は一物もない。二月十七日の涅槃會四月八日の降誕會、七月十六日の施餓鬼十月十三日の會式會など盛んに執行される。現住職は大井日潮師、檀家八十餘戸信徒三百餘戸あり、市原茂三郎氏外五人の檀家總代がある。

增穂村清名幸谷

開陽山東光寺

當山は顯本法華宗に屬する古刹にして本尊は宗祖日蓮上人である。京都明漢寺の末寺にあたり、古來男女の崇敬參拜するもの頗る多く、自力本願の道場としてその名遠近に著はれ、今も春秋二回の彼岸會をはじめ二月二十八日の開山會四月八日の釋迦誕生會、四月二十八日の雨乞會、七月二十四日の施餓鬼會、十月十

三日の會式會は盛大言語に絶するものあり、爲めに靈域も參詣の人々で埋まつてしまふ有様だ。境内三反歩、本堂、庫裡等の建造物がある。檀家は四十六戸にして、總代には鶴澤元吉、加藤喜作、中村文雄の三氏が推されてゐる。住職藤平日尙師は人格識見共に高く、至信至樂の境地から社會救済のため寢食を忘れて奔走し、檀徒は勿論一般庶民の尊敬措かざる大知識である。

豊 成 村 宮

長光山蓮成寺



矢田 住 職

古くは眞言宗の巨利にして蓮臺寺と稱せる當山は、長享二年改宗して顯本法華宗となり、延治元年僧日朝開基し蓮成寺と改めた。天正元年宮外四ヶ村共有地を

布留川出雲寺に乞ひ、地形を正し、慶長十四年現在地に移つた。本尊は十界曼荼羅にて海上平穩の靈顯がある。境内三百七十四坪、本堂、庫裡、鐘樓、山門を有し、寶物には日蓮上人御眞筆を藏す。住職矢田智光師は新潟縣長岡市の人、明治元年七月の岳降である。

鳴濱村作田

### 法興山東光寺

當山は京都智積院の末寺、大日如來を本尊となす新義眞言智山派に屬し、開基開山は弘法大師、興教大師であるが、その由緒沿革等は火災に焼かれて不明であるは誠に遺憾のことである。現住職は小埜良恵師、栃木縣芳賀郡市羽村出身、京都智山專修學院卒業當年四十八歳、昭和二年來の住持、爾來本堂の再興に銳意し昭和十二年新築成つた間口八間半、奥行六間の本堂は、實に師が十一年間の苦心の結晶である。檀家は今、四百軒ばかりあり、總代として村長齋藤彦太郎、助役

石井桃太郎氏外四名がある。なほ當山寺領として三反一畝歩餘の地所がある。

睦岡村埴谷

### 寶樹山常福寺

當寺は大同二年の開基に係り、元眞言宗であつたが、約四百五十年前、日蓮宗日意上人と時の住職との法論の結果、日意上人が勝つた爲め日蓮宗に改宗今日に至り、三寶諸尊及び日蓮上人を本尊とする。山門のすぐ側に仁王尊あり、子育仁王と稱し靈驗あらたかである。本寺は東葛飾郡小金町の本土寺。檀家六十戸。總代は渡邊武左衛門氏、伊澤清次郎氏、遠藤眞一郎氏の三名にて、住職は學徳兼有する關本龍潭師である。

二川村芝山

### 天應山觀音寺

當寺は今を去る千五十年前天應年間藤原繼朝朝臣の創建で山號に天應山の三字を冠した理由は創立の年代を永く後世

に記憶せしめんがためであつた。本邦有数の古刹である。その後天台宗第四祖慈覺大師東國教化の砌り淺草觀世音と共に當山を再興し、七堂伽藍を建立し、八十有餘の支院を置き、爾來關東の一大梵刹



その本堂

としてその名字内に轟いた。本尊十一面觀音は慈覺大師の作といはれ、秘佛として寶扉を開かず、たゞ御前立本尊のみ三十三年毎に開帳する。厄除觀世音と呼ばれ、靈驗あらたかにして遠近の信徒群參

してその功德を受けてゐる。山内に鎮座の仁王尊は毘首羯磨の作にして成田不動



觀音寺

尊と並稱される名佛である。現住職和田靜貫師は當山第五十二世に當る。

東金町

### 羽黒山妙福寺

當寺は日乘上人の開基に係り、大永八年丘山村黒田より移せるもの十界尊佛を本尊とし、顯本法華宗に屬し、丘山村起善寺を末寺に持つ。日蓮上人木像、古道觀音像等の寶物を藏し、境内は東金公園の一部をなしてゐる。檀家百五十戸、安田廣、村上熊吉、秋元貞治、西尾榮藏、他三氏を總代とし、住職金坂乾受氏は、

當山主たること二十數年の後、昭和九年から同十一年まで東漸寺に移つたが、再び當寺に戻つて今日に至り、堂宇改築を完成せる人である。

睦岡村埴谷

### 昌谷山長光寺

眼病、血の道、火難除などに靈驗あらたかであり參詣者の踵を接する當山は永正十一年の開山、寛文九年に今の地に移し、今日に至つてゐる。現地は井上筑後守の寄進にかゝるもの、日蓮上人、日朝上人を本尊となしてゐる。現住職は飯塚通妙師、檀家總代に鈴木敏敬、海保利三郎、平山要三氏等あり、境内にある東西二十二間、高さ十間の古木の枝垂櫻は著名なもの。毎月八日帝釋様の縁日がある

鳴濱村本須賀

### 本清山大正寺

當寺は、大正九年舊成就院及び藏音寺の二刹を合併して新に草創されしものに

て、新義眞言宗智山派に屬し、本尊は佛光遍き阿彌陀如來である。綠海村の蓮臺寺を本寺となし、境内面積千二百五十七坪にのぼり、間として幽邃の氣に満ち自



住職岩崎恭信師

ら襟を正さしむるの感がある。これに加ふるに、本堂、山門、鐘樓の堂宇をはじめ、子安堂、觀音堂等境内に建立され善男善女の來り詣でるもの頗る多い。檀家は近在に二百有餘軒をかぞへ、總代の人人はいづれも信仰に篤く、よく外護の本分を全うし、寺内の經營に盡すところが多々ある。現住職岩崎恭信師は明治二十五年の岳降にして昭和五年以來當寺の法燈を守つて今日に至り、學徳兼備の名僧と敬はれて檀徒の間に人望頗る厚きものあり、また天資溫厚篤實なる人格者でもある。

東金町田間

高福山上行寺

當寺は、正應元年、日蓮上人御年五十  
一歳の時の設立にて、開山は日辨大上人  
北條武藏守高福院と名づけ、後ち現寺名  
に改めた。草創以來六百五十有餘年に及  
び、本門法華宗に屬し本尊は十界尊佛で

ある。本山は茂原町の鷲山寺、末寺に長  
久寺及び中通寺がある。檀家百五十戸、  
山田源之助氏、篠崎順三氏、近間豊三氏  
古川恭助氏を總代とする。住職平田日亮  
師は昭和十一年の就任である學徳兼有の  
大知識にして、信徒間の信望頗る厚い。  
因に境内面積三段歩、田四町、畑四段の  
基本財産がある。

君津郡

木更津町

千葉縣立木更津中學校

當校は明治三十三年二月千葉中學の分  
校として設置を認可され、當初は眞舟村  
西祥雲寺を假校舎としたが同年六月第一  
期工事の竣工を見同七月開校式を挙げ明  
治三十四年には早くも分校を廢止して、  
木更津中學校と稱し三十有餘年に亘り當

地方の中等教育界に大いなる足跡を残し  
多數の人材を輩出してゐる。初代福井校  
長以來十代現校長は大塚平氏である。在  
席生徒數七百名、校内諸施設完備し、當  
地青少年の教育に多大の功績を爲しつゝ  
ある。

富津町

富津尋常高等小學校

本校は全町を學區となし現在尋常科十  
六學級、高等科二學級、青年學校二學級  
に及ぶ。兒童數八百九十名、青年學校生  
徒三二六名で職員は廣瀨雄校長以下二十  
一人。國體明徴を第一義として職員兒童  
一體の教育行はれ以て教育の精華を隨所  
に發揮しつゝある。特殊施設として草花  
栽培、作法教授、各週金曜日の貯金等の  
外に海苔養殖といふ郷土的勞作施設を持  
つてゐる。缺食兒童三十六名、學用品給  
與兒童五十名にして之に町より年額百圓  
の豫算を配當されてゐる。當校はその他  
飲料水及給水装置タンク、學校治療等諸  
般の學校施設は地方稀に見る整備の充實  
を見せてゐるが之は歴代町長の眞摯なる  
教育的熱意と歴代校長職員の努力の具現  
であり、將來の町中樞人物の育英に多大  
の裨益を與へつゝあり。因に同校奉安殿  
は現廣瀨校長の寄附になるものであると

久留里町

久留里町信用販賣組合

當組合は大正二年六月の創立である。

當時當町金融機能は町内四五の金融機關  
と金融業者に獨占専行され町産業並に商  
工の金融に間々圓滑を缺くところあるに  
鑑み、眞に町商工業の繁榮と金融の圓  
滑を期するに町民相互扶掖に據る外なし  
として久留里信用組合の創立を見たもの  
で、當時の影山市之助氏組合長、出口專  
務理事、組合員一同の協力一致の努力は  
逐年組合業績の發展を來し、昭和七年有  
限責任四種組合となり、昭和十一年五月  
保證責任に變更して現在に至つたもので  
あるが、現在組合員六七名。出資總額一  
萬七千二百圓に達し、差引純財産二萬九  
千六百餘圓、差引損益計算剩餘金二千九  
百餘圓、購買三千二百餘圓、準備金九千  
九百餘圓、特別積立金百七十圓餘となつ  
てゐる。現組合長出口波五郎氏は大正九  
年就任、爾來組合發展の爲め多大の功績  
あり組合員の信頼を受けてゐるが氏は元  
町會議員、收入役等の重職にあり、一昨  
年千葉縣支會より功勞者として表彰され

てゐる。因に明治二年六月の岳降である

大貫町吉野絹

吉野信用利用組合

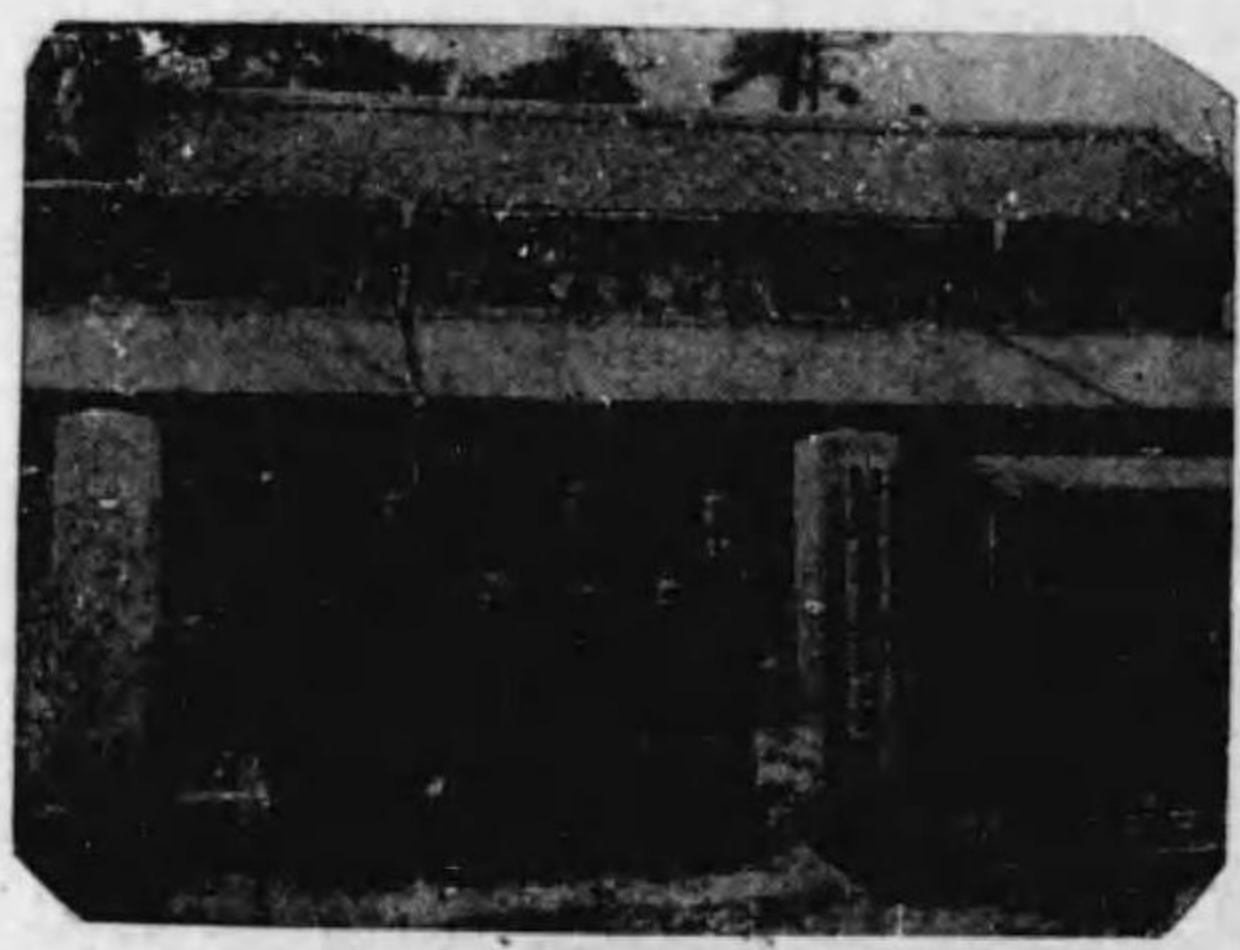
當組合は約千四百名の組合員を擁し、  
出資四三六〇〇(一〇十五圓)、保證金總  
額六萬五千四百圓の保證責任組織にて、  
準備金五萬圓弱、記念事業基金九千四百  
圓、借入金二萬六千五百餘圓、餘裕金五  
萬一千七百圓の運用資金を有し、貯金は  
零細貯金に意を注ぎ漸次増加の傾向を辿  
り、これと相俟つて餘裕金の増加となり  
つゝあるに鑑み、一部は借入金の償還に  
一部は特種債權の購入に資り、利用部は  
累年に亘る利用増進の注意の結果漸次良  
好なる成績を收めつゝあり、殊に常時施  
設の精米機、貨物自動車に於ては著るし  
い。購買部では肥料の配給に於て顯著な  
る成績を示し、昭和十年度から家庭藥を  
取扱つて好評を博してゐる。倉庫事業も  
逐年増加の趨勢にあり、堅實なる事業方  
針は、組合をして益々優良たらしめてゐ

る。組合長矢部八彌氏は明治二年八月の  
岳降、創立以來の組合長にて、先祖は代  
代名主をつとめ、先代は戸長をつとめた  
人材である。

佐貫町佐貫

佐貫信用販賣組合

當組合は大正十四年九月有限責任信用



(同一員役合組業産)

販賣購買組合として設立され、昭和九年

二月保證責任に改められた。佐貫町一團を區域とし、組合員三百十餘人、準備金及び各種積立金三千八百餘圓、借入金四千八百圓を擁し、最近經濟改善の跡、顯著なるものありて事業成績良好を極め貸出三萬三千餘圓、貯金も殆ど同額にして一般組合觀念の増進著しい。穀貯藏庫一棟を有す。現組合長印東利平氏は組合創立當初から理事として活躍しその功績多大である。

昭和町奈良輪

奈良輪漁業協同組合

當組合はその歴史古く三十有餘年の創立になり、昭和十年十一月組織變更をなし、部落主要産業たる漁業開發の爲め諸整備の充實をなし、目下の全国的な地方漁業不況への對策整備をなし着々と業績の發展を見つゝある。鈴木組合長理事並に安藤、長谷川兩理事、山口、石井兩監事以下組合全員の熱心なる協力は益々業績向上を辿りつゝあるが、現在組合資金

(昭和十一年末)六千六百圓を擁し漁獲高六萬餘圓を上げてゐる。昭和十年に於いては一萬七千餘圓の漁獲高でありその増加が四萬數千圓を示してゐる處に本組合の將來と組合長以下の大いなる功績が窺はれるのである。當組合の最近の漁撈不振打開の方法として、海苔養殖に劃期的大擴充をなし十萬枚より百二十萬枚生産の大飛躍を見せたのである。當組合の將來は既に約束されてゐるといふべきである。組合長鈴木芳太郎氏は現に町會議員、方面委員の要職にあり、町政の上にも多大の貢献せる人。因に當組合出資總額は千三百九十五圓である。

巖根村高柳

巖根村信用販賣利用組合

當組合は農村産業不振の打開、農家經濟の更生を期して現役員の發起により大正十二年十二月有限責任四種産業組合として創立され、昭和八年四月保證責任に變更現在に至つたものでその間安藤組合

長以下全役員組合員の協同一體的努力は累年組合事業の發展を來し縣下有數の組合としての内容と機能を確立するに至つたものである。昭和十一年の事業報告によると出資拂込現在高四萬五千餘圓、組合員五六六名、差引純財産七萬餘圓、損益計算差引剩餘金二千四百餘圓、貸付金總額十七萬餘圓、貯金廿二萬餘圓、購買四萬三千餘圓、販賣六萬六千餘圓となつてゐる。以上の如く稀れに見る優秀な成績を擧げてゐる。因に現組合長安藤助次郎氏は、縣聯合會長をも兼ねてゐる組合界の重鎮である。

松丘村廣岡

松丘信用販賣利用組合

當組合は、大正二年有限責任松丘信用組合として創立され、同十五年に信販購利の四種事業を經營して昭和八年現在の保證責任に變更されたのである。大正十五年産業組合中央會縣支會より表彰を受

けし成績優良の組合にて、組合員八三〇名をかぞへ、出資一七四六〇(一〇二二〇圓)をかぞへ、貸付總額九萬九千餘圓、貯金十二萬五千五百餘圓、購買價額二千圓弱、販賣價額一萬二千二百圓の概況を示し、村農會と提携して柿の澁抜加工をした上、年々三千圓餘を東京方面に出荷してゐる。目下醫療施設をなすべく計畫準備中である。



潤米安太郎氏

潤米安太郎氏は先考忠右衛門氏長男にて明治三年三月の岳降、村會議員五期、平山區長二期をつとめ、現時學務委員、戶數調査員等を兼任する。長男恒君は支那事變で名譽の戦死を遂げた。尙常務理事宮崎金四郎氏は明治九年の生れ、村會議員を兼ねてゐるが、氏もまた村内に重きをなしてゐる。



龜山村坂畑

龜山信用販賣利用組合

業統制を計り經濟更生を主眼として創立され、組合員六百八十五名を算する。薪炭果實の産出多く昭和十一年鐵道の開通と共に販路擴張して發展著しく本村に當組合の存在は、最も重大な役割を果すものである。出資一口十圓、總額四萬三千四百圓に上り貸付總額十萬二千三百餘圓、貯金三萬五千六百餘圓、購買價額一千七百餘圓、販賣價額一千八百餘圓の概況を示し瓦斯利用により柿の澁抜きをして東京方面に共同出荷の年額約二萬圓に達する。大正九年中央會縣支會より、同十二年中央會頭よりそれ／＼表彰されし

優良組合である。組合長野村八十八氏は明治十九年一月の岳降。昭和十年五月の就任にて、村會議員三期目、勸業委員、在郷軍人分會顧問等を兼ねてゐる。

小糸村大井戸

小糸村信用販賣利用組合

當組合は創立以來三十有一年を経過し村産業の發展に、農家經濟の打開に、金融の圓滑なる運行にその裨益せる處極めて甚大である。現在は既に四種組合として村産業の中樞的存在として各般に亘り極めて活潑なる機能を發揮なしつゝあるが、現組合長は大正十三年以來十五年に及びその間組合員一同と協力一致その指導統制のよろしきを得て益々内容の充實と發展を來し組合員一同に多大の信頼を受けてゐる。昭和十一年中の報告書に依れば、差引純財産十萬八千餘圓、貸付金十二萬餘圓、損益計算差引剩餘金七千二百餘圓、組合員貯金二十二萬餘圓、販賣四萬四千餘圓、購買二萬九千餘圓に達し

てゐる。又農業倉庫の設備も完備してゐる。因に鈴木貞一組合長は明治十七年一月一日の岳降にして、元収入役として村財政のことに盡力し現在村會議員として村治方面にも努力しつゝある。人格温容にして高潔なる人士である。

### 秋元村西粟倉

#### 秋元村信用販賣購買組合

當組合は秋元村一圓を區域とする四種産業組合にして、その創立は明治三十九年八月にして當時は信用一種組合たり、昭和八年四月保證責任に變更と同時に四種組合となつたものである。當組合の村産業並に農家經濟の上に及ぼせる貢献は甚大なるものあり。主唱發起人は山田健造氏、初代組合長長谷川隆治氏、現二代組合長は山田重太郎氏、副組合長前田康哉氏である。出資總額一萬四千五百餘圓、組合員四一七名を數へ、貸出金總額十二萬九千餘圓、組合員貯金一萬九千餘圓、差引純財産六萬餘圓、損益計算剩餘金一

千九百餘圓、準備金四萬五千餘圓、特別積立金千二百圓となつてゐる。(昭和十一年度)

### 三島村大岩

#### 三島信用販賣購買組合



伊田組 伊田組 伊田組 伊田組  
長 合 組 田 伊  
係 設 一 和 合  
立 立 月 六 是 昭  
に に の 年 昭  
係 係 係 係

當初有限責任なりしも、後ち保證責任に變更した。創立發起の中心となつたのは青年團である。組合員二六三名、出資六千八十圓を算し、三島村一圓を區域とする。貸付金五千餘圓、貯金九千餘圓、購買五千圓、販賣三千七百圓に上り薪炭の共同販賣に新機軸を出さんとしてゐる。組合長伊田源四郎氏は明治二十六年の誕生、千葉鐵道隊勤務の工兵上等兵にて日獨戦争及びシベリヤ事變に出征し勳七等

に叙せられた。在郷軍人分會長、青年團幹事、區長を経て、昭和十二年五月當組合長に推され、村農會總代、三島軍友會常務理事を兼ねて活躍中である。夫人ひろさんは國防婦人會三島支部長、長男晴美君は農學校在學中、兩親健在である。尙ほ常務理事は磯部良輔氏が現に任じてゐる。

### 周南村宮下

#### 周南信用販賣購買組合

電話八重原四番ノ乙

當組合は大正七年有限責任組織にて設立され昭和八年保證責任に變更した。組合員四七四名、出資三六二五五圓にして周南村一圓を區域とし、貸付金十四萬五千餘圓、貯金二十七萬一千二百圓、購買二萬三千餘圓、販賣六萬三千圓、利用料二千二百餘圓を算し經營は堅實、成績頗る良好である。殊に副業(養鶏製繩)獎勵のため、獎勵金の交付や資料購入の補助及び指導をなせるは、最も特色とする

ところであり、農業倉庫三棟、共同作業場三棟を有する事も他に誇るに足る。産組中央會、同縣支會、同郡部會等より表彰三回に及ぶ。組合長は創立當初から川上覺藏氏である。

### 富津町

#### 富津町長 織本 泰

當家は土地隨一の名門である。藤原秀郷二十二世の後裔下野棟重寛に始まり十一代三百有餘年をつたふる舊家にして、代々里正(大名主)を勤めた。曾祖父織本外記氏名を道定といつた。父君履道氏は夙に産業に意を注ぎ、殊に教育に功勞あり。氏はその男として、明治七年二月二十七日の岳降、慶應義塾に學び、宮内省圖書局に職を奉ぜし後歸郷して嚴父の衣鉢を次ぐ。元郡會議員、郡誌編纂委員、町學務委員等々の公職にあり、地方自治産業の發展に多大の功績有り、高潔温良の人格と共に町民多大の推輓を得、現在富津町長、漁業組合顧問、在郷軍人分會

顧問等の重職にあり鋭意町政のことに盡瘁す。氏は又松崗と號し漢詩和歌俳句等雅趣に秀で、編著書二十餘部あり。家族は省子夫人と二男二女あり、四男一女の孫さんもあつて常に春の如き和樂の家庭なり。

### 長浦村上藏波

#### 長浦村長 中村 利雄



機に臨んで卓越した識見と縦横の才腕を揮ひ自治界

の花形といはれる氏は、民政黨系の村長として、町村長中に重きをなしてゐる。明治三十年四月二十五日の出生。先考西三氏の男、家業は代々農を營み、祖父傳造氏は村會議員その他の公職に擧げられて公共のために盡力貢献せる人望家である。氏は郷校卒業後笈を負て上京し、

東京正則英語學校に修業した。その後郷里に歸り、家業に精勵の傍ら社會公共のことに盡瘁し、推されて収入役となるや在職十年の長きに及び、引續き村長に選任今日に至り、縦横無礙の敏腕は、全村民の等しく心服し畏敬するところである。母堂のぶさん健在し、令閨はるさんは長浦村阿津米三氏の令妹、長女靜江さんは木更津高女在學中の才媛である。

### 根形村三ツ作

#### 根形村長 遠藤 正信



博識多才、統御の才に長じ、全村民の信望をあつめ

てゐる氏は、収入役、助役等を多年歴任せる自治の蘊蓄深き敏腕家にて、本村勢の發展と村民の福祉増大に寄與せる功績は筆紙に盡し難きものがある。村會議員

區長をつとめたる先代清藏氏の長男として明治二十五年十月十九日に呱呱をあげては根形村産業組合理事にも擧げられた材幹にて、夫人たき子さんは根形村谷中の渡邊房吉氏の愛娘、母堂はん子さんは古稀に近く、なほ健在する。

### 平岡村三箇

平岡村助役 同農會長 平井政次郎

政次郎氏は君津郡昭和町神納の出生にして明治四年五月の岳降である。平井家に養子となりし人、養父伊吉氏は當村三高校長在職中に死去、教育界に多大の功績を残した人。氏は千葉中學卒業後檢定試験にて教育界に入り二十餘年勤続、退職後村治に意を用ひ、平岡村助役、同農會長、同産業組合理事、區長等の重職に在任功績大なり、村民の信望を集め村内切つての有力者なり。

### 馬來田村眞里谷

馬來田村眞里谷 野村惠一郎

村内有數の舊家として又本村隨一の素封家たり。先代秀吉氏は曾ては縣會議員として功績あり、地方切つての名望家である。當主野村惠一郎氏は明治三十年四月二十六日の生れ、幼時より秀才の譽高く、帝國大學出身にして意を専ら地方行政の刷新と圓滑なる運行に用ふ。現在馬來田村長、農會長、消防組頭等の要職にあり、村政諸般のことに眞摯盡瘁し村民多大の聲望に應へ、併て縣會議員として地方行政並に産業に盡力なすあり。資性温厚にして高潔なる人格は最近その温柔なる風格と共に縣政の將來に寄與大なるあらんと多大の期待を以て俟たる、人、家庭極めて圓満なり。

### 松丘村大坂

松丘村長 四宮保

當村は人口四千餘人土地全面積の約五分の三は山林にして田面積は五分の一の約四百町歩である。總產物價格は昭和十一年度に於いて四十三萬餘圓を示し、學

校、消防、圖書館等の設備も年々其の充實度を増しつゝある。殊に當村の米產額並に他の農産物の累年の遂増は實に顯著なるものあり爲めに昭和七年の總產額二十九萬餘圓より昭和十一年の四十三萬餘圓への大飛躍を見せたことにも、村内の協力一致一糸素れぬ統制の下に於ける更生發展が窺はれる。又産業組合、村農會養蠶實行組合等の實質的發展も他村の模範たり。現村長は村内屈指の素封家であり且つ人格圓満なる紳士にして村内最大の人望家である。村長の外、教育會長、國防協會會長、衛生組合聯合會長、村會議員等の要職に歴任し、寧日なき精勵格闘は今後村治各般の發展を約束するものであり、村民の中樞的人士として大いなる翹望を荷つてゐる。

### 中川村

中川村長 吉田岩司

當家は村内有數の家系を傳ふる舊家であり且資産家である。嚴父清助氏は村會

議員として活躍大いに將來を囑望された人格高潔にして博識の人であつたが惜しむらくは氏の幼時人々痛惜の裡に長逝した爲めに氏は祖父の嚴格なる膝下に大成した。幼にして俊秀を以て知られ長ずるに及び人格圓熟「人を遇する春風胎蕩の如く身を律する烈日秋霜の如き」氏の風格はその内抱する眞摯熱意の資性と共に村民多大の信望を博し現に村長として村政各般に盡瘁するのみならず消防組頭、産業組合理事、銃後義會長としての寧日なき精勵は益々其德望を高からしめてゐる。家庭はかしく夫人との間に三男二女あり頗る圓満を極めてゐる。因に夫人は現在國防婦人會分會長、愛國婦人會中川分團長たり、内助の譽が高い。尙氏は明治十七年四月二十七日の岳降である。

### 中川村大鳥居

中川村助役 近藤謙藏

當家は土地有數の舊家として連綿十數代を傳ふる家柄である。元山口姓を名乗

つてゐたが、曾祖父權右衛門氏の時、領主より苗字帯刀を許され、近藤の姓を賜り、爾來近藤を稱へるに至つたものである。祖父も亦名主を勤め、嚴父は區長を勤め夫々土地發展の爲めに多大の功勞を遺してゐる。氏は周藏氏の長男として此の世に生を享け、若くして既に村政諸般の事を思念す、二十四歳の時既に村會議員、大鳥居區會議員に推され、爾來方面委員、耕地整理組合理事、助役等を歴任終始一貫、奉公滅私村治に精勵して信望を博し多大の貢獻を残しつゝある。家庭はきち子夫人との間に四男七女を擧げ現在四男三女ある子福者にして家庭極めて圓満である。因に長男英氏は、木更津中學出身元青年團長たり。將來を囑望されてゐるが、既に令孫一人ある。

### 周西村人見

周西村長 守吉司

竦腕家と謳はれる氏は、明治五年六月の岳降である。守家は村内屈指の舊家と



氏は夙に村會議員 四期、學務委員、消防組頭をつとめ

昭和四年には消防組の擴充進展に貢獻せるところ多きを以て縣警察部長より表彰された。現在村長たるほか村農會長、人見産業組合理事、人見漁業組合相談役、軍事後援會長その他の要職を兼ね盡瘁してゐる。

### 三島村

三島村長 大曾根保

書道並に圍碁に興味を有する氏は帝國在郷軍人分會長、君津郡町村長會長、木更津稅務署長、陸軍大臣及び農林大臣より表彰數回に及ぶ自治産業の偉大なる功



勞者である。助役、村會議員、區長等をつとめたる先代山治郎氏の長男にして、明治二十二年四月一日の誕生、大正五年四月村書記を拜命し、助役二期を歴て村長に擧げられて今日に至り、三島産業組合創立功



勞者にして初代組合長として活躍せしことあり、また村會議員、區長、國勢調査員二回を歴任、現在郡畜産組合評議員、三島村畜産組合代議員、農林省千葉縣地方事情調査員、村農會長などを兼任し卓抜な手腕を揮つてゐる。家族は母堂つねさん夫人やすさん(國防婦人會三島村幹事)、長男安之君(青年團辻森團長)ほか二男三女がある。

關豊村豊岡

關豊村長 在原 稔

本村はもと關、豊岡兩村の組合村だったが、事務簡捷の波に推されて大正十五年の四月合併、關豊村と改稱して今日に至つた。氏は當時の豊岡村長、有志者に先んじて東奔西走、兩村民のために説服大に努めた至誠と熱心とは終に兩村民を動かして圓滑な合併となり、その功績は氏の信望をしていやが上にも沸ぎらせ、合併と同時に村長に推薦されて現在に及んでゐる。明治十七年八月八日生れの氏は、關豊信用組合長、農會長をも兼ねて専念村治の上に盡力してゐる。

天神山村花輪

天神山村長 進藤 京爾



氏は學德兼備の實力ある手腕家である。祖父は戸長をつとめ、尊父礎太郎氏は村長に選任さ

れるなど、代々郷黨のため郷土のため盡瘁裨益して名望普き進藤家に、明治十八年九月二十六日を以て呱呱の聲をあげ、千葉中學校を経て早稻田大學文科を卒業し、深遠の智識と卓越せる手腕とを以て地方自治に當り、「理論よりも先づ實行」の經濟更生標語をかかげ、消防組頭、花輪區長三期、學務委員、經濟更生委員長等を歴任して後、村長の重職に推され、一意村勢の伸展を圖つて功あり、氏が就任以來本村納稅成績は飛躍的に良好となり、この一事を以てしてもその敏腕實力のほどが窺はれる。また天神山共産株式會社取締役としても夙に令聞がある。長男正男君は農業大學出身の俊才である。

久留里町浦田

町會議員 農會長 松本 平

當家は四百年を傳ふる舊家にして代々農事を以て業となす。土地有數の資産と人望を兼ね有する家系なり。氏は故長九郎氏の男として明治二十三年七月二十一

日の岳降、現在町農會長、町會議員、土木委員、信用組合理事、浦田區長、耕地整理副組合長等の名公職にあり、町政諸般のことに當りて貢献する處大なり。因に家庭は夫人ミヨさんとの間に三人の子息あり、家庭圓滿。大公望を趣味とす。

青堀町大堀

町會議員 漁業組合長 小泉 吉藏

水産立國の發揚を思念する氏は青堀漁業組合長、千葉水産會主事、君津水産會主事等の重職にあり、鋭意水産業の擴充伸展に努力し、その功績亦顯著である。既に千葉縣並に君津郡等より數度に亘り水産發展に功績大なりとして表彰されてゐる。又萬國博覽會、平和博等に乾海苔を出品する等その品質改善に盡力する所多し、現在は産業組合監事、町會議員として町自治の爲めにも貢献す。當家は享保年間以前より傳ふる舊家にして曾ては名主を勤めた家系、明治十四年に生れ家業を襲ぎ大いに家運を興せし人である。

氏の水産業に於ける努力は町内關係者の然翁たる感謝を呼び人望とみに擧り、氏をして愈々業界寄與報國の念を強からしめてゐる。家庭極めて圓滿である。

昭和町奈良輪

町會議員 藤井松五郎



當家は十數代を傳ふる部落有數の舊家にし、松氏より半農半商を以て業となす。氏はその次男として明治十七年一月九日に生れ、明治三十七、八年戰役に第十三師團に屬して従軍大いに活躍す。元神納、楢葉兩村組合消防組第三部長を二十年間勤め功績あり。現在昭和町々會議員、奈良輪漁業協同組合總代、高洲耕正會長等の重職にあり、町自治産業の爲めに功勞多し殊に消防に關しては千葉縣知事より表

彰さる。長男正君は滿洲事變に際し立川飛行第五聯隊より参加し勳八等伍長に昇進し、滿洲國總理大臣より建國功勞章を受け、現在東京石川島造船所に勤めてゐる。家族はシン母堂リン子夫人と三女あり、家庭極めて圓滿である。

清川村伊豆島

村會議員 勳七等 高橋 廣



致々として努めて止まぬ努力家たる氏は、先代常太郎氏の男として明治十九年三月十七日に出生、幼少の頃より頭腦明晰の譽れあり群童を擢んで將來の大成を期待されたが庶人の信頼に背かず、木更津中學校卒業後兵役に服するや歩兵軍曹に進み、除隊後は在郷軍人分會の事業に關與貢献し、分會長たること多年、功による表彰數回

に及び、その他村會議員、村農會長、消防組第六部長等を歴任、それらの方面に於て貢献多く、現村會議員に重選して活躍するほか、經濟更生委員、學務委員氏子總代を兼任し、村内の信望を一身にあつめてゐる觀がある。令聞たけさんとの間には一男一女ありて、長男玉男君は明治四十二年生れ、長女花江さんは大正三年生れである。

巖根村西山

村會議員 山口 郁

當家は元祿六年の古きより現在に及べる舊家にして、先代勝五郎氏は郡會議員村長、村會議員其の他の名公職に歴任した功勞者であり、學校合併に於ける功績等は村民永久の感謝となつてゐる。氏はその長男として明治二十二年八月の岳降茂原農學校卒業後嚴父の衣鉢を襲ぎ村自治の爲めに貢献する所勤ならず、曩に土木委員として村道路網の開發改善に盡力せるは特記に價するものあり。現在村

會議員、農家實行組合長、氏子總代、檀家總代、産業組合監事等の要職に在り、その寄與する所大にして村民の信賴極めて厚し。第一徴兵保險會社代理店を営み家庭は乃乃夫人（前千葉縣知事高橋貞次郎氏の息女）との間に五男三女あり、家庭常に圓滿なり。因に乃乃夫人は嚴根國防婦人會副會長たり。

金田村中島

村會議員 渡邊岩二良

温厚にして明快の士たるわが渡邊岩二良氏は、三十二歳の時村會議員に當選したる人望家にて、引續き三期目を現任するほか、第一區々長及び學務委員を兼ね手腕家の聞えが高い。抑も當家は約五百年を経る村内屈指の舊家にて、代々農を本業とし、先代龜吉氏は區長、村會議員等をつとめたる人材、氏はその長男にて明治二十年十一月十三日の岳降、家族は令聞センさんのほか、木更津中學を出て木更津信用組合に勤務する三男保君、蘇

我家政女學校出身の長女タケさん、木更津高女在學中の次女育さん等がある。  
長浦村久保田濱宿

村會議員 功七等

進藤 竹二



多士濟の村會議員にあつて一頭地を被く氏は、

進藤萬太郎氏の次男、明治十四年十二月七日を以て呱呱の聲をあげ、四街道野砲兵第十八聯隊に入營、日露戰爭に出征し勳七等功七級を賜りし武勳者にて砲兵軍曹である。除隊後現住所に分家し、農を業とし、漁を副業として今日に至り、この間關東水産株式會社專務取締役、久保田區長等をつとめ、現在は村會議員として令名あるほか新井養員場主任としてその名著はれる。いし子夫人との間には、青年團支部長をつとめる長男勇夫君ほか

一男二女がある。

根形村六ツ作

村會議員 學務委員 産業組合監事

長谷川良三



當地自治産業界にユニークな存在を認められる氏は

先代久左衛門氏の男として明治十七年二月四日に出生、夙に家業に精勵しつゝ、意を社會公共のために用ひ、村會議員に重任五期、村勢の向上發展に寢食を忘れて盡瘁し、その間村農會長、村長、消防組頭、區長等の要職を歴任し本村自治産業上に致せる功績は枚擧に盡し難きものあり、消防組頭は勤続十三年に及んで表彰されるの光榮に浴した。現時村會議員をはじめ、學務委員、産業組合監事、村農會副會長、農家組合顧問、氏子總代等を歴任し獨特の手腕を發揮しつゝある。ま

た昭和四年頃まで木更津銀行代理店を営み、金融界方面にも名聲噴々たるものがある。家庭には長男久男君、次男正男君長女芳江さん、次女きみさんの愛息愛嬢がある。

小櫃村箕輪

村會議員 平野 國平



當家の始祖は詳かならざるも、元祿以前より續く由

緒ある舊家にて代々伴右衛門氏を名乗り名主をつとめてゐた。先代豊太郎氏は村長に選任村治に功績多く、村長在任中、秩父宮殿下の行啓を仰ぎし名譽を負つてゐる。氏はその男にて明治十五年五月十七日の誕生である。現小櫃村産業組合の前身たる箕輪信用組合長に推されて盡力多く、現時村會議員二期目、箕輪宮下貯

金組合長、村産業組合顧問、箕輪耕地整理組合長、方面委員を兼ね、水利の便を圖つて大事業を起し完成せる棟梁家にてその約一千の區民が救はれたのである。因に尊父夫妻、氏夫妻、長男修君夫妻と三夫婦揃つたる和福の家にて、叔父鈴木利平氏は日露戰爭の勇士、令息修君は木更津中學校出身にて陸軍歩兵少尉、次男順君は金澤高等工業學校を出て赤羽陸軍工廠に勤務する。

松丘村廣岡

村會議員 方面委員

苅込 周司



凡そ四五百年の古き歴史を有する當家は、代々苗字

帯刀御免の家柄にて、當主四代の祖政右衛門氏は松平大和守の金賄を勤め先々代直吉氏は助役その他村治を一身に引受け

て盡瘁頗る多く、他面清酒及醬油の醸造を業とし隆盛を極めたが、今より十年前これを廢した。氏は先代千代松氏の長男として明治廿五年十二月九日を以て呱呱の聲をあげ、木更津中學校卒業後千葉師範學校二部に學び、小櫃、廣岡兩校に教鞭を執ること約八ヶ年、退職後は公共に極力盡力し、村會議員、方面委員、金錢債務調停委員、檀徒總代、氏子總代等を現任する。趣味は釣魚と將棋。家庭には母堂やすさん(明治十六年生)、夫人うらさん(明治三十五年生)、次男政衛君、長女さと子嬢、次女みつ子嬢、令妹かつ子嬢がある。

富岡村  
村會議員 笹生 武義  
勳八等  
氏は明治十五年四月一日の岳降なり。日露の戦役に第三軍に従軍して功有り勳八等を受け、左肩に名譽の銃創を受く。元組長、衛生組長、農家組合長等の要職にあり貢献する處大、依つて推挽さるゝ

所となり現在村會議員、消防尙武會評議員等を歴任、村自治の爲め専心盡瘁して人望高し、家庭は母堂まささん(七十四歳)夫人よしさん、四男徳二君にして極めて圓滿なり。

### 中川村武藏

村會議員 今井傳五郎  
勳七等

當家は享保七年以來二百十五年の家系を傳へる舊家にして、氏は明治十年十月六日長之助氏長男として生る。日露の戦役には黒木第一軍に従軍して、沙河奉天の地に轉戦、功拔群にして勳七等を受け軍曹となる。元消防第七部初代部長、區會議員、武藏第四部長(六期)、神社總代、横田共榮信用組合理事として、部落の發展融和の上に多大の貢献をなす。よつて村民の推挽を得て村會議員となる。益々村政の爲に精勵中なり。長男賢藏君は第一聯隊騎兵伍長として支那事變に出征中なり。その父子そろつて國家への貢献に名譽の家と評判されてゐる。

### 波岡村畑澤

村會議員 市川 舜藏  
漁業組合理事

當家は漁業を主とし併せて農業をも行ふ。清藏氏長男として明治三十年五月に生る。現在村會議員、産業組合理事、波岡村消防部長等の名、公重職にあり、よく村自治、村産業の開發伸張の爲めに格勵以て人の師表たり。淳厚、高潔なる人格と併せ村民多數の人望あり。家庭は二男三女の子福者にして、淨土宗の門徒である。

### 周西村大和田

村會議員 茂田 陳  
酒醸造業

敬虔の念に富み實直の聞えある氏は、先代藤次郎氏の長男にして明治三十三年の出生、若手



敬虔の念に富み實直の聞えある氏は、先代藤次郎氏の長男にして明治三十三年の出生、若手

自治功勞者といはれ、昭和五年より漁業組合理事同一年より耕地整理組合長をつとめるほか村會議員二期目に任じ、功績赫々たるものがある。先祖代々農業を主としたが、先代は酒醸造を創始、現在年産二五〇石、誇泉の銘酒として左黨に愛用される。良妻の譽れあるやす子夫人との間に長男良二君ほか二男二女を儲け家庭頗る平和である。

### 小糸村大野臺

村會議員 渡邊徳三郎  
勳八等

氏は明治三十七八年戦役に現役として出征し滿洲の野に轉戦して功あり勳八等を受けた。氏は稀に見る精力的活動家であつて、元區長、消防第二部長として盡力、現在、村會議員、戸數割資力調査委員、農家組合長、受檢組合長、米穀管理統制委員、寺院總代等の重職に歴任し四面八方の活動をなしてゐる。嚴父淺吉氏も元村會議員、區長、寺院總代等の要職にあり村治の爲めに功績の多かつた人で

完全に嚴父の衣鉢を襲ぎて辱かしむる處なき人格と眞摯なる活動は村民に多大の聲望を得てゐる。三男の子あり、家庭極めて圓滿である。

### 秋元村市場

村會議員 佐久間幸次郎  
勳八等  
勳六等

地方の改善、農業の開發に努力して功あり、本村をして平和と繁榮の理想郷たらしめた功勞者として令名噴々たる氏は覇氣に富み手腕に長じ、徳望高き本村の精華である。明治十三年三月九日、佐久間龍藏氏を父として呱呱の聲をあげ、日露戦争には忠勇義烈の働きをなして金鶏勳章功六級を下賜されたる光榮の人である。家業の傍ら區長、消防組第二部長、同組頭、在郷軍人分會理事等をつとめ、消防事業に特に功績多き故を以つて賞状を贈られしことあり、現在は村會議員の要職をはじめ、傳染病豫防委員、農家組合長を兼ね、寢食を忘れて郷土の發展に努力してゐる。令閨はるさん(明治三十

### 金田村畑戸

村會議員 内田兼次郎

明朗快活、五月の花の如き性格の氏は先代鐵之助氏の長男、明治十五年八月九日の岳降である。當家は約二百年の歴史を有する部落第一の舊家にて、代々半農半漁であつたが、先代より農業を主とし漁業を副業とするに至つた。氏は夙に家業を繼承して精勵すると共に、大正十二年漁業組合理事に推され、昭和六年引續き組合長に任じ、爾來今日まで鋭意漁業者の爲めに貢献し、現時村會議員、君津郡水産會代議員を兼ねる。また教育事業にも功勞多く、大正七年東京日日新聞社より表彰された。家庭は母堂リヨさん、夫人ヨシさんのほか、茂田農業學校出身の長男清君、本村産業組合事務員武君がある。

平岡村川原井

村會議員  
功七級

鈴木熊五郎

氏は市原郡牛久町中川富藏氏二男として明治十三年十月二十一日の岳降、明治三十九年當鈴木家に養子となりし人である。明治三十三年赤羽近衛工兵隊に入營し、日露戦争のとき第一軍に屬して出征し次いで第三軍に派遣され勳功により勳七等功七級を賜り工兵軍曹に任ぜられた。現在村會議員の外學務委員、衛生委員、區評議員等として、村内學事、衛生その他に盡力する處多く村民の信望を得てゐる。長男省三氏も統計調査員として努力しつゝあり、次男尙武氏は警視廳に奉職中であつたが支那事變に應召して上海方面に活躍中である。家庭は圓滿である。

三島村奥米

竹内徳太郎

村會議員  
元産業組合長  
本村産業組合育ての親として令名高き氏は、明治十九年七月二十一日の岳降に

して、村會議員に任じて功勞多かりし竹内了吉氏を父とする。夙に産業組合長たるほか、氏子總代、村農會長、村收入役等に推されて治績顯著なるものあり、先年村會議員改選の時は高點を以て當選し現時學務委員を兼任する。令閨かくさん

は明治二十年の出生、氏との間に長男惠君(明治四十四年生)、次男茂實君(大正二年生)のほか三男勝路君、四男貞衛君以下三男一女がある。

貞元村八幡

鮎川亮助

不拔の信念に邁進して功勞多かりし氏は、明治二十三年九月二十六日の出生にて、先代庸吉氏の養嗣子、令兄は現に貞元村助役をつとめる敏腕家である。夙に折山塾に漢學並に算數の學を修め、家業に勵む傍ら、よく他人の面倒を見、區長代理一期をつとめ、現在は村會議員に選ばれて自己の信念を村治上に活かすほか、耕地整理組合會計、軍友會評議員

を兼ねて令名愈々高きを加へてゐる。令夫人あきさんとの間には長男正男君、次男實君のほか三人の愛嬢がある。

關豊村大田和

水野喜廣

元祿以來の舊家で代々市郎右衛門を襲名したりしが先々代市平氏より之を止めた。市平氏は當家中興の祖ともいふべく明治五年醬油醸造を創めた。先代年太郎氏は終世村治に盡力した人で、助役、村長を歴任し、その功績大なるものがあつた。氏はその男として明治三十年十二月二十一日の岳降、現在村會議員、土木委員、方面委員、檀家總代等に歴任村治の爲めに寧日なき有様であるが、峯上耕地整理組合を起し百二十餘町歩の水田水路工事に全財産を懸けて人の嘲笑をも顧みず遂行延長二里の難工事を完成し昨年の大早魃にも何等の被害を受けず、村民に多大の感銘を與へた。一男二女の三子あり家庭圓滿である。因に氏は木更津中學

の出身である。

天神山村相川

神子惠



愛村の情脈々として盡くるなく、寢食を忘れて夙夜

公共のために盡力せる氏は、村内有数の信望高き人格者にて、單に表面に現れた行爲ばかりでなく、極めて陰徳多き實行家である。明治二十九年二月十八日を以て呱呱の聲をあげ、青年時代より辛苦を嘗め幾多の困難を克服して今日の地位を築きあげし努力家である。夙に笈を負うて上京し、神田の錦城中學校に學び、在學中は柔道の選手として有名であつた。現在篤農の開え高く、村會議員、土木委員を兼ねて限りなき愛村の情に燃えて郷黨に寄與貢獻しつゝあり。家庭は七人、

長男浩君は天羽農學校に在學し秀才を以て呼ばれてゐる。當家は元祿以前よりの舊家にて、先代營次郎氏は精農家にして部落民の尊信深かりし材幹である。

久留里町富田

永島整



あらゆる努力と誠意を傾けて社會公共の事に竭せる

氏は土地草分の舊家の出、明治三十五年十二月一日を以て富藏氏の男に生れ、郷校卒業後柳井義碩塾に漢學を修め、朝鮮羅南野砲兵第二十五聯隊を除隊後、區長をはじめ諸種の名譽職に就任、現在町會議員二期目、在郷軍人分會長二期目、郡聯合軍人分會幹事、資料調査委員等を兼務す。しかも劍道の達人でもあり、霸氣ある徳望家である。ふみ夫人との間には

長男智氏ほか一男五女がある。

青堀町

鹿島仙之助



當家は元祿以來の舊家であつて、代々半農半商を以

て傳はる。先代久四郎氏は商業總代二十餘年、青堀浦漁業組合理事として土地産業の爲めに功勞のあつた人である。氏はその男として明治六年五月二十三日に生れ、嚴父の衣鉢を襲ぎて愈々家名を揚げし人である。元漁業組合理事として組合創立に貢献し、勸業委員、警備委員、助役等の要職を経て現在方面委員、町會議員(五期)として町政の爲めに盡力なす。町民の信望あり現在店舗は、米酒雜貨煙草等の廣きに亘り、商工會理事、信用組合幹事等を勤め商業界の爲めにも大いに

買献す。氏は漢詩、和歌、俳句の道に造詣深く、左の如き近作がある。

題蝶園 海洲

栩々追紅紫 好爲花下遊

人生原是夢 誰辨蝶時周

昭和町奈良輪

町會議員 石井 岩藏

氏は明治二十二年五月十一日の岳降にして、母堂きんさんの代より旅館並に料理業を営み繁榮を極め町内隨一の家格を有す。元町消防組員として十年間第一部長として七年間勤続して人望あり推されて町會議員となる。事に當りて眞摯熱意の人にて資性温容にして家族は夫人きよさんと一男三女にして極めて圓滿な家庭なり。

清川村 笹子

村會議員 柴崎喜代治

當家は明暦時代よりの舊家にして、里見家の家臣正木大膳の後胤である。先代

新藏氏は名主、村會議員等を勤め村治の上に盡力した人である。氏はその男として明治十六年三月十六日に生れ、日露戦争のとき現役として滿洲の野に轉戦して武勳を樹て勳八等を賜り、野砲兵伍長となる。氏は資性謹直温厚にして人望あり推されて村會議員となる。元區長、學務委員として、部落融和に努力し、且つ村役場、小學校の建築に多大の功績を残した。現在町農會評議員をも兼ねて専心村自治農事促進改良に意を用ひて村民に信望を受く。縣學務部長より村教育に貢獻ありとして表彰されたこともある。家庭は夫人さださん始め息女夫妻孫さん等あり極めて圓滿である。

金田村 中島

村會議員 大村 金藏

當家は十數代約三百年を傳ふる相當の舊家にして、代々農業を幹とし漁業を枝とせる家柄なり。氏は明治十年六月一日出生、海苔の卸問屋を營み東京方面と相



當の取引あり。元中島漁業組合長たり。現村會議員、學務委員、選舉肅正委員等の要職にあり、専心村政の爲めに盡瘁して人望あり。

松丘村 大戸見

村會議員 田丸源四郎



建築業及び精米業を營んで名聲普き當田丸家は、當

地草分の舊家たる本家田丸家よりわかれて現地へ一戸を構へしものにて、氏は田丸文之助氏の次男として明治二十一年五

月二十七日出生した獨立力行の人、朝鮮滿洲、樺太等に十有六年間活動し、今日在る基礎を築きし努力實行の成功者である。十年前職工組合を設立、働く者の立場を擁護すべく自ら組合運動の第一線に奮闘せる材幹である。長男正芳氏は長浦尋常小學校訓導、長女操さんは東京市戸板裁縫女學校出身の才媛、夫人は木更津町竹山病院院長醫學博士竹山勉治氏の令妹に當る。

中川村 百目木

村會議員 山田 忠七

當家は元祿以前より代々名主を勤めたる土地有數の舊家にして、四代前の忠藏氏は百三歳の高齡を保ち明治三十二年長逝された長壽の家系なり。先代源太郎氏は東京に於て活躍された人、氏はその長男として明治二十二年一月十日岳降、東京郁文館中學卒業にて元神社總代、耕地整理組合長、同副會長、在郷軍人副會長等の要職を経現在村會議員として村自治

のために精勵功績顯著なり、又人格温厚篤實にして、村民に多大の信頼を受く。

波岡村 小濱

村會議員 永島作之丞



當家は十五代を傳ふる舊家にして代々漁業を主とし

併せ農業をもなせり。先代文治郎氏は村會議員として村政に貢獻する處大にして聲望を博す。氏は文治郎氏長男として明治二十一年の岳降、元産業組合幹事(二期)統計調査員(十ヶ年)漁業組合理事及幹事(九年)等の要職に在り村産業の發展に寄與する處大なり。又小濱村青年會顧問として感謝状を受け、神社氏子總代として二十餘年盡力、人望揚りて村會議員として既に三期に及ぶ。家庭極めて圓滿なり。

周西村 坂田

村會議員 秋元 榮吉



誠實眞摯の人物と評され人望高き氏は、先代寅吉氏

の長男にて明治十五年の生れである。大正十五年より昭和十一年まで理事或は監事として周西村産業組合に關與貢獻し、また昭和十一年より漁業組合監事、昭和三年より耕地整理組合會計に推され今日に至り、他に村會議員二期目を兼ね、寢食を忘れて郷黨の福祉増進に盡力してゐる。長男宗吉氏は周准農學校の出身、他に令嬢一人を有す。尙、當家は十代を閱する舊家にて、代々農を家業とする。

小糸村 行馬

村會議員 平野 金藏

祖父は永く村方世話人役を勤めた人、氏は嚴父銀藏氏の長男として明治七年七月十六日の生れ、日清、日露の兩役に従軍して勳八等を受く、元二十年に互る區長代理、農家組合長、消防第六部長等を歴任して一意誠心部落諸般の開発融和に貢献し、區民の間に多大の聲望を得、推輓される處となり村會議員、區長、衛生委員等の重職に就く、温容寛和の資性に於て村治の爲めに貢献多し、家庭はまさ夫人並に息女夫婦と四人の孫さんあり圓滿を極む。

秋元村平田

村會議員 消防組頭 長谷川辰藏

長松氏の長男として、明治二十五年二月二十二日に生れ家業を襲ぐ、村内有数の資産家であり氏の奉公滅私の精神と高潔にして温容なる風格は、將來當村の中心的人材として活動すべく囑望されてゐる。元土木委員、在郷軍人副會長として現在は村會議員、學務委員、消防組頭等

の要職に歴任して貢献顯著であり、誠心の眞實の努力は村民に多大の信望を博してゐる。當村消防組は私設であるが全村組頭の下に一致し整然たる統制を持ち公設に遜色なき成績を擧げてゐる。氏は時代の趨勢に應じ早急公設にすべき事を主張してゐる。きん夫人は國防婦人會平田支會長を勤め二男二女の子福者である。母堂たかさん(六十三歳)も健在で家庭常に春風に充ちてゐる。

三島村宿原

村會議員 勳八等 伊藤 金藏

自治界の覇者たる氏は、夙に區長代理二期、在郷軍人分會副會長、勸業委員等をはじめ、村農會代表、木炭同業組合代表、部落水利組合長、養蠶實行組合幹事等の公務を歴任せる功勞者にて、木炭業界に特に功績多くして表彰二回に及び現在は村會議員、負債整理組合幹事、軍友會評議員等も兼ねる。因に生れは明治十一年六月十日にして、實父は伊藤徳次



關豊村豊岡宇藤木 村會議員 在原 八郎

劍道に趣味深くして暢達せる氏はスポーツをして單なる遊戯の延長たらしめずこれを國民精神の鍛錬に結びつけて有効に指導しつゝある近代人的聰明の人材である。抑々當家は代々仁平氏を襲名して名主をつとめたる舊家にて、先々代のみは八五郎氏と呼び、土地開墾に功あり、縣下政友會系の偉材といはれ縣會議員に當選活躍せる人、先代仁平氏は當主七歳の時に逝去せられ、氏は明治三十六年一月二日に生を享けて早くより刻苦精勵の辛酸を嘗め、

木更津中學校卒業後近衛歩兵聯隊に入營伍長に任じ、除隊後青年團長、在郷軍人分會長を歴任、現時方面委員、村會議員、農實行組合長、郡軍人分會聯合會副會長、郡聯合青年團副團長等を兼ねる。家族は母堂みつさん、夫人ふみさん(明治四十年生)のほか二男一女がある。

天神山村海良

村會議員 宍倉 猛



日輪を仰ぐが如く、燦然として、議員中に異彩を放

てる氏は、昭和十一年十二月、小學校に奉安庫なきを憂ひてこれを建設寄附せる篤行の人にて、その行爲は萬人の等しく感嘆し賞讃措く能はざるところ、誠に國民精神作興の模範であり、皇室中心主義遵奉者の手本たるべき人である。抑々當

家は約三百年を閱する舊家にて、初代久兵衛を稱し、中期より藤兵衛に改めて代名主をつとめたる名門、先代竹松氏は區長三期、村會議員三期、收入役、助役その他諸種の公名譽職に擧げられ生涯を通じて村政に盡瘁せられ、昭和三年七十二歳を以て安らかな往生を遂げた。氏はその男にて明治十五年二月七日の誕生、方面委員、村會議員、學務委員等の要職を現任し、功績赫々たるものがある。

久留里町向郷

村會議員 室 親信

約三百年代々名主を以て傳へた當地有数の舊家である。農を家業として先代直吉氏は町會議員を永く勤め、助役、町長として、町發展に多大の功勞あつた人である。氏はその男として明治十六年十一月十一日に生れ、茂原農學校卒業後、松岡實業學校に七ヶ年奉職し、現在は町會議員、神社氏子總代、寺世話人、耕地整理組合副組合長及會計、養蠶組合長等の

重職にあり町政の爲め殊に農事方面に貢献する處多く人望を得てゐる。刀劍に興味あり民政黨に屬し、家庭圓滿である。

青堀町大堀

町會議員 平野 竹夫

先代要吉氏のととき蓮池より分家なせしものにして、金融業並に火災保險代理店を営みしなり。氏は明治三十二年九月九日の岳降、木更津中學を経て中央大學法科卒業、現在帝通に關係あり、濟生會會計部主任たり。町會議員、青堀耕地整理組合評議員等の名、公職にあり漁業組合にも關係す。資性淳厚高潔にして町政諸般のことに精勵して實に眞摯たり。町民より多くの推輓を受く、慶子夫人との間に二男あり家庭圓滿なり。

波岡村畑澤

村會議員 北見馬次郎

村治功勞者中の元老株たる氏は、先代晋次郎氏の男にして明治十五年二月十

日の出生、先祖代々漁業を以て家業とした。大正七年より九年まで加澤村青年團支部長をつとめ、同九年より昭和四年まで公設消防組部長、また區會議員二期、



加澤漁業組合總代六年、同組合長一期を歴任現時二期

目の村會議員に在任す。消防組が私設から公設に變更されるに就いては、殊に功勞あり、表彰状及び感謝状を贈られてゐる。また漁業組合長として當地方水産界を啓發する所も尠くなかつた。

### 松丘村名殿

村會議員 小高平作

當家は曾つては代々平右衛門を襲名し三百年の家系を傳へる土地切つての舊家である。氏は先代慶造氏の男として、明治十一年十月九日の岳降である。稀れに

見る温厚篤實の仁士であり農事の研究に熱心にして篤農家である。現在その徳望により推輓をうけ村會議員、農會代議員の職にあり、銳意村自治の爲めに盡力してゐるが併せて村産業の主軸たる農事に對しては異状なる努力をなし、その貢獻尠なからず母堂むめさんは現に七十八歳の高齡にて、長男允良氏は軍人分會班長を勤めてゐる。既に孫さん三人あり。夫人きくさんと共に家庭圓滿である。

### 中川村横田

村會議員 鈴木秀二

當家は元祿年間以前の舊家であつて、秀二氏は區内葛田茂次郎氏(當家は武田信玄七人衆葛田藤右衛門の後裔)の次男として明治三十年の岳降、十八歳のとき鈴木家の養子となり、爾來精勵刻苦して家運を興し、現在は農業の他質店、生命保險代理店等を営み且又村會議員として村自治の爲めに盡力し信望を得た。元横田信用組合長として活躍せしことあり。

家庭は母堂いくさん夫人リツさんと三男一女あり極めて圓滿である。

### 周西村久保

村會議員 刈込徳三郎

敏腕を揮つて自治産業界に功勞多き氏は、刈込家十五代の當主にして、先代徳次郎氏の長男として明治十四年に岳降した。同三十年頃先代が雜貨並に煙草商を創業、氏はこれを繼承して家財を成す傍ら、日露戦争前より神社、寺院總代、水利組合委員、區長等に任じ、又大正元年より同十五年まで信用組合長をつとめ、現在村會議員四期目にて、功勞村名に赫赫たるのみならず、地方自治界の人材である。將棋に興味あり、農産物の改良作に熱心である。家族は飯野小學校訓導たる長男徳次郎氏ほか二男一女がある。

### 小糸村荻作

村會議員 榎本信三

氏は資性極めて温厚であつて、事に當

り常に率先真摯なることは、村民の等しく感銘するところとなつてゐるが、氏は嚴父 氏の長男として明治二十五年十一月六日に生れた。現在村會議員、農會總代議員、傳染病豫防委員等の重要な職責に歴任して、村自治を始め村農事の開發向上、傳染病豫防施設萬全の爲に銳意努力を傾注してゐる。その功績も亦尠からず多數村民の輿望を得るところとなつてゐる。氏の今後に於ける村政への益々貢獻多大ならんことを、多數人に期待されてゐる。

### 秋元村市宿

村會議員 星野基之

當家は代々名主頭をつとめし名門の家である。氏は明治八年二月二十二日を以て星野團藏氏の男に生れ、青年時代五ヶ年間米國に遊學せる雄壯覇氣に富む手腕家にて歸國後は銳意公共の事に盡瘁し、村會議員、出納委員、産業組合監事たること多年のほか區長十數ヶ年をつとめ、

産業組合創立には殊に功勞ありしほか、秋元久留里間の縣道開通に際しては私財を投じて盡力し普く感謝感激の意を寄せられ、村役場の新築、區裁判所出張所及び巡



在部長派

出所の設置にも盡力私財を寄附せる篤行家である。現在は村會議員のほか出納委員及び賑訪神社氏子總代をつとめ、功勞愈々顯著なるものがある。因に氏は同村消防組合設立に際しては、山田健造、山田重太郎の兩氏と共に發起人として奔走明治四十年一月これを設置、爾來同組合員として現在まで活躍、公設以上の効果を收めてゐる。

### 久留里町向郷

町會議員 高野意亮

氏は明治二十四年二月二十五日徳太郎

氏長男として生る。資性温厚にして眞摯の人、町民の人望を一身に集め推輓されて町會議員となる。銳意町諸般のことに盡瘁その寄與する處大である。町政の將來に多くの期待を持たれる。長女登志子さんに昨年養子を迎へ家庭極めて圓滿。

### 秋元村西栗倉

村會議員 前田利三郎

烈々たる郷土愛に燃ゆる氏は早くより學務委員、區長等に歴任して郷黨のため村勢の發展のため、一身を忘れて盡瘁貢獻せる得難き手腕家にて、現在は村會議員に當選活躍するほか出納委員を兼ね、聲望高大で、全村民の尊敬をあつめてゐる。嚴父元治郎氏も村會議員たりしことあり現に健在、氏はその男として明治二十年三月一日に出生、家族は兩親のほか長男彌氏(明治四十五年生)、同夫人をいさん、令孫元男君、長女さだ嬢、次女ち江嬢があり、極めて圓滿な家庭にて近在羨望の的となつてゐる。

昭和町神納

前助役 渡邊 悟郎

氏は芳次郎氏長男として明治二十二年八月四日の岳降にして木更津中學校出身である。昭和町合併以前の舊神納村時代の助役、學務委員、村會議員として多年村自治諸般の上に多大の貢献をなし、その温容なる風格と眞摯なる熱意は村民の信望を厚くせり。當家は十數代五百數十年を傳へる村内有数の舊家であつて、家族はテフ母堂ヨシ夫人に子息三人あり極めて圓滿な家庭である。

馬來田村

元村長 池田 久作



大義名分を重んじ至誠を以て公事に竭せる氏は當世

稀に見る手腕力量兼備の人格者である。明治七年十二月六日を以て生をこの世に享け、區長、農家組合長、助役等を経て村長に擧げられ、自治産業教化方面に功績多く、本村を今日の繁榮に導いた殊勳者である。現在は學務委員及び土地賃貸價格調査員の任にあり、令息勝吉氏は村會議員、土木委員をつとめる一面農事に精勵してゐる。家庭は令閨及び令息夫人令孫廣司氏以下一男二女がゐる。

波岡村畑澤

前村長 水越 專明



翁は安政五年四月五日の岳降、會祖父水越重兵衛氏は徳川幕府時代名主として威徳並び行はれし人望家、氏は即ちその曾孫に當りて明治二年齡十二歳にて佛門に入り、同十

五年淨蓮寺住職となつたが、實兄仙藏氏病歿のため還俗歸農し、同十七年衛生委員となりしを振出しに、村會議員、學區會議員、區長、畑澤漁業組合役員、學務委員、村助役二回、村長二回、村農會長三回等を歴任、自治功勞者中の白眉といはれ、諸方面より表彰されしこと數回に及び、全村民の悦服と尊敬をあつめてゐる。長男重治氏は年齒杖郷に達し、その長女いくさんは襄氏を夫とし二男を儲け家庭圓滿である。

周西村人見

前村長 功七位長 勳六等

榎本 政吉



志操堅實にして郷軍精神に一貫せる氏は、日清日露

の兩役に出征し、武勳赫々たる勇士であ

る。海軍上等兵曹長に任じ明治三十八年六月には聯合艦隊司令長官東郷平八郎閣下より感謝狀を下附された。凱旋後は家業の傍ら在郷軍人分會に關與、大正十二年より同十四年まで分會長に任じ貢獻多からず、また昭和六年四月助役に推され、翌七年一月には引續き村長に選任、同九年五月まで人望高き名村長として村治に執掌した。生れは慶應元年七月十四日、榎本金次郎氏(元庄屋)の五男である。家族は令閨いち子さん、養子仲二郎氏、同夫人きよさんのほか、令孫六人がある。

小糸村大井戸

元助役 朝生 和吉

自治上に於ける諸般のことに多大の功勞あり、殊に村産業、財政の爲めに貢獻する處絶大にして、その寄與は村民の感謝する處となつてゐる。同村産業組合の内容優良且つ益々隆盛を來しつゝあるのも氏の組合長時代の基礎的營爲に俟つところ多しと言れてゐる。氏の嚴父も曾つて村會議員、區長として村政に盡力せし人家族はまさ夫人と息女夫妻、家庭極めて圓滿である。

三島村旅名

元村長 佐野 貴一

當家は三百年の古き歴史を有する村内切つての舊家である。且資産家である當地佐野姓の總本家として、旅名の佐野として近郷に聞えてゐる。尊父故豊吉氏は村制施行最初の助役として村治の上に多大の貢献を残し、日露戰爭の當時には村長として盡瘁、殊に同村共有山林の拂下げに於ける功績顯著なるものあり未だ村民の語り草となつてゐる。氏は明治十八年四月十二日長男として生れ、元村會議員、學務委員、國勢調査委員の外各委員を歴任して眞摯なる努力に嚴父の衣鉢を

小糸村大野臺

前村長 溝口 喜三郎

氏は明治六年十一月十四日の岳降である。資性温厚にして剛直なる一面を有し村内の有力者であると同時に該博なる常識の持主である。曩に村長、村會議員、學務委員、方面委員、産業組合長、収入役等の重要な名、公職を歴任し、當村



襲ぎて全き人、さだ夫人は現在國防婦人會三島分會長である。長男實氏は安房三原農學校卒業現在村書記、青年團幹事を勤め村青年の中心となつてゐる。家庭は常に春風の如きなごやかさである。

**波岡村上鳥田**

村會議員 前村長 **鈴木勝次良**



實直温厚の人格者として村民の信望あつき氏は鈴木

家十二代の當主にして、先代喜太郎氏の長男、明治十八年の出生である。夙に君津郡周准農學校代議員に任じ、昭和四年七月村長に選任同八年七月まで一期間務め自治産業の改革改善に盡す處大であり現在は村會議員、産業組合理事、賃賃價格調査員を兼任する。青年時代より歴史に興味を有し造詣が深い。長男時夫氏は

木更津中學校在學中、長女は嫁し、次女こう嬢、三女よし子嬢は家庭にある。

**富津町富津**

郵便局長 正七位 勳七等

**齋藤文助**

嚴父重藏氏も昭和十年より郵便局長として多年地方通信のことに盡力し、正七位勳七等に叙せらる。氏はその男として明治八年八月二十三日の岳降である。元區長、町會議員として町自治の爲めに盡瘁す。現在郵便局長と併せ千葉縣南部郵便局長會副會長兼第三部長として地方通信界に重きをなしその功績亦顯著にして選信記念日第一回に選信大臣より表彰さる。信用組合役員幹事、第一區納稅組合長、學務委員、商工會長等の要職にあり産業伸展の爲にも大いに力を盡す。納稅組合功勞者として縣知事より表彰を受けたることあり。資性温厚篤實にして町内に聲望がある。正七位勳七等に叙せられ家庭圓滿にして、俳句に富洲の號を以て雅趣を嗜む。

**根形村**

郵便局長

**大岩文太郎**

氏は當郡龜山村鎌田國太郎氏三男として明治二十六年十二月五日の岳降なり。二十五歳のとき當大岩淺吉氏の養嗣子となり大正十三年根形三等郵便局開設と共に局長に就任、爾來村通信のことに銳意貢獻す。資性高潔にして温情動直の人なり。家庭は夫人との間に二男三女あり圓滿を極む。

**中川村横田**

郵便局長 從七位 勳六等

**池田貞治**

當家は天保時代より七代の家系にして先代藏助氏は町村制改正と同時に當村初代村長として、村自治諸般の整備に多大の功勞ありし人なり。初め酒造業及質屋を營みしが明治十五年横田郵便局長となる。氏はその次男として明治十六年一月七日に生れ尊父の衣鉢を襲ぐ。東京本郷郡文館中學に學び日露戰爭に従軍し勳八

等を賜る、大正元年より、郵便局長に就任し現在村會議員（二十五年）區會議員等をも勤め村通信並に村自治の爲めに功績著し。當局は中川、平岡、中郷三ヶ村の選信事務に當り、中川、平岡、中郷、清川、富岡一圓の電報配達局たり、三等集配局として裨益する處甚大なり。氏は從七位勳六等に叙せらる。長男忠廣氏は現在同局長代理にして家庭又圓滿なり。

**秋元村植畑**

**山田 鼎**



當家は山田左京氏を開祖とし三百有餘年を経る舊家

にて、村内山田姓の總本家、且つ有數の大資産家である。先代健造氏は日露戰爭當時村助役をつとめたる功により勳八等に叙され、晩年勳七等に陞叙されし村幹

にて、本村通信産業の開發に盡力し、産業組合創立主唱發起人の一人、元秋元郵便局長である。氏はその長男として明治四十年五月十八日に出生、木更津中學校卒業後神奈川縣師範學校に學び、神奈川縣鎌倉郡村岡小學校に五ヶ年間教鞭を執り、退職歸郷後、更に本郡三島、關豐の各小學校に歴任、昭和十年嚴父の逝去に遭つて教職を退き、秋元郵便局長に任じ今日に至つた。少壯ながら手腕家の聞え高く、家庭は母堂かつさんはじめ、夫人道子さん（木更津高女出身）、令弟正男氏令妹君子さん等がある。

産業の上に多大の貢獻を遺し正八位勳八等に叙せらる。氏はその長男として明治十五年五月二日の岳降、十九歳のとき米國に留學二十六歳にして歸朝し大正八年父の後を繼ぎて辻森郵便局長となる。爾來村通信の爲めに盡瘁、家庭圓滿なり。因に令弟は現在米國ニューヨークに在り布教に専念さる。

**青堀町大堀**

學務委員 **榎本芳藏**



當家は寛政時代の創始にて、氏を以て八代とし、代

代半農半漁を營み、先代は君津漁業組頭をつとめし人、氏はその養嗣子、明治五年八月十三日の出生にして、不斷の努力と不撓の精神を以て家業に當り、大正三年君津郡水産品評會に於て乾海苔の特別

賞を受け、昭和二年及び同九年の二回に亘る青堀町百三十餘町歩の稲作立毛品評會には二回とも郡農會長より特別賞を授與された。また町會議員、區長二期、衛生組長其他を歴任、現時信用組合理事、農會總代、特別稅資力調査員、學務委員、耕地整理副組長を兼任し、功勞顯著なるものがある。

佐貫町八幡

學務委員  
功七級

大森 修



當家は代々清右衛門氏を襲名して名主をつとめたる

家柄にして、先々代清右衛門氏及び先代昌輔氏に至つて戸長に任じた。氏は先代の男として明治十四年二月十六日に岳降夙に東京市錦城中學校に學を修め、卒業後近衛歩兵第四聯隊に入營、日露戰爭に

は黒木第一軍に屬し武勳を樹て、凱旋した。園藝に興味あり相當深く研究を積んでゐる。區長八年、町會議員三期、消防組第四部長を歴任、道路改修や橋梁改築海水浴場の面目一新等に功績あり、また在郷軍人分會創立當初より役員をつとめ理事、分會長等に推された。現在は二十年來の學務委員たるほか、債務調停委員社寺總代その他を兼ね、八幡神社建立に際しては多額の金を寄附した奇特家である。夫人リウさんとの間には一男四女がある。なほ義兄大森俊氏は佐貫町長四期をつとめし功勞者である。

昭和町檜葉

學務委員  
前郡會議員

小藤田 清

當家は土地有數の歴史ある家系にして約四百年を傳へる舊家なり。代々農業を以て業とせり。尊父磯吉氏は多年郡會議員、檜葉村々長、村會議員、區長、戸長等の名譽職に歴任、地方自治諸般に多大の功績あり。氏はその長男として明治四年

三月二十六日の岳降、東京法學院の出身にして嚴父の遺志を繼ぎ地方自治に貢献する處大なり。元郡會議員、合併前の檜葉村々會議員(五期)等の要職を経てその高潔なる人格と共に聲望あり、現在は學務委員として、町教育のことに精勵す。「人を遇する春風駘蕩、己を律する秋霜列日の如し」とは氏の如き人なり。家庭にはハツ子夫人との間に三男四女の子福者にして、長男義堅氏は明治大學卒業後千葉貯蓄銀行に在り。家庭極めて圓滿なり。

富岡村吉野田

學務委員  
吉野田區長

地曳 專治



地曳家は今でも「吉野田の主」として敬意を表されてゐるほどの舊家、名望家にて、二代前

の祖までは源右衛門氏を襲名、代々名主を勤め苗字帯刀を許され、また七ヶ村名主總代役を命ぜられて土地に重きをなしてゐた。先代源助氏は村會議員に在ること二十ヶ年、村長を三期、助役を二期、その盡瘁せる功勞は著大、一々數ふる煩に堪へない。氏はその長男、明治二十八年十月十四日の出生、錦城中學、慶應義塾に學んで近衛師團に勤務、後父君の衣鉢を承けて村内公共方面に進出、消防第四部長たること約十年間、學務委員、區長、選舉肅正委員等に現任、尙今後に期待をかけられてゐる。趣味は和歌、殊にあらゝぎ派に屬し、齋藤茂吉氏等と交遊が深い。その近詠に

わだつみはさわげるに似て時ありて  
見れば静けし太東岬に

波岡村上島田

學務委員  
鈴木 靜

當家は十二代傳統の家系を持つ舊家に於いて、氏は寅吉氏の長男にして明治二十

七年の丘陵なり。村自治、産業の爲めに貢献せるところ大なり。元産業組合監事、同理事、同組長、消防組頭、村會議員(二期)等の要職を歴任、現在學務委員、農會長たり。將來に多大の期待を持たるゝ人、又民政黨の戊辰會副會長を勤む。眞言宗の門徒にして、家庭極めて圓滿なり。

根形村三ツ作

根形村産業  
組合長

石井 央雄



熱の人  
力の人と  
いはれる  
氏は、三  
ツ作の舊  
家にして

代々名主をつとめし石井家九代目の當主

先考平藏氏は村會議員、村長二回、産業組合理事、村農會長、郡會議員等に擧げられし名望家、氏はその長男として明治十七年十一月十七日に生を享け長じて慶應義塾理財科を卒業後、明治四十五年警視廳巡查を拜命、本所署勤務通譯となり翌年部長に昇進、次で警部補に任じて澁谷築地兩署に勤め、大正十年警部に進級日本橋、上野各署を歴勤、同十四年退官歸郷した。その後父の衣鉢を享けて社會公益に竭し根形村農會長としての手腕はすでに萬人の認めるところ、現時根形村産業組合長、村會議員、債務調停委員等を兼ね、特に産業組合長としての功績は甚大である。夫人きみみさんは愛知縣の人七男二女あり、長男重雄氏は君津農林學校を出て目下家業に精勵してゐる。

波岡村上島田

産業組合理事  
鈴木 專治

氏は治三郎氏長男として、明治十八年五月六日の岳降なり。十五代農を傳ふる

古き家系である。永年に亘り、村産業の爲め部落融和の爲めに貢献する處妙ながら、現在區長、村土木委員、産業組合理事の要職にあり。資性濃厚、謹直にして人望高く、家庭極めて圓滿にして四男一女の子福者である。

### 小糸村長石

産業組合理事  
方面委員 久保 兵衛

氏は生來熱意實行の人として知られ、明治二十八年六月六日に、尊父孝吉氏の男として生れた。木更津中學の出身である資性極めて濃厚であつて、その淵容にして端然たる風格は、村民の間に多大の信望を博してゐる。氏は曩に推輓されて村會議員たり、區長、勸業議員、農會長として活躍、現在は産業組合理事、方面委員、學務委員、行馬根本耕地整理組長等の要職にあり専ら村産業の爲めに盡瘁して着々その功を擧げてゐる。殊に部落施設、融和等には顯著なる功績がある。家庭的には二男二女の恵まれた子福

者でありとよ子夫人と共に極めて圓滿である。

### 天神山村花輪

産業組合長  
勳八等 綾部政太郎

氏は明治九年二月二十一日の岳降にして、元村助役二期を勤め、村自治、産業の爲に多大の功績を残し、現在は天神山信用組合理事として専ら組合事業、村産業の發展に盡力なしたつゝある。尙組合二十六年度報告によると、貸出金五萬三千八百餘圓、組合員貯蓄五萬五千餘圓であり、差引純財産三萬一千餘圓、損益計算剰余金千八百餘圓である。販賣に於いて八千九百餘圓購買に九千二百餘圓となり累年向上の成績を見つゝある。氏の人望と才腕は組合員一同に絶大なる期待を受けてゐる。

### 駒山村志駒

駒山産業  
組合長 笹生 精一

村産業の發展並に農家經濟の打開によ

る村民の福利増進を目的とし併せ各部落の融合と金融の圓滑を期して現組合長笹生精一氏ほか一同の努力盡瘁によつて創立された當組合は愈々内容の充實に機能の活潑なる發揮に累年の發展を見せつゝある。現在組合員數二百二十九名出資總額八千二百圓、貸付總額一萬二千圓、貯蓄五千圓、購買七百五十圓、販賣一千五百圓、準備金六百圓となつてゐるが因に笹生現組合長は當組合創立當時の主唱功勞者たり、且つ初代組合長として役員九氏等と共に寧日なき努力を續け組合の感謝と信頼を受けてゐる。

### 小糸村大谷

産業組合  
理事 鈴木 保

尊父安之助氏はその内容の整備事業の繁盛を以て千葉縣下に有名な吉野信用組合の創立者である。現組合長天部八彌氏はその實兄に當る。地方産業の勃興に盡すのみならず、當家の養子として家運の隆盛に盡した人で尊德に私淑して報徳會

を起す等民心の善導にも功績のあつた人で、日露役のとき旅順松樹山の戦に白練隊に加はり壯烈なる戦死を遂げ村民に多大の感銘を與へ痛惜された。氏はその男として明治二十八年三月四日に生れ、木更津中學を卒業後早稲田大學に席を置いた人、讀書を好み、短歌、園藝に興味ある寡言温良の紳士である。元區長、村會議員、農事實行組合長等をなし現在は産業組合理事、耕地整理組合長、勸業委員等を勤めて村産業の爲めに寄與貢献尠からず村民の信望を集めてゐる。かや夫人は前縣會議員高橋種次郎氏の息女で、一男二女の子福者である。

### 久留里町愛宕

醸造業  
從七位 森 敬一

電話六九番

眞情の人といはれ、郷黨の信頼頗る厚き氏は、先代森敬三郎氏の男にして、明治三十年二月十五日を以て生をこの世に享けた。抑々當家は十一代約三百年間續



く舊家にして、祖先は里見義高より發したと傳へられ、代々名主等をつとめたる名門である。先代は町會議員に選ばれ町政に貢献した氏は大坂高等工業學校出身のエンジニアにして、三十歳まで稅務監督屬をつとめ



その後家督を繼いで醸造業に従事現在方面委員、勸業委員、町會議員、出納委員、千醬油並にインデアンソースの製造元として知られる島海家は地方屈指の舊家名門にして、その創業は遠く二百六十年前の昔に遡る。大正六年合名會社組織となり、從來の秘傳に新時代の科學の粹を加へ、品質第一をモットーに、原料たる大豆は滿洲産第一等品を用ひ、小麥は縣下並に神奈川方面より上質のものを嚴選して用ふ。東京市日本橋區北新堀河岸三號地に出張所を置き、東京を中心として北海道、九州、その他全國各地に販路を有し、ハワイ、支那、滿洲國に輸出してゐ

### 青堀町大堀

醸造業  
島海合名會社  
代表社員 島海 才平

電話青堀三番



年産醬油三萬石、ソース一千五百石を算し、年々増加の傾向にある。従業員は男百人、女二百人。當主島海才平氏は人格



三十三番札所として善男善女の尊信者が多い。先々代九兵衛氏は當家再興の祖にて嚴格の中にも慈悲を含み、當主九平氏の教育に意を用ひて農學校を卒業させし人、先代晋次郎氏は農漁を兼ね、水利組合事業その他の公事に竭すところ甚大であつた。當主

は明治二十九年四月、歐洲大戰當時は陸軍計手としてサガレンに出征せる武勇の士、現に陸軍省勤務の上等主計にして、日曜日毎に歸宅し鋤鋤を取つて農事にいそしんでゐる。タツ子夫人との間には長女ヒデさん、長男の明君ほか、二男三女がある。

十八日の岳降なり。近衛歩兵第四聯隊に補充兵として入營し日露戰役に第一軍に屬して出征奉天大會戰に奮戦して勳功あり勳八等を受く元消防副組頭、村農會代議員として、消防施設の整備に、農業の改善に、盡瘁し寄與する處大なり。よつて村民の輿望昂り推挽されて村會議員、平岡村消防組頭、勸業委員、土木委員、第一部長等の要職に就任し、益々村自治産業の爲めに精勵愈々誠心寄與する處あり村民の期待に酬ゆ。嚴父常吉氏は年七十七歳にして尙健在にして夫人と三人の家庭は子供なく。老父に對する夫妻の孝養亦篤し。

松丘村大戸見連見  
農家組合長 榎本吉之助

當家は村内有數の舊家にて、凡そ元祿年間より傳はるといひ、天保十一年の古文書あるのみなるも、由緒深きことは口碑その他により瞭かである。八代前の祖幾右衛門氏は本村片野より現地に轉住し

と手腕を以て鳴る聲望家である。

佐貫町亀田

從七位 高橋 九平

當家は三百八十有餘年前からの舊家にて、土地有數の大地主、往昔は大坪山麓に邸宅ありしも、元祿の大地震に倒壊して現地に移り、その跡に觀世音菩薩を祀つて守護神となしたが、其後今日もなほ

平岡村川原井

消防組頭 勳八等 鈴木 辨藏

氏は常吉氏長男として明治十七年七月

三島村辻森

辻森區長 伊田 重三



寡黙温厚の人格者との定評あるわが伊田重三氏は地方稀に見る洗鍊された材幹である。農を家業として、十數代間相繼ぐ舊家にして代々郷黨の信望をあつめた家柄である。氏は早くより自治に關心を有し、三島村辻森區長としての功勞はすでに周知のところである。はま夫人との間には二男を儲け、長男常作氏は本郡中村の周准農學校出身の秀才にて現在在郷軍人分會常任監事に推されて活躍し、次男實氏は小學校に通つてゐる。



その名高かつた。元は三枝姓であつたが、五代目源五

左衛門氏より榎本に改め、名主をつとめ爾後代々これを繼承した。先代良吉氏は戸長、助役、村會議員、村長等多年村公職にあつて貢獻多き徳望の人、氏はその養婚にて本郡龜山村藏王の出身、明治七年十二月十日の誕生にて、農家組合長、區長、農會議員をつとめつゝ、家業に精力を打込んでゐる。ふさ夫人は日露戰爭の際野戰病院に勤務せし日本赤十字社看護婦にて勳八等の帶勳者で現に産婆を開業し國防婦人會支部長に推されてゐる。家庭は極めて圓滿なり。

中川村大鳥居

在郷軍人分會長 石井 新三



が廣瀨庄之助氏は、先代長次郎氏の長男

區七等 廣瀨庄之助

温恭の人、菊栽培の如き優雅な趣味に生きる人、わ

にして明治十四年九月五日の出生である日露戦争には出征して名譽の負傷を受け右左肢の一部を切斷、功により勳七等を賜り、歩兵軍曹に任ぜられた。凱旋後は家業農に従事する傍ら公共の事業に竭しまた大正八年より昭和二年まで上總銀行青堀支店貯蓄係に勤務、昭和五年には消防組部長に推され、同八年までつとめ、現在は區長及び氏子總代を兼ねる。きわ夫人との間に清氏(明治三十九年生)、とみ嬢(大正七年生)の一男一女がある。

### 小糸村糸川

#### 元産業組合長 緒志 表 藏

氏は明治二年六月八日若三郎氏長男として生る。元區長(二回)産業組合長として部落の和合並に産業組合の改善組織に精勵し現在産業組合理事、氏子總代として人望を博してゐるが、氏は大正十二年大震災の直後産業組合長として、當時未だ信用組合のみならずにより、周南、中村、小原、八重原四村の販賣購買組合

を設立して、農村經濟の全面的開發打開を圖つたが不幸失敗に歸し以後専ら信用組合の内容の充實に努力精勵して、販購利への發展の段階的基礎確立を圖り、着々その業績を擧げ現鈴木組合長に席を譲つた。現在は信販購利として隆盛を見てゐるが之實に氏に負ふ處大といふべきである。家庭又極めて圓滿なり。

### 秋元村植畑

從五位  
勳五等  
元朝鮮總督府判事

### 山中 綠



「健康のうちには働く」をモットーとして生活を楽しむ

判所書記に任ぜられ、同四十一年韓國に於て司法制度實施されるや異數の拔擢を受けて京城地方裁判所勤務となり、翌四十二年には大韓國判事に任命さる。日韓合併後も引續き朝鮮總督府判事として勤続し、大正十三年十二月退官歸國、この間京城地方裁判所原州支廳、同蔚珍支廳同義城支廳に歴任、歸還後は暫く東京に在住したが、兩親の逝去により文字通り錦を飾つて郷里の土を踏んだ。現在は植畑區長に推されて盡瘁する傍ら、盆栽、園藝、漢詩等の趣味に生き、殊に書道は小山雲潭及び中山梧竹の兩師に就き蘊奧を究めてゐる。あい夫人は大多喜町岡野氏の女、長女貞子さんは東京武蔵野高女子公立職業學校に學べる才媛である。

### 三島村宿原

勳八等  
軍友會長

### 朝生 熊吉

氏は日本精神即ち武士道に徹せる剛毅果斷の人として普く信頼と尊敬を受け、家業の傍ら社會公共の事に竭すところ頗

### 金田村中島

佛教研究家

### 竹内 友章

温厚質朴の學究的人物たる氏は、先代辰之助氏の長男にして明治三十五年十一月三日の出生である。夙に佛教に關心を有し、殊に淨土宗の研究に多年努力を拂ひ來り、造詣頗る深く、この方面の一權威ともいふべき存在である。因に當家は約六百年を閱する舊家にして村内隨一の名門、先代は郡會議員、村會議員、村長等をつとめたる自治功勞者にて、七十二歳の長命を全ふした。夫人きわさんは清川村の産、長女志満子さんを儲け、和氣露々たる家庭をつくつてゐる。

### 根形 村

消防組頭  
在郷軍人  
分會長  
從七位

### 山田 武雄

自治界の白眉、醸造業界の傑物といはれる氏は、先代周助氏の長男にして明治三十二年十月二十九日の誕生、早稻田實

る甚大である。明治十二年八月三十日、先代豐吉氏の男に生れ、日露戦争には勇敢なる働きをなして金鷄勳章功七級を賜りし武勳者、郷に在つては村會議員三期在郷軍人分會長等をつとめ、現時村林業委員及び軍友會長の要職を兼ね、一意奉公の赤誠を捧げてゐる。家庭には令閨まつさん、母堂つねさんのほか、萬次郎氏太平氏等の令弟がある。

### 佐貫町佐貫

勳七等

### 岩田銀之助

氏は開墾事業に熱意と抱負を有する人である。明治八年一月三日に生れ明治二十七年八年戦役、明治三十七八年の戦役共に従軍して勳功あり勳七等を賜はり、陸軍一等計手に任ぜらる。殊に忠君奉公の念に厚く、曩に佐貫小學校奉安所を寄進して、賞勳局より賞状を受く、その高潔なる人格は町民の尊敬を集め、てゐる。四人の子福者にして家族六人極めて圓滿なる家庭である。

業學校を優等で卒業し、甲府歩兵第四十九聯隊に一年志願兵として入營、大正十二年歩兵少尉に任官昭和六年二月中尉に昇進從七位に叙された。曾ては青年團長として若き人々の指導に當り、現時消防組頭、在郷軍人分會長、青年團顧問たるほか、産業組合理事、君津郡將校會長、



下新内農事實行組合長等の要職を兼ね異彩ある手腕家

として信望を一身に集めてゐる。家庭は母堂ちよさん夫人いよさん(木更津高女出身、現國防婦人會理事)のほか二男二女がある。嚴父は村會議員、助役、收入役、君津郡酒醬油業同業組合評議員に擧げられた材幹である。因に家業醬油醸造業は先々代周平氏が明治七年に創始せるものにて、現在約三百石の年産あり、君津、市原兩郡下を販路とする。

周西村坂田

功七級 色部 勘治

當家は代々農業を以て家業となし十五代に亘る舊家なり。嚴父與吉氏は名主時代に於ける總代として地方開發に貢献された人、氏はその長男として生れ本年六十一歳人格高潔温厚の仁なり。去ぬる日露大戰役の時、近衛歩兵第四聯隊第一中隊に屬して各地戦線に馳せて功あり。殊に明治三十七年三月廿七日鴨綠江附近戦闘に於いて拔群の勳功を樹てその功によつて明治卅九年四月勳八等功七級、金鷄勳章を授賜さる。家庭は夫人きわさんと間に二男一女あり圓滿常に春の如し。

秋元村西猪原

煙草耕作 組合總代 鈴木 光治  
村統計調査員

嚴父徳次郎氏は現在村會議員、同土木委員として村自治の爲めに貢献しつゝあり村内有力者として人望がある、氏はその長男として明治卅一年五月三日に生れ

尊父の慈育の下に資性極めて寛容而剛健元當村自強青年會長として村青年の指導に當り、現在は煙草耕作組合總代、第六部消防組部長、統計調査委員等の要職に在り村諸般の事に盡瘁す。爲めに村民の聲望あり將來を期待されてゐる。

三島村大岩

方面委員 山森 慶覺

氏は温厚にしてよく人に和すると雖も雷同するにあらず、判然たる自己の信念に生きてゐるのである。明治元年一月六日、山森丹宮氏の男として呱呱をあげ、東京市小石川區音羽大學林を卒業せる善知識にて、方面委員をはじめ、結核豫防委員その他の名譽職に推されて社會事業に貢献頗る多く、慈悲の人、温情の人として普く聲望を馳せ、老軀なほ鏗鏘たる元氣あり、また各方面に盡瘁せる業績大なるものにして、實に氏の如き人物を有するは本村の大いに誇りとするところである。

三島村東日笠

區産業組合長 笹本 福次

本村産業組合が平和と繁榮とに恵まれてゐるに就いては、多年組合長として努力盡瘁せる氏の功績の如何に偉大であつたかを知らねばならない。しかし單に組合長たりしのみならず村會議員、氏子總代にも任じ、愛郷の赤誠燃えた活躍振りは村民の等々感嘆尊敬して止まざるところである。現在は東日笠區長に推されてゐる。生れは明治十六年三月十六日。家庭には養母りよさん、令闔てつさんのほか、長男榮造氏（明治四十一年生）をはじめ三男二女がある。

根形村

學校醫 醫學博士 小川 脩本

頭腦明晰で温厚の英國型紳士といはれる氏は、方技研え、仁徳に厚き人望家である。明治十八年一月三日生をこの世に享け、長じて先代三之助氏の養子となり

家督を相續したもので、先代は名古屋醫專附屬病院副院長としてその手腕を謳はれた英器である。氏は夙に名古屋醫專に學を修め、卒業の時は拔群の成績であつた。常に學究的態度を以て診療にあたり



いかなる 難治の痼疾と雖も 氏が刀圭を執つてこれを治

せざるはなかつた。昭和五年十一月榮ある醫學博士の學位を授與され、氏は勿論一門の光榮として欣喜するところ大きく現時開業醫たる傍ら學校醫を囑託され、學校衛生方面に於ける功績は尠なからざるものがある。きよ子夫人は明治二十三年の生れ、氏との間に長男三夫氏ほか一男三女を擧げた。

小糸村大井戸

大御齒科醫 院 長 大御 保茂

博識多才の人格者と謳はれ、人望噴々たる氏は、明治二十八年九月二十八日の出生にして大御兵藏氏の男である。當家は約百年を閱する名家、地方有数の名望家である。氏は夙に東京齒科醫學校に學び刻苦勉勵、螢雪の功空しからずして優秀な成績を以てこれを卒業し、現地に齒科醫院を開業、爾來卓抜の技術と完全な設備と兩々相俟つて類稀なる隆昌を呈し、傍ら



齒科醫師 兼幹事を 村會議員

學校醫、區長、健康保健醫、その他各種の公務につくし、郡教育會よりは學校醫として特に功績多き廉を以て表彰せられてゐる。夫人ちあさん（明治三十三年生）との間には長男博茂君をはじめ、次男恒久君、三男雅文君、長女多喜子嬢、次女京子嬢があり、家庭圓滿を極める。

根形村飯富

高橋醫院長 高橋 光雄



眼科を 主に内科 外科その他 一般診療に従ふ 本醫院は

當地方に於ける代表的存在にして、設備の斬新且つ理想的なるにより療を乞ふて門を敲く者の履は屋外に溢れるの盛況を呈してゐる。醫院長高橋光雄氏は明治十一年五月七日の誕生、千葉醫學專門學校卒業の俊才にて、一年志願兵として兵役に服するや三等軍醫に任ぜられ、日露戰爭に従軍出征、野戰病院に赫々たる功績を樹て、勳六等に叙された名譽ある刀圭家にてまた正八位の有位者である。開業の傍ら根形村長、同小學校醫を兼ね、會ては根形村長二期、村會議員四期をつとめしことある材幹、現在村會議員、學務

委員、産業組合監事、氏子總代の重職を兼任し、瞻仰翕然たるものがある。令閨ていさんとの間には六男三女を挙げ、家庭頗る和氣霽々としてゐる。

小糸村行馬

勝信太郎

新進氣



鋭、將來有爲の若人たるわが勝信太郎氏は、

英器俊才とも稱すべき人材にて、本村新人中のホープである。明治四十五年一月六日を以て生をこの世に享け、夙に齒科醫たらんことを欲し、郷校を卒へるや笈を負ふて上京日本大學齒科専門部に學び刻苦螢雪の功を積んで郷里に歸るや、直に勝齒科醫院を開業した。現代人的明朗快適な紳士にて、設備の萬全を加へて優秀なる技術を有し、人氣沸然として一身

にあつまり、開業以來稀に見る隆盛をつけて今日に至つた。夫人せきさんは大正四年の生れ、琴瑟相和して圓滿な家庭をつくつてゐる。因に祖父靜七郎氏、尊父満氏は共に小糸産業組合の振興に努め、殊に祖父は大正十二年の大震災の際組合事務所に在つて殉職せるほどの功勞者である。

金田村中島

秋樂マツ子

當家は約五百年十數代を傳ふる舊家に於いて、今は亡き嚴父幸次郎氏は元村長、村會議員等の重職を歴任村政並に産業諸般の上に多大の功績を遺せる人なり又村内一流の資産家たり。現在故幸次郎氏長女マツ子さん戸主として母堂とのまどらかなる家庭を営む。マツ子さんは資性温順の淑女而かも明朗活潑。生花、音楽等の雅趣豊にして深き造詣あり。因に明治四十五年七月二十日に生をこの世に享けた。

金田村畑戸

音 蠣灰製造工場

當工場は明治三十年頃より經營され、蠣殻を以て灰を製造、これを肥料及び壁土の材料として販賣し、品質良好なるためめるところに好評あり、昭和五年四月から工場法適用の工場となり、現時年産六萬俵二十四萬圓の多額に達する。資本金は二千圓、工場建坪百五十坪、主要販路は縣下一圓並に横濱市方面である。工場主は江尻義藏氏にして、實父晉松氏より現在に至る三十數年間の歴史を有し、將來に於ても益々發展性あるものとして有望視されてゐる。

龜山村折木澤

織本旅館

當旅館は、木更津天津間の縣道に沿ひ明治二十五年頃、桑田邑次郎氏によつて創立された。舊館七室、新館二室を有し設備完全、サービス満點、鐵道省指定旅

館として旅を愛する人達の間に著名であり硫黄泉の湧出するあり、木更津より上總龜山までは鐵道の便通じ、また木更津姉ヶ崎の兩町からは毎日瀟洒な乗合自動車

車が往復してゐる。附近には三石の觀音様があり、小櫃川はハヤの産地として著名にて東京方面よりの釣客が多い。創業者桑田邑次郎氏は土地の開發、



(部車動自)

殊に交通の發展に盡

(開支館同)



力すること多く、大正十年織本乗合自動車を自ら經營し(後君津合同自動車に合併)、また久留里木更津間輕便自動車を營むほか、龜山電氣株式會社取締役として重きをなす。現當主桑田正治氏はその嗣子明治二十九年の出生にて昭和十二年以

來父業を繼承して今日に至つてゐる。

秋元村市場

郷社諏訪神社

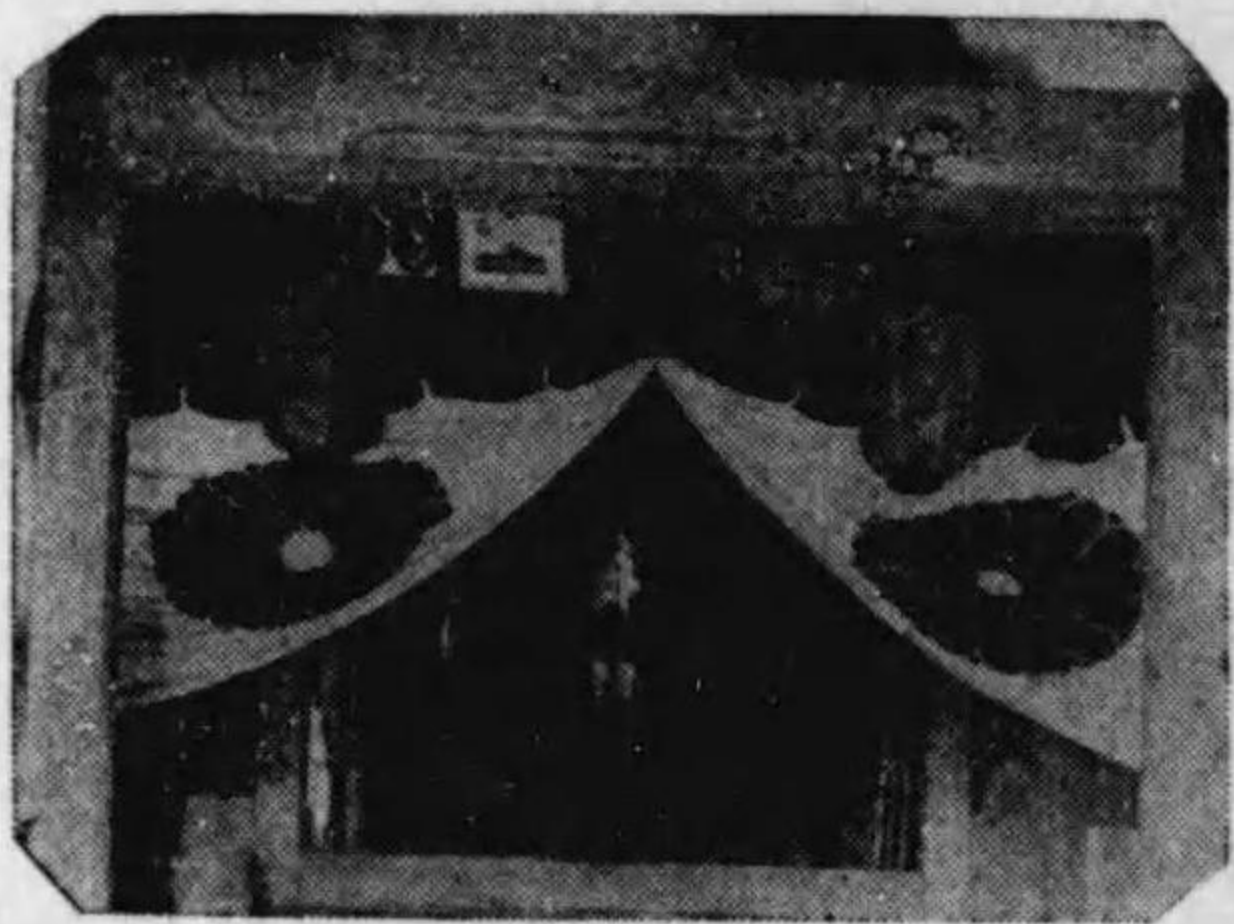
當社は建御名方命(上諏訪社)、八坂刀賣命(下諏訪社)の二神を祭り、嘉祥元戊辰年の創建に係る郷社である。その當初より舊周准郡の總社にて、人皇第五十五代清和天皇御即位の大嘗會に當地方農民に神田をつくらしめてより秋元總社と呼ばれ、第八十六代四條天皇の御代に社殿を再建した。嘉吉三年、領主秋元小次郎藤原直家當社を改造し、永正年間より城下三十ヶ村を氏子と定め、當社を鎮守とし、爾來祭典は嚴肅に取行はれた。大正十二年關東大震災にて社殿大破せしも總氏子一千戸の赤誠によりて復興し、昭和三年より氏子並に崇敬者の寄附を以て花崗岩の鳥居と玉垣を新建し、社頭一層の壯觀を加へ、神威赫々として正に縣社の風采を呈する。例祭は毎年八月二十七日である。社司石井能雄氏は明治二十一

年の出生、東京皇典研究所出身にて、大正十一年より當社に奉仕し、氏子の敬仰を一身にあつめてゐる。

龜山村笹

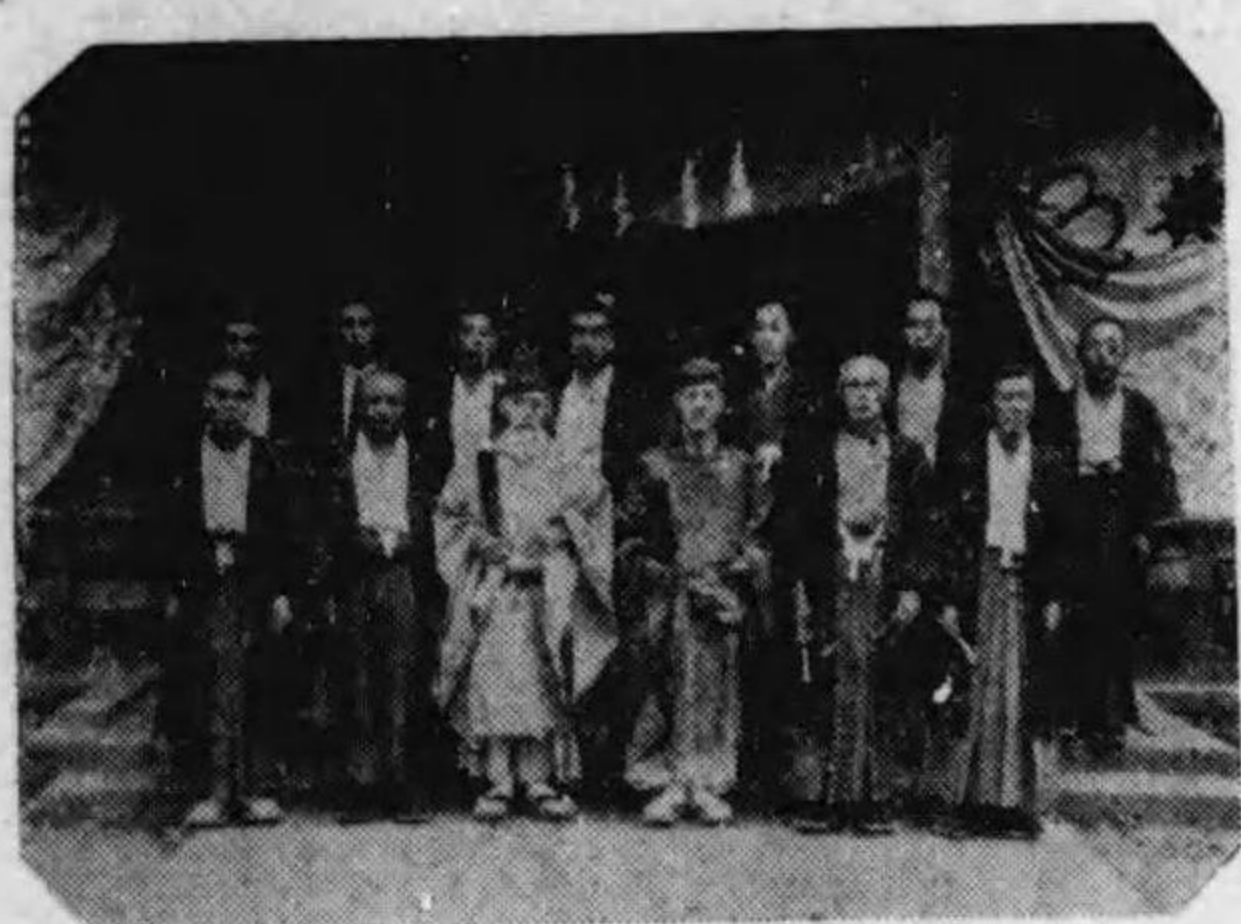
郷社山神社

當社は四圍翠綠に圍まれ崇嚴なる神域をなす。その創建は人皇第五十二代嵯峨



章紋御

天皇の御宇弘仁年間に始まる。祭神は大  
山祇命である。境内三百四十四坪、拜殿  
(間口四間奥行三間半)奥殿(間口二間  
半奥行二間半)本殿(間口二間奥行一間  
半)等整然として並ぶ。氏子數百六十戸



同一代總子氏

にして基本財産として現金一千餘圓、建  
物價格五千圓、立木六千五百圓、土地七  
千二百九十五圓を有し、寶物は正一位勅  
書金幣一本、菊御紋章提灯一對がある。

祭典は二月十七日の記念祭、八月十一日  
の例祭、十一月二十三日の神嘗祭の三回  
あり當日は縁日盛り雑踏を極め例年頗る  
盛大である。現社司は山下秀氏にして入  
格高潔を以て知らる。因に氏子總代は宮  
野與左衛門氏を始めとし、宮野郡司、相  
川桑彦、鈴木勝芳、時田平作、渡邊勝太  
の諸氏であるが、何れも誠心をさしげて  
その職責に奔走してゐる。

三島村宿原

村社 三島神社

往古、源頼朝は覇を天下に稱へるに先  
立ちて、伊豆三島大明神に信仰深かりし  
かば、鎌倉幕府創設後、上總にありては  
平廣常、下總に於ては千葉常胤全國を附  
與され、房總の豪族は祖先以來源氏恩顧  
の族なるを以て、頼朝の崇敬し再興を祈  
念したる伊豆三島大明神を敬慕し、御分  
靈を奉齋するに至り建設されたのが當社  
である。その後源氏の後裔里見家代々の  
祈願所であつた。境内に御神池あり、祈



社 神 島 三

願成就の節は鰻鯉を奉賽の意にて放つ慣  
習がある。舊八月中の酉祭は鶏を神前に  
奉る古例に則り頗る殷盛を極める。また  
武運長久祈願の甲冑祭も當社神事の特徴  
である。その他入れ込み、棒劍試合術、  
羯鼓舞など、當地方の名物となつてゐる  
氏子約三百戸。社掌は石井紀雄氏にて、  
氏子總代は川俣茂郎、眞板新太郎、森勇  
藏の諸氏ほか五名が執筆精進、貢献して  
ゐる。

木更津町

天理教千木宣教所



長所教宣崎惟

吉氏により創設された。現在百五十名の  
信徒を數へ、約三十八坪の建物を有す。  
春季大祭一月十五日、秋季大祭十月十三  
日、月並祭十五日、説教日毎月五日、婦  
人會毎月十五日、青年會毎月十五日。現  
主宰者惟崎久吉氏は明治二十一年六月の  
出生、同四十五年和歌山縣より木更津町  
新田町に移住し、天理教の布教宣傳に一  
身を捧げ信者の信任が厚い。長男喜氏は  
天理中學校出身の秀才である。

久留里町小市部

山王山藥王院圓如寺

なり。關東に於ける雜部密宗の靈地とし  
てその根源たり。里見義堯の祈願寺にし  
て又久留里城主黒田直能侯の菩提寺なり  
殊に厄除弘法大師御像は開基教慶法親王  
御四十二歳の御作、年厄除の靈驗あらた



職 住 井 武

當寺は新義眞言宗智山派にして、大日  
如來、藥師如來、厄除弘法大師を本尊と  
しその開基は遠く天平年間に在り。行基  
作藥師如來を本尊として開山せられたる  
は、聖武天皇の歸依厚かりし泰澄大法師

安國寺

佐貫町

當山は山を負ひ、海に臨み、松柏蒼蔚  
たるの地、三尊阿彌陀如來を御本尊とす  
る鎮西派淨土宗で、傳燈久しき名刹であ  
る。その昔、足利尊氏、僧妙超の勧めに  
従つて日本六十六ヶ國に一國一寺を創建  
したが、當時この地に佛舍利を頒ち、安  
國利生塔を建て、安國寺と稱し、教譽奉  
慶上人を開山となしたものである。境内



は高地に在り三百九十五坪、本堂庫裡、鐘樓、不動堂あり。寺寶として、足利尊氏の守護佛と云はるゝ觀音菩薩あり。現住職は吉水大哲師で、温容なる風格は檀徒の信望を得てゐる。

金田村中島

正行寺

淨土宗に屬し、阿彌陀如來を本尊とする當寺は、優満上人の開基に係り、慶長年間中島町刺繩打を御代官阿部八右衛門の計ひを以て當寺境内に於て行はれてより代々現在までその慣習残り、當地方の一名物となつてゐる。本寺は京都智恩院末寺に淨念寺、新月庵の二刹がある。境内九二一坪、基本財産として田二町三段畑二段五畝を有す。檀家二百戸、總代は山中萬助、篠田六之助、佐久間倉吉の諸氏、現住職は檀徒に聲望高き山本實惠師である。

天神山村横山

龍像山福田寺

曹洞宗に屬し、十一面觀世音を本尊とする當寺は、名主須藤要右衛門氏を開基とし、天正十七年、見性寺二世、祥雲宗吉大和尚によつて開山された。本山は安房の名刹長安寺である。檀徒總代は渡邊



天羽豐年踊

斧吉、小柴五郎吉、小柴和平、川名猪之吉、市川峻の五氏。住職安達東山師は埼玉縣北足立郡大石村東榮寺の前住職にて夫人ミチさんは郷土舞踊天羽豐年踊の家元として令名高く、近隣子女に教へるの

みならず横濱、其の他各方面よりも招請を受けてゐる。

周西村人見

青蓮寺

當寺は阿彌陀如來、不動明王を御本尊とし萬治元年の開山、有永上人の中興により傳はると稱され、新義眞言宗豐山派なり。山城國醍醐報恩院の末寺にして天文年中兵火に罹り縁起内記等を焼失、明治三年再び火災に會ひ、明治四十三年には山崩れのために又假本堂の倒塌を見しが、前小柴住職再建を圖り、昭和元年本堂（縦十間横六間）昭和三年庫裡（縦九間半横六間半）鐘樓（一間半四方）の竣工を見現在に到つてゐる。明治四十一年三月周西村人見大聖寺を當寺に合併許されたり。寺寶として、金胎兩部絹地大曼茶羅二幅、妙見絹地古畫三幅、弘法大師御眞筆尊影二幅、千葉介定胤筆一幅等を所藏す。田十二反畑九反山林二反宅地三百三十九坪を有す。現住職栗坂慶阿師は

當年六十七歳、人格温容にして仁慈に富む高德の人なり。

天神山村不入斗

龜鶴山幸福院圓正寺



當寺 定 廣 住 職  
は眞言 宗智山 派に屬 治三十 明

六年、正寶寺及び圓淨寺の二刹を合併して圓正寺となし今日に至るものにして本尊は藥師如來並不動明王の二尊である。藥師如來像は五尺餘寸ありて珍重の寶物陰曆十月十七日の祖先報恩會は當寺第一の行事にして頗る殷盛を極める。檀徒總代は進藤才治氏及び綾部政太郎氏の兩名現住職定廣盛觀師は本堂改築その他寺運の興隆に意を用ひ、方面委員、昭和佛教會長を兼ね、村婦人會と提携し託兒所を興す等社會事業に盡瘁する所頗る多し。

夷隅郡

大多喜町城跡

千葉縣立 大多喜中學校



當校設置の告示は明治三十三年二月二日にして同年四月三十日大多喜尋常小學校に開校式を挙げ、六月廿六日舞鶴城跡に第一校舎の新築を見爾來逐次増築して現在に至る。既に三十三回の卒業生を送り出し名實共に當地方中等教育の中樞と

しての役割を果してゐる。代議士岩瀬亮山田清、河野密、竹下茂太郎大佐等の諸氏を輩出してゐる。

- 一、大義ヲ明カニシ名分ヲ正シ以テ日本國民タルノ志操ヲ發揮スヘシ
- 一、心術ヲ公明ニシ言動ヲ誠實ニシ以テ士君子タルノ資性ヲ養成スヘシ
- 一、學業ニ精熟シ身體ヲ剛健ニシ以テ國家有爲ノ材タルコトヲ期スヘシ
- 一、師長ヲ尊親シ學校ヲ愛重シ以テ校風ノ美ヲ顯揚スヘシ
- 一、禮儀ヲ貴ヒ廉恥ヲ重シ以テ學生ノ品位ヲ高尚ニスヘシ

以上の校是を掲指して村上孚光初代校長以來十代現鈴木亮校長以下二十一職員の戮力一致の成果は、校風に人材に益々顯著たり。校内施設又良く完備して衛生班

救急用具等あり、廣大なる水泳プールを有し植林等行つてゐる。現在在學生徒數三百九十餘名卒業生二千餘に及ぶ。後援會長は當校の功勞者として知らるゝ、勤柄現大多喜町長である。尙當校は體育競技方面に於いて殊に秀れ、現鈴木校長は、圓滿眞摯の人格者として、父兄並に職員間に人望が高い。

### 總元村大戸

#### 總元尋常高等小學校

「忠孝の大義を體得せしめ進んで日本民族文化發達に努力し得るよき日本人の養成をなす。」當小學校の校是はこれである。現在既に二十九回の卒業生を出し村經營の中核たるべき人士を多數輩出してゐるが、同校職員十氏は職員十條五條を掲げて村内學務關係者と協同よく村内教育の實績を擧げてゐる。現在の在席兒童數四百五十四名である村内全體を學區とする丈に村教育の方面は常に一元の下に集約され成績向上の方面に一層の拍車をかけてゐる。

かけてゐる。

### 中川村

#### 中川村信用販買購買利用組合

電話刈谷二三番

本村には古くから信用單營組合の設けはあつたが、大正十五年頃よりの事業不振の結果、終に解散の止むなきに至つたが、併しその金融、生産物の販賣、産業用經濟品の購入などについて組合の必要を痛感し同志相謀つて今の四種兼營の組合を創立、次で農業倉庫業及び米穀貯蔵管理業を加へ、保證責任組織の下に銳意健闘を續けて今日に至つてゐる。出資一口の金額は二十圓、組合員四百餘人、總出資額一萬七百餘圓に達してゐる。生産物の主なるものは米穀で、年産一萬五六千を産し、副産物として吟莖五萬八千餘枚をかぞへる。貸付總額約三萬二千圓、貯金五萬五千餘圓、販賣價額四萬圓、購買價額また四萬圓を算するの統計を示してゐる。現組合長理事吉原萬藏氏は極めて眞面目な、そしてこの方面の手腕家として定評があり、常に組合員より敬慕されてゐる。なほ理事に鈴木正太郎、半場文吉、關弘氏等、監事に江澤一成、田邊惣次郎、田邊廣郷氏等現任中であり、また産業組合家の光會は、中央會千葉縣支部會長より表彰を受けてゐる。

### 勝浦町

#### 濱勝浦漁業協同組合

本組合は千葉縣漁業界の重鎮的存在にしてその創立も遠く明治三十六年六月三十日にかゝり爾來歴代組合長並に組合員の没我的努力と併せ漁業的地位と港灣に恵まれて今日の大なる縣産業の一部門に馳せ參するの業績を收むるに到つた。港灣の完成に當つては二十數萬圓の資金を投じ、昭和二年の縣營修築に當り六萬數千圓の資金を寄附し港灣の體裝完備と共に内務省指定港に編入せらるゝに及び同組合の事業方面も愈々大を加へたといふべく「かつを」漁を筆頭としてその漁獲

物は三十數種類に上り賣上總額百數十萬圓に上つてゐる。發動機船三十數隻に達し、組合の存在は縣下漁業界にゆるがざる王座を占めてゐる。組合の見積財産七十數萬圓と云はれ、負債は三十萬圓内外當組合の内容確固たるを示してゐる。

### 國吉町今關

#### 國吉町今關農家組合

當組合は昭和八年八月二十九日の創立にかゝり創立以來組合員よく協力一致今日の基礎を確立せるものであつて、農具の廉價購入策に改善を加へ、販賣に共同出荷を徹底せしめ、又堆肥の品評會を開催、郡農會の審査を受くる等、業績甚だ顯著なるものがある。尙各戸に家計簿を備へしめ農家經營の改善合理化を圖る等その施設の白眉ともいふべきであらう、初代織本傳吉組合長の後を亞いで現織本長吉氏組合長となるに及び組合の整備に一段の拍車をかけつゝある。織本長吉氏は昭和二年早くも農家總代となつた材幹

で昭和八年警察官となり同十一年辭して郷黨の爲め農業報國の志を固め爾來銳意組合長の重職に恪勤精勵してその材幹は大いに將來を囑望されてゐる。因に氏は明治三十二年十月三日の岳降であり滿身の熱と意力の充てる壯年の士である。

### 勝浦町新官

#### 豐濱漁業協同組合

當組合は舊豐濱村より川津區を除く以外全部の區即ち新官、澤倉、部原の三部落を以て區域とし各部落に組合あり、基金一萬千圓準備金三千圓、組合員百二十三名にして極めて優良なる成績を上げつゝあるが現在既に漁業資金として總額二萬圓の貸付をなせり、江澤長四郎、中村徳太郎、相川丑太郎、江澤潤一郎、加藤龍啓の歴代組合長の後を襲ひ江澤吉太郎氏現組合長となる。尙理事三名を設け各部落を代表し江澤吉太郎(新官)田原一次郎(部原)三尾秋之助(澤倉)が在任し、幹事として江澤正七、林新七の二

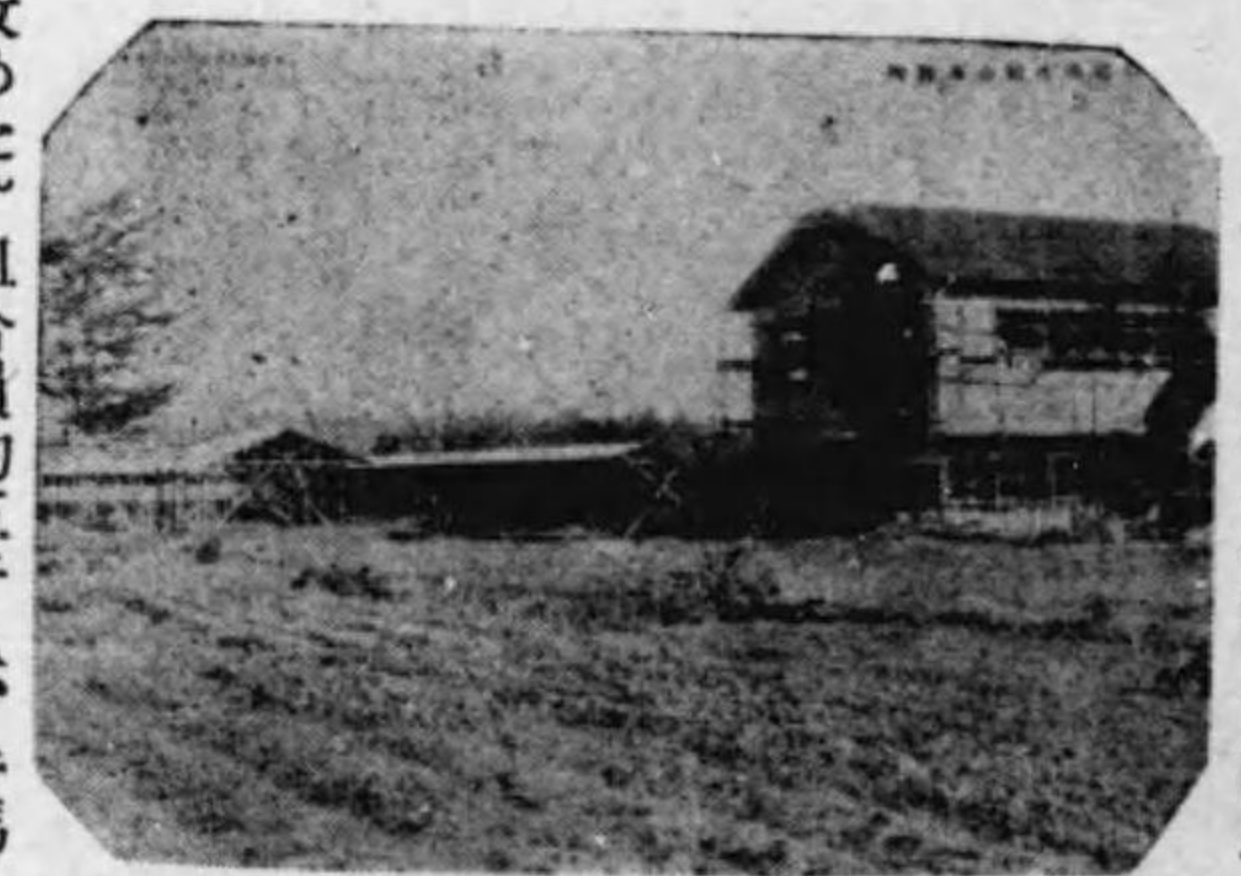
氏が在勤してゐる。江澤吉太郎組合長以下組合員一同協力一致して業績とみに學がり内容極めて確固たるものあり。

### 大多喜町紺谷

#### 夷隅郡畜産組合

電話大多喜三四番

當組合は、大正六年九月畜牛畜産組合として創立されしに濫觴し昭和二年組織を變更馬匹も取扱ひて、同時に現名稱に改めた。組合員約五千人、牛馬各一頭につき一ヶ年二十錢の組合費によつて事業



名稱に

を運営し、家畜の衛生及び畜力利用の増進の指導をなすほか、馬匹共進會、畜力實演會、種付馬検査、有畜農業の研究、牛馬購入の斡旋、牛馬去勢その他種々の事業を行ひ、郡内畜産業の向上發展に寄與貢獻するところ多大である。郡制時代には組合長を郡長が兼任したが現在は組合長君塚角之助氏、副組合長加會利勇作氏にして、他に評議員十名並に各町村に一名宛の代議員がある。

千田村松丸區

新田農家組合



富澤組 組合長、組合員二十一名を擁し、基

本金五百餘圓にして、小規模ながら堅實無比の業績を挙げ、農家組合長の優良且つ模範とされてゐる。組合員一戸當りの

耕作反別は一町一反強平均にして、堆肥舎十二棟の設備あり、昭和十一年度よりは米の糶摺りを組合經濟部にて取扱ふこととなり、三馬力發動機を据付け、利用率頗る良好である。また肥料購入代金を資するため五ヶ年繼續のかます共同貯金を實施し、これまた良果を収めつゝあり更に堆肥や農産物の品評會を行つたり、時間確守を勵行したり、その發展振りは誠に顯著である。組合長富澤威氏は元在郷軍人分會評議員、青年團支部長等をつとめたる手腕家、一身を捨て公共のため竭すの念厚き人である。

勝浦町申濱

申濱漁業組合

當組合は部落産業の開發並にその技術の改善と漁業器具の改良刷新及集團的營爲による漁業各方面の能率増進合理化を旨として設立されたもので、申濱一圓を區域として一七一名の組合員を擁し組合全員協力一致處期の目的に向つて努力し

つゝある。現組合長は高梨萬治郎氏であるが、元方面委員を勤め消防組に功勞ありし人で、現在多數の推輓を得て町會議員に推され今日に到つてゐるが、氏の眞摯なる漁業組合への精勵と併せ町政への貢獻はあまねく人望を得る處となり、氏の人格と共に今後の伸展を期待されてゐる人である。因に氏は明治十五年の岳降である。

勝浦町

勝浦町 鋤柄直也



氏は、自治界稀に見る温情的奮闘家にしてしかもそ

の線の太きことは、世上、すでに定評のあるところである。明治十七年六月を以て生をこの世に享け、長じて刀圭家鋤柄家の養子となつたもので養父良司氏は現

大多喜町長として令名高く曾ては縣會議員に選ばれ縣政界の寵兒と謳はれた材幹である。氏は九州帝大醫學部の出身、技術の優秀なると設備の近代科學的なるところにより、當地開業醫中の第一人者と稱され、患者の往來頻繁を極め、隆昌の限りをつくしてゐる。且つ刀圭を執る傍ら夙に町會議員に推されて活躍し、現にその任にあるほか町長の要職を兼ね、温厚篤實の手腕家として信望が高い。尙、養子秀一氏は醫學博士の學位を有する新進の英才である。

總元村石神

總元村長 坂輪文藏



全村民の囑望を受けて村長の重職に就任、赫々たる

前途を有する氏は、坂輪勇次郎氏の三男

にして明治十五年三月三日の岳降である。日露戰爭の時は第三軍たる乃木大將の麾下に屬して各地に轉戦、克く忠烈の働きをなし、除隊後は家業の傍ら自治公共のことに力を致し村會議員たること三期、また助役、區長、消防組部長から同組頭、農家組合長、産業組合理事を歴任するほか第二耕地整理組合長たること十三ヶ年に及び、現在は村長として活躍しつゝ村農會長、青年團長、産業組合理事を兼任する。宗教心厚く、寺院方面に功勞あり先年日蓮宗管長より表彰を受けた。夫人は國防婦人會分會長にして、曩には愛國婦人會より三等有功賞を受けた賢婦人である。因に尊父は村會議員、學務委員、區長をつとめたる材幹である。

西畑村百鉢

西畑村村長 關平次

故野口宗五郎氏の三男として明治九年九月二十五日岳降、早くより日蓮宗を信仰し、事に當り常に誠心の二字を以て

す。人その誠心に多大の與望を與へり。若き頃より郡書記、夷隅郡教育會主事、警察署長等の要職を歴任且、方面委員にも任ぜられり、現在は西畑村々長として村自治の爲め全生命を傾注以て克く村民の信望を滿し老ひて益々圓熟の人格見識を發揮しつゝある。又産業組合幹事として村産業の開發に寄與し、併せ臨時裁判所調停委員、農會副會長等の要職も兼任せり。今後の氏の活躍は村民瞻望期待する所であり村内銃後の處置施設にも亦大いにその才腕を振ひつゝある。

上瀑村横山

村會議員 農會長 山本武壽



當村名望の舊家として故尊父幹長氏は村長村會議員

を歴任、東海銀行專務取締役、夷隅銀行

監査役、南總家畜市場社長、郡畜産組合副長、財團法人伊甚慈救社監事等の重職に就き、事業界に財界に巨大な足跡と功績を残せし人である、氏はその長男として明治三十五年十一月二十一日の岳降なり。嚴父の衣鉢を襲ぎ、助役、消防組頭其の他の要職を経て現在、村長、村會議員、農會長の名譽職にあり、村自治の全般に亘り鋭意盡瘁村民に多大の信望を博し居り、氏は未だ少壯氣銳の紳士として事業界に政界に前途洋々の將來を約束されてゐる。家庭はしやう母堂、つな夫人五男一女の子福者で極めて圓滿である。

千町村

千町村長 朽方正秀

當村は國吉町から太東停車場へ通ずる樞要國道に沿つた往來の頻繁なところで初代村長以來歴代相繼いで村治績の改善向上に盡瘁したゞけに、明るく朗かな村として知られてゐる。氏は多年本村内の公名譽職等に推されて盡瘁貢獻し、村内

に重きをなしてゐる。今この明朗な村の主長に推薦されて就任、がっちり双肩に擔つて起ち上つた氏の決心にこそ、大に刮目に値すべきものがあり、とにかく氏のすべては今後にある。氏の家は村でも屈指の舊家、累代農を本業となして今日に至つたもので、土地の名望家として仰がれてゐる。

東村 高谷

東村長 池田 彌一



全村民の熾烈なる要望により先年村長の要職に就任せる氏は、舉措に品格あり、言語は叮嚀東村の近衛公とまでいはれる貴族的タイプの人格者にて、村内第一の信望家である。先代彌七氏は家業の傍ら區長、村會議員等に擧げられて貢獻勤なからざる實

力家、氏はその長男にして明治十三年の岳降である。夙に村助役を拜命し、村會議員に選ばれ、且つ在郷軍人分會長に推されるなど、その人格と手腕とは早くから衆庶の認め且つ期待するところであつた。現在は村長のほか村農會長並に産業組合長の要職を兼ね、全村民の要望に應へて着々効果ある事績を示してゐる。長男氏は目下大阪市東亞鐵工所に勤務し、次男氏は東京市荏原區役所吏員、三男氏は立教大學在學中である。

瑞澤村 妙樂寺

瑞澤村助役 佐藤 賢治

謙恭の人といはれ、己を持するに嚴格なる氏は、當村有数の由緒正しき家柄なる佐藤家に、明治三十年五月二十四日、先代專藏氏の長男に生れた。夙に村吏員を奉職後、助役に擧げられて今日に至り當村經濟更生指定村となるに際しては特に功勞多大なるものあり、將來の村長といはれ全村民の信望をあつめてゐる。尊

父も村會議員、區長等に選ばれし信望家である。家庭には兩親健在し、令夫人との間に長男良平君、次男正一君、長女のぶさんがある。

勝浦町 申濱

町會議員 石井重太郎



當町屈指の舊家といはれる當家は代々重右衛門を襲名し、先代重右衛門氏までは漁撈を以て業とした。當主は明治二十一年一月十八日の出生、讀書に興味を有する濃厚篤實の人格者である。明治四十二年千葉師範學校を卒業し鳴海、勝浦兩小學校訓導を奉職後、總野村新小學校長に榮轉し、次で興津尋高小學校長、總野尋高小學校長等に歴任し昭和十二年に退職、その間從七位勳八等に叙せられ、人望篤き氏は

退職後二ヶ月にして町會議員に選出せられ、現に學務委員、區長代理を兼ねて、自治に參與貢獻してゐる。家庭は母堂なみさん、令閨つねさんのほかに、長男重郎氏(早稻田大學高等師範部卒業)、二男重治君(一宮實業學校在學)、三男重美君(同上)、長女重子さん(大原高等女學校在學)、二女美重子嬢がある。

大原町 小濱根方

大原町漁業組合長 山口 治洋



當山口家は當地有数の舊家であるが、漁業を營むやうになつてからは五代目で、先代鐵藏氏は大正十二年五十六歳を一期に永眠した。氏は明治二十二年八月九日の出生、長じて當家の養子となり六十馬力二十噸

級の漁船數艘を有し、十二月頃から翌年六月末頃までは百人位の漁夫を備ひ、鰯及び鱈漁に従事、年に巨額の収益を擧げてゐる。傍ら大原町漁業組合長、千葉縣都市計畫委員、町會議員、郡水産會副會長、大原製氷會社取締役、大原町軍友會長等の要職に就き斯業界の重鎮として尊敬され表彰も數度に及んでゐる。

長者町 東小高

町會議員 鶴岡長之助



濃厚篤實、人格普く高き氏は、先代米藏氏(八十四歳にて他界)の長男として明治二十二年呱呱の一聲をあげた。家業農に従事して熱心にして寸暇を偷んでは勉學に努め、自學自習の努力家である。しかも早くから自治及び社會の事に參與貢獻なから

ず、青年團長時代の手腕と人望とは萬人の周知のことであり、區長勤績數期に及び、部落第一の信望家と謳はれ名聲噴々たるものがある。且つ町會議員に當選すること四回、いつも高點を以てし、功績は與望の高きと比例して益々顯著である。實に氏の如きは稀有の材幹と稱すべきであらう。家族は八人あり他に傭人一名を置く。母堂は喜壽を迎へてなほ矍鑠、長男勝行君は大多喜中學校に勉學中の俊才である。

大多喜町上原

町會議員 磯野傳三郎

負債整理組合長 故留次氏の長男として明治十二年一月十日岳降、岳父は消防組頭、區長等を勤めた人である。氏も亦區長として部落融和のために盡力す。資性濃厚篤實にして政友會に屬し村自治の爲めに質實なる貢獻をなす、村民の推輓を得て町會議員となつて現在に至る。氏は負債整理組合長に任ぜられ、町民生活經濟の打開伸展に

努力盡瘁して多くの信望をあつむ。自轉車、ラヂオ商を營み併せ昭和元年より旅館を開業して自己事業の發展も亦顯著なり。將來益々多くを期待さるゝ人である。天臺宗の門徒にして、千代夫人並に一男二女あり家庭極めて圓滿なり。

總元村久我原

村會議員 栗原 治平



禮儀を重んじ、誠實を尊び、理否曲直に嚴なる氏は

多年小學校に教鞭を執りし名敏家にして時間の尊重すべきことを一般に普及せしむると共に、佛教の改革、これに關聯して迷心打破を叫び、社會風教の改善に盡力し、庶民をして陋習を脱せしむべく努めてゐる。産業組合理事、村會議員、方面委員、土木委員、債務調停委員等の要

職を兼任し、活動舞臺の多彩なる誠に氏の如きは尠い。夫人は貧農の救済に功勞ありしにより郡長より表彰された賢婦人である。因に當家は本村唯一の名門といはれ、代々名主をつとめ、大原小港に寺院を建設したり、道路案内示標石を設置したり、郷黨のため多大の貢獻を致して來た。先代は藤三氏と稱し、當主はその長男にして明治十八年六月三日の岳降である。

老川村栗又

郡畜産會副會長 加曾利勇作



資性剛毅、しかも活躍舞臺の多彩なること氏の如き

もまた少ない。明治十四年二月三日、先考竹次郎氏の長男として呱呱をあげ、早くから家業畜産業に淬勵し、明治三十四

年には近衛騎兵聯隊に入營、三十七年の日露戰爭には愛馬と共に戦線に立つて勲あり、凱旋後は家業の傍ら公共のことに參畫盡瘁し、村會議員に選任、多年また郡會議員をもつとめ、現在は夷西牛馬商組合長の要職にありて活躍奔走するほか、千葉縣家畜保險組合代議員としては同業者の便益増進に努めて、夷隅郡畜産會副會長、同郡農會評議員、村會議員六期目、千葉縣畜産組合聯合評議員、村農會長等に推され、功績愈々顯著にして令名益々高く、老川村が有する至寶とまで稱揚されてゐる。

西畑村彌喜用

縣農會副會長 元縣會議員 君塚角之助

濃厚篤實にして偉大なる材幹たる氏は西畑村切つての名望家である。慶應二年四月二十日を以て生を享け、明治三十年西畑村長となつてより前後七回に亘つて選任、郡會議員、同參事會員を経て三十二年九月郡會議長に當選、また四十年以



兼ねて今日に至るほか、千葉縣地方森林會員、中央畜産會評議員、縣農會副會長、縣畜産組合副會長、縣家畜保險組合副會長等に推され、また株式會社南總家畜市場を創設重役に任じ、郡畜牛會の組織に當つても功勞多く、帝國農會よりは農事功勞者として表彰されし偉材である。

瑞澤村妙樂寺

村會議員 野口 耕藏

意志の鞏固なること磐石の如しといは

れる氏は、明治十二年五月三十一日の岳降である。尊父久二氏は戸長役場時代永らく戸長の職にありたる功勞者にして、明治二十一年他界せられた。氏はその末子なりしたため、令兄良次氏(元瑞澤村長)の準養子となられた。長じて近衛歩兵第二聯隊に志願兵として入營、日露戰役には軍醫として出征、從七位勲六等に叙され二等軍醫に昇任した。抑々氏は仙臺醫學專門學校出身の刀圭家にて、現に野口醫院を開業中であり、曾ては大正元年より同八年まで縣の衛生課に勤務せしことがある。曩に推されて村會議員に任じ學校醫、軍友會會長を兼ねて今日に至る。趣味は園藝。家庭には長男齊氏ほか六人の子女がある。尙、亡兄良次氏未亡人松榮さんは國防婦人會瑞澤村會長として令名がある。

千町村小高

村會議員 本吉 健吉

機敏にして活動的なる氏は、また人に

接するに懇篤、眞摯熱意に富み、何人に對しても好意の感を與へずんば已まざるの人である。名主の家柄にて、約五百年の歴史を有する舊家なれば、當家の如きは地方に於ても先づ有数のものにて、先考太郎左衛門氏の長男として明治十九年三月二十二日に生を享けたる氏は、區長



代理十有二年、消防時代より消防組に關與すること

十有五年、現に區長並に消防組頭に擧げられて責務を果し、また村會議員、小高青年團顧問を兼ねるほか、小高神社總代實相寺總代としていづれも十餘年の長きに及び、昭和十年小高神社に御影石の大鳥居を寄進するに際し、縣知事より多年神社に貢獻多からざる故を以て賞状を贈られた。尙、氏は消防組へ消防旗を寄附してゐる。

古澤村桑田

村會議員  
前村長  
從七位  
勳七等

安藤 忠治



氏は明治三十七年に千葉師範學校を卒業せる縣下教

育界の偉大なる功勞者である。即ち長生郡太東小學校訓導をはじめ、夷隅郡古澤村岩熊小學校長、同中川村行川小學校長に任じ、若き時代人の養成につとめ、更に朝鮮に出向、各公立普通學校長、小學校長、實科高等女學校長等を歴任、在職二十七年に及び、錦を飾つて郷里に歸るや擧げられて千葉縣方面委員、桑田區長古澤村、同農會長等村内最重要の地位に就き、本村興隆のため多大の貢獻があつた。温厚な〇士といはれ、先代銀藏氏の長男にして明治十五年五月八日の出生

である。俳句に造詣深き雅人としても著名である。養嗣子醇氏は安房中學校卒業後東京體育學校に學び、現在大多喜中學校教諭をつとめ、次女こう子さんは海軍士官梅澤氏に嫁し、四女しづ子さんは片貝實科高女教諭である。

中川村正立寺

村會議員 麻生 敬司



文豪シエクスビヤは、「正を踏んで恐るゝ勿れ。」と或

る戯曲の中で語つてゐる。正に然り、而して正々の理、堂々の陣を張つて村會議員中に精彩ある活動をつゞけてゐるのはわが麻生敬司氏である。氏は麻生龜吉氏の次男、明治二十一年九月を以て生をこの世に享け、家業に精勵して篤農家の聞え高く傍ら區長代理一期、區長一期半を

つとめたるほか、衛生組合長たること十ヶ年の長きに及び、戸數割調査員にも任じ、現在は村會議員として専ら村治の改革發展に努力してゐる。夫人は惜しくも先年幽明境を異にせられたるも、家庭には秀才の譽れ高き長男大美夫君（大正十年生）をはじめ二男一女を有して幸福の限りを盡してゐる。因に先代氏は區長二期、消防組役員等をつとめたる人望家である。

東村 山田

村會議員 渡邊 保治



明朗快活な人格者たる氏は、明治三十七年七月十五

日の出生、齡而立を越えて幾歳もなきに拘らず、曩に村會議員選舉に際し高點を以て當選するの名譽を擔ひ、兩來新銳議

員として村政上に特異の存在を示し、特に生産力の確保増進と産業の發展とに力を竭し、功績赫々たるものがある。しかも將來有爲の人材として多大の期待を持たれ本村が有する至寶の一つといふべきである。夫人は國防婦人會員として銃後の護りに奔走盡力しつゝあり氏との間に長男一義君ほか一男二女がある。なほ嚴父權左衛門氏は二十五歳の時、日露戰役に應召出征し、勇猛果敢に奮戦し、遂に名譽の戰死を遂げ護國の鬼となつた。氏はその長男である。

東海村若山

村會議員  
商工會副會長

竹藤 由藏

氏は分會長、小頭、部長等を歴任の後村會議員、商工會副會長となる。村政並に分會の整理等に盡瘁して村民の感謝と信頼を得たり。資性温厚にして而も豪放義侠に富み、神社、佛閣に參して心技を鍊り深く佛教に歸依す。分家以來自ら製材、材木の販賣、製桶の業を興し、着々

成功を來しつゝ、現在九人の使用人を有し益々發展の途にある。氏は又商工會副會長として村商工の爲めに裨益精勵し、在郷軍人分會長とし賞状を受けり、殊に念佛を誦じて隣慈の情厚く、各方面に寄附を致して本懐とせる人なり。家庭極めて圓滿、長男力雄氏は目下明治大學に在學中なり。

中根村押日

漁業組合長  
村會議員

中村 五郎



當家は數百年の歴史を有する舊家にて代々名主をつ

とめし家柄、先代熊十郎氏は七十三歳にて他界されるまで自己を捨て、公共のため村治のために盡された本村の自治功勞者である。當主は本郡布施村の産、明治六年一月を以て生れ、長じて當家の養子

となりしもの役場勤務十ケ年に及び區長國勢調査員をつとめ、昭和三年より産業組合長たるほか現在村會議員三期目、學務委員六期目の任にあり、植木を趣味として綿々たる餘力を見せてゐる。尙、養子儻氏は東京市澁谷區堤商會に勤務する

### 浪 花 村

岩船漁業組合長  
村會議員 淺野 弘雄

氏は明治元年の岳降にして、先祖以來永く當地に住し代々農業に従事する有數の舊家である。氏は郡會議員、郡漁業組合頭等の要職に就き郡政廢止の後には村會議員、村長等に歴任村治政の長老として且又村隨一の村治功勞者として浪花村各方面に多大の事績を残し村民の絶大なる感謝を受けてゐる。現在氏は村會議員としての活動の傍ら岩船漁業組合長として現在百名の組合員を擁し「オウハ」鮑等を主要漁獲物として組合員一致協力して組合發展の爲めに盡瘁しつゝあるが、既に漁獲物共同加工所を設立し愈々組合の

内容充實を來し全漁業組合の發展は淺野組合長の確固不拔の意力と共に將來を約束されてゐる。

### 勝浦町 松部

町會議員 高師 一江

快活にして磊落なる手腕家たる氏は、一面また細心緻密なる周到さを持つ實務家肌の人である。明治十四年十一月二十一日を以て先代留造氏の長男に生れた。先代は町會議員、區長、消防部長等を多年に亘つてつとめたる自治功勞者であり當家は開祖を詳かにせざるも相當由緒ある舊家にして、祖父彌兵衛氏の代より漁業を始め當主に及んだものである。氏は夙に勝浦高等小學校長として教育界に名を挙げ、郡教育會より表彰されし光榮の人であり、後、家業に精進の傍ら漁業組合長、信用組合理事の要職に擧げられ、現時町會議員四期目に任じ、噴々たる名聲を馳せてゐる。長男正夫氏は早稲田大學工科を出て東京市丸二工場につとめ、

他に次男三郎氏、長女ふじさん、次女秀子さん、三女きみ子さんがある。

### 總元村 三又

村會議員 吉野 潤一



事を行ふや飽くまで堅實を旨とし寡言實行の實力家

と稱される氏は、先代作次郎氏の長男として明治十九年十二月一日を以て呱呱の聲をあげた。農を以て主業とし、晨朝より薄暮まで精勵家運の隆昌に意を用ひつゝ、一面社會公共に奉ずるの念願あり夙に區長代理、區長に推され、また消防組小頭、衛生委員等に任じて本村の自治並に風習の改善に貢献尠ならず、現在は尙、村會議員として村政の中樞に參與し、また學務委員を兼ねて學事の興隆に盡瘁するほか、村農會評議員、耕地整理

組合副組合長の重職にある。家族は七人夫人は國防婦人會並に愛國婦人會の會員として銃後の援護につくし、長女以下四人の子女がある。因に先代作次郎氏もまた區長をつとめたることのある徳望家である。

### 老川村 小田代

村會議員 中村 和平

先代若松氏は方面委員學務委員、村會議員等を數期に亘り歴任した當村の功勞者であるが、氏はその長男として明治二十八年四月十二日の岳降、代々農業を以て業とす、氏よく農事の研究に精勵し爲めに農事實行組合長、産業組合評定員、農家組合長等に擧げられ又區長として村民和合協力に盡力信認を博し村會議員に推される。資性温厚篤實にして質實剛健村自治のために盡瘁す。氏は禪宗に門徒たり、三男三女の子福者にして、家族十人一家和合して常に踏蕩たり、氏の公正にして質實の人格と共に未だ眞摯の壯年者

である、將來に於ける功績こそ期して俟つべきものがある。

### 西畑村 弓木

村會議員 森 一郎

勃々たる英氣を有し、自治界の才腕家といはれる氏は、その積極的活動家なるに拘らず一面温厚なる性格の持主として知られる嚴父與太郎氏は元村長に選任されたる衆望家にして本村勢の發達向上に寄與せしこと尠ならず、また村會議員を永年つとめられ、政黨色ある人物として異彩を放つた。現在夷隅郡大原町に於て薪炭商を経営、盛業中にて、同業界の覇者を以て目される。氏はその長男にして、明治二十四年十一月を以て生をこの世に享けた。家業の旁ら村會議員、學務委員、産業組合理事等を兼任し、功績頗る顯著なるものがある。家族は十人の多勢をかぞへ、八人の子福者にて、長男榮氏は農耕に従事し夙夜淬勵怠ることなく將來有爲の若人との定評がある。

### 瑞澤村 妙樂寺

村會議員 田邊 三郎

氏は温厚なる性格と高潔なる性格の持主、加ふるに頭腦明敏なること衆庶の遠く及ばざるところである。先代己之吉氏は縣師範學校の教壇に立つて若き教育家の養成につとめること十有餘年間の長きに及べる功勞者にして、氏はその長男に當り、明治三十七年十二月十日の出生である。大多喜中學校時代より秀才の譽れ高く、同校卒業後縣師範學校二部に學び總野小學校訓導として明日の國民の薰陶に任じ精勵にして寧日なかつた人。その後消防組小頭等に任じ、曩の村議改選に新人としての輿望を擔つて當選の榮に浴し、現時農事實行組合長を兼ねて、専念村治改善、産業の振興に盡力してゐる。趣味は園藝である。令夫人操さんは元本郡國吉小學校に教師をつとめられしことあり、家庭は母堂を合せて三人にて圓滿である。

古澤村岩熊

村會議員 關口 定吉

當家は始祖以來連綿として數年間を相繼ぐ舊家と稱され、當地方屈指の家柄である。その詳細は判明せざるも、過去帳や口碑等によりその由緒を窺察するに足る。先代徳右衛門氏は篤農の士として著名であり、氏はその長男にして明治十二年十一月十九日の出生である。明治三十二年青山歩兵第四聯隊に入營、日露戦争には第一軍に屬し、武勳赫々たるものがあつた。郷に於いては、衆望を背負つて村助役に任じ、在勤七年、大正十五年村長に選任、昭和二年まで在職した。政友會系の人材にて、助役當時學校合併問題を解決して男を上げたるは周知の事柄、現在は村會議員並に寺院總代を兼ねる。長男徳松氏は東京農業大學専門部出身、次男貞之氏は臺灣新竹州に勤務、他に三男菊司氏及び長女いち子さんがあり、家庭は圓滿である。

中川村大野上

村會議員 田邊 平八



生活の安定は非常時局下に於ける緊急事である。氏は生産力の増進、安寧秩序の保持、國力發展の上から、その根基となる庶民生活の安定を圖つて東奔西走盡力し、村會議員中に精彩を放つてゐる。且ては區長代理、區長、消防組部長、農會總代、青年會支部長等幾多の主要任務に歴任し、その力量と手腕とはすでに萬人の認むるところ、されば村會議員の選舉に馬を進めるや期せずして高點を以て當選の榮を勝ち得たのである。抑々當家は分家以來三代目、代々農を主とし、氏は先代米藏氏の長男として明治十四年六月十五日に呱呱をあげた。夫人は愛國婦人會支部に

在つて重きをなし、長男博氏は東京市役所に勤務する若手吏員中の異材、長女は他に嫁し、次男秀男氏は家業に従ひ氏を扶けてゐる。

東村山田

村會議員 鈴木 幹

人間に必要なものは、第一に智力、第二に財力、第三に體力であるといはれる。氏はこの三者を具備し、加ふるに徳尊父三之助氏は年齢七十八をかぞへて健在、母堂また古稀を越へて矍鑠たるものあり、氏はその長男にして明治十九年四月十四日の誕生である。篤農家と呼ばれ農業經營に關しては深き造詣と卓越せる識見とを有する人にて、家業の傍ら消防組部長、同小頭、區長代理、農會總代、衛生組合長、農業組合長等を歴任し、農會長より賞状を贈られた功勞者である。現在は村會議員として活躍しつゝ兼ねて區會議員をつとめ一層村民の福祉増進を

圖つてゐる。家族は九人の多きを數へ、五人の子女を有す。

東海村東中瀧

村會議員 大屋 耕藏



燃え立つ熱意を以て自治公共の事に竭し、功勞特に顯著なるはわが大屋耕藏氏である。明治十三年八月一日、先考貞吉氏の長男として健かな呱呱の一聲をあげ、茂原農學校の第一期卒業生であり、卒業後志願兵として日露戦役に従軍し神速果敢の働きをなし、勳七等に叙され、曹長に昇進した。凱旋後農事試験場に奉職せることあり、また永年在郷軍人分會長をつとめ、學務委員等にも任じたことがある。現在は村會議員ほか農會評議員を兼ね、政友會系の人物として一目を置かれてゐる。趣味

は養鶏。家族は五人あり、長男瑞穂氏は新聞社代理店を經營する。因に當家は數百年の舊き歴史を有し、代々名主をつとめられた家柄にて、尊父は初代中根村長たりし人、大正十三年六十九歳にて逝去された。

中根村

村會議員 久保田 信勝



村のため、村民のため、郷土のため、寢食を忘れて奉公の誠を盡しつゝある氏は、當代得難き實直眞摯の人格者、そして經驗に富む自治制の實務的手腕家である。明治十五年五月を以て故源右衛門氏次男として呱呱の聲をあげ、長じて村役場書記を拜命爾來終始一貫して役場生活をなし、収入役十餘年、助役十餘年の長きに互つて勤

浪花村岩和田

村會議員 水上 甚八

氏は明治二十一年の岳降にして代々當地に農を以て業とせる舊家であつたが、氏は青年の頃向上發展の思念熾烈にして己みがたく上京四十歳の頃まで都市の激甚なる生存競争に竿掉して、質實剛健よく個格を守り相當の産を築きて故郷に歸り、岩和田漁業組合長として漁業組合の發展充實の爲めに盡瘁し唯組合發展以外に思ひを用ひず、その精勵振りは三百六十餘名の組合員に多大の感銘を與へ全組合員の協力一致と相俟つて着々業績の向上を來し、既に基本金三萬圓を算へてゐる。主要漁獲物は「オウハ」鮑、カヂキ等で毎年相當の収益を擧げつゝあるが漁



滓共同加工場の設備も完備して居り殊に組合員の和合融和は他組合の模範たり。組合長の温厚にして質實剛健なる人格と共に當組合の將來は約束されてゐる。

勝浦町川津

川津漁業組合長 川上梅吉

町會議員 川上梅吉  
漁業組合長、町會議員として自治産業上に貢献甚大なる氏は、また大正五年よ



川上組合長

り昭和十二年まで本豊濱村在郷軍人分會長、同村會議員、夷隅郡在郷軍人聯合分會副長等多年つとめ、本豊濱村と勝浦町とが合併するに際し、途を後進に譲つて勇退した功勞者である。生れは明治十七年四月三日。現在特に勝浦川津漁業組合長として活躍顯著なるものがある。同組合は明治三十六年六月の創立にて、川津一圓を區域とし、二十餘坪の事務所を有す。主なる漁獲物はあわび（年産三、四萬圓）かつを、まぐろ、しめだい等にして、共同販賣所の設備ありて東京方面へ出荷し、成績頗る優秀である。専務理事は渡邊亥之助氏、會計理事吉清常七氏事務主任吉野榮吉氏である。

大多喜町泉水

大多喜郵便局長 猿田寛

町會議員 猿田寛  
日本精神の眞髓は報國の一語に盡きるといふ。報國を目的とし各自の職分に精勵することであり、遞信事業に従ふ者には遞信報國がある。大多喜郵便局長の要



猿田局長

職にある氏は遞信報國の一念に燃えて職務に恪循し、資性温厚眞摯、二十四萬遞信人の模範とするに足る人材である。先代清兵衛氏は名主をはじめ村會議員、學務委員をつとめ、篤農家として聞えた人氏はその長男にして明治十二年十二月二日を以て呱呱を上げた。消防組頭、所得税調査員等を経て、現在連續七期目の町會議員たるほか學務委員を兼ね、自治町政に貢献頗る甚大である。長男種次氏は豫備砲兵少尉にて現に局長代理をつとめ、二男隆之助氏は日本大學在學中、ほかに二男三女がある。

總元村久我原

村會議員 小倉盛次

當家は約三百年を関する村内屈指の舊

家である。代々農を営んで家運隆盛を極め、先代清八氏の如きは家業の傍ら區長を永年つとめ、功勞多き徳望家である。當主はその長男として明治十五年五月を以て呱呱の聲をあげた。日露戦争に従軍出征せる武勳の譽れ高き軍國の華ともいふべき人にて、郷に在つては區長代理二期、區長二期、衛生委員長等に推され、



軍人精神を以て社會公共に盡瘁せる材幹、人望頗る高

く現在村會議員たるほか耕地整理組合役員をつとめ、令名愈々高きを加へてゐる。しかも一方家業に熱心努力して篤農家と稱され、村内有數の人材との定評がある。家族十名をかぞへ、夫人は國防婦人會に功あり、長男貞二氏（明治三十六年生）は教育家、三男は支那事變に出征江南の戦野に活躍してゐる。

老川村太田代

村會議員 野口五平次



當家は始祖を久四郎氏と稱し、累代農を業として約

四百年を関する舊家である。先考久治氏は區長及び區會議員として活躍貢獻多き人、氏はその長男にて明治九年二月九日の岳降である。資性温厚篤實にして信望高く、夙に區長、農會總代に推され、現時村會議員並に戸主會長を兼任する。家庭は母堂さんとさん、令閨つまさんのほか産業組合理事として華々しい活動展開してゐる弟養子房雄氏がゐる。

西畑村庄司

村會議員 野口宰次

亡西藏氏の長男として明治十一年九月

瑞澤村大上

村會議員 若葉精一

當家は村内屈指の舊家にして代々酒釀造業を営み、地方の名望家として知られる。先代造酒藏氏は區長、村會議員、村長等に擧げられて村自治のため功勞少なからざる手腕家にして、氏はその長男、

明治十七年九月十四日を以て呱呱の一聲を擧げ愛知醫專卒業後醫院を開業今日に至り夙に納税組合長に任じて納税觀念の普及宣傳につとめて優良納税部落をつつた功勞者で、村會議員に選ばれること五回、現にその任にあるほか、學校醫、金錢債務調停委員、産業組合監事等の要職にあり、家業繁忙なるに拘らず、よく社會公共の事に盡力し、貢獻甚大なるものがある。資性濃厚、篤實、聲望高く、家庭は圓滿至福を極め、母たきさん、令閨みつさんのほか、弟養子周氏(鐵道醫)がある。

古澤村岩熊

村會議員 大曾根 大



圓熟せる手腕家との定評ある氏は茂原農學校を経て

東京高等農學校に學んだ學識豊富な逸材にして、農業經營にも實際にも通曉せる學術と實驗とを兼備する得難き人物である。曾ては小學校の教壇に立ちしこともあり、退職後家業に精勵しつゝ區長、村會議員等に選ばれ、一身を忘れて鋭意奉公の誠を致し、功勞燦然たるものがあつた。現時村會議員に選出せられ居るほか耕地整理組合長、産業組合主任監事をつとめ、多年の經驗を基礎に圓熟の手腕を揮つてゐる。抑々當家は岩熊部落草分の舊家にして數百年前に始祖を發し、先代三次郎氏は天理教特別信者として名を成す。氏はその長男、明治二十四年七月の誕生である。趣味は園藝と園藝。なほ長男理義君は長生中學に勉學中の秀才肌の人である。

中川村引田

村會議員 星野龜三郎

旺盛なる精神力と卓抜の手腕とを有する自治功勞者として令名高き氏は、日露



等を経て現時村會議員、衛生組合長産業組合世話役、

戰爭に従軍して勇猛果敢に奮戦し勳章を授けられたる皇軍の華である。家業は農先代は友藏氏と稱し、氏はその男にて明治十七年三月を以て健かな呱呱をあげた。家業の傍ら自治公共の事に竭し、區長代理、區長、生産調査員、農家組合長等を經て現時村會議員、衛生組合長産業組合世話役、氏子總代の任にあり、政友會系の人材と稱され、曩に産業組合並に農會より表彰を受けたる殊勳者である。家族は六人あり、夫人は本村の國防婦人會に重きをなし、長男辰雄氏は明治四十四年生れ、次男は大多喜中學校在學中、令嬢は大正九年生れにて目下家事を見習つてゐる。

東村長志

村會議員 秋場 公

氏は高潔なる人格者である。同時に洗練されたる近代人である。大多喜中學校を優等で卒業せる明敏なる頭腦の所有者にて、私立學校の教壇に立ちしこともあり、地方に於ける知識人として信望普く區長代理、區長、農會總代等の自治的方面にも貢獻頗る多く、温厚の資性、鄭重な物腰、面接すれば自ら都雅の感を抱かせる温容の持主である。現在村會議員並に農家組合長を兼任し、郷黨の福祉の増進と東村の繁榮を企圖し盡力しつゝあり従來の活動も去ることながら、今後の事績こそ囑望に價するものがある。抑々當家は凡そ十數代を閱する舊家にて、先代金太郎氏は區長、助役、村長を歴任せる自治の功勞者、氏はその長男にて明治二十九年十二月二日の生れである。家庭には長男一宏君(昭和十一年生)ほか二人の令嬢がある。

東海村若山

村會議員 最首 善次



雄といはれ、現時學務委員を兼任する。因に

明朗潤達とは誠に氏の如き人物に當嵌る言葉である。園藝、盆栽に興味深く、家業たる農蠶業に勉勵する一面、區長、村會議員等をつとめること多年に及び、自治界の雄といはれ、現時學務委員を兼任する。因に當家は十三代を相繼ぐ舊家にて、先代五郎助氏は地曳網元を營んだ人望家である。氏はその長男にて明治十一年十一月に生れた。長男雅夫氏は東京市大森區に印刷業を經營、次男信氏は養蠶業に従事してゐる。

浪花村岩船

村會議員 學務委員 吉田 榮吉

當家は數代に亘り海産物問屋を以て業となし今日に及ぶ。當主は明治九年九月の岳降である。氏は海産物問屋としての

大多喜町西部田

町會議員 石橋岩五郎

わが日本國民は、歴史の始つた當初から最も神を敬ひ祖先を崇ぶ所謂敬神崇祖の念が濃厚であつた。これぞ日本精神の精粹であり、氏はその實行家である。明治八年十一月二十一日を以て、名區長と謳はれた先考幸七氏の二男として生をこ

の世に享け、夙に農業に従事しつゝ自治に關與貢獻し、資性温厚にして謙恭なる人格者にて、高邁なる精神の持主である。政友會に屬する地方自治界の重鎮であり、區長、消防組部長を経て、現時町



石橋氏一等

會議員並に耕地整理組合長を兼ね、統御の才と該博の知識とを有し、本町屈指の敏腕家である。家庭には長男文治氏、同夫人とよさん、二男西次氏、三男岩夫氏等あり、圓滿至福の日々を送つてゐる。

總元村黒原

村會議員 磯部 春吉



独自の見識と卓抜の手腕とを有する氏は、本村有力

者の中堅人物にして、消防組部長を多年つとめて功勞多かりし故を以て表彰されたる消防の功勞者である。實父喜代松氏は農業の傍ら選ばれて區長となり、部落民のため私利を忘れて貢獻裨益するところ甚大なりし人、氏はその三男にて、明治二十二年四月二十日の誕生である。夙に尊父の後を承けて區長代理から區長に進みまた村農會評議員、大山神社子總代等を歴任せる功勞者にて現在は村會議員として八面六臂の活躍をするほか、第一耕地整理組合長並に産業組合理事の重責を兼ね、人望噴々たるものがある。

夫人は愛國婦人會々員として知られ、家族は三人、令孫一名を有し圓滿幸福の家庭である。

西畑村笛倉

村會議員 鈴木源之助

現在の時局は國民に對し舉國一致の奉公を要求すること特に痛切であるが、氏は身を以て奉公の誠を致し範を衆に垂れ本村元老中の重要人物とされてゐる。温厚にして篤農家の定評高く、會では區長農會總代に推されて部落の進展に盡力するところ多く、殊に耕地整理組合副長としての功績は特筆大書に値するものがある。現在は村會議員に選ばれて村政の改革向上に寄與しつゝあるほか、産業組合世話係、氏子總代を兼任し、人望愈々高きを加へてゐる。資性温厚、徳望家と稱され、長男馨氏は大多喜中學校在學中の秀才である。因に氏は明治九年八月の岳降、養父健二氏は村會議員その他に任じて村政に盡されるところ多大であつた。

古澤村榎澤

村會議員 芝崎 林藏



氏は豪放の人であると同時に、事業遂行に當つて周到なる用意を有する材幹である。明治九年四月二十五日、先考新之助氏の長男として生を享け、夙に役場吏員、縣吏員等を拜命し、村農會設立されるや初代副會長に任じ、次で會長に擧げられ、その他消防組頭、區長等を経て、現時村會議員に推され、各種功勞により表彰四回に及んでゐる。消防組頭當時金馬簾を受領し耕地整理組合長としての功績も没すべからず、その他村道改修や産業組合並に青年會組織には特に盡力せられ、村内有數の信望家である。長男新吉氏は明治三十四年の出生にて、體育學校卒業者、近衛

歩兵聯隊に在役せる歩兵中尉、福島縣立中學校教師奉職中支那事變勃發し、目下出征奮闘輝かしき武勳を樹てゐる。

東海村深堀

村會議員 南 繁治



磊落豪快の人物として衆評一致せる氏は、

四年七月二十四日を以て生を享けた。實父金藏氏は農耕の業に従ふ傍ら氏子總代その他の名譽職に推されたる人望家、氏はその長男にして夙に精農家の聞え高くしかも區長、統計調査員等に擧げられて功勞多き人、現に村會議員、區長、農家組合長を兼ねて公共のために竭してゐる。趣味は植木にして種々多様の珍種を所有する家族は五人、和氣霽々たる家庭をつくつてゐる。

浪花村

村會議員 田中 吉次

當家は二十代以前より連綿の家系を保つ舊家であつて、明治二十一年十月六日尊父萬次郎氏の長男として生れ、資性温厚篤實にして質實剛健を思念する人格高潔の士である。元區長六年、商工會顧問を勤め、村商工業の發展、部落協調に努力盡瘁し村民の輿望を負ひて、推輓さるる處となり村會議員、學務委員各二期を既に勤め村自治の爲めに貢獻する所大なり。殊に現在は商工會長として村内工業の伸展に益々精勵しつゝあるが、それ等の功績顯著として、功勞盃二回功勞章數回の表彰感謝を受けてゐる。尙又氏子總代とし併せ一町三村組合會議員として活躍村政有力者として今後に多大の期待をかけられてゐる人である。

總元村石神

村會議員 永野 敬止

氏は義侠家肌の材幹にして統御の才に長じ、威容凛として眞に男性的典型的人物である。しかも俊敏若鷲の如く、赴くとして可ならざるなき多能多才の手腕家である。抑々當家は約三百年を相嗣ぐ舊家にして、先代彌吉氏は農業を営みつゝ、推されて區長數期並に耕地整理組合長等



をつとめたる部落切つての有力者、氏はその長男として

て明治二十六年二月二十一日に生を享けた。近衛歩兵第四聯隊を除隊後、専ら意を公共の事に用ひ、區長代理、區長、消防組小頭、村會議員等に歴任し、消防功勞者として表彰を受けしことあり、現在は村會議員、農家組合長、學務委員等に任じ、令名いよゝ高く、治績ますゝ顯著にして村民の瞻仰澎湃たるものがある。

### 西畑村中野

村會議員 森 榮次郎



氏は民政黨に所屬する當地方の重鎮にして同黨支部

の刷新に功勞多かりし人材である。武道に趣味ありて技に優れ、稀に見る剛毅果斷の實力家である。明治十五年八月、先考熊藏氏の長男として生を享け、同三十九年神奈川縣巡查を拜命、同三十九年には韓國京城領事館に轉じ、新興日本の意氣をそのまゝに活躍貢獻せしめ、その後韓國がわが國に合併されても引續き警務の重責に恪勤して大正二年退職、次で郷里に歸り、農業の傍ら地方政治に參與し、民政黨夷隅郡副會長、方面委員消防組小頭等に任じ、特に方面事業に寄與甚大にして縣知事より感謝狀を贈られ

たことがある。家族は四人、和氣戸外に溢れ、長男泰文氏は表具師として著名である。

### 浪花村岩和田

村會議員 平賀竹次郎

平賀家は代々酒造業によつて十有餘代をつたへる舊家であるが、當主竹次郎氏はその傳統の家職を完うすると共に新に調味噌並に鮑の粕漬等の創製を始め事業に盡瘁多大の努力を拂ひつゝあり。殊に調味噌及鮑の粕漬は既に御宿町驛賣にも出されその味覺を賞翫されつゝある。氏は又事業のみならず、村商工業の發展並に村自治の爲めにも多大の努力を拂ひ漁業發展に漁業組合長として功績を残し會ては漁業組合より功績感謝の銀盃を受けた。區長代理、區長、漁業組合長、商工會顧問等、村産業、村治の名譽職を経て氏の熱意ある努力と、濃厚篤實なる人格は村民の推輓する處となり既に村會議員三期を勤め、村勢發揚の中核的存在とし

て益々恪勤しつゝあり。因に氏は明治七年八月十九日の岳降である。

### 總元村大戸

村會議員 貝塚 三藏



隣保共助の精神を以て公共の事業に關與貢獻し、幾

多の功績を積んで本村自治史上に燦然たる光を放つ氏は、耕地整理組合長として本村開發に貢獻多かりし貝塚彦次郎氏の長男にて、明治十二年八月二十三日を以て呱呱の聲をあげた、家業たる農耕に勤みつゝ意を自治公共の事業に用ひ、區長代理を経て區長に推されること二回、また衛生組合長をつとめ、後、選ばれて村會議員に任じ、現時學務委員並に耕地整理組合長を兼ね、日夜を別たす寢食を忘れて盡瘁してゐる。長男福重氏は明治三

十六年の誕生、家業に精勵し、次男は支那事變に際し上海戦線に出勤して輝やかしき武勳を樹てゝゐる。なほ家庭には愛孫五名をかぞへ、圓滿至福を極める。

### 西畑村市川

醫師 村會議員 岡田丑之助

當家は數百年の歴史と家系を有する當地有數の舊家にして早くより醫術の家たり丑之助氏を以て七代目とす、氏は故健道氏の養子たり明治二十二年八月の岳降なり代々西畑村の醫事衛生に多大の裨益をなすのみならず、村の重鎮として村自治のことに功績尠からず。既に村會議員五期を勤め、併せ消防組頭、學校醫、學務委員たり、産業組合創立以來今日迄幹事としての要職に就く、實に村治に村産業に、醫術の事にその席の温るを知らず日夜精勵して村民信望の的たり。資性温容宏濶にして趣味として乗馬を好み、その紳士的態度は村民の模範たり家庭極めて圓滿、今後益々村政への寄與を期待

されてゐる徳望家である。

### 中川村行川

村會議員 福山泰三郎

村民の安寧福祉を圖つて功勞尠ならず、理想郷中川村の實現に向つて刻苦邁進しつゝある氏は、智力の人であると同時に體力の人であり徳力の人である。開祖以來十一代目に當り、明治十三年一月十日、先代立太郎氏(七十八歳にて他界)の長男として生をこの世に享け家業たる農に従事して熱心なる一面庶民の面倒を見ること厚く、私利を捨て私慾を忘れて公共に竭したる當代稀れに見る人格者である。されば人氣翕然としてあつまり、名聲旭日の如く燦然たるも蓋し故なきではない。區長代理、區長を経て、現時村會議員の要職にあり、貢獻ますます多きを加へ、治績いよいよ顯著を極める。家族は六人を數へ、長男一氏は明治四十四年生れ、令孫は二人あり、令閨は國防婦人會及び愛國婦人會に關係活躍してゐる